令和６年第１回せたな町議会定例会　第１号

令和６年３月４日（月曜日）

○議事日程（第１号）

１　会議録署名議員の指名について
２　会期の決定について
３　諸般の報告
４　行政報告
５　せたな町議会決算審査特別委員会委員長報告
〔令和５年９月２０日付託　認定第１号から認定第１１号〕
６　認定第　１号　令和６年度せたな町一般会計歳入歳出決算について
７　認定第　２号　令和６年度せたな町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算について
８　認定第　３号　令和６年度せたな町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算について
９　認定第　４号　令和６年度せたな町介護保険事業特別会計歳入歳出決算について
１０　認定第　５号　令和６年度せたな町介護サービス事業特別会計歳入歳出決算について
１１　認定第　６号　令和６年度せたな町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算について
１２　認定第　７号　令和６年度せたな町営農用水道等事業特別会計歳入歳出決算について
１３　認定第　８号　令和６年度せたな町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算について
１４　認定第　９号　令和６年度せたな町漁業集落排水事業特別会計歳入歳出決算について
１５　認定第１０号　令和６年度せたな町風力発電事業特別会計歳入歳出決算について
１６　認定第１１号　令和６年度せたな町病院事業会計決算について
１７　議案第１号から議案第９号及び議案第２３号から議案第２６号及び議案第３３号から議案第３６号を一括上程
〔令和６年度町政執行方針〕
〔令和６年度教育行政執行方針〕
〔令和６年度各会計予算案に関する提案説明〕
〔予算審査特別委員会設置・正副委員長互選〕
１８　議案第１０号　令和６年度せたな町一般会計補正予算（第１０号）
１９　議案第１１号　令和６年度せたな町国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）
２０　議案第１２号　令和６年度せたな町後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）
２１　議案第１３号　令和６年度せたな町介護保険事業特別会計補正予算（第４号）
２２　議案第１４号　令和６年度せたな町介護サービス事業特別会計補正予算（第４号）
２３　議案第１５号　令和６年度せたな町簡易水道事業特別会計補正予算（第４号）
２４　議案第１６号　令和６年度せたな町営農用水道等事業特別会計補正予算（第２号）
２５　議案第１７号　令和６年度せたな町公共下水道事業特別会計補正予算（第４号）
２６　議案第１８号　令和６年度せたな町漁業集落排水事業特別会計補正予算（第２号）

２７　議案第１９号　令和６年度せたな町風力発電事業特別会計補正予算（第４号）
２８　議案第２０号　令和６年度せたな町病院事業会計補正予算（第３号）
２９　議案第２１号　せたな町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例について
３０　議案第２２号　せたな町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について
３１　議案第２７号　せたな町指定介護予防支援事業に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例について
３２　議案第２８号　せたな町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例について
３３　議案第２９号　せたな町営住宅管理条例の一部を改正する条例について
３４　議案第３０号　せたな町病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例について
３５　議案第３１号　せたな町簡易水道事業給水条例の一部を改正する条例について
３６　議案第３２号　せたな町大里コミュニティセンター条例を廃止する条例について
３７　議案第３７号　町道の路線廃止について

○出席議員（１２名）

１番	石原広務君	２番	桝田道廣君
３番	藤谷容子君	４番	福嶋　豊君
５番	横山一康君	６番	本多　浩君
７番	真柄克紀君	８番	熊野主税君
９番	吉田　実君	１０番	大湯圓郷君
１１番	菅原義幸君	１２番	平澤　等君

○欠席議員（０名）

１．地方自治法第１２１条の規定により、説明のため出席を求めた者は次のとおりである。

町長	高橋	貞光	君
教育委員会教育長	小板橋	司	君
農業委員会会長	原田	喜博	君
選挙管理委員会委員長	大坪	観誠	君
代表監査委員	残間	正	君

１．町長、教育委員会教育長、農業委員会会長、選挙管理委員会委員長、代表監査委員の委任を受け出席する説明員は次のとおりである。

（１）町長の委任を受けて出席する説明員

副町長	佐々木　正則　君
総務課長	原　　進　君
まちづくり推進課長	阪井　世紀　君
財政課長	佐藤　英美　君
税務課長	濱　登幸恵　君
町民児童課長	髙橋　　純　君
認定こども園長	伊藤　悦子　君
保健福祉課長	増田　和彦　君
農林水産課長	吉田　有哉　君
建設水道課長	平田　大輔　君
会計管理者	杉村　　彰　君
国保病院事務局長	西村　晋悟　君
総務課長補佐	中山　康春　君
まちづくり推進課長補佐	奥村　大樹　君
財政課長補佐	小林　和仁　君
税務課長補佐	長内　解人　君
町民児童課長補佐	黒澤　美知子　君
認定こども園副園長	本田　和矢　君
保健福祉課長補佐	浜高　正明　君
保健福祉課長補佐	水野　万寿夫　君
地域包括支援センター所長	長内　　京　君
農林水産課長補佐	藤井　卓也　君
農林水産課長補佐	井村　裕行　君
水産種苗育成センター副所長	栄田　武志　君
建設水道課長補佐	鈴木　涼平　君
国保病院事務局次長	手塚　清人　君
総務課主幹	尾野　裕也　君
まちづくり推進課主幹	斉藤　哲章　君
財政課主幹	稲船　洋志　君
税務課主幹	小林　朱央　君
町民児童課主幹	三浦　三津枝　君
町民児童課主幹	山川　彩子　君
保健福祉課主幹	古守　亜珠　君
保健福祉課主幹	垣本　利子　君
地域包括支援センター主幹	今川　勇吾　君
農務課主幹	斉藤　　真　君

水産林務課主幹	油谷　好彦	君
建設水道課主幹	川上　佳隆	君
建設水道課主幹	吉田　一也	君
建設水道課主幹	高橋　真一	君
建設水道課主幹	大野　秀幸	君
出納室主幹	竹内　亜希子	君
国保病院事務局主幹	近藤　智博	君
防災係長	岡島　譲二	君
情報管理係長	又村　智	君
広報統計係長	西田　幸恵	君
商工労働観光係長	山崎　英人	君
環境衛生係長	原田　宰	君
社会福祉係長	河野　葉子	君
障がい福祉係長	平田　慎太郎	君
保健推進係長	安藤　麗香	君
包括支援係長	大久保　麻未	君
地域支援係長	田畑　貴子	君
農政係長	栗城　惇史	君
業務係長	北山　典孝	君
業務係長	池田　裕之	君
庶務係長	大庭　啓	君

《瀬棚支所》

支所長	河原　泰平	君
養護老人ホーム三杉荘所長	西田　良子	君
次長	栗谷　一樹	君
瀬棚保育所長	水野　真里子	君
福祉係長	稲船　奈穂子	君

《大成支所》

支所長	中川　譲	君
大成保育園長	浜高　あけみ	君
事務係長	村井　貴大	君

（２）教育委員会教育長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	古畑　英規	君
次長	山本　亨	君
次長	尾野　真也	君

主　　幹　藤　谷　　希　君

（３）農業委員会会長の委任を受けて出席する説明員

事　務　局　長　丹　羽　　優　君
係　　長　佐々木　正　人　君

（４）選挙管理委員会委員長の委任を受けて出席する説明員

書　　記　長　原　　進　君
書　記　次　長　中　山　康　春　君

（５）代表監査委員の委任を受けて出席する説明員

事　務　局　長　上　野　朋　広　君
次　　長　松　原　孝　樹　君

１．本会議の事務に従事する職員は次のとおりである。

事　務　局　長　上　野　朋　広　君
次　　長　松　原　孝　樹　君
主　　事　大　辻　省　吾　君

開会　午前１０時００分

◎開会宣告

○議長（平澤　等君）　皆さんおはようございます。

ただ今の出席議員１２名で定足数に達しておりますので、令和６年第１回せたな町議会定例会は成立いたしました。

よって、これより開会いたします。

◎開議宣告

○議長（平澤　等君）　直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付したとおりであります。

◎日程第１　会議録署名議員の指名について

○議長（平澤　等君）　日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議規則第１１７条の規定により、議長において４番、福嶋豊議員、５番、横山一康議員を本日の会議録署名議員に指名いたします。

なお、この指名は今定例会の会期中といたします。

◎日程第２　会期の決定

○議長（平澤　等君）　日程第２、会期の決定についてを議題といたします。

お諮りいたします。

今定例会の会期は本日から３月１９日までの１６日間といたしたいと思います。

これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって、今定例会の会期は本日から３月１９日までの１６日間と決定いたしました。

◎日程第３　諸般の報告

○議長（平澤　等君）　日程第３、諸般の報告はお手元に配付したとおりであります。

◎日程第４　行政報告

○議長（平澤　等君）　日程第４、行政報告を行います。

町長から行政報告の申し出がありますのでこれを許します。

高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　議長のお許しをいただきましたので３件の行政報告を申し上げます。

まず最初は能登半島地震における被災地への職員派遣についてでございます。令和６年１月１日に発生した能登半島地震により、犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災

された皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。また被災された地域におきまして、救助活動や避難所運営にあたられている皆さまに敬意を表する次第でございます。能登半島地震発生から２カ月が経過いたしましたが、檜山振興局及び檜山町村会と連携し被災された石川県珠洲市へ、１月１１日から２月末までの期間、１班４名体制の６日間で１２グループの班編成により本町から第４班、第６班、第１０班、第１２班それぞれ１名ずつ計４名の職員を派遣し、避難所の巡回や市役所での窓口業務などの支援を行いました。また引き続き災害派遣の継続が決定され、３月末まで２名体制の派遣に変更となり、本町は３月７日から６日間、職員２名を現地へ派遣し災害支援を行うことになりました。報告を申し上げます。

次の工事発注状況、さらには町長、副町長の動向については別紙のとおりでございますので、ご参照願いたいと思います。

以上でございます。

○議長（平澤　等君）　これで行政報告を終わります。

◎日程第５　決算審査特別委員会委員長報告

○議長（平澤　等君）　日程第５、せたな町議会決算審査特別委員会に付託した認定第１号から第１１号までの認定議案審査について特別委員会委員長の報告を求めます。

横山決算審査特別委員長。

○５番（横山一康君）　ただいま議題となっております決算審査特別委員会に付託されました令和４年度せたな町各会計歳入歳出決算認定第１号から認定第１１号までの審査結果をご報告いたします。

当特別委員会は、議長及び議会選出監査委員を除く全議員で構成し９月２０日に設置され委員長に私横山一康が、副委員長に藤谷容子委員を選任しました。１０月３０日に再開し令和６年２月５日まで各会計歳入歳出決算書及び附属書類について説明を受け、質疑を行い慎重かつ精力的に審査したものであります。その結果、当特別委員会は認定第１号から認定第１１号までの各会計すべて認定すべきものと決定いたしました。財政の健全化については、年々改善されている状況を確認いたしました。今後においても、より一層の健全な財政運営をされるよう望むものであります。

議長に進言いたします。審査は十分に尽くされておりますので認定第１号から認定第１１号までの各会計決算認定については質疑を省略し、討論、採決に入られることを進言してせたな町議会決算審査特別委員会の審査報告といたします。

○議長（平澤　等君）　ただいまの決算審査特別委員会委員長報告は、全１１議案全て認定すべきものと決したとするものであります。また決算審査特別委員会は議長と議会選出の監査委員を除く１０名で構成されてあり、特別委員会で審査は十分に尽くされているので質疑を省略し、討論、採決に入られるようにとの進言がございました。

お諮りいたします。

委員長進言どおり取り進めていきたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

委員長進言どおり質疑を省略し、直ちに討論、採決に入ることに決しました。

◎日程第６　認定第１号

○議長（平澤　等君）　日程第６、認定第１号令和４年度せたな町一般会計歳入歳出決算についてを議題といたします。

これより討論を許します。

石原議員。

○１番（石原広務君）　私は令和４年度決算について不認定の立場で討論させていただきます。４年度決算審査は特別委員会を設置しましたが、その日程は理事者の在籍している都合、要は不規則な日程とされました。議会に対しては、休憩が多過ぎるとの批判は以前から寄せられていますが、特別委員会も町長答弁をめぐり再三にわたり休憩が繰り返されました。北部桧山衛生センターの缶類の資源ごみの処理問題に端を発し、元福祉課主幹による町ぐるみで横領事件を隠したとされる事案などへの町長答弁、その姿勢には反省する姿は見えません。決算の数値は変わりませんが、様々な問題がある中で議員として到底容認することはできません。集大成と位置づけた５期目、残任期間において真摯な姿勢を通すことを強く申し添え、令和４年度決算には反対の立場で討論といたします。

○議長（平澤　等君）　次に賛成討論ございませんか。

桝田議員。

○２番（桝田道廣君）　私は賛成の立場で討論をさせていただきます。令和４年度決算について、決算審査特別委員会においては、各事業の進捗状況や効果について各担当者から説明を受け議論がなされました。交付税を減額され財政状況が厳しさを増す中、またコロナ感染症問題などで大変不安で先が見えない中、児童福祉施設へのエアコン設置など各種の支援に取り組み生活環境の安定を図り、住宅リフォーム等助成事業をはじめ、農林水産や各産業への補助事業を行うなど、町民の安心と生活の安定に貢献したものと考えます。また課題としては、ごみ処理問題に関する空き缶リサイクルに関することなど、町民の疑念を払拭するためにも早急に解決する必要があると考えます。さらに職員による不適切な会計処理問題も議論され、町の真摯な対応と再発防止は空き缶リサイクル問題と同様、早急に努めなければならないと考えます。しかし全体として４年度の決算は町民の生活を守り、地域の活性化に貢献するものであり賛成をもって可決するべきと考えます。

以上、賛成討論といたします。

○議長（平澤　等君）　次に反対討論ございますか。

菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　決算認定に反対をいたします。今せたな町は急速な人口減、少子高齢化、基幹産業の不振と後継者難に直面しております。その一方で町政は、子育て支援、高齢者福

祉、障害者支援や基幹産業の振興策などで効果的な打開策が示されず、上から目線の思いやりに欠ける対応が年々顕著になってきています。さらに社会福祉協議会の補助金不適切運用や町の元主幹の横領行為について町長は、事実から目をそらす頑なな態度を取り続けており、町民の不信感と批判を買っています。町政の全てを否定するつもりはございませんが、令和４年度せたな町一般会計決算につきましては、決算審査における質疑の内容を踏まえて次の８点の理由により反対をいたします。

第１は、町民の切実な願いに町長が背中を向けていることであります。高齢者のハイヤーチケットの導入やまちなかバスの復活、小学校修学旅行貸切バス支援等、切実な町民要求を実現するために幾度となく私は提言をいたしましたが、まともな理由を示さないまま一方的に拒絶いたしました。町長の姿勢から町民に対する思いやりの心は伝わってまいりません。

第２に、せたな雅荘の再開に絡んで、全ての介護事業所に公平な行政支援を行うために、介護事業持続化基金や介護事業経営持続化協議会の導入をすることを、一度ならず提唱してきたにもかかわらず全く耳を貸そうとしなかったことであります。高齢化率が５０％に近づきつつある我が町のトップとして許されない態度であります。

第３に、生産者の自己責任を強調するだけで、町長自身の農漁業振興策を体系的に示していないことであります。特に令和２年のサケ定置網漁業者の必死な損害被害救済要請に対して町長は、漁業者の自己責任論を持ち出して全面的に支援を拒否するという考えられないような冷酷な対応を取りました。定置網の被害もさることながら、町長の予想に反する言動は漁業者に計り知れない精神的打撃を与えました。議会で町長発言の誤りを幾度か私は指摘しましたが全く反省はありませんでした。災害時に相互に助け合うという地方自治の１番大事な姿勢が町長には欠けていると言わざるを得ません。

第４は、町長に不利な行政情報を議会と町民に対して徹底的に伏せるというおよそ民主主義とは無縁の手法を取っていることであります。クラスター関連情報の議会提出を拒み、公開したかと思うと黒塗りの文書であったことや職員の横領行為の判断材料となる行政文書である関係者の始末書と顛末書を議会に提出せず、議会の調査活動を妨害した事実を見れば高橋町政の本質はおのずと明らかになります。

第５は、町道山麓通線改良工事に際して、民地を買収せずに起工承諾書も取らないまま不正に着工した問題の後始末を弁護士に丸投げし、事態がこじれたまま放置していることであります。町長は行政当事者としての責任を全く果たそうとしていません。

第６に、社会福祉協議会の補助金不適切使用に対して行政として是正措置をとっておらず、議会任せにしていることであります。３，０００万円に達する町民の血税が不適切運用されているにもかかわらず、行政のトップとしての責任を果たそうとする姿はどこにもありません。

第７に、元主幹の５回にわたる公金持ち出し行為はどこから見ても横領行為そのものなのに、家で適切に保管していた、不正に使用した証拠がないとして町長自身が否定していることであります。町長がこの調子であれば町政から横領行為を根絶することはできません。

第８に、町長の議会軽視が年ごとに強くなってきていることであります。

以上８点を申し上げ、今後の町政の健全な発展と町民の幸せを願って反対討論を終わります。

○議長（平澤　等君）　次に賛成討論を許します。

真柄議員。

○７番（真柄克紀君）　まず決算とは皆様ご承知だと思いますが、これは町政の成果の報告書でございます。議会は行政効果や経済効果それを住民に代わって評価し、そして今年度の行政執行に対して生かされるよう促す責任がある。それが決算の本質であると思っております。そのような点からして、決算委員会が残念ながら令和６年度の新年度予算が検討される時期まで長引いたことは、今の決算を通して次年度に向けた予算に、その町民の考え方を付託するという意味からいったら大変残念な過程だったと私は思います。この委員会の在り方についても、今後議会としてもいろいろな進め方等を検討していかに効率よく次年度の予算に転換できるような形の議論ができるか、これは各議員にも責任が重くのしかかってるなと思うところでございます。町側のいろいろな責任については私は申しません。町は町でこの現状を把握しながらきちんとした形の対策､方向性を出してもらえればありがたいと思います｡ただ大変これ議論の中でも出ましたけど、残念な寂しい数字が昨年後半、各新聞あるいは国の調査の結果として出ております。残念ながらせたな町は７，０００人の大台をあっという間に割り込みました。また北海道の人口自体も全国第９位、北海道自体も大変人口減が進んでおります。そんな中で私は、この決算の財政指数、それから収支等に対して基準を満たしている。これは確かなことでございますが、合併後、今日までの施策､あるいは各階層への利益の配分､公平性等を考えると､これが本当に妥当だったのか、やはり町にしても、議会にしても、もっともっと突っ込んだきちんとした方向性を示すべきではなかったのかと大変議員としての責任を感じております。それと同時にどのような形の町のプランと、スタンダードなプランというのは早く築いていかなければ、このじり貧の状態は多分、このまま歯止めをかけることができないそんな状態に今、陥ってると思います。そんなことは、私はこの決算を通してさらに町理事者の方々にも把握していただきながら新年度予算、今出てきてますが、将来に向けた強いインパクトと方向性、町の方向性は常に示していくという姿勢が求められていると思います。令和４年度通常業務にプラスして、最後のコロナ対策ということでいろいろな作業が職員の方々にもございました。そういういろいろな作業を上乗せした中で、通常予算に合わせて必死で作業してくださった。この点に関してはやはりそういう大過なくというわけじゃないけどそんな大きな事件も起こらず、この年度終わられたことに関しては評価するものでございます。やっぱり職員の頑張りというのはありがたいなと思うところでございます。そのような考え方を付して、課題は先ほど来いろいろ出てます。その辺についてはもうこれ以上１項目ごとに述べることはしませんが、ただこの決算委員会で、いろいろと議論された土地開発公社、病院会計、あるいは剰余金、それぞれの問題については担当課のほうには決算委員会を通して各議員が提示しましたが、これをきちんと来年度に向けてどのように方向性を出すか、これはきちんと作業を進めていただきたい。そして先ほど言ったように、町の将来のガイドラインというのもいかに作り上げるか､それでないと方向性の視点がないです今の段階では､と私は思ってます。ですからそのような大変な時期でございますが、今回の決算委員会で出たいろいろな意見を吸い

上げて、新年度予算に精力的に進まれることを心からお願い申し上げ、祈念して賛成討論とさせていただきます。

以上です。

○議長（平澤　等君）　次に反対討論を許します。

（「なし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより認定第１号について起立により採決いたします。

委員長報告は認定とするものです。

お諮りいたします。

委員長報告どおり認定することに賛成の方は起立願います。

（起立するものあり）

○議長（平澤　等君）　ありがとうございます。

起立多数です。

よって、認定第１号は認定することに決しました。

◎日程第７　認定第２号

○議長（平澤　等君）　日程第７、認定第２号令和４年度せたな町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算についてを議題といたします。

これより討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これから採決いたします。

お諮りいたします。

認定第２号を認定することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって、認定第２号は認定することに決しました。

◎日程第８　認定第３号

○議長（平澤　等君）　日程第８、認定第３号令和４年度せたな町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算についてを議題といたします。

これより討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これから採決いたします。

お諮りいたします。

認定第３号を認定することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって、認定第３号は認定することに決しました。

◎日程第９　認定第４号

○議長（平澤　等君）　日程第９、認定第４号令和４年度せたな町介護保険事業特別会計歳入歳出決算についてを議題といたします。

これより討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これから採決いたします。

お諮りいたします。

認定第４号を認定することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって、認定第４号は認定することに決しました。

◎日程第１０　認定第５号

○議長（平澤　等君）　日程第１０、認定第５号令和４年度せたな町介護サービス事業特別会計歳入歳出決算についてを議題といたします。

これより討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これから採決いたします。

お諮りいたします。

認定第５号を認定することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって、認定第５号は認定することに決しました。

◎日程第１１　認定第６号

○議長（平澤　等君）　日程第１１、認定第６号令和４年度せたな町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算についてを議題といたします。

これより討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。
　これから採決いたします。
　お諮りいたします。
　認定第６号を認定することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
　よって、認定第６号は認定することに決しました。

◎日程第１２　認定第７号
○議長（平澤　等君）　日程第１２、認定第７号令和４年度せたな町営農用水道等事業特別会計歳入歳出決算についてを議題といたします。
　これより討論を許します。
（「なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　討論を終わります。
　これから採決いたします。
　お諮りいたします。
　認定第７号を認定することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
　よって、認定第７号は認定することに決しました。

◎日程第１３　認定第８号
○議長（平澤　等君）　日程第１３、認定第８号令和４年度せたな町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算についてを議題といたします。
　これより討論を許します。
（「なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　討論を終わります。
　これから採決いたします。
　お諮りいたします。
　認定第８号を認定することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
　よって、認定第８号は認定することに決しました。

◎日程第１４　認定第９号
○議長（平澤　等君）　日程第１４、認定第９号令和４年度せたな町漁業集落排水事業特別会計

歳入歳出決算についてを議題といたします。
　これより討論を許します。
（「なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　討論を終わります。
　これから採決いたします。
　お諮りいたします。
　認定第９号を認定することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
　よって、認定第９号は認定することに決しました。

◎日程第１５　認定第１０号
○議長（平澤　等君）　日程第１５、認定第１０号令和４年度せたな町風力発電事業特別会計歳入歳出決算についてを議題といたします。
　これより討論を許します。
（「なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　討論を終わります。
　これから採決いたします。
　お諮りいたします。
　認定第１０号を認定することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
　よって、認定第１０号は認定することに決しました。

◎日程第１６　認定第１１号
○議長（平澤　等君）　日程第１６、認定第１１号令和４年度せたな町病院事業会計決算についてを議題といたします。
　これより討論を許します。
（「なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　討論を終わります。
　これから採決いたします。
　お諮りいたします。
　認定第１１号を認定することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
　よって、認定第１１号は認定することに決しました。

◎日程第１７　議案第１号ないし議案第９号、議案第２３号ないし議案第２６号及び議案第３３号ないし議案第３６号

○議長（平澤　等君）　日程第７、議案第１号令和６年度せたな町一般会計予算から議案第９号令和６年度せたな町病院事業会計予算までの９件と議案第２３号せたな町フルタイム会計年度任用職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例から議案第２６号せたな町介護保険条例の一部を改正する条例について及び議案第３３号指定管理者の指定についてから議案第３６号指定管理者の指定についてまでの８件、合せて１７件を一括議題といたします。

最初に町長の町政執行方針について説明を求めます。

町長。

○町長（高橋貞光君）　令和６年第１回せたな町議会定例会の開会にあたり、町政執行への私の所信と基本的な施策の概要を申し上げます。

私の５期目の任期も折り返しを過ぎ、この間、多くの課題解決や健全な町政運営を進めてこられたのも、ひとえに町民の皆様をはじめ、議員各位の温かいご理解とご支援の賜物であります。改めて皆様に感謝とお礼を申し上げます。

私たちの生活様式を一変させた新型コロナウイルス感染症が３年間の様々な制限や自粛などを経て昨年５月８日から感染法上の２類相当から５類へ引き下げられ、本町における社会経済活動も徐々に日常を取り戻しつつありますが、今後も町民が安心して暮らすことができる、笑顔あふれるまちづくりを念頭に誠心誠意取り組んでまいります。さて、わが国の経済は、３０年ぶりとなる高水準の賃上げや企業の高い投資意欲など、経済には前向きな動きが見られ、デフレから脱却し経済の新たなステージに移行する千載一遇のチャンスを迎えています。その一方で、賃金上昇は輸入価格の上昇を起点とする物価上昇に追いついておらず、個人消費や設備投資は依然として力強さを欠いています。国では、こうした状況に対応するためデフレ脱却のための総合経済対策を策定し、成長と分配の好循環の実現を目指すこととしています。本町におきましても、１次産業の基盤整備の強化や昨年策定しました地球温暖化対策実行計画におけるゼロカーボンの推進など、地域経済の循環による活性化やふるさと納税及び企業版ふるさと納税制度を活用した更なる財源を確保するとともに、第２次せたな町まち・ひと・しごと創生総合戦略の下、輝くせたな、新時代、未来につながるまちづくりの実現を目指してまいります。

令和６年度せたな町予算については、町の予算編成方針や地方財政計画などを踏まえ予算編成にあたったところであります。

はじめに、一般会計予算について申し上げます。

予算総額は、前年度比７．７％増の９３億３，８６２万９，０００円となっております。

歳出の主な事業は、新規事業が次世代型店舗づくり事業、スマート農業支援事業、水産物生産向上事業、高性能林業機械導入支援事業、北檜山生活支援ハウスぬくだまりエアコン設置工事事業、公共施設への太陽光発電導入可能性調査事業などであります。継続事業は、町有施設解体事業、衛生センター最終処分地整備事業に係る負担金事業、草地畜産基盤整備事業、温泉ホテルきたひやま長寿命化改修事業、町道橋長寿命化修繕事業などとなっております。

歳入では、全体の５１．８％を占める地方交付税は、普通交付税が前年度比２．０％増の４３億８，７９５万５，０００円を特別交付税は前年度比２．２％減の４億５，０００万円をそれぞれ計上いたしました。

地方債は、適債事業２１件と臨時財政対策債の合わせて２２件で、前年度比８３．７％増の１１億６，９８０万円を計上いたしました。

次に特別会計予算について申し上げます。令和６年度から公営企業会計へ移行する４特別会計を除く、国民健康保険事業特別会計など５特別会計の総額は、前年度比２．９％減の２５億９，８２６万２，０００円となったところであります。令和６年度から簡易水道事業特別会計と営農用水道等事業特別会計が簡易水道事業会計へ、公共下水道事業特別会計と漁業集落排水事業特別会計が下水道事業会計へそれぞれ特別会計から公営企業会計へ移行します。令和６年度の予算については、簡易水道事業会計の収益的支出が４億１６４万円、資本的支出は２億３，７１１万８，０００円を計上し、下水道事業会計の収益的支出は５億４，３６０万４，０００円、資本的支出は３億７，２４９万８，０００円を計上いたしました。病院事業会計は、収益的支出が１１億８２万５，０００円、資本的支出は２，８７５万円を計上いたしました。

以下、主な施策について申し上げます。

第１に、いつまでも健康に暮らせるまちの推進に努めます。

母子保健施策については、健診や相談、指導などの事業で母子に寄り添い、出産、子育て応援給付金給付事業の経済的支援を継続し、新たに産後ケア事業を実施して産後支援の強化を図ることでより安心して子どもを産み育て、子どもが健やかに育つことができるよう努めてまいります。各種がん検診及び特定健康診査については多くの方に受診していただけるよう努め、健康相談や健康教育などを通じて健康に関する正しい知識の普及と個々の生活習慣に合った保健指導を実践してまいります。また６５歳以上の方への各種予防接種の費用助成を引き続き実施し、個人一人一人の疾病予防や健康の保持増進が図られるよう努めてまいります。

福祉施策については、第２期地域福祉計画・第２期成年後見制度利用促進基本計画や高齢者保健福祉計画・第９期介護保険事業計画を基本に総合的な保健福祉・介護予防事業の展開を図り、高齢者の自立の促進、安心して生活できる環境づくりに努めてまいります。

認知症施策については、認知症高齢者などに優しい地域づくりを目指し、認知症の人や家族に対する支援体制の整備に努めてまいります。

介護施策については、介護人材確保、育成支援事業及び介護従事者確保、定住対策事業に加え、栗山町との自治体包括連携協定に基づいた介護人材育成など、質の高い介護サービスの安定的な供給が図られるよう努めてまいります。また瀬棚デイサービスセンター送迎車の更新、グループホームや生活支援ハウスへのエアコン設置など、利用者が安心して利用できる環境を整備します。

障がい福祉施策については、第４次障がい者計画・第７期障がい福祉計画に基づき地域が必要とする給付や障がい福祉サービスを提供し、障がい者を雇用する町内事業者への支援と障がい者の就労と社会的自立の促進に努めてまいります。また障害者グループホームへエアコンを設置し利用者が安心して利用できる環境を整備します。

子育て支援については、第２期せたな町子ども・子育て支援事業計画に基づき、子どもの健やかな成長のための事業展開を図ってまいります。小学校就学前児童の教育及び保育への支援として引き続き認定こども園や保育所による質の高い教育、保育サービスを提供するとともに子育て支援センターによる育児相談や保護者同士の交流を図りながら子育て家庭への支援に努めてまいります。また留守家庭の放課後児童への支援としては、学童保育所の充実した運営に取り組んでまいります。

次に病院事業について申し上げます。地域医療を支える自治体病院は、住民の生命と健康を守り、地域の健全な発展に貢献することを使命としております。地域に必要な医療を継続して提供するためには、医師をはじめとする医療従事者の確保は最重要課題であることから早期実現に向け取り組んでまいります。また限られた医療資源を活用し持続可能な地域医療提供体制の確保に努めてまいります。当面の診療体制については、医療現場の負担を考慮した体制とし、常勤医師や医療従事者が連携して診療にあたるとともに、大学病院や民間医療機関からの出張医の応援により、診療体制を確保してまいります。感染症対策については、国から示されている方針や感染状況を踏まえ引き続き予防や感染拡大防止に努めてまいります。国保病院の改築については、医療面で町民を支える地域に密着した病院づくりを推し進めるため、令和９年度の開院を目指し引き続き取り組んでまいります。公立病院の経営改善に向けては、せたな町立国保病院経営強化プランに基づき取り組んでまいります。国保病院、診療所及び歯科診療所が一層連携し、全職員が地域住民の生命と健康を守る使命を担っている医療機関の一員であることを自覚し、町民から信頼され、安心して受診していただけるよう一丸となってより良い医療サービスの提供に努めてまいります。

第２に地域の魅力を産業の活力にかえるまちの推進に努めます。

農林水産業は、自然災害、地球温暖化、高齢化など取り巻く環境は大変厳しい状況にあります。このような状況下において１次産業を基幹とする本町にとっては、持続的な発展が不可欠であることから産業団体との協働による施策の展開と併せ、経営基盤の強化や生産体制の整備、将来の産業を支える担い手の確保に努めてまいります。

はじめに農業施策について申し上げます。農業の振興については、第２期せたな町農業振興ビジョンに基づき、労働力問題及び生産性の向上を目指し、スマート農業機械及びスマート農業施設などの導入経費の補助を行い、農作業の省力化や持続可能な農業生産を図ってまいります。また担い手確保対策として、北海道農業次世代人材投資事業の活用や産業担い手奨励金の拡充を行い、就農相談などの対策を進めながら新規就農者や後継者の担い手確保に努めてまいります。

農業センターについては、町内農産物の品質、収量の安定と向上を図るため土壌分析診断事業による土づくりの推進や潮トマトや蔬菜類などの高収益作物の栽培試験を引き続き実施し技術支援を行ってまいります。更にＩＣＴ機器を設置したビニールハウスを活用し、作業の効率化や作物の高品質化の実証試験も実施し、引き続きスマート農業普及に向けた取り組みを進めてまいります。

畜産については、近年の情勢により物価の高騰に加え飼料価格は依然高止まり傾向にあり、経

営の厳しさが大きな課題となっております。このような状況から町営牧場の更なる利用促進を図り畜産農家の経営コスト低減を進めるとともに、草地畜産基盤整備事業を継続して実施し自給飼料の確保を図ってまいります。

次に農業、農村整備事業について申し上げます。

水田用水については、基幹施設である真駒内ダムの適正な管理のため基幹水利施設管理事業を引き続き活用します。また安定的な営農飲雑用水供給体制の整備を図るため瀬棚地区営農飲雑用水施設整備事業の調査、計画事業に着手し令和７年度の事業採択に向け進めてまいります。更に新規事業として集中豪雨に対応し、排水機能を回復させるため東大里幹線排水路補修工事の実施や不陸や目地破損の発生により漏水が進んでいる愛知地区において農業水路等長寿命化・防災減災事業を活用し用水路機能の強化を行い生産基盤の整備を図ってまいります。

次に林業施策について申し上げます。

林業施策に係る財源は森林環境譲与税を活用し、一般民有林の施業については、豊かな森づくり推進事業により伐採後の確実な造林を支援するとともに、除間伐や下刈及び低質材の運搬経費補助など森林所有者の負担軽減や森林の有する多面的機能の維持、増進を図ってまいります。町有林については、主伐期の森林を計画的に伐採及び造林することにより森林資源の循環利用を図ってまいります。また北部桧山森林組合が新たに取り組む木質バイオマス用チップ加工に必要な高性能林業機械導入経費に支援するなど限りある森林資源の有効活用に努めてまいります。近年、有害鳥獣の個体数増加により農林産物などの被害が増加傾向にあることから引き続き狩猟免許取得に対する助成を行うとともに、有害鳥獣捕獲奨励金や猟友会に対する捕獲活動報償金の支援の拡充を図るほか、農林水産省の鳥獣被害防止総合対策交付金を活用し有害鳥獣の捕獲及び人材育成に努め関係機関と連携を密に効果的な駆除に努めてまいります。

次に漁業施策について申し上げます。

前浜資源の確保を図るため引き続きウニ資源増殖事業に支援を行うとともに、本年度からトラウトサーモン海面養殖試験事業が事業化されることから養殖経営基盤の安定化に向けた取り組みについても支援してまいります。また漁業経営の規模拡大や新たな漁法に取り組む漁業者に対し、施設整備に係る経費の補助を行い生産基盤の強化を図ってまいります。更に檜山沿岸６町による広域連携事業として取り組むニシンやナマコの種苗放流やサケの資源増大対策事業についても引き続き支援してまいります。

水産種苗育成センターについては、アワビの中間育成やナマコの種苗生産、供給を行うことで前浜資源の維持と漁業者の経営安定に向けた支援に努めてまいります。漁港、港湾については、関係機関との連携を図り瀬棚港修築事業はもとより、上架施設ワイヤーロープ取替工事や水産物供給基盤機能保全事業により施設の適切な整備と維持管理に努めてまいります。また貴重な漁業資源であるサクラマスや秋サケの増殖を図るためには、河川環境の整備が重要であることから既設砂防ダムなどの堤体の切り下げを関係機関に引き続き要望してまいります。

次に商工観光施策について申し上げます。

商工事業者の経営体質の改善を図るため、商工会に対する運営補助や中小企業経営安定資金融

資事業並びに新型コロナウイルス対策資金への利子補給を継続して実施し、顧客の利便性向上や環境へ配慮した店舗の改修など、新たに次世代型店舗づくり事業を実施いたします。また地域おこし協力隊員の活動に支援を行い町内での起業と定住の促進を引き続き図ってまいります。観光振興については、観光協会と連携を図りながら、せたな３大イベントの助成を行い観光の振興と地域の活性化に引き続き努めてまいります。また今金町との２町連携による渡島地域半島振興広域連携促進事業については、引き続き２町の農水産物を活用した新たな特産品の開発を行い、ふるさと納税の返礼品など食を通じた地域の魅力を発信してまいります。本年１１月に３０年目を迎える温泉宿泊施設の温泉ホテルきたひやまについては、引き続き指定管理者制度によりお客様へのサービス向上やコスト削減を図るとともに、長寿命化改修事業による施設改修を行い適正な運営と施設管理に努めてまいります。再生可能エネルギーの推進については、昨年５月に有望な区域として指定を受けた檜山沖の促進区域指定に向け取り組んでまいります。近年の大雨洪水や猛暑など温室効果ガスの影響に伴う気候変動対策においては、地域エネルギービジョン及び地球温暖化対策実行計画により再エネ発電設備の導入や地産地消の取組を進め、国が目標とする２０３０年温室効果ガス４６％削減や２０５０年の温室効果ガス排出実質ゼロを目指しグリーントランスフォーメーションの推進を図ってまいります。またこれらの目標を達成するためには民間事業者の協力が不可欠なため再エネ発電設備などの導入促進に引き続き支援してまいります。

第３に自然を守り、安全にすごせるまちの推進に努めます。

快適な日常生活を送る上で欠かせない上下水道事業について申し上げます。

水道事業については、令和５年度に調査設計を実施した松岡地区の水源井戸新設工事と瀬棚市街地の配水管更新工事を実施し水道水の安定供給に向け、これまで同様、各施設の適正な維持管理を図り安心、安全な水の確保、安定した水の供給及び健全経営に努めてまいります。

熱源供給事業については、各施設の適切な維持管理を実施し、安定した温泉の供給を図ってまいります。下水道事業については、処理場ストックマネジメント計画に基づき大成浄化センター及び北檜山下水処理場の改築更新工事を実施するとともに、下水処理施設などの適切な維持管理を実施してまいります。漁業集落排水施設については、昨年度に引き続き太櫓地区の排水処理施設の更新工事を実施し安定した汚水処理に努めてまいります。また上下水道事業会計については、令和６年度より特別会計から公営企業法を適用する公営企業会計に移行し、経営、資産など状況の正確な把握、弾力的な経営を行い今後も持続可能な事業運営に努めてまいります。環境衛生については、地域の良好な環境を保つため、ごみの不法投棄防止に努め資源ごみ回収奨励金交付事業を引き続き実施するほか、北部桧山衛生センター組合におけるごみの分別による更なる資源回収率の向上を図るため資源ごみの無料化を令和６年１０月から実施いたします。また公共下水道や農業集落排水施設などが未整備の地域における生活排水対策については、合併浄化槽の普及促進を図るため設置費の補助を継続して実施してまいります。

北部桧山衛生センター組合については、最終処分地造成工事及び浸出水処理施設改修工事を引き続き実施してまいります。

次に消防、防災体制について申し上げます。

消防については、消防救急デジタル無線ネットワーク機器の更新や大成支署の消防指令車を更新し、消防力の向上に努めてまいります。また施設の維持管理を適切に行うとともに、消防職員及び団員の資質の向上を図り災害などへ迅速な対応ができるよう強化に努めてまいります。防災については、近年、日本各地で様々な自然災害が発生している状況から災害発生時に迅速に対応できるよう各関係機関との連携強化や備蓄品の充実を図ってまいります。また安全で安心して暮らせる地域づくりを推進するため地域全体の防災意識の高揚に努めるとともに、引き続き自主防災組織に対する支援を積極的に行い、自助、共助、公助の連携による地域防災力の向上に取り組んでまいります。

次に河川の整備について申し上げます。

１級河川後志利別川については、内水被害対策として河道掘削などの実施について継続して国に要請するほか、北海道管理河川の太櫓川、真駒内川、トンケ川、うぐい川の改修工事が引き続き実施の予定であり、これらの事業が早期完成となるよう今後も道に対して強く要請してまいります。このほか過去に内水被害をもたらした河川については、適正な維持管理を関係機関に引き続き要請してまいります。また町が管理する河川については、河川災害を未然に防止するため準用河川最内川及び普通河川弓山川、湯の尻川の河道掘削を進めるとともに、中の沢川においては河道断面を確保し流下能力を向上するため改修工事を実施してまいります。

次に交通安全、防犯、消費者対策について申し上げます。

交通安全の推進については、交通安全運動に対する関係機関、団体及び町民の皆様のご協力により昨年１１月に交通事故死ゼロ７００日を達成することができました。今後も街頭啓発や交通安全教育などの取組を推進し、町民一人一人の交通安全意識を高めるとともに、関係機関や団体と連携を図り交通事故防止に努めてまいります。防犯対策については、高齢者の特殊詐欺被害を未然に防止するために、迷惑電話防止機能がついた電話機などの購入に対する補助を継続して行います。また引き続き公共施設へ防犯カメラを設置し、事件事故の早期解決と犯罪への抑止力を高めるとともに、警察署をはじめ関係機関と連携し犯罪のない安全で住みよいまちづくりを推進してまいります。消費者対策については、複雑かつ多様化する消費者トラブルを未然防止するため被害防止の啓発強化や消費者相談窓口の一層の充実を図るとともに、町民の消費生活における安全と安心の確保に取り組んでまいります。町有施設の解体については、周辺環境に配慮し老朽化した大里コミュニティセンターのほか､用途を終えた町営住宅を解体することとしております。また適切な管理が行われず周辺環境に深刻な影響を及ぼす空家対策として、特定空家などの解体に対する助成を引き続き実施してまいります。

第４に、だれもが便利さを実感できるまちの推進に努めます。

快適な住環境の整備を図り定住を推し進めるほか、物流の促進、観光振興、高次医療機関への救急車両による搬送などを考慮し、広域的な幹線道路とのネットワークの構築に努めてまいります。

国道の整備については、地域経済の発展はもとより、まちづくりの推進に不可欠であるため地域高規格道路渡島半島横断道路の整備促進や国道２２９号、２３０号の適正な道路網の整備につ

いて関係機関に引き続き要請してまいります。道道の整備については、北檜山大成線の都地区歩道整備や新成地区などの狭隘箇所の改良事業の推進をはじめ、緊急時に２次及び３次医療圏への搬送道路となる八雲北檜山線の落石防止対策などが早期に完成するよう関係機関に引き続き要請してまいります。町道橋の整備については、橋梁長寿命化修繕計画に基づき町道栄石濁川線雲内橋補修工事を行ってまいります。町道は町民に身近な道路であることから路面の補修や排水整備及び除雪などこれまで同様に適切な維持管理に努め、本年度から町道浮島線の防雪柵整備を実施してまいります。定住の基盤となる快適な住環境の整備については、町営住宅等長寿命化計画に基づき、徳島団地の長寿命化改善事業に着手するほか、住宅状況に応じた補修を実施しながら適正な維持管理に努めてまいります。また移住定住人口の確保などを目的とした移住定住促進住宅奨励事業や良質な賃貸住宅の供給を促進するための賃貸住宅整備促進支援事業を継続して実施してまいります。地域公共交通については、持続可能な公共交通体系の構築を目指すため、せたな町地域公共交通活性化協議会及び各事業者と連携、協議を進めながらデマンドバス実証運行事業などにより利用者のニーズや課題を探り、効率的かつ利便性を高める公共交通の形成に取り組んでまいります。

第５に、学びやスポーツが楽しめるまちの推進に努めます。

子どもたちは、本町の未来をつくる力であり次世代を担う希望であります。子どもたちが社会の変化に柔軟に対応しながら豊かな人間性を持ち、たくましく自立した社会人に成長するためには、自然や歴史、文化など本町が有する豊かな教育資源を生かし、学校、家庭、地域、行政が一体となり確かな学力、豊かな心、健やかな体の健全育成に向けた総合的推進が必要であります。そのため教育委員会との連携のもと基礎学力の定着をはじめ、ＩＣＴ機器を活用した教育や体力向上に向けた取組、更には道徳教育、外国語教育など、子どもたちがふるさとへの誇りと愛着を持ち、夢と希望を抱きながら学ぶ楽しさを感じ、自ら学ぶ意欲が育まれるよう支援してまいります。また地域全体が潤いと活力に満ちた豊かな人間性と文化を育むまちづくりを目指し、町民一人一人が自己の充実や心身の健康と潤いのある生活が送れるよう、主体的に学び続けることができる環境づくりを進めてまいります。

第６に、みんなの創意工夫が光るまちの推進に努めます。

町民主体によるまちづくりを推進するため、せたな町地域活動等推進事業を継続して実施し、コミュニティ活動の活性化を図り町内会などの活動を支援してまいります。またデジタル社会の実現に向けた自治体ＤＸの取組については、せたな町公式ホームページの更新を行うとともに、昨年開設した公式ＳＮＳにより、更なる町民の利便性の向上と情報発信の強化を図ってまいります。出会いや結婚を望んでいる町内の独身の方に、新たな出会いと交流の場を提供する出会いの広場を継続して開催することで、結婚に結びつくためのきっかけとなる出会いを提供し地元に住み続けたい意欲の高揚と地域の活性化を図ってまいります。また令和元年度に友好交流都市協定を結んだ愛知県豊山町とは、産品交流や学校交流など引き続き交流事業を実施してまいります。

以上、令和６年度の町政執行に臨む私の所信を申し上げ、せたな町の更なる発展のために町民の皆様、町議会の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

○議長（平澤　等君）　それではただいまより１１時２５分まで休憩いたします。

休憩　午前１１時１４分
再開　午前１１時２５分

○議長（平澤　等君）　休憩を解き会議を再開いたします。
教育行政執行方針について説明を求めます。
教育長。
○教育長（小板橋司君）　令和６年第１回定例会の開催にあたり教育行政執行方針を申し上げます。
近年におけるＳｏｃｉｅｔｙ５．０の到来、グローバル化の進展、ＳＤＧｓを原動力とした地方創生などにより、価値観や生活様式が大きく変わり、従来の知識や経験では答えを見つけ出すことが難しい時代となっております。このような変化の激しい時代にあって、未来に生きる子どもたちが、笑顔で暮らせる持続可能なまちづくりを実現するためには、質の高い教育を提供することが重要であり子どもも、大人も学びをとおして生涯にわたり自分を輝かせることができる教育環境を一層充実させることが不可欠と考えております。
令和６年度においては、５カ年計画の最終年を迎えるせたな町教育推進計画を基本に、学校、家庭、地域、行政がより一層の連携、協力を図り児童生徒の学力の向上をはじめ、体力向上、豊かな心とたくましく生きる力の育成などの取り組みを進めるとともに、町民一人ひとりが生涯にわたる学びやふれあいを拡充できる環境と文化、スポーツに親しむ環境の醸成に努めていくことが必要なところであります。そのためにも町の教育行政の推進に鋭意努めてまいりますとともに、これまでの４年間の評価と令和６年度の実践を踏まえ、令和７年度から令和１１年度までの第４期せたな町教育推進計画の策定も進めてまいります。また国が令和７年度までを改革推進期間と定めている休日の部活動の段階的な地域移行については、学校教育と社会教育が連携し、多方面の動向を見極めながら円滑な移行に向けて慎重に取り組んでまいります。これらを念頭に、ふるさとの未来を創る、せたなを愛し、潤いと活力ある人間性豊かな人を育むために本町の環境を生かし地域社会の連携による各種教育施策の推進に取り組んでまいります。
それでは主な方針について申し上げます。
はじめに学校教育についてであります。各小中学校においては令和の日本型学校教育で示されている個別最適な学びと協働的な学びを基本にすえ、学習指導要領に示されております生きる力を育むという考えのもと確かな学力、豊かな心、健やかな体の三要素がバランス良くとれた子どもの健全育成に取り組んでまいります。とりわけ知識及び技能の習得、思考力、判断力、表現力の育成、学びに向かう力、人間性の涵養を柱にした資質、能力の育成を目指し、子どもたちの学びを主体的、対話的で深い学びへと改善するために、各学校では児童生徒や地域の実態に応じた重点教育目標を掲げその達成に向けて努めてまいります。
１点目は、地域の中の学校としての役割を発揮した信頼される学校経営についてであります。

子どもたちを取り巻く社会環境や家庭環境が急激に変化するなか、複雑化、困難化している教育課題を解決していくためには、地域全体で子どもたちを見守り互いに信頼関係を保ちながら育てていくことが大切であります。そのため子どもたちの学びの中心となる学校、子育ての基盤となる家庭、人間性や社会性を身に付ける場となる地域が互いに連携を図るとともに、コミュニティ・スクールなどの外部の声を学校運営に積極的に反映し、地域と協働して子どもたちを育む地域に開かれた学校づくりが推進されるように支援してまいります。また小学校、中学校の連携ならびに中学校と檜山北高等学校との連携についても継続して進めてまいります。

２点目は、ふるさとを愛し、生きる力を育む教育課程についてであります。

小中学校においては、学習指導要領に基づき確かな学力、豊かな心、健やかな体を育む教育課程をバランスよく編成するとともにＩＣＴ教育、学力、体力向上に向けた取り組み、本町が有する豊かな自然、歴史、文化を学ぶふるさと教育や職場体験などを通して自分の生き方や進路について考えるキャリア教育を推進してまいります。また本町の価値ある文化財、郷土資料を学校教育でも有効に活用してまいります。外国語教育については、その充実に努めるとともに、子どもたちが世界や地域社会に目を向け、向き合い、関わりあいながら学校教育を通じてよりよい社会を創り出す社会に開かれた教育課程の実現を目指してまいります。

３点目は、学習指導についてであります。

確かな学力の向上とこれからの時代に求められる資質、能力の育成については、児童生徒一人ひとりの確かな学力を向上させ、将来にわたり学びに向かう力を定着させると同時に１人１台端末を有効に活用し、子どもたちが学ぶことに興味を持ち楽しさを感じながら基礎学力を確実に身につけるための学習環境整備に努めてまいります。そのひとつとして全校児童、生徒に昨年度導入した学習用ソフトのＡＩドリルを有効に活用するなど、学校での学習のみならず家庭学習の充実のための条件整備を図ります。そのうえで望ましい生活習慣の定着と授業改善を学力向上の両輪とし学校、家庭、地域が一体となり取り組みを推進してまいります。小学校においては、ＩＣＴ機器を活用したプログラミング教育により論理的思考力や創造性、問題解決能力の育成に取り組んでまいります。外国語教育については、児童生徒の英語力のより一層の充実と向上を図るため外国語指導助手や英語指導助手を全ての小中学校に派遣してまいります。

４点目は総合的な学習の時間についてであります。

総合的な学習の時間においては、身近な自然環境や地域の特色を生かしたふるさと教育、地域人材を活用した体験活動、外国語指導助手とのふれあいを通した異文化交流等を推進してまいります。また国内外において２０５０年までにカーボンニュートラルを目指す動きが高まっていることから町内にある風力発電施設を積極的に活用した学習の場を提供してまいります。

５点目は道徳教育についてであります。

考え、議論する道徳に向けて道徳教育推進教師を中心に学校全体として授業改善と充実に努めるとともに、参観日等での道徳の授業公開を行ってまいります。また北海道版道徳教材きたものがたりを道徳の授業に活用するなど、せたな町で開業し地域に貢献した荻野吟子女史の信念を貫いた力強く魅力的な生き方を学ぶとともに、命を大切にする心や思いやりの心など豊かな心を育

むための道徳教育の充実に努めてまいります。

６点目は生徒指導についてであります。

生徒指導については、管理職のリーダーシップのもと全教職員による生徒指導体制と組織的な対応を図るとともに保護者や関係機関と連携を密にした取り組みを進めてまいります。いじめや不登校などへの取り組みについては、定期的なアンケート調査、教育相談、家庭訪問などを実施し、実態把握に努めるとともに児童生徒に関わる現状や問題点などを真摯に捉えて、小中学校、保護者や関係機関等と連携のもとに迅速な対応に努めてまいります。またスクールアドバイザーを学校等に派遣するほか不登校の児童生徒を受け入れる教室や保護者を対象とした交流会の実施など、不登校などの課題を抱える児童生徒やその保護者に対する心のケア、指導、助言等の支援を引き続き行ってまいります。またネットトラブル等については危険性と適切な使い方を子どもたちに指導するとともに関係機関との連携強化に努めてまいります。

７点目は健康、安全教育についてであります。

学校においては、運動の楽しさや喜びを実感させ、積極的に運動に取り組む意欲や態度を育てる取り組みが進められておりますが、実生活に即した肥満防止、体力増強や食物アレルギー対応に係る適正な管理が図られるよう努めてまいります。食育については、学校での給食指導、学校栄養教諭による食に関する指導や家庭への啓蒙、連携などを通して食に関する正しい知識と望ましい食習慣の定着を図るとともに、全ての食材をせたな産で賄う給食の日を設定し積極的に地場産物を利用した給食の提供をするなど、食への感謝の気持ちと地域への愛着を醸成する指導の充実に努めてまいります。安全教育については、不審者、交通事故などから児童生徒が主体的に安全な行動をとることができるよう警察などと連携を図り、交通安全教室など各種教室を開催し、危機対応能力などを身につける安全指導の充実に努めてまいります。また防災教育として関係機関と連携した一日防災学校を充実させ、児童生徒に対しいつ起きるかわからない災害への防災意識の向上を図ってまいります。

８点目は、特別支援教育の充実についてであります。

特別な支援を必要とする児童生徒への特別支援教育はとても重要なものであり、せたな町特別支援連携協議会やせたな町教育支援委員会を定期的に開催し、保育所、認定こども園、小中高等学校と関係機関が連携しながら児童生徒の適切な支援、指導に取り組んでまいります。また特別支援教育支援員、学習支援員を配置するなど、それぞれの発達特性に応じた丁寧な支援に取り組んでまいります。

９点目は幼児教育についてであります。

幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培うための重要なものであります。認定こども園や保育所から小学校への学びの連続性を維持するため、小学校体験入学や交流学習をスタートカリキュラムとして年間指導計画に位置づけるなど幼児教育の充実に努めてまいります。そのほか外国語に慣れ親しむために認定こども園や保育所に外国語指導助手を派遣してまいります。

１０点目は、教職員の資質向上についてであります。

教職員一人ひとりの資質、能力を高める研修を充実させ、教育公務員としての誇りと生きがい

を持つ教員を養成するため、町教育研究会等の活動の充実や各種研修会への積極的な参加を促進してまいります。とりわけ教職員のＩＣＴ機器の教育活用のためのスキルアップを目指して、研修会を充実させてまいります。そのほか教職員の心身の健康保持のためスクールアドバイザーによる教職員のメンタルヘルスケアを実施し、働きやすい、風通しの良い職場づくりを支援してまいります。また教職員が不祥事によって地域社会からの信頼を失うことのないよう教育公務員としての自覚を促すとともに体罰や交通違反等の不祥事防止、法令遵守による服務規律の徹底を図ってまいります。

１１点目は、教育環境の整備についてであります。

令和６年度は瀬棚中学校体育館外壁改修工事のほか、令和５年度より進めております児童生徒の命や健康を守るための教育環境の整備として各小中学校にエアコンを設置してまいります。また学校給食センターにつきましては、高圧機器更新工事及び事務室等へエアコンの設置を予定しております。このほか緊急性や重要性を考慮しながら教育施設の安全な維持管理に努めてまいります。また修学旅行の保護者負担軽減のため令和３年度より中学校において利用する貸切バスの全額を支援する修学旅行貸切バス支援補助事業を実施しておりますが、小学校につきましても本年度より実施してまいります。

次に社会教育についてであります。

社会教育の推進にあたっては、生涯を通して一人ひとりが自ら学ぶことができる学習機会の提供と学習環境の整備に努めてまいります。

１点目の乳幼児教育についてであります。

幼児期に人格形成の基礎を育むため、安心して子育てができる環境を整え、ボランティア団体等と連携し、ブックスタート事業、絵本の読み聞かせなど、親子交流の機会を提供してまいります。またボランティアの育成や研修を進め体制の整備に努めてまいります。

２点目の青少年教育についてであります。

子どもたちがさまざまな体験を通じて、連帯感、協調性、社会適応力を身に付けることを目的に自然体験事業やふるさと学習のほか、小学校低学年を対象とした英会話教室を実施してまいります。このほか地域人材を活用した学校運営についても引き続き支援してまいります。

３点目の成人教育についてであります。

成人期は、社会人として家庭や地域、職場などで中心的な役割と責任を担う時期であります。多様なニーズに対応した学習機会の提供や気軽に参加できる体験講座を開催してまいります。また家庭の教育力を高めるため家庭教育に関する事業の充実に努めてまいります。

４点目の高齢者教育についてであります。

高齢者が健康で元気に生きがいを持って生活ができるよう高齢者大学を中心として、多様な学習機会の提供や異世代交流事業並びに学習活動の支援充実に努めてまいります。

５点目の読書活動の推進についてであります。

せたな町子どもの読書推進計画に基づき、幼児期からの読書活動の推進を図るとともに各学校へ学校図書室支援員を派遣し､学校図書室の環境を充実させ読書習慣の推進に努めてまいります。

また各図書施設につきましては、蔵書資料の充実や図書館支援システムの更新により読書活動の推進を図り町民に親しまれる図書施設としてより良い運営に努めてまいります。

６点目の芸術、文化についてであります。

町民が心豊かに、創造的で文化的な生活が営めるよう文化講演会の開催や芸術鑑賞機会の提供に努めてまいります。また町民の日常的な文化活動を促進するため文化団体やサークルなどと連携した文化祭開催のほか、芸術鑑賞事業実行委員会や郷土芸能団体等への支援を行うとともに誰もが気軽に参加や活動ができる環境づくりに努めてまいります。本町の貴重な文化財や郷土資料については、学芸員による適正な保護、保存に努めるとともに、定期的な展示会や資料を活用した各種事業を開催し文化財の公開と情報発信に努めてまいります。

７点目のスポーツの推進についてであります。

健康づくりを目的にした包括連携事業を活用するなど、町民一人ひとりが、それぞれのライフスタイルに応じて、いつでも、どこでも、だれでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツの推進に努めてまいります。子どもたちの運動能力の基礎を培うため、スポーツの楽しさを実感できる各種スポーツ教室のほか、プロの選手やチームによるスポーツアカデミー事業を実施し、体力、技術の向上を図ってまいります。町民プールについては、幼児から高齢者まで幅広い年齢層を対象とした各種水泳教室や水中歩行講座を実施するなど、プール施設の利用拡大に向けた事業を進めてまいります。海洋スポーツについては、Ｂ＆Ｇ海洋クラブや指導者会と連携し海洋スポーツの普及に努めるとともに、水に賢い子どもを育む年間型活動プログラムを実施し、地域の身近な教育資源を活用したふるさと学習の推進や小学生を対象とした着衣泳の実施など水辺の安全に関する学習機会の提供に努めてまいります。

８点目は社会教育・社会体育施設の整備についてであります。

令和６年度は、スポーツ公園グランドの改修工事による環境整備や令和５年度の強風被害で倒壊した夕陽が丘パークゴルフ場休憩所の設置工事を予定しております。施設の管理運営に関しましては、町民の生涯学習、生涯スポーツの重要な活動拠点として、緊急性や重要性を考慮しながら適切な維持管理に努めてまいります。そのほかに新たな取り組みとして、令和５年度から実施しております北海道教育大学函館校と連携した地域づくり支援実習受入事業の内容充実や今後の事業拡大を目指し、大学との相互協力協定の締結に向けて進めてまいります。

以上、令和６年度の教育行政執行にあたって基本方針について申し上げました。

変化の激しい社会のなかで､せたな町の子どもたちが互いに助け合いながらたくましく成長し、令和の時代に立ち向かうことができるよう学校、家庭、地域との連携を十分に図りながら学びやスポーツが楽しめるまちを基本目標に教育行政の推進に全力で取り組んでまいります。

町民の皆さま並びに関係各位のご理解と一層のご協力を賜りますようお願い申し上げ、教育行政執行方針といたします。

○議長（平澤　等君）　次に議案第１号から議案第９号までと議案第２３号から議案第２６号及び議案第３３号から議案第３６号までの１７件の議案について提案理由の説明を求めます。

副町長。

○副町長（佐々木正則君）　上程されました議案第１号から議案第９号までの予算概要並びに議案第２３号から議案第２６号まで及び議案第３３号から議案第３６号までの提案理由を一括して申し上げます。なお配付してございます令和６年度せたな町各会計予算附属資料といたしまして令和６年度せたな町各会計予算（案）概要説明資料をご参照いただければと思います。

それでは説明をしてまいります。

まず議案第１号令和６年度せたな町一般会計予算の総額は９３億３，８６２万９，０００円でございます。

歳出予算に計上した主なものを申し上げます。１款議会費では、議員報酬、議員期末手当、政務活動費交付金などについて計上をいたしました。

２款総務費では、町有施設解体工事、ふるさと応援寄附金推進費、デマンドバス運行事業費補助金などにかかる経費について計上いたしました。

３款民生費では、社会福祉協議会運営事業補助金、国民健康保険事業特別会計や介護保険事業特別会計などへの繰出金、障害福祉サービス等給付費などにつきまして計上をいたしました。

４款衛生費では、病院事業会計や簡易水道事業特別会計などへの繰出金、健康づくり事業や公営温泉浴場管理に係る経費、北部桧山衛生センター組合負担金などについて計上いたしました。

５款労働費では、渡島檜山北部通年雇用促進支援事業などの雇用対策経費について計上をいたしました。

６款農林水産業費では、スマート農業支援事業補助金や中山間地域等直接支払交付金、草地畜産基盤整備事業費負担金、西兜野排水機場改修事業負担金、豊かな森づくり推進事業補助金、水産物生産向上事業補助金などについて計上をいたしました。

７款商工費では、商工会及び観光協会への補助金、次世代型店舗づくり事業補助金、各観光施設等の維持管理経費、温泉ホテルきたひやまの指定管理料や長寿命化事業、ゼロカーボン推進事業などに係る経費などについて計上いたしました。

８款土木費では、源泉施設点検整備などの熱源供給施設管理費、町道等除排雪業務などの道路維持費、町道橋長寿命化修繕事業などの地方道改修事業費、準用河川維持浚渫事業、下水道事業会計への繰出金などについて計上をいたしました。

９款消防費では、檜山広域行政組合消防費負担金のほか、災害に備えて衛星電話や備蓄品の整備、防災行政無線保守管理業務、防潮水門管理費などについて予算を計上いたしました。

１０款教育費では、スクールバス運行業務など学校管理に係る経費、小中学校修学旅行貸切バス料金に対する支援､社会教育及び保健体育にかかる経費などにつきまして計上をいたしました。

１１款公債費では、長期債元金及び利子など償還金につきまして計上をいたしました。

１２款職員給与費では、特別職３人、一般職１３１人の給料、諸手当など職員給与費にかかる経費、会計年度任用職員にかかる給与費などについて計上をいたしました。

一方歳入でございますが、自主財源の町税や地方譲与税などのほか、地方交付税では、国の地方財政計画に基づき普通交付税、特別交付税合わせまして４８億３，７９５万５，０００円を見込み計上をいたしました。詳細につきましては、臨時財政対策債など２２件の借入れを計上し、

収支の均衡を図ったものでございます。

次に、議案第２号令和６年度せたな町国民健康保険事業特別会計予算の総額は１１億４，９９０万１，０００円で、保険給付費や国民健康保険事業費納付金などの経費を計上してございます。

議案第３号令和６年度せたな町後期高齢者医療特別会計予算の総額は１億８，１３９万５，０００円で、後期高齢者医療広域連合納付金などの経費を計上してございます。

議案第４号令和６年度せたな町介護保険事業特別会計予算の総額は１１億７，６９４万６，０００円で、保険給付費や地域支援事業費などの経費を計上してございます。

議案第５号令和６年度せたな町介護サービス事業特別会計予算の総額は６，４９０万５，０００円で、デイサービスセンター事業費や介護予防支援事業費などの経費を計上してございます。

議案第６号令和６年度せたな町風力発電事業特別会計予算の総額は２，５１１万５，０００円で、風力発電施設の維持管理経費などを計上してございます。

議案第７号令和６年度せたな町簡易水道事業会計予算の総額は収益的収支の収入は４億６，４２４万６，０００円、支出は４億１６４万円、資本的収支の収入は１億７，１１４万８，０００円、支出は２億３，７１１万８，０００円を計上してございます。

議案第８号令和６年度せたな町下水道事業会計予算の総額は収益的収支の収入５億５，２５１万６，０００円、支出５億４，３６０万４，０００円、資本的収支の収入３億６，７６７万円、支出３億７，２４９万８，０００円を計上してございます。

議案第９号令和６年度せたな町病院事業会計予算の総額は収益的収入及び支出ともに１１億８２万５，０００円、資本的収支の収入は１，０８０万７，０００円、支出は２，８７５万円を計上したものでございます。

次に一般議案でございます。議案その２の９ページでございます。議案第２３号せたな町フルタイム会計年度任用職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例についてでございます。地方自治法の一部を改正する法律により、会計年度任用職員に対する勤勉手当の支給が可能となったことに伴いフルタイム会計年度任用職員へ勤勉手当を支給するため、本条例の一部を改正しようとするものでございます。

次に１３ページでございます。議案第２４号せたな町パートタイム会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例についてでございます。地方自治法の一部を改正する法律により会計年度任用職員に対する勤勉手当の支給が可能となったことに伴い、パートタイム会計年度任用職員へ勤勉手当を支給するため、本条例の一部を改正しようとするものでございます。

次に１９ページでございます。議案第２５号せたな町基金条例の一部を改正する条例についてでございます。せたな町内における省エネ設備や再エネ設備の導入など、ゼロカーボン推進に必要な事業に要する経費の財源に充てるため、本条例の一部を改正しようとするものであります。

次に２３ページでございます。議案第２６号せたな町介護保険条例の一部を改正する条例についてであります。第９期介護保険事業計画の策定に伴い、介護保険料率を改定されたことから本条例の一部を改正しようとするものであります。

次に５７ページでございます。議案第３３号指定管理者の指定についてであります。せたな町障がい者グループホームのぞみの管理及び運営を効果的かつ効率的に行わせるため、指定管理者を指定するものであります。

次に５９ページでございます。議案第３４号指定管理者の指定についてであります。せたな町米乾燥蔵施設の管理及び運営を効果的かつ効率的に行わせるため指定管理者を指定するものであります。

次に６１ページでございます。議案第３５号指定管理者の指定についてであります。せたな町玄米ばら集出荷施設の管理及び運営を効果的かつ効率的に行わせるため、指定管理者を指定するものであります。

次に６３ページでございます。議案第３６号指定管理者の指定についてであります。せたな町営牧場の管理及び運営を効果的かつ効率的に行わせるため指定管理者を指定するものであります。

以上、各会計議案９議案、一般議案８議案につきまして一括して提案理由を申し上げました。

ご審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（平澤　等君）　ただいまより１時１０分まで昼食休憩といたします。

休憩　午後　０時０２分

再開　午後　１時１０分

○議長（平澤　等君）　休憩を解き会議を再開いたします。

午前中より議題となっています１７件の予算関連議案については、委員会条例第５条第１項及び第２項の規定により、議長を除く１１名の議員で構成する予算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、休会中の継続審査にいたしたいと思います。

これにご異議ございませんか。

（「異議なし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって議案第１号から議案第９号までと議案第２３号から議案第２６号及び議案第３３号から議案第３６号までの予算関連議案は議長を除く１１名の議員で構成する予算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、休会中の継続審査とすることに決定いたしました。

直ちに予算審査特別委員会を設置いたします。

これにただ今議題としている１５件の予算関連議案を付託し､休会中の継続審査といたします。

ここで予算審査特別委員会は、別室におきまして正副委員長の互選をお願いいたします。

暫時休憩いたします。

休憩　午後１時１１分

再開　午後１時３４分

○議長（平澤　等君）　休憩を解き会議を再開いたします。

これから諸般の報告をいたします。

予算審査特別委員会において委員長及び副委員長の互選が行われ、その結果が議長の手元にまいりましたので報告いたします。

委員長に本多浩議員、副委員長に藤谷容子議員、以上のとおり互選された旨報告がございました。

これで諸般の報告を終わります。

ただいまより議案審議に入ります。

◎日程第１８　議案第１０号

○議長（平澤　等君）　日程第１８、議案第１０号令和５年度せたな町一般会計補正予算を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

副町長。

○副町長（佐々木正則君）　今回提案いたします補正予算につきましては、現在の歳入歳出予算の総額に２億３２２万２，０００円を追加し、補正後の予算総額を９８億６，９４１万４，０００円とするものでございます。

その主な内容でございますが、各種事務事業の執行による予算精査のほか、生活交通確保対策基金、公共施設整備基金、産業振興基金への積立金や漁船燃油高騰対策事業など、行政執行上、当面必要とする経費について補正をお願いするものでございます。なお予算に合わせまして、繰越明許費の設定２件、債務負担行為の追加１件、地方債の変更１４件をそれぞれお願いしてございます。

内容につきましては担当課長から説明をいたします。

ご審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（平澤　等君）　続いて内容の説明を求めます。

佐藤財政課長。

○財政課長（佐藤英美君）　それでは内容についてご説明いたします。議案その１の６ページでございます。第２表繰越明許費補正の設定２件でございます。年度内に事業完了が見込めないことから翌年度に繰越しをお願いするものでございます。物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金事業の繰越額は４，１６２万２，０００円でございます。

次に瀬棚港修築事業の繰越額は７５０万円でございます。

次に７ページでございます。第３表債務負担行為補正の追加１件でございます。中小企業経営安定資金融資利子補給については、令和５年度に借入れた中小企業経営安定資金融資に対する利子補給で、令和６年度から償還終了年度までの期間、限度額は、せたな町中小企業経営安定資金融資条例に基づき借入れした中小企業者に対する同条例の規定により算出した利子補給額の合計額とするものでございます。

次に８ページでございます。第４表地方債補正の変更１４件でございます。移住定住促進住宅事業など記載の１４事業については､事業費の精査により限度額の変更をするものでございます。なお起債の方法、利率、償還の方法については変更はございません。

それでは別冊の補足資料により説明をいたします。既にお目通しをいただいているものと思いますので説明は簡潔にさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

歳出から説明いたします。補足資料の３ページでございます。議案その１では２６ページから６５ページになります。それでは２款総務費、１項総務管理費、１目一般管理費６１２万２，０００円の減額の主なものは、１０節需用費、光熱水費２６０万６，０００円の減額、１２節委託料、庁舎特別清掃業務１０８万９，０００円の減額、１８節負担金補助及び交付金、地域振興派遣道職員負担金５４万６，０００円の追加は、道から派遣された職員の勤勉手当の町負担分でございます。６目基金管理費４億１２６万３，０００円の追加の主なものは、２４節積立金、財政調整基金積立金から公共施設整備基金積立金まで、それぞれ記載の額を積み立てるものでございます。７目企画費６６５万８，０００円の減額の主なものは、１８節負担金補助及び交付金、空家等除去事業補助金３５０万円の減額でございます。１５目新型コロナウイルス対策費９１７万８，０００円の減額の主なものは、１０節需用費、消耗品費８５０万円の減額でございます。１６目新型コロナウイルスワクチン接種対策事業費令和５年度分１，０１０万３，０００円の減額の主なものは、１２節委託料、新型コロナウイルスワクチン接種業務１，０２０万３，０００円の減額でございます。１８目諸費３，６８５万６，０００円の追加の主なものは、１８節負担金補助及び交付金、北海道市町村備荒資金組合超過納付金５，０００万円の追加は、災害に伴う費用等に充てるため積立てをするものでございます。デマンドバス運行事業費補助金１，２００万円の減額でございます。２０目物価高騰重点対策世帯支援事業費については、追加配分があったため財源を振り替えるものでございます。４項選挙費、２目町議会議員選挙費５４０万３，０００円の減額の主なものは、１８節負担金補助及び交付金、選挙公営負担金３８３万５，０００円の減額でございます。

３款民生費、１項社会福祉費、１目社会福祉総務費１，９６６万５，０００円の減額の主なものは、２７節繰出金、介護保険事業特別会計繰出金２，２８１万８，０００円の減額、介護サービス事業特別会計繰出金８５２万円の追加で各会計の精査によるものでございます。４ページでございます。５目障害者福祉費１，２０７万３，０００円の減額の主なものは、１９節扶助費、自立支援医療給付費９００万円の減額でございます。

４款衛生費、１項保健衛生費、１目保健衛生総務費６，０４５万円の追加の主なものは、２７節繰出金、病院事業会計繰出金７，４０９万３，０００円の追加、簡易水道事業特別会計繰出金１，２１３万３，０００円の減額は各会計の精査によるものでございます。２目予防費６２１万４，０００円の減額の主なものは、１０節需用費、医薬材料費２３８万３，０００円の減額、１２節委託料、帯状疱疹予防接種業務１５５万４，０００円の減額、１９節扶助費、インフルエンザ予防接種料金助成費１０５万１，０００円の減額でございます。６目公営温泉浴場管理費９８万３，０００円の追加の主なものは、１２節委託料、貝取澗公営温泉浴場施設指定管理料１００

万６，０００円の追加で、浴場給湯配管漏水修繕などの追加によるものでございます。２項清掃費、１目清掃総務費８４９万円の減額は、１８節負担金補助及び交付金、北部桧山衛生センター組合負担金８４９万円の減額でございます。

６款農林水産業費、３項水産業費、２目水産振興費１２８万８，０００円の追加の主なものは、１８節負担金補助及び交付金、漁船燃油高騰対策事業補助金１３０万円の追加で、漁船漁業者に対し漁船の燃油購入費の一部を補助するものでございます。

７款１項共に商工費、４目温泉ホテルきたひやま管理費１４万２，０００円の追加の主なものは、１２節委託料、施設指定管理料１３１万５，０００円の追加で、ボイラー部品取替修繕などの追加によるものでございます。

８款土木費、２項道路橋梁費、１目道路維持費７６７万８，０００円の減額の主なものは、１０節需用費、光熱水費３５０万円の減額、２目地方道改修事業費３，８８９万８，０００円の減額の主なものは、１４節工事請負費、町道苔谷地線舗装補修工事２，７４３万円の減額でございます。４項港湾費、２目港湾建設費２，７５７万１，０００円の減額は、１８節負担金補助及び交付金、瀬棚港修築事業負担金２，７５７万１，０００円の減額でございます。

５ページでございます。６項下水道費、１目下水道整備費１，６０９万４，０００円の減額は、２７節繰出金、公共下水道事業特別会計繰出金１，６０９万４，０００円の減額でございます。

１０款教育費、５項保健体育費、２目体育施設管理費１０万１，０００円の追加の主なものは、１０節需用費、修繕料８０万６，０００円の追加は、町民体育館遠赤外線暖房機修繕などの追加によるものでございます。

１３款災害復旧費、１項公共土木施設災害復旧費、１目道路橋梁施設災害復旧費４，８１６万８，０００円の減額の主なものは、１４節工事請負費、町道小川幹線災害復旧工事から町道上若松線災害復旧工事まで記載の金額をそれぞれ減額するものでございます。

これらに係る主な歳入でありますが、資料の１ページからでございます。議案その１では１１ページから２５ページまでとなります。１款町税、１項町民税、２目法人２，１６１万円の追加は、所得割では、風車関係事業者の法人税割の増に伴い２，３８１万円の追加、均等割では、法人の合併等により２２０万円の減額でございます。

７款１項１目共に地方消費税交付金１，４３０万円の追加でございます。

１０款１項１目共に地方交付税２億７，４４５万４，０００円の追加は、財源精査によるものでございます。

１４款国庫支出金、１項国庫負担金、１目総務費国庫負担金１，０２０万３，０００円の減額は、新型コロナウイルスワクチン接種対策費負担金、３目災害復旧費国庫負担金１，３３８万８，０００円の減額は、公共土木施設災害復旧費、復旧事業事業国庫負担金でございます。２項国庫補助金、１目総務費国庫補助金１，６１１万７，０００円の追加の主なものは、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業費補助金１，４３６万８，０００円でございます。４目土木費国庫補助金２，０７０万９，０００円の減額の主なものは、町道舗装補修事業交付金１，８０１万５，０００円の減額でございます。

１５款道支出金、２項道補助金、１目総務費道補助金９２８万４，０００円の追加の主なものは、地域づくり総合交付金９２５万円でございます。

１７款１項共に寄附金、１目ふるさと応援寄附金２６３万７，０００円の追加の主なものは、企業版ふるさと納税３５０万円で３社から寄附がありましたので、寄附者の意向によりそれぞれ充当したところでございます。

１８款繰入金、１項基金繰入金、４目、生活交通確保対策基金繰入金１，３７２万７，０００円の減額の主なものは、デマンドバス運行事業費補助金充当１，３００万円の減額、２ページでございます。６目公共施設整備基金繰入金１，２８１万円の減額の主なものは、町道舗装補修事業充当１，０３３万６，０００円の減額でございます。２項特別会計繰入金、目の追加で３目簡易水道事業特別会計繰入金９，６９１万２，０００円の追加と、４目営農用水道等事業特別会計繰入金３，０１０万９，０００円の追加は、企業会計移行に伴う水道事業会計基金の廃止による繰入れでございます。

２０款諸収入、５項１目共に備荒資金支消金１億円の減額は財源振替でございます。

２１款１項共に町債、２目民生債から６目合併特例債まで事業費精査により記載の額の補正をお願いするものでございます。

以上で説明を終わります。

ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（平澤　等君）　説明が終わりました。質疑を許します。

桝田議員。

○２番（桝田道廣君）　補足資料の３ページ、１８諸費のデマンドバス運行事業補助金、事業精査によるということで１，２００万の減額になってますけどもこの内訳を教えてください。

○議長（平澤　等君）　阪井課長。

○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　ただいまのご質問になりますが、デマンドバスの運行につきましては瀬棚須築線、それから北檜山太櫓線、檜山海岸線それぞれでございます。中身としては利用人数が減った部分と、それに伴いまして小型バスからハイヤーに変わってる関係で事業費の精査ということで金額のほうが落ちております。金額につきましては、すみませんちょっとお待ちください。北檜山太櫓線につきましては５００万円の減、それから瀬棚須築線につきましては４２０万円の減、檜山海岸線につきましては２８０万円の減、合計で１，２００万円となっておりまして、全体的に利用人数につきましては見込みよりそれぞれ北檜山太櫓線で１３４人、瀬棚須築線で５２人、檜山海岸線で９０人、合わせて２７６人の減となっております。

以上でございます。

○議長（平澤　等君）　ほかに質疑ございませんか。

石原議員。

○９番（石原広務君）　４ページ農林水産業費の水産業振興費で漁船燃油高騰対策事業補助金、これ詳細お知らせいただきたい。

○議長（平澤　等君）　吉田課長。

○農林水産課長（吉田有哉君）　漁船燃油高騰対策事業でございますが、町内に動力船を有し水産物を出荷している生産者に対し、燃油購入費の一部を助成するというものでございます。昨年も実施しておりまして、今年度も燃油高騰に対して対策を打つということで、今年度につきましては１３０万円の予算額となっております。予定している動力船につきましては４５隻を対象としておりまして、率にしまして２．１５％程度助成するという内容となっております。
○議長（平澤　等君）　石原議員。
○９番（石原広務君）　昨年度の実績、手元にあれば合わせてお知らせいただきたい。
○議長（平澤　等君）　藤井課長補佐。
○農林水産課長補佐（藤井卓也君）　令和５年度３月に実施した実績ですが、４９隻が該当となり補助率３．６％で交付されております。
○議長（平澤　等君）　石原議員。
○９番（石原広務君）　今年度これまた新たにというか、前回、補助した方もまた利用できるというふうに認識してよろしいですか。
○議長（平澤　等君）　藤井課長補佐。
○農林水産課長補佐（藤井卓也君）　正組合員皆さん対象となっておりまして前回と同様、免税軽油また重油等を使用した漁船の方のみに交付する形となっております。
○議長（平澤　等君）　ほかに質疑ございませんか。
　石原議員。
○９番（石原広務君）　先ほどの桝田議員のデマンドバス運行事業に関連してなんですが、これ患者バスと併合しながらデマンドバス利用、要は診療体制に関連して、先日説明会をしたと思うんですがそこの確認と、あと診療体制すごくこう担当としても広い分野にまたがっている状況にあるんです。要は一部患者バスを利用して、途中でデマンドバスに切り替わるとか、先週の土曜日でしたかこういった関係で説明会を開いていると思うんですが、その診療体制もこれは係わっていたと私は認識してるんですけど、デマンドバス、患者バス、診療体制、そこに救急体制ということで消防署側に体制､診療体制を含めて何かしらの情報共有をなぜしなかったのかその理由、まちづくりではないと思うんですけど。私の認識が誤っていればそこも指摘していただいて結構なので、その情報共有が私の認識としてはきちんと図られるだろうと決めつけてたんですけど、これ情報共有になってないというふうに理解する確認がとれたもんですから、そういった情報共有がなされないまま住民説明会を開いたその理由､もし押さえてるならばお知らせいただきたい。
○議長（平澤　等君）　説明会含めての話になるので総括になるか、どなたか手を挙げてください。
　増田課長。
○保健福祉課長（増田和彦君）　ただいまの質問でございます。先週の金曜日、住民説明会ということで大成区４会場で患者バスの運行変更の関係と大成診療所の診療体制の変更ということで説明会を開催させていただいております。その中で大成診療所の診療体制変更に伴って、患者バス、大成診療所行きの患者バス、これについても廃止ということで説明を行っております。なお

瀬棚区と同様に国保病院行きにつきましては、患者バスを残すということで説明をさせていただいております。その際に説明がちょっと大成地区、峠で北檜山まで行くんですけども、長磯方面、太田方面それぞれ長い距離を走りますので、デマンドバスと患者バスを複合させた運行形態とさせていただきたいということでお願いをしております。この件につきましても、概ね住民の方からはご了承を得たものと担当では思ってございます。まず保健福祉の担当としては以上となります。

○議長（平澤　等君）　西村病院事務課長。

○病院事務局長（西村晋悟君）　お答えいたします。石原議員からは今、救急隊との情報共有というお話であったかなと思いますけども、確かにご指摘のとおり救急隊との情報共有につきましてはまだしていない状況でございますので、近日中に情報共有をさせていただきたいと思います。

以上です。

○議長（平澤　等君）　石原議員。

○９番（石原広務君）　私の勝手な解釈で、要はそういった情報も私の勝手な捉え方だったんですけど、診療体制、要は医師の関係でいろんなデマンドバスや患者バス担当課が連携しながらいろいろやってるというふうに認識したんです。ただ私勝手に診療日の関係、要は救急体制、結局は前診療所長が長年にわたって夜間も見てもらってる関係で、夜間の救急体制はそれで補っていただけてたんです。ところが退職に伴って夜間の救急体制、要は大成区で救急車を呼ぶと診療所に寄れないんです。全て１回北檜山の国保病院に入ると、これ確認の意味で言わせていただきます。主治医が江差にあろうが、八雲にあろうが一度国保病院に入るということがこれ長年にわたって問題視されてるんです。確かに熊石の国保病院との連携は旧町時代から続いているんで、そういったことがあるもんですから今後、情報共有ということで早い段階でしていただけるというふうに今、事務局長からお話ありましたけど、既にこういうことは、きちんと認識していただいて、即対応してください。というのは区民の要は少しかでも安心につながるような形でぜひ捉えておいてください。そこは返答いただくということなんで、３回なんで、合わせて患者バスデマンドバスどちらにしても常任委員会のときも確認しましたが、事業者のドライバーの確保はそれなりにできてるというふうに理解してよろしいのか、そこも含めてお答えいただきたい。

○議長（平澤　等君）　増田保健福祉課長。

○保健福祉課長（増田和彦君）　ただいまのご質問にお答えいたします。デマンドバス運行事業者、そして患者バス運行事業者、今年度まで東ハイヤーさんにお願いしてございます。東ハイヤーさんと事前に打合せをさせていただいた状況では、運転士の状況については、昨年よりも１名減で北檜山国保行きの患者バスが運行できるということで、運行に対して支障がないということで合意をいただいております。

以上です。

○議長（平澤　等君）　ほかに質疑ございませんか。

石原議員。

○９番（石原広務君）　さっきの西村事務局長に対しては、きちんとそういった状況があるので、

情報共有、これは返答いりません。そういったことで今後情報共有を図るということで、先ほど答弁いただきました。増田課長にお願いなんですけど、デマンドバス、患者バスを運行するにあたって、なかなか人が確保できない状況、運転者の中から要はこれ高齢者に相対するわけじゃないですか。乗り降りするときに、要は業務外、補助したり、迎えに行ったり、そういうことも積極的にやっていただいてるんです。ぜひそういったことも事業所と話しするときに、そういった苦労もよく理解していただいて、協議の中に何かしら町でできることがあれば提案を含め、それなりにしていただければと。これはお願いです。いかがでしょうか。

○議長（平澤　等君）　増田保健福祉課長。

○保健福祉課長（増田和彦君）　ただいまのご質問でございますが、十分に運行事業者また大成の営業所従業員、この方たちともお話合いを持ちながら進めさせていただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　ほかに質疑ございますか。

　桝田議員。

○２番（桝田道廣君）　先ほどの質問に被さってしまうんですけれども、今、令和４年度の決算表を見ていたんですけれども、すみませんデマンドバスの件です。先ほどの関連になります。令和４年度の決算からいうと２５％ほど減ってると思うんですけども、そういうことで理解してよかったわけですね。

○議長（平澤　等君）　阪井まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　今回の１，２００万につきましては、これは令和５年度の補正で減ってる部分になります。令和４年度のちょっと決算の資料を私今持ってきておりませんが、人口も減っておりますし、そういった部分で人数のほうは減っていると。先ほども申し上げましたように、１回の人数が減ると小型バスからハイヤーになってるという部分でも金額のほう大幅に減ってる部分ではあります。

　以上です。

○議長（平澤　等君）　ほかに質疑ございますか。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　質疑を終わります。

　続いて討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

　これより採決をいたします。

　お諮りいたします。

　本案について原案のとおり決することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

　よって、本案は原案のとおり可決されました。

　約１時間経ちましたので２時１５分まで休憩いたします。

休憩　午後　２時０７分
再開　午後　２時１５分

○議長（平澤　等君）　休憩を解き会議を再開いたします。

◎日程第１９　議案第１１号

○議長（平澤　等君）　日程第１９、議案第１１号令和５年度せたな町国民健康保険事業特別会計補正予算を議題といたします。

提案案理由の説明を求めます。

副町長。

○副町長（佐々木正則君）　今回提案をいたします補正予算につきましては、現在の歳入歳出予算の総額から７，２２１万３，０００円を減額し、補正後の予算総額を１１億５，４２２万３，０００円とするものでございます。

その主な内容でございますが、事務費及び保険給付費などの精査のほか、北海道からの特別交付金を財源とする病院事業会計への繰出金の追加などについて補正をお願いするものでございます。

内容につきましては担当課長から説明をいたします。

ご審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（平澤　等君）　続いて内容の説明を求めます。

高橋町民児童課長。

○町民児童課長（高橋　純君）　それでは議案書の７４ページをお開き願います。歳出から説明いたします。１款総務費、１項総務管理費、１目一般管理費で２２４万４，０００円の減額と２項徴税費、１目賦課徴収費で１３万７，０００円の減額、７５ページで３項１目共に運営協議会費で４万１，０００円の減額は事務費の精査によるものでございます。

次に２款１項共に保険給付費、１目療養諸費、２目高額療養費、５目葬祭諸費、合わせて９，０４３万円の減額は保険給付費などによる実績による精査でございます。

７６ページをお開き願います。５款保健事業費、１項１目共に特定健康診査等事業費で１１０万６，０００円の減額は特定健康診査の精査によるものでございます。２項保健事業費、１目保健衛生普及費で２３万円の減額と２目疾病予防費で５万９，０００円の減額は事業精査に伴い一般会計繰出金を減額したものでございます。

６款１項１目共に基金積立金では１万３，０００円を積立て、７７ページ８款諸支出金、２項他会計繰出金、１目繰出金で２，２０２万１，０００円の追加は、北海道からの特別交付金が確定したことに伴い病院会計へ繰り出すものでございます。

これに伴う歳入でございますが、７１ページをお開き願います。１款１項共に国民健康保険税、１目一般被保険者国民健康保険税で３，２１９万３，０００円の減額は調定見込みによるもので

ございます。
　３款道支出金、１項道補助金、１目保険給付費等交付金で６，５４１万１，０００円の減額は保険給付費の見込みによるものでございます。
　７２ページをお開き願います。５款繰入金、１項他会計繰入金、１目一般会計繰入金で４８４万５，０００円の減額は事業精査によるものでございます。２項１目共に基金繰入金で１，５２２万４，０００円を増額、６款１項共に繰越金、１目その他繰越金で１，４９３万円を追加、７３ページになります。８款国庫支出金、１項１目共に国庫補助金で１１万３，０００円を追加し、収支の均衡を図ったものでございます。
　以上で説明を終わります。
　よろしくお願いいたします。
○議長（平澤　等君）　説明が終わりました。質疑を許します。
（「なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　質疑を終わります。
　続いて討論を許します。
（「なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　討論を終わります。
　これより採決いたします。
　お諮りいたします。
　本案について原案のとおり決することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
　よって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第２０　議案第１２号
○議長（平澤　等君）　日程第２０、議案第１２号令和５年度せたな町後期高齢者医療特別会計補正予算を議題といたします。
　提案理由の説明を求めます。
　副町長。
○副町長（佐々木正則君）　今回提案をいたします補正予算につきましては、現在の歳入歳出予算の総額から３７万６，０００円を減額、補正後の予算総額を１億６，２０３万６，０００円とするものでございます。
　その内容でございますが、事務費や一般会計繰出金の精査などについて補正をお願いするものでございます。
　内容につきましては担当課長から説明をいたします。
　ご審議賜りますようお願い申し上げます。
○議長（平澤　等君）　続いて内容の説明を求めます。

高橋町民児童課長。

○町民児童課長（髙橋　純君）　それでは議案書の８３ページをお開き願います。歳出から説明いたします。１款総務費、１項総務管理費、１目一般管理費で１１万３，０００円の減額と２項１目共に徴収費で１１万６，０００円の減額は事務費の精査によるものでございます。

３款１項共に保健事業費、１目疾病予防費で１４万７，０００円の減額は健康診査の精査によるものでございます。

これに伴う歳入でございますが、８２ページになります。３款繰入金、１項１目共に一般会計繰入金で２２万９，０００円を減額、５款諸収入３項１目共に雑入で１４万７，０００円を減額し収支の均衡を図ったものでございます。

以上で説明を終わります。

よろしくお願いいたします。

○議長（平澤　等君）　説明が終わりました。質疑を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　質疑を終わります。

続いて討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りいたします。

本案について原案のとおり決することにご異議ございませんか。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第２１　議案第１３号

○議長（平澤　等君）　日程第２１、議案第１３号令和５年度せたな町介護保険事業特別会計補正予算を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

副町長。

○副町長（佐々木正則君）　今回提案をいたします補正予算につきましては、現在の歳入歳出予算の総額から１億４，２６７万１，０００円を減額し、補正後の予算総額を１０億６，７０９万３，０００円とするものでございます。

その主な内容でございますが、事務費の精査のほか、保険給付費の各種介護サービス給付費負担金の減額などについて補正をお願いするものでございます。

内容につきましては担当課長から説明をいたします。

ご審議賜りますようお願いを申し上げます。

○議長（平澤　等君）　続いて内容の説明を求めます。

増田保健福祉課長。

○保健福祉課長（増田和彦君）　それでは議案書の９２ページをお開き願います。歳出からご説明いたします。今回の補正につきましては年度末の事業精査が主なものとなってございます。はじめに１款総務費、１項総務管理費、１目一般管理費１６１万７，０００円の減、９３ページになります。２項徴収費、１目賦課徴収費３２万１，０００円の減、３項介護認定審査会費、２目認定調査費９２万９，０００円の減については実績見込みによる精査でございます。

次に２款保険給付費、１項介護サービス等諸費、１目介護サービス給付費１億２，７９９万７，０００円の減、９４ページになります。２項介護予防サービス等諸費、１目介護予防サービス給付費６０万６，０００円の追加、３項その他諸費１目審査支払手数料４万６，０００円の減、４項高額介護サービス等費、１目高額介護サービス費３３万２，０００円の追加、９５ページになります。５項高額医療合算介護サービス等費、１目高額医療合算介護サービス費７０万円の減、６項特定入所者介護サービス等費、１目特定入所者介護サービス費１，６４２万８，０００円の減につきましては負担金などの実績見込みによる精査でございます。

次に３款地域支援事業費、１項１目共に介護予防・生活支援サービス事業費３１２万２，０００円の追加、２目介護予防ケアマネジメント費１５万８，０００円の減、９６ページになります。２項一般介護予防事業費から次のページの９７ページの４項その他諸費、１目審査支払手数料までにつきましては人件費及び実績見込みによる精査でございます。

次に４款１項１目共に基金積立金では、主に前年度繰越金として４３７万７，０００円の追加であります。

これに伴う歳入でございますが８９ページをご覧願います。主なものといたしまして、１款保険料から次の９０ページの５款道支出金までにつきましては、保険給付費及び地域支援事業費の事業精査に伴う増減でございます。

次に６款財産収入、１項財産運用収入、１目利子及び配当金で４，０００円の減です。

次に９１ページになります。７款繰入金、１項一般会計繰入金、１目介護給付費繰入金で１，６０１万２，０００円の減、２目地域支援事業繰入金で３０４万円の減、３目その他一般会計繰入金で２８６万２，０００円の減、４目低所得者保険料軽減繰入金で８９万９，０００円の減、２項基金繰入金、１目介護保険事業基金繰入金で４６７万３，０００円の減、８款１項１目共に繰越金で前年度繰越金として４３８万１，０００円を追加いたしまして、収支の均衡を図ったものでございます。

以上で説明を終わります。

よろしくご審議を賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（平澤　等君）　説明が終わりました。質疑を許します。

菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　９３ページ、３款１項１目介護サービス給付費が鱗で１億２，７９９万７，０００円ですか。この内訳を見ますと、地域密着型介護サービス給付費負担金で４，５５

９万７，０００円、施設介護サービス給付費負担金で５，８３９万９，０００円というふうになっております。相当大きい金額で減ということになっておりますが、何か特段の事情があったんでしょうか。

○議長（平澤　等君）　水野課長補佐。

○保健福祉課長補佐（水野万寿夫君）　ただいまの質問にお答えします。地域密着型介護サービス費の４，５００万円の減額につきましては、当初予定していた、時間もらっていいですか。すみません。

○議長（平澤　等君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後　２時２９分
再開　午後　２時３１分

○議長（平澤　等君）　休憩を解き会議を再開いたします。

水野課長補佐。

○保健福祉課長補佐（水野万寿夫君）　大変失礼しました。まず地域密着型介護サービス給付費の４，５００万円の減でありますが、主に地域密着型の特老施設のほうの入所者を当初は定員満員の人数で見込んでいたんですが、トータル的に満度の入所が見込めなかったことからこの金額の減額となっております。次に施設介護サービス給付費の５，８００万円につきましても施設の特老の入所者が当初の見込みで満床で見込んでおりましたが、こちらにつきましても満床が見込めなかったことからトータルでこの金額の減額となっております。

説明は以上です。

○議長（平澤　等君）　菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　見込み違いというのは年度末において発生するのは、それはやむを得ないと思います。ただ相当金額が大きいわけでして、どの程度の見込みの人数での違いが出てきたのか、資料があれば伺っておきたいと思います。個別の名称は結構でありますが、施設別のＡＢＣというふうな報告の仕方でも構いませんが報告を求めたいと思います。

○議長（平澤　等君）　水野課長補佐。

○保健福祉課長補佐（水野万寿夫君）　ただいまの質問にお答えします。まず地域密着型の施設につきましては定員は２９名となっております。定員２９名になっておりまして、その人数で当初の予算を計上しておりました。次に施設サービス給付費のほうですが２施設ありまして、いずれも５０定員となっており、合わせて１００名の定員となっております。そこにつきましても、当初の見込みでは満床の分として当初予算で計上しておりました。実績としては先ほどの地域密着型につきましては２４名程度の入所者の実績です。次に施設の特老の１施設のほうは月平均４３名ほどです。次にもう一つの施設のほうにつきましては４７人ぐらいの実績となっております。

以上です。

○議長（平澤　等君）　菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　この定数を聞けば施設名を聞かなくても大体わかりますけども、それで人数でいうと３施設で１５くらい満遍なく不足していたっていいますか、予定よりは少なかったということになるんですが、これは需要がそれだけ全町的に見て少ないんだということなんでしょうか。その辺の把握は担当課としてできていますか。
○議長（平澤　等君）　増田保健福祉課長。
○保健福祉課長（増田和彦君）　ただいまの質問にお答えいたします。今言った３つの施設なんですが希望すればどなたでも入れるという施設ではございませので、介護度等の入所基準がございます。これにつきまして該当する基準の方から申入れが少なかったというところもございます。あと伺っているところでは、無理に入所を進めておらず、その分、従業員を減らすことで費用を確保しているというお話も伺ってございます。
　以上です。
○議長（平澤　等君）　ほかに。
　石原議員。
○９番（石原広務君）　関連になるんですが、以前に議会の中で地域密着型介護サービス事業所と先ほどの説明の中であった特老、国から入る報酬わかれば単価を教えてくださいっていうことだったんですが、そのときは手元に資料ないということでお答えいただけなかったんですが、今押さえているのあればお示しいただきたいんですけど、お持ちでなければ後ほどで結構です。
○議長（平澤　等君）　水野課長補佐。
○保健福祉課長補佐（水野万寿夫君）　ただいまちょっと資料を持ち合わせていませんので、後ほどの提出でよろしいでしょうか。よろしくお願いします。
○議長（平澤　等君）　石原議員。
○９番（石原広務君）　先ほど、特老も含めてこの３施設、入所に関しては介護度なりの規定があるというふうな説明があったんですが、また別の機会にしますか。というのは平均人数に行ってない理由が、要は町長は本人、家族の希望、本人の希望だということだったんですけど、移動してる実態もあるわけじゃないですか。結局こういうふうになると、どうなのかなという疑問の疑念もまた浮かんでくるんですけど、ただ希望がないだけではなくて、何かしらの問題もあるのかなというふうに捉えてるんですけど、やはり今の段階では先ほど課長が答弁したような状況だというふうに押さえているということで確認させていただいてよろしいですか。
○議長（平澤　等君）　増田保健福祉課長。
○保健福祉課長（増田和彦君）　そのように理解していただいて結構でございます。
○議長（平澤　等君）　ほかに。
（「なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　質疑を終わります。
　討論を許します。
（「なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りします。

本案について原案のとおり決することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第１２　議案第１４号

○議長（平澤　等君）　日程第１２、議案第１４号令和５年度せたな町介護サービス事業特別会計補正予算を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

副町長。

○副町長（佐々木正則君）　今回提案をいたします補正予算につきましては、現在の歳入歳出予算の総額から４４万９，０００円を減額し、補正後の予算総額を６，９０６万１，０００円とするものでございます。

その主な内容でございますが､事務費などの精査について補正をお願いするものでございます。

内容につきましては担当課長から説明をいたします。

ご審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（平澤　等君）　続いて内容の説明を求めます。

増田保健福祉課長。

○保健福祉課長（増田和彦君）　それでは議案書の１０３ページをお開き願います。歳出からご説明いたします。今回の補正につきましては年度末の事業精査が主なものとなってございます。

まず１款サービス事業費、１項通所介護サービス事業費、１目デイサービスセンター事業費１万５，０００円の追加につきましては実績見込みによる精査でございます。次に３項１目共に介護予防支援事業費３７万円の減につきましては介護予防プラン作成業務の精査によるものです。４項１目共に居宅介護支援事業費９万４，０００円の減につきましては実績見込みによる精査によるものです。

これに伴う歳入でございます。１０２ページをご覧願います。１款サービス収入、１項介護給付費収入、１目通所介護サービス事業収入で１９４万円の減、３目居宅介護サービス計画費収入で５７９万円の減、２項１目共に自己負担金収入では２１万５，０００円の減、３項１目共に居宅介護支援事業所収入では１０２万４，０００円の減、２款繰入金、１項１目共に一般会計繰入金で８５２万円を追加いたしまして収支の均衡を図ったものであります。

以上で説明を終わります。

よろしくご審議を賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（平澤　等君）　説明が終わりました。質疑を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　質疑を終わります。
　討論を許します。
（「なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　討論を終わります。
　これより採決いたします。
　お諮りします。
　本案について原案のとおり決することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
　よって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第２３　議案第１５号
○議長（平澤　等君）　日程第２３、議案第１５号令和５年度せたな町簡易水道事業特別会計補正予算を議題といたします。
　提案理由の説明を求めます。
　副町長。
○副町長（佐々木正則君）　今回提案をいたします補正予算につきましては、現在の歳入歳出予算の総額に８，２２７万５，０００円を追加し、補正後の予算総額を４億２，０３０万５，０００円とするものでございます。
　その主な内容でございますが、事務費や施設の維持管理経費の精査のほか、一般会計繰出金の追加などについて補正をお願いするものでございます。なお予算に合わせまして、地方債の変更１件をお願いしてございます。
　内容につきましては担当課長から説明をいたします。
　ご審議賜りますようお願い申し上げます。
○議長（平澤　等君）　続いて内容の説明を求めます。
　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　それでは内容についてご説明させていただきます。まず議案書１０７ページになります。第２表地方債補正、変更１件でございます。起債の目的、公営企業会計適用事業につき事業につきましては、事業費の精査により限度額を４４０万円から４２０万に減額するものでございます。なお起債の方法、利率、償還の方法については変更ございません。
　続きまして１１１ページをお開き願います。歳出からご説明いたします。１款事業費用、１項営業費用、１目総務費、補正額５５０万２，０００円の減額は、人件費や委託料の精査と消費税及び地方消費税につきましては支出見込みによる減額でございます。２目維持管理費、補正額７８６万７，０００円の減額は光熱水費などの精査及び委託業務完了に伴うものでございます。
　次に１１２ページ、２項営業外費用、３目他会計繰出金９，６９１万２，０００円の追加は、令和６年度からの公営企業会計移行に伴う基金整理による一般会計への繰り出しでございます。

２款資本的支出、１項建設改良費、１目施設改良費１１０万６，０００円の減額は事業完了に伴う精算によるものでございます。

これに伴う歳入でございますが１０９ページをご覧願います。主なものといたしまして１款事業収入、１項営業収入、１目水道使用料、補正額３００万円の減額は調定見込みによるものでございます。次の２項営業外収入、２目他会計繰入金、補正額１，１０２万７，０００円の減額は各事業完了に伴う精算によるもの、４目その他営業外収入９，６８４万３，０００円の追加は基金廃止による繰入れでございます。

次の２款資本的収入、１項１目共に他会計出資金の減額から１１０ページ４項１目共に町債の減額までにつきましては事業精査による増減でございます。

以上により収支の均衡を図ったものでございます。

ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（平澤　等君）　説明が終わりました。質疑を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　質疑を終わります。

討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りします。

本案について原案のとおり決することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第２４　議案第１６号

○議長（平澤　等君）　日程第２４、議案第１６号令和５年度せたな町営農用水道等事業特別会計補正予算を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

副町長。

○副町長（佐々木正則君）　今回提案をいたします補正予算につきましては、現在の歳入歳出予算の総額に２，９９２万２，０００円を追加し、補正後の予算総額を４，６２３万３，０００円とするものでございます。

その主な内容でございますが、施設の維持管理経費の精査や一般会計繰出金の追加などについて補正をお願いするものでございます。

内容につきましては担当課長から説明をいたします。

ご審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（平澤　等君）　続いて内容の説明を求めます。
　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　それでは内容についてご説明させていただきます。議案書の１１９ページをお開き願います。歳出からご説明いたします。１款事業費用、１項営業費用、２目維持管理費、補正額１７万円の減額は実績に基づく精査でございます。２項営業外費用、１目基金積立金１万７，０００円の減額及び２目他会計繰出金３，０１０万９，０００円の追加は、令和６年度からの公営企業会計移行に伴う基金整理によるものでございます。
　これに伴う歳入でございますが１１８ページをご覧願います。主なものといたしまして１款事業収入、２項営業外収入、２目他会計負担金、補正額６３万１，０００円の減額は事業精査によるもの、３目その他営業外収入３，００８万８，０００円の追加は基金廃止に伴う繰入れでございます。
　２款資本的収入、１項１目共に繰越金に４６万１，０００円を追加いたしまして、収支の均衡を図ったものでございます。
　ご審議のほどよろしくお願いいたします。
○議長（平澤　等君）　説明が終わりました。質疑を許します。
（「なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　質疑を終わります。
　討論を許します。
（「なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　討論を終わります。
　これより採決いたします。
　お諮りします。
　本案について原案のとおり決することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
　よって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第２５　議案第１７号
○議長（平澤　等君）　日程第２５、議案第１７号令和５年度せたな町公共下水道事業特別会計補正予算を議題といたします。
　提案理由の説明を求めます。
　副町長。
○副町長（佐々木正則君）　今回提案いたします補正予算につきましては、現在の歳入歳出予算の総額から１，８７２万７，０００円を減額し、補正後の予算総額を４億１，６９６万円とするものでございます。
　その主な内容でございますが、事務費や施設の維持管理経費の精査などについて補正をお願い

するものでございます。なお予算に合わせまして、繰越明許費の設定１件、債務負担行為の変更１件、地方債の変更３件をお願いしてございます。

内容につきましては担当課長から説明をいたします。

ご審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（平澤　等君）　続いて内容の説明を求めます。

平田建設水道課長。

○建設水道課長（平田大輔君）　それでは内容についてご説明いたします。議案書１２３ページからとなります。第２表繰越明許費補正の設定１件でございます。年度内に事業完了が見込めないことから翌年度に繰越しをお願いするものでございます。大成浄化センター改築更新工事委託業務につきましては、浄化センターの老朽化した電気設備の更新を実施するもので繰越額は１，６８０万円でございます。

次に１２４ページ、第３表債務負担行為補正では大成浄化センター改築更新工事委託業務の限度額の変更を行うもので、変更前１億４，５２０万円から変更後８，４００万円に変更するものでございます。

次に１２５ページ、第４表地方債の補正、変更３件でございます。起債の目的、下水道事業及び公営企業会計適用事業につきましては事業費の精査による限度額の変更でございます。なお起債の方法、利率、償還の方法については変更ございません。

続きまして１２９ページ歳出について説明いたします。１款事業費用、１項営業費用、１目総務費２６８万３，０００円の減額及び２目管渠費１７７万３，０００円の減額は、事業実績に伴う精算によるものでございます。次に３目処理場費１，１７０万５，０００円の減額は、主に光熱水費、各委託業務及び工事請負費などの精査でございますが、１２節委託料においてミックス施設のし尿受入れ槽内の砂が堆積したことから槽内の清掃実施するため、し尿受入槽清掃業務といたしまして６８万２，０００円の追加をお願いするものでございます。

次に１３０ページ、２款資本的支出、１項建設改良費、１目下水道整備費２５６万６，０００円の減額は人件費や事業完了に伴う精算によるものでございます。次に１３１ページ、２項１目共に起債償還費では財源振替をお願いするものでございます。

これに対する歳入でございますが１２７ページをご覧願います。主なものといたしまして、１款事業収入、１項営業収入、１目下水道使用料５２万円の減額は調定見込みによるものでございます。２目その他営業収入５３万８，０００円の減額から１２８ページ５項分担金及び負担金６０万５，０００円の追加までにつきましては、それぞれ事業完了に伴う精査によるものでございます。

以上により収支の均衡を図ったものであります。

ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（平澤　等君）　説明が終わりました。質疑を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　質疑を終わります。

討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りします。

本案について原案のとおり決することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第２６　議案第１８号

○議長（平澤　等君）　日程第２６、議案第１８号令和５年度せたな町漁業集落排水事業特別会計補正予算を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

副町長。

○副町長（佐々木正則君）　今回提案いたします補正予算につきましては、現在の歳入歳出予算の総額から４５万円を減額し、補正後の予算総額を５，１５９万８，０００円とするものでございます。

その主な内容でございますが、一般会計繰出金の追加や工事請負費の入札執行残の精査などについて補正をお願いするものでございます。なお予算に合わせまして地方債の変更１件をお願いしてございます。

内容につきましては担当課長から説明をいたします。

ご審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（平澤　等君）　続いて内容の説明を求めます。

平田建設水道課長。

○建設水道課長（平田大輔君）　それでは内容についてご説明いたします。議案書１３５ページからとなります。第２表地方債補正変更１件でございます。起債の目的、下水道事業（漁集）につきましては、事業費の精査により限度額を２，０２０万円から１，９８０万円に減額するものでございます。なお起債の方法、利率、償還の方法については変更ございません。

続きまして１３９ページ歳出から説明いたします。１款事業費用、１項営業費用、２目管渠費、補正額３０万円の減額は清掃車両等借上料の精査によるものでございます。次に３目処理場費では財源振替をお願いするものでございます。続きまして２項営業外費用、３目他会計繰出金８５万円の追加は令和６年度からの公営企業会計移行に伴う基金整理によるものでございます。

２款資本的支出、１項１目共に建設改良費１００万円の減額は工事完成に伴う精査でございます。

次にページ戻りまして１３７ページ歳入の主なものといたしましては、１款事業収入、１項営

業収入、１目排水施設使用料９万９，０００円の減額は調定見込みによるもの、次の２項営業外収入、３目その他営業外収入８５万円の追加は基金廃止によるものでございます。

次の２款資本的収入、１項１目町債から１３８ページ４項１目共に繰越金までは建設改良費などの事業精査によるものでございます。

以上により収支の均衡を図ったものでございます。

ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（平澤　等君）　説明が終わりました。質疑を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　質疑を終わります。

討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りします。

本案について原案のとおり決することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第２７　議案第１９号

○議長（平澤　等君）　日程第２７、議案第１９号令和６年度せたな町風力発電事業特別会計補正予算を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

副町長。

○副町長（佐々木正則君）　今回提案をいたします補正予算につきましては、現在の歳入歳出予算の総額から３９２万３，０００円を減額し、補正後の予算総額を３，１５７万７，０００円とするものでございます。

その主な内容でございますが、事業費の精査について補正をお願いするものでございます。

内容につきましては担当課長から説明をいたします。

ご審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（平澤　等君）　続いて内容の説明を求めます。

阪井まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　それではご説明を申し上げます。今回の補正につきましては、風力発電事業の事業費精査により所要の補正をお願いするものでございます。議案につきましては１４６ページの歳出になります。１款電気事業費、１項電気事業管理費、１目一般管理費で３９２万３，０００円の減額でございます。内容といたしましては、事業費の精査によるも

のでございます。
　これに対します歳入でございますが１４４ページでございます。１款財産収入、１項財産運用収入、１目利子及び配当金で風力発電事業基金運用収入３，０００円の追加、２款１項１目繰越金、前年度繰越金で５６８万８，０００円の追加、３款諸収入、１項収益事業収入、１目売電収入で２，５０１万３，０００円の減額、これにつきましては２号機の故障、また１号機につきましても故障がちで思うような売電ができなかったということでございます。２項１目雑入で２１万９，０００円の追加、１４５ページで４款繰入金、１項基金繰入金、１目風力発電事業基金繰入金で１，５１８万円を追加し収支の均衡を図ったものでございます。
　以上で説明を終わります。
　よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。
○議長（平澤　等君）　説明が終わりました。質疑を許します。
　菅原議員。
○１１番（菅原義幸君）　補正予算書見ますと、やはりなかなか大変な局面を迎えているなというふうに率直に言って危惧いたします。今回の補正を一言で言えば２，５００万の売払収入が減額になったと。いわゆる発電できなくなったということです。そのために繰越金を５６０万つぎ込んで、なおかつ基金から１，５１８万円つぎ込んだと。それで収支を何とか合わせたということです。全体としては４００万の歳入歳出減額になっております。町長一つお尋ねしておきたいと思うんですが、その前に課長、この取崩しをした段階で基金残高どれくらいになってますか、まずそれを伺っておきます。
○議長（平澤　等君）　阪井課長。
○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　まず基金の状況でございますが、令和４年度末で約９，４００万円の基金の残高でございました。今回基金からの繰入れ１，５１８万円を繰入れした場合、約７，９００万円の基金残高となる見込みでございます。
○議長（平澤　等君）　菅原議員。
○１１番（菅原義幸君）　それで町長のほうに伺いますが、約８，０００万の基金残高です。この取崩しをした段階でです。実は町長ご承知のように、風車の耐用年数は経過したわけです。あれは平成１６年に建てていますので、当時１７年が耐用年数というふうに聞いておりましたが、いずれにしましても耐用年数が過ぎたと。そこで残ってくる問題は今後どう維持するのか、撤去するのかという、私は２択かなというふうに思うんですが、これまでの総務厚生常任委員会に提出されました町側の資料では、両風車を撤去するとなればアバウト３億円ということでしたが、間違いございませんか。課長間違いございませんか。質問３回しかできないもんですから、首を縦に振ってくれればいいですから。どれくらいなんですか。アバウト３億ではないんですか。どれくらいなんですか。１問かせがなきゃならないので。浚渫の問題はまた別なんですけれども３億円と。実は建設した当初のやりとりなんですが、撤去１億円と言われたんです。私はそれで済むかなと思ってましたが、事実今の金額を聞くと撤去費用だけで３倍超でしょう。当然、大型の船台を導入するとなれば、砂溜まってくるとなると今の港の高さではダメだと。これは浚渫問題

当然発生してきます。少し話が長くなりますが、当初、毎年１，０００万円の町の一般会計の繰入れができるから財政的にも大変有利だと。そのことを一つの目的にして建設するんだというのが当時の町長の発想でありました。しかし同時に日本初の風力発電だということで、大変インパクトがあり大きな役割は果たしたというふうに思います。ただ毎年１，０００万の一般会計の繰越しというのは実現しなかったわけです。基金も今、返済が終わったあとの積立てが８，０００万ほど残るということになると思うんですが、積立基金の残高では到底撤去費用が出てこないということなんですが、仮に撤去するということになりますと撤去費用に対する公的な支援金、補助金というのがあるのかどうかこれを伺っておきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　阪井課長。

○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　ただいまのご質問ですが、いろいろと補助金等を確認させていただいたんですが、撤去のみの補助金というのはないということで、使えるとしたら撤去にかかる起債、これは交付税バックなしの起債はありますということで財政からはアドバイスを受けているところでございます。

○議長（平澤　等君）　菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　あと１問しかありませんから、これで最後ですが。町長よくそこのところを考えていただく必要があるかなと思ってるんです。これから先ずっと長く運用できればいいんですが、いずれにしても耐用年数過ぎて最近の状況を見てますと、かなり無理なのかなというふうに思います。その活用について方法が現状の姿の中での活用という方法があるのかどうか。これは風車として動かすという方法もあるでしょうし、倒れないような何らかの措置を取って一つのモニュメントとして置いておくというような方法もあるんでしょうが、それはかなり専門的な検討が必要だろうと思うんです。どうしてもダメだという場合には、最終的には撤去しなくちゃいけないと思うんですが、その判断の目処というものを町長自身どの程度に置いているのか。どこに最終判断をしようと思っているのか、その見通しの目処を伺っておきたいと思います。

以上です。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　お答えをいたします。これは旧町において当時は議員も旧瀬棚町の議員でございました。そうした中で建設によって風力発電事業を推進していこうということであったというふうに思っておりますが、当初からこれは計画として厳しいなという認識を私としては持っておりました。当時の売電価格というのは、かなり低い価格でございまして、これを何とかもう少しいい形の売電価格へということで新町になりましてから売電価格の見直しをさせていただいて運転を継続してきたところでございますが、こうした状況の中でなかなか収支が伴わなくなってきているという状況がございます。さらにこの耐用年数という問題もございます。そうしたことで議員おっしゃるような、これからどうするのかという問題に今ぶつかっているという状況です。先ほど担当からも答弁いたしましたが、解体に３億５，０００万円、それから浚渫に３億５，０００万円、７億かかるということでございます。これを撤去するにも相当大きな予算が伴うということになりますし、他の活用方法ということもございましたが、これはやはり専門的な

見地からしっかり検討していかなければならないというふうに思っております。いずれにしてもそうした部分をしっかり精査をした上で、今後の取り扱いについて検討をしなければならないというふうに考えているところでございますので、そうした部分について今後取り組んでまいりたいというふうに考えているところでございます。

○１１番（菅原義幸君）　それは私がさっき言ったんですよ。私がしゃべったことおうむ返しにしただけです。

○議長（平澤　等君）　町長どういう考えでいるかっていうふうなことなので、

菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　いずれにしても最終的な処置をどうするのかということを、いつまでに決めるのかというタイミングの目処を町長ご自身がいつに置いておられますかということを聞いてるんです。タイミングの問題、いつなんだというアバウトの見通しを伺いたいというそういう質疑です。

○議長（平澤　等君）　わかりました。

町長。

○町長（高橋貞光君）　はっきり申し上げまして目処は今のところを立っていないというお答えしかできません。先ほど答弁差し上げましたように、そういった課題を整理をして、その後に撤去なるのか、もしくは別な利用をということになるのか、いずれにしてもそういう判断を下したいというふうに考えております。

○議長（平澤　等君）　ほかに質疑ございますか。

石原議員。

○９番（石原広務君）　今のやりとり聞いて、町長、これ数年前からこれ常任委員会にもかかってます。担当の苦労も報告があり、その時点で政治的決断必要ですよと私常任委員会で町長にやんわり指摘したと、やんわりにはなってないですね。これ今のやりとり聞いてると全く判断できてないんですよ町長。今その検討云々とおっしゃって、またどのくらい期間かかるかっていうのが、これまた時間かかるなっていうふうに私は捉えてしまいます。政治的判断をして旧町時代の象徴なんですから、モニュメントも含めて前向きなご検討をしていただきたいというふうに訴えたのも常任委員会中です。これ担当だけ苦労します。夜中に少し風が吹いばお酒も我慢して現地に出向いて、そうやって職員が維持してきたんです。いろいろな問題があって、町長これいち早く政治判断するべきです。時期も含めて今返答は求めませんが、そういったことを認識し直していただきたいと思いますけど、いかがですか町長。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　政治的判断という話でございますが、そして判断をするための材料というのは当然必要であります。これは説明責任が伴いますのでそういった判断をする材料をしっかりと提示できるようなことにしていかなければならない。いずれにしましてもこのできるだけ安価な方法、財政に余り大きな負担をできるだけかけないような状況の中で、しっかり対応していかなければならないというふうに考えているところでございます。

○議長（平澤　等君）　石原議員。
○９番（石原広務君）　黙ってようかなと思ったんですけど、最後に安価なっていうふうな表現をされました。それはもう何年、２年くらい経つんですか。１番安い方法で常任委員会で町長おっしゃったんです。それからどのぐらい時間経過してますか。安く見積もっても今担当のほうではおそらく、いや課長の本音はわかりませんが、安く見積もっても先ほどの解体に３億５，０００万、浚渫に３億５，０００万、合計７億これ以下ではできないというふうに判断してるのかなと、これは勝手な解釈です。これ町長のトップとしての判断、これ早い段階でするべきです。これお伝えしときます。
○議長（平澤　等君）　ほかに質疑ございますか。
（「なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　質疑を終わります。
続いて討論を許します。
（「なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　討論を終わります。
これより採決いたします。
お諮りします。
本案について原案のとおり決することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
よって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第２８　議案第２０号
○議長（平澤　等君）　日程第２８、議案第２０号令和５年度せたな町病院事業会計補正予算を議題といたします。
提案理由の説明を求めます。
副町長。
○副町長（佐々木正則君）　今回提案いたします補正予算の主なものでございますが、収益的収支の支出では、給与費及び材料費の追加などについて、収入では、国民健康保険事業特別会計からの補助金及び一般会計からの不採算分などについて補正をお願いするものでございます。また資本的収支の収入では、一般会計出資金の精査などについて、支出では、医療機器購入費の精査などについて補正をお願いするものでございます。
内容につきましては病院事務局長から説明をいたします。
ご審議賜りますようお願い申し上げます。
○議長（平澤　等君）　続いて内容の説明を求めます。
西村国保病院事務局長。
○国保病院事務局長（西村晋悟君）　それでは議案第２０号の説明を簡潔にさせていただきたいと

思います。はじめに１５８ページをお開き願います。せたな町立国保病院分の収益的収入及び支出の支出からご説明いたします。１款せたな町立国保病院費用、１項医業費用、１目給与費１３７万５，０００円の追加の主なものは、４節報酬で、臨時医師の報酬に不足が生じたため１４０万円の追加をお願いするものでございます。２目材料費６５１万円の減額の主なものは、１節薬品費の精査による５８４万円の減額でございます。３目経費２４３万円の減額の主なものは、７節燃料費の精査による１２５万３，０００円の減額、１２節賃借料で、在宅酸素の機材などの借上料１３４万７，０００円の追加、１３節委託料ではいずれも精査によるものですが、病院給食業務で１７８万８，０００円の減額、内科診療業務で２３１万９，０００円の減額、産業廃棄物処理業務では、新型コロナ関連の廃棄物が見込みより多かったことから１９０万８，０００円の追加をお願いするものでございます。

次のページをご覧願います。１４節通信運搬費では１８８万円の減額、１５節手数料では７７万８，０００円の減額、これはいずれも精査によるものでございます。１８節雑費では、出張医の先生がお越しいただく際にかかる経費といたしまして、出張医師対策費２１１万２，０００円の追加をお願いするものでございます。

これらに対します収入は１５５ページをお開き願います。１款せたな町立国保病院収益、１項医業収益６，１１０万２，０００円の減額は、１目入院収益で２，５６６万円の減額、２目では外来収益で４，０３０万１，０００円の減額でございます。いずれも実績による精査でございます。次に３目その他医業収益では、４節国保事業補助金で国民健康保険直営診療施設運営費補助金２０１万９，０００円の追加をお願いするものでございます。

次のページをご覧願います。４目、１節共に訪問看護事業収益では、実績による精査で２８５万８，０００円の追加でございます。２項医業外収益、３目負担金交付金、１節他会計負担金では、不採算地区病院運営費負担金として５，２６７万６，０００円を追加するものでございます。７目道補助金では、２節物価高騰対策支援金７７万円を追加するものでございます。

以上のとおり、収益的収入及び支出の均衡を図ったものでございます。

次に１６２ページ、１６３ページをお開き願います。資本的収入及び支出でございます。収入支出いずれも精査による減額となってございます。

続きまして１６６ページをお開き願います。瀬棚診療所分の収益的収入及び支出の支出でございます。２款せたな町立国保病院瀬棚診療所費用、１項医業費用及び１６７ページの３項特別損失につきましては、それぞれ実績による精査でございます。

これらに対します収入は１６４ページでございます。２款せたな町立国保病院瀬棚診療所収益、１項医業収益、１目１節共に外来収益では、医科及び歯科の精査により２，５０８万８，０００円の減額、２目その他医業収益１，２３３万２，０００円の追加の主なものは、３節国保事業補助金の国民健康保険へき地直営診療所運営費補助金１，１００万３，０００円の追加でございます。２項医業外収益１，１７７万５，０００円の追加の主なものは、２目負担金交付金、１節他会計負担金で不採算地区診療所運営費負担金１，１８５万３，０００円を追加するものでございます。次に５目道補助金では、１節物価高騰対策支援金として２０万円を追加するものでございます。

以上のとおり、収益的収入及び支出の均衡を図ったものでございます。

次に１６８ページをお開き願います。１６８ページと１６９ページでございますが、資本的収入及び支出でございます。収入、支出いずれもエアコン設置工事の精査による減額でございます。

続きまして１７２ページをお開き願います。大成診療所分の収益的収入及び支出の支出でございます。３款せたな町立国保病院大成診療所費用、１項医業費用及び１７３ページの３項特別損失につきましては、それぞれ実績による精査でございます。

これらに対する収入は１７０ページをお開き願います。３款せたな町立国保病院大成診療所収益、１項医業収益、１目１節共に外来収益では精査により２，５７１万５，０００円を減額、２目その他医業収益９８３万５，０００円の追加の主なものは、３節国保事業補助金の国民健康保険へき地直営診療所運営費補助金８５８万５，０００円の追加でございます。２項医業外収益、２目負担金交付金、１節他会計負担金で不採算地区診療所運営費負担金１，２９５万６，０００円を追加するものでございます。４目道補助金では、１節新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金で、新型コロナワクチン接種体制支援事業補助金２０万円を追加、２節物価高騰対策支援金では１０万円の追加をするものでございます。

以上のとおり、収益的収入及び支出の均衡を図ったものでございます。

続きまして１７４ページの資本的収入及び支出の収入でございますが、１項１目１節共に他会計出資金で、事業費の精査による４９万５，０００円の減額でございます。２項１目共に他会計補助金、１節国保事業補助金では、国民健康保険直営診療施設整備補助金４１万４，０００円を追加するものでございます。なお今回の補正では、資本的支出の変更はございません。

以上で議案第２０号の説明を終わります。

よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（平澤　等君）　説明が終わりました。質疑を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　質疑を終わります。

続いて討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りいたします。

本案について原案のとおり決することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

これより３時４０分まで休憩いたします。

休憩　午後　３時２６分

再開　午後　３時４０分

○議長（平澤　等君）　休憩を解き会議を再開いたします。

◎日程第２９　議案第２１号

○議長（平澤　等君）　日程第２９、議案第２１号せたな町個行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

副町長。

○副町長（佐々木正則君）　議案その２の１ページでございます。議案第２１号せたな町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例についての提案理由を申し上げます。

行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部を改正する法律の公布に伴い、関連する規定の整備を図るため本条例の一部を改正しようとするものであります。

内容につきましては担当課長から説明をいたします。

ご審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（平澤　等君）　続いて内容の説明を求めます。

原総務課長。

○総務課長（原　　進君）　本条例につきましては、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づき個人番号の利用範囲及び特定個人情報の提供について町の執行機関が行う事務に関わり、マイナンバーを含む個人情報の利用とマイナンバーを含む個人情報の提供を受けております。今回の当該法律の改正により本条例による個人番号の利用範囲及び特定個人情報の提供の根拠として引用している別表第２が削除されたことに伴い、当該法律の改正後の表記に準じて本条例の文言について、特定個人番号利用事務及び利用特定個人情報等に改正するものでございます。

３ページの新旧対照表で説明させていただきます。表の右側、改正前、表の左側、改正後でございます。改正後でございます。第２条に第５号として特定個人番号利用事務、法第１９条第８号に規定する特定個人番号利用事務いう。第６号として利用特定個人情報、法第１９条第８号に規定する利用特定個人情報をいうという文言を追加するものでございます。次に改正前でございます。第４条第１項中、法別表第２の第４欄に掲げる特定個人情報を、改正後では、利用特定個人情報に改め、改正前、同表の第２欄に掲げる事務を、改正後では、特定個人番号利用事務に改めるものでございます。次に改正前でございます。第３項中、法別表第２の第２欄に掲げる事務を、改正後では、特定個人番号利用事務に改め、改正前、同表の第４欄に掲げる特定個人情報を、改正後では、利用特定個人情報に改め、改正前、当該特定個人情報を、改正後では、当該利用特定個人情報に改めるものでございます。なお附則といたしまして、この条例は、行政手続におけ

る特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部を改正する法律の施行の日から施行するものでございます。

以上で説明を終わります。

ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（平澤　等君）　説明が終わりました。質疑を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　これで質疑を終わります。

続いて討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りします。

本案について原案のとおり決することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第３０　議案第２２号

○議長（平澤　等君）　日程第３０、議案第２２号せたな町せたな町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

副町長。

○副町長（佐々木正則君）　同じく議案その２の５ページでございます。議案第２２号せたな町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例についての提案理由を申し上げます。

地方自治法の一部を改正する法律により、会計年度任用職員に対する勤勉手当の支給が可能となったことに伴い、育児休業を取得している会計年度任用職員に勤勉手当を支給するため本条例の一部を改正しようとするものであります。

内容につきましては担当課長から説明をいたします。

ご審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（平澤　等君）　続いて内容の説明を求めます。

原総務課長。

○総務課長（原　　進君）　議案第２２号せたな町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例についてでございます。

７ページでございます。新旧対照表で説明させていただきます。表の右側、改正前、左側、改正後でございます。改正前でございます。第７条第２項中、（地方公務員法（昭和２５年法律第２６１号）第２２条の２第１項に規定する会計年度任用職員を除く）を、改正後、削除するもの

でございます。次に改正前でございます。第８条第１項中、（地方公務員法の次に（昭和２５年法律第２６１号）閉じを追加するものでございます。なお附則といたしましてこの条例は、令和６年４月１日から施行するものでございます。

以上で説明を終わります。

ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（平澤　等君）　説明が終わりました。質疑を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　質疑を終わります。

続いて討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りします。

本案について原案のとおり決することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第３１　議案第２７号

○議長（平澤　等君）　日程第３１、議案第２７号せたな町指定介護予防支援事業に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

副町長。

○副町長（佐々木正則君）　同じく議案その２の２７ページでございます。議案第２７号せたな町指定介護予防支援事業に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例についての提案理由を申し上げます。

指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等の一部を改正する省令が公布され、介護サービスに係る基準が改定されることから本条例の一部を改正しようとするものであります。

内容につきましては担当課長から説明をいたします。

ご審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（平澤　等君）　続いて内容の説明を求めます。

増田保健福祉課長。

○保健福祉課長（増田和彦君）　それでは、せたな町指定介護予防事業に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例について説明させていただきます。はじめに改正の趣旨でございますが、指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等の一部を改正する省令、令

和６年厚生労働省令第１６号が公布され、介護サービスに係る基準が改定されることから本条例の一部を改正しようとするものであります。

それでは新旧対照表によりご説明いたします。２９ページをご覧願います。第３条に第５項及び第６号を追加するものでございますが、高齢者虐待防止に関する措置を講ずることについて文言を追加するものです。第３条第５項、指定介護予防支援事業者は、利用者の人権擁護、虐待の防止等のため、必要な体制の整備を行うとともに、その従業者に対し、研修を実施する等の措置を講ずるよう努めなければならない。第６項、指定介護予防支援事業者は、指定介護予防支援を提供するに当たっては、法第１１８条の２第１項に規定する介護保険等関連情報その他必要な情報を活用し、適切かつ有効に行うよう努めなければならない。附則といたしまして、この条例は令和６年４月１日から施行するものです。

以上で、せたな町指定介護予防支援事業に関する基準を定める条例の一部を改正する条例についての説明を終わらせていただきます。

よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（平澤　等君）　説明が終わりました。質疑を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　これで質疑を終わります。

続いて討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りします。

本案について原案のとおり決することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第３２　議案第２８号

○議長（平澤　等君）　日程第３２、議案第２８号せたな町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

副町長。

○副町長（佐々木正則君）　議案書３１ページでございます。議案第２８号せたな町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例についての提案理由を申し上げます。

指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等の一部を改正する省令が公布され、介護サービスに係る基準が改定されることから本条例の一部を改正しようとするものであ

ります。
　内容につきましては担当課長から説明いたします。
　ご審議賜りますようお願い申し上げます。
○議長（平澤　等君）　続いて内容の説明を求めます。
　増田保健福祉課長。
○保健福祉課長（増田和彦君）　それでは、せたな町指定居宅介護支援事業等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例についてご説明させていただきます。
　はじめに改正の趣旨でございますが、指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等の一部を改正する省令、令和６年厚生労働省令第１６号が公布され、介護サービスに係る基準が改定されたことから本条例の一部を改正しようとするものであります。
　それでは新旧対照表によりご説明いたします。３６ページをご覧願います。改正量が膨大になりますので要点のみかいつまんでご説明をさせていただきたいと思います。第３条第４項では、包括支援センターの定義が後続の規定に及ぶよう改正前の法１１５条の４６第１項に規定する地域包括支援センターを、改正後、地域包括支援センター（法第１１５条の４６第１項に規定する地域包括支援センターをいう。以下に同じ。）に改めるものです。次に第４条第２項では、ケアマネジャーの１人あたりの取扱い件数を見直しとして、改正前、利用者の数３５人から、改正後４４人を単位とするよう改めるものです。次に同条第３項は新設で、公益社団法人国民健康保険中央会を介するなど、一定条件を満たした場合にケアマネジャー１人あたりの取扱い件数を、改正後、利用者の数４９人を単位とするよう定めるものです。次に第５条第３項第２号では、管理者が兼務できる事業所の範囲について、同一敷地内でなくても構わないとの改正から、改正前、その管理する指定居宅介護支援事業所と同一の敷地内にあるのを削り、（当該）を、その管理するに改めるものです。次に第６条第２項では、文言整理により利用申込者を利用者に改め、公正中立性の確保のため取組見直しにより、改正前、前６月間にから提供されたものが占める割合までを削除するものです。次に改正前の３項から８項までをそれぞれ４項から９項まで順次繰下げ、第３項新設します。第３項は、第２項と同様に、公正中立性の確保のため取組見直しにより新設するものです。次に同条第４項は文言整理により利用申込者を利用者と改めるものです。次に同条第５項中、第７項を第８項に改め、同項第２号では記録媒体を指定する規制の見直しにより、磁気ディスク、シー・ディー・ロムその他これらに準ずる方法により一定の事項を確実に記憶しておくことができる物を、改正後、電磁的記録媒体（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られる記録であって、電子計算機による情報処理の用に供されるものどういう。第３３条第１項において同じ。）に係る記録媒体をいうに改めるものです。なお同条７項及び８項の改正については、条文の整理により変更となった各号など対応するよう修正を行ったものです。次に第１５条第１項第２号のあとに、身体的拘束等の適正化の推進のため２号の２及び２号の３を新設するものです。次に同項第１５号アでは次に新設する条項による整理のため、利用者の居宅を訪問しを削り、同号イをウとして、新たにテレビ電話装置等を利用したモニタリングの実施を規定するため、イの条文を新設するものでありま

す。次に同項第２９号では、基づきの次に、地域包括支援センターの設置者であるを加え、対象事業者を明確化するものです。次に第２４条第１項では、文言の整理による改正を行うとともに、同条に書面掲示規制の見直しのため、３項として、指定居宅介護支援事業者は、原則として、重要事項をウエブサイトに掲載しなければならないを加えるものです。次に第３１条では、同条第２項中、改正前の３号から５号までをそれぞれ４号から６号まで順次繰下げ、文言の整理による条文の改正を行うとともに、身体的拘束等の適正化の推進のため第３号を新設するものであります。次に第３３条第１項では、第６条第５項第２号により、電磁的記録の定義が定められたことに伴い括弧書き説明を削除するものです。附則としてこの条例は令和６年４月１日から施行するもので、ただし第２４条に１項を加える改正規定は令和７年４月１日から施行するものであります。

以上でせたな町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例についての説明を終わらせていただきます。

よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

○議長（平澤　等君）　説明が終わりました。質疑を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　質疑を終わります。

討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りします。

本案について原案のとおり決することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第３３　議案第２９号

○議長（平澤　等君）　日程第３３議案第２９号せたな町営住宅管理条例の一部を改正する条例についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

副町長。

○副町長（佐々木正則君）　議案書４３ページでございます。議案第２９号せたな町営住宅管理条例の一部を改正する条例についての提案理由を申し上げます。

配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴い、所要な規定の整備を図るため本条例の一部を改正しようとするものであります。

内容につきましては担当課長から説明いたします。

ご審議賜りますようお願い申し上げます。
○議長（平澤　等君）　続いて内容の説明を求めます。
平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　それでは内容を説明させていただきます。本条例の一部改正は、令和６年４月１日より施行される配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律の一部改正によりまして、これまで保護命令として、接近禁止命令と退去命令が同法第１０条第１項に規定されておりましたが、この保護命令制度の拡充により接近禁止命令の要件が改正され、第１０条第１項と第１０条の２に分けて規定されたことから本条例の一部を改正するものでございます。
議案書４５ページの新旧対照表により説明させていただきます。右側が改正前、左側が改正後となります。第５条は入居者の資格を規定しておりますが、第５条第２項第８号イ中、改正後の第１０条第１項の次に、下線部または第１０条の２（配偶者暴力防止等法第２８条の２においてこれらの規定を準用する場合を含む）を加えるものでございます。附則といたしましてこの条例は令和６年４月１日から施行するものでございます。
以上で説明を終わります。
ご審議のほどよろしくお願いいたします。
○議長（平澤　等君）　説明が終わりました。質疑を許します。
（「なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　質疑を終わります。
討論を許します。
（「なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　これで討論を終わります。
これより採決いたします。
お諮りします。
本案について原案のとおり決することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
よって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第３４　議案第３０号
○議長（平澤　等君）　日程第３４、議案第３０号せたな町病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例についてを議題といたします。
提案理由の説明を求めます。
副町長。
○副町長（佐々木正則君）　４７ページでございます。議案第３０号せたな町病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例についての提案理由を申し上げます。

地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴い、所要な規定の整備を図るため本条例の一部を改正しようとするものであります。

内容につきましては担当課長から説明をいたします。

ご審議賜りますようお願いを申し上げます。

○議長（平澤　等君）　続いて内容の説明を求めます。

西村国保病院事務局長。

○国保病院事務局長（西村晋悟君）　それでは議案第３０号せたな町病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の改正内容についてご説明申し上げます。４９ページの新旧対照表でご説明いたします。提案理由にもございましたとおり、地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴い、新旧対照表の表の右側ですが、改正前、第７条中、第２４３条の２第８項を、改正後は、第２４３条の２の８第８項に改めるものでございます。附則といたしまして、この条例は令和６年４月１日から施行するものでございます。

以上で議案第３０号の説明を終わります。

よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（平澤　等君）　説明が終わりました。質疑を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　これで質疑を終わります。

続いて討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りします。

本案について原案のとおり決することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第３５　議案第３１号

○議長（平澤　等君）　日程第３５、議案第３１号せたな町簡易水道事業給水条例の一部を改正する条例についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

副町長。

○副町長（佐々木正則君）　５１ページでございます。議案第３１号せたな町簡易水道事業給水条例の一部を改正する条例についての提案理由を申し上げます。

水道法の一部改正に伴い、所要な規定の整備を図るため本条例の一部を改正しようとするものであります。

内容につきましては担当課長から説明いたします。
ご審議賜りますようお願い申し上げます。
○議長（平澤　等君）　続いて内容の説明を求めます。
平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　それでは内容を説明させていただきます。今回の改正につきましては、水道法の一部改正により生活衛生等関係行政の機能強化のため、現在、水道整備管理行政を所管する厚生労働省から社会資本整備や災害対応に関する専門的な能力、知見を有する国土交通省への移管が行われるとともに、水質基準の策定等に関して現行の所管庁である厚生労働省から環境省への移管が行われることから本条例の一部を改正するものでございます。
議案書５３ページの新旧対照表により説明させていただきます。右側が改正前、左側が改正後となります。第４条第１項、第３８条第２項ただし書及び第４２条第１号中の改正前、下線部、厚生労働省令を、改正後は国土交通省令に改めるものです。次に第４８条第１項第６号中、改正前下線部、厚生労働大臣を、改正後は国土交通大臣及び環境大臣に改めるものでございます。附則といたしましてこの条例は令和６年４月１日から施行するものでございます。
以上で説明を終わります。
ご審議のほどよろしくお願いいたします。
○議長（平澤　等君）　説明が終わりました。質疑を許します。
（「なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　これで質疑を終わります。
続いて討論を許します。
（「なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　討論を終わります。
これより採決いたします。
お諮りします。
本案について原案のとおり決することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
よって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第３６　議案第３２号
○議長（平澤　等君）　日程第３６、議案第３２号せたな町東大里コミュニティセンター条例を廃止する条例についてを議題といたします。
提案理由の説明を求めます。
副町長。
○副町長（佐々木正則君）　議案第３２号せたな町東大里コミュニティセンター条例を廃止する条例についての提案理由を申し上げます。

利用がなく老朽化が進む大里コミュニティセンターを解体するため本条例を廃止しようとするものであります。

内容につきましては担当課長から説明いたします。

ご審議賜りますようお願い申し上げます。。

○議長（平澤　等君）　続いて内容の説明を求めます。

河原瀬棚支所長。

○瀬棚支所長（河原泰平君）　それでは内容を説明いたします。当該施設は１０年以上利用がなく施設の老朽化が進行し、近接して代替施設があるため今後の活用も見込まれないことから、施設を廃止することに伴い本条例を廃止するものでございます。附則としてこの条例は令和６年４月１日から施行するものであります。

以上で説明を終わります。

よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（平澤　等君）　説明が終わりました。質疑を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　質疑を終わります。

続いて討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りいたします。

本案について原案のとおり決することに、ご異議ございませんか。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第３７　議案第３７号

○議長（平澤　等君）　日程第３７、議案第３７号町道の路線廃止についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

副町長。

○副町長（佐々木正則君）　議案書その２、６５ページでございます。議案第３７号町道の路線廃止についての提案理由を申し上げます。

本路線は、一般国道２２９号せたな町美谷改良外一連工事の完成に伴い、地域生活路線としての効用がないため全延長３６８．１メートルについて廃止しようとするものであります。

内容につきましては担当課長から説明を申し上げます。

ご審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（平澤　等君）　続いて内容の説明を求めます。

平田建設水道課長。

○建設水道課長（平田大輔君）　それでは内容を説明させていただきます。今回道路法第１０条の規定により廃止する路線につきましては､町道美谷港線でございます｡当路線につきましては、一般国道２２９号美谷トンネルの開通及び美谷漁港進入路の整備完了に伴いまして、地域生活路線としての効用がなくなったことから廃止するものでございます。路線番号Ｓ８０２４、区分、廃止、路線名、美谷港線、起点、せたな町瀬棚区北島歌７番地先から終点せたな町瀬棚区北島歌１６番２地先までの延長３６８．１メートルでございます。

以上で説明を終わります。

ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（平澤　等君）　説明が終わりました。質疑を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　これで質疑を終わります。

続いて討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りいたします。

本案について原案のとおり決することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◎散会宣告

○議長（平澤　等君）　以上で本日の議事は終了しました。

お諮りいたします。

議案調査のため明日から３月１２日までの８日間休会といたしたいと思います。

これにご異議ございませんか。

（「異議なし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認め、明日から３月１２日までの８日間休会することに決しました。

なお３月１３日午前１０時に再開いたしますので当議場に参集お願いいたします。

本日はこれにて散会いたします。

大変ご苦労様でした。

散会　午後４時１１分

地方自治法第１２３条第２項の規定により署名する。

令和６年４月２６日

議　　長　　平　澤　　等

署名議員　　福　嶋　　豊

署名議員　　横　山　一　康

令和６年第１回せたな町議会定例会　第２号

令和６年３月１３日（水曜日）

○議事日程（第２号）

１　一般質問

○出席議員（１２名）

１番	石原広務君	２番	桝田道廣君
３番	藤谷容子君	４番	福嶋　豊君
５番	横山一康君	６番	本多　浩君
７番	真柄克紀君	８番	熊野主税君
９番	吉田　実君	１０番	大湯圓郷君
１１番	菅原義幸君	１２番	平澤　等君

○欠席議員（０名）

１．地方自治法第１２１条の規定により、説明のため出席を求めた者は次のとおりである。

町長	高橋貞光	君	
教育委員会教育長	小板橋　司	君	
農業委員会会長	原田喜博	君	
選挙管理委員会委員長	大坪観誠	君	
代表監査委員	残間　正	君	

１．町長、教育委員会教育長、農業委員会会長、選挙管理委員会委員長、代表監査委員の委任を受け出席する説明員は次のとおりである。

（１）町長の委任を受けて出席する説明員

副町長	佐々木正則	君	
総務課長	原　進	君	
まちづくり推進課長	阪井世紀	君	
財政課長	佐藤英美	君	
税務課長	濱登幸恵	君	
町民児童課長	髙橋　純	君	
認定こども園長	伊藤悦子	君	
保健福祉課長	増田和彦	君	
農林水産課長	吉田有哉	君	
建設水道課長	平田大輔	君	

会計管理者	杉村	彰　君
国保病院事務局長	西村	晋悟　君
総務課長補佐	中山	康春　君
まちづくり推進課長補佐	奥村	大樹　君
財政課長補佐	小林	和仁　君
税務課長補佐	長内	解人　君
町民児童課長補佐	黒澤	美知子　君
認定こども園副園長	本田	和矢　君
保健福祉課長補佐	浜高	正明　君
保健福祉課長補佐	水野	万寿夫　君
地域包括支援センター所長	長内	京　君
農林水産課長補佐	藤井	卓也　君
農林水産課長補佐	井村	裕行　君
水産種苗育成センター副所長	栄田	武志　君
建設水道課長補佐	鈴木	涼平　君
国保病院事務局次長	手塚	清人　君
総務課主幹	尾野	裕也　君
まちづくり推進課主幹	斉藤	哲章　君
財政課主幹	稲船	洋志　君
税務課主幹	小林	朱央　君
町民児童課主幹	三浦	三津枝　君
町民児童課主幹	山川	彩子　君
保健福祉課主幹	古守	亜珠　君
保健福祉課主幹	垣本	利子　君
地域包括支援センター主幹	今川	勇吾　君
農務課主幹	斉藤	真　君
水産林務課主幹	油谷	好彦　君
建設水道課主幹	川上	佳隆　君
建設水道課主幹	吉田	一也　君
建設水道課主幹	高橋	真一　君
建設水道課主幹	大野	秀幸　君
出納室主幹	竹内	亜希子　君
国保病院事務局主幹	近藤	智博　君
防災係長	岡島	譲二　君
情報管理係長	又村	智　君
広報統計係長	西田	幸恵　君

商工労働観光係長	山崎　英人	君
環境衛生係長	原田　宰	君
社会福祉係長	河野　葉子	君
障がい福祉係長	平田　慎太郎	君
保健推進係長	安藤　麗香	君
包括支援係長	大久保　麻未	君
地域支援係長	田畑　貴子	君
農政係長	栗城　惇史	君
業務係長	北山　典孝	君
業務係長	池田　裕之	君
庶務係長	大庭　啓	君

《瀬棚支所》

支所長	河原　泰平	君
養護老人ホーム三杉荘所長	西田　良子	君
次長	栗谷　一樹	君
瀬棚保育所長	水野　真里子	君
福祉係長	稲船　奈穂子	君

《大成支所》

支所長	中川　譲	君
大成保育園長	浜高　あけみ	君
事務係長	村井　貴大	君

（２）教育委員会教育長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	古畑　英規	君
次長	山本　亨	君
次長	尾野　真也	君
主幹	藤谷　希	君

（３）農業委員会会長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	丹羽　優	君
係長	佐々木　正人	君

（４）選挙管理委員会委員長の委任を受けて出席する説明員

書記長	原　進	君
書記次長	中山　康春	君

（５）代表監査委員の委任を受けて出席する説明員

事　務　局　長　上　野　朋　広　君
次　　長　松　原　孝　樹　君

１．本会議の事務に従事する職員は次のとおりである。

事　務　局　長　上　野　朋　広　君
次　　長　松　原　孝　樹　君
主　　事　大　辻　省　吾　君

再開　午前１０時００分

◎開議宣告

○議長（平澤　等君）　皆さんおはようございます。

ただいまの出席議員１２名で定足数に達しておりますので定例会を再開いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付したとおりであります。

◎日程第１　一般質問

○議長（平澤　等君）　日程第１、一般質問を行います。

質問者、答弁者に申し上げます。会議規則第５３条に規定されておりますように、質問答弁については簡明にお願いしたいと思います。

それでは通告順に順次発言を許します。

２番、桝田道廣議員。

○２番（桝田道廣君）　先に提出しておりました件についてお尋ねをいたします。１問目、敬老会記念品としての町内で使える商品券ということでお願いいたします。敬老会は地域社会の発展に貢献されてきた高齢者に対し、感謝と敬愛の気持ちを伝える大切な行事であり、それはたとえひと時でも心楽しく喜んで過ごしていただくことを目的として開催されていることと思います。参加されている方々からも喜びのお話をお聞きすることがありますが、その時の話の中に記念品に関する要望が数多くあります。以前は温泉入浴券やタオル、お茶などもありましたが、町民全ての方に喜んでいただくことは難しく、昨年は記念品もなかったことから批判の声を少なからずいただいております。町としても毎年記念品に大変苦労されていることと思いますが、記念品は高齢者へのささやかな感謝のしるしであり、少しでも喜んでいただける物にするべきと私は思います。そこで商品券とすることが一番望ましいことだと思います。商品券は生活に必要な食料品や日用品の購入に充てることができ、生活支援に繋がることが期待され、更に町内の商店など地域の活性化にも繋がる大変有意義なものと考えますが、町長の所見をお伺いいたします。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　桝田議員の１点目の質問にお答えをいたします。

敬老祝い品につきましては、議員も言っているとおり、これまで無料温泉入浴券やタオルなどを贈らせていただき、コロナ渦においては敬老会が開催できなかったことから、お茶をお送りするなど、議員ご指摘のとおり町民全ての方に喜んでいただくことは叶いませんでした。そのような経緯を踏まえ、お祝いの気持ちを直接お伝えするよう、メッセージカードを贈らせていただくように、変更させていただいたところであります。このメッセージカードにつきましても、桝田議員がお聞きしたように記念品がなかったとのご意見もいただきましたが、わざわざお礼状をお送りいただいた方もいらっしゃるなど、やはり受けとられた方全員に同じ気持ちを抱いていただくことは叶いませんでした。敬老会の在り方やお祝いの気持ちをお伝えする方法などは、より良いものになるよう検討を重ね、地域でお手伝いいただいている方などのご意見も頂戴しながら現

在のようなあり方になっておりますので、議員からは商品券を記念品としてはいかがかとのご提案でございますが、引き続き同様の開催としてまいりますことで、ご理解をいただきたいと思います。
○議長（平澤　等君）　桝田議員。
○２番（桝田道廣君）　再質問をさせていただきます。今、町長からメッセージカードに対してお礼の言葉もある、それぞれだと思います。ただ私が聞かせてもらった方々からは、わざわざ聞いたわけじゃありませんけれども、話の中にほとんどの方からあまり評判のいいお話は出てきませんでしたのでまずお伝えしておきます。令和３年に行ったアンケートでは、開催を望む方も多数おられ、結果、現在も続いているわけですが、参加者の推移を見れば平成２９年度は、町内全体の２９．７％、３０年は２７％、令和４年度はコロナ禍であり、また瀬棚区では開催されませんでしたが、対象者１，９９１人に対し参加者１０９人で５％、令和５年度は確定した数字ではありませんが、対象者１，８９１人、参加者３５４人で１８．７％の参加率となり、年々減少しているのが実情です。また半面経費の上から見ますと、平成２８年から３０年までは平均２４０万円台なのに対し、令和４年度は約３１７万と増加しています。３箇所の減少に反し、経費の増大と敬老対象者の満足度は大幅に低下しているものと思います。私は今後も敬老会は存続し、記念品をお渡しするほうが良いとは思いますが、今後も人口減や高齢化により参加される方が確実に減少すると予想される以上、さらなる見直しをして敬老会開催を取り止め、その費用を商品券に回し記念品としてもよいのではというふうにも思います。今金町では、敬老会にかける費用を町内会に委託し、八雲町熊石地区でも町内会に委託し１人あたり町として１，０００円の助成を行っております。せたな町がほかの町と同じとはなりませんが、令和５年度の対象者は１，８９１人、全員に１，０００円分の商品券を渡したとしても１８９万円です。経費を含めても現在の予算内で済むばかりでなく、現在の物価高の中、生活費としても使える商品券を記念品としていただいた皆様の多くは喜び、さらには町全体の活性化にも繋がるものと考えます。本事業は、開始からまだ２年であり、今後住民各位の意見も聞く必要があるとは思いますが、今後の見直しを含めて町長の考え方を改めてお伺いします。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　議員のご質問の敬老会を止めるということと、代わって記念品を贈呈したほうがいいのではないかということでありました。敬老会はもともと地域のお年寄りを地域でおもてなしをしてお祝いをするということでやられていた行事でございます。管内他町におきましても地域の皆さんがお祝いしているという自治体も多くございます。せたな町におきましてはいろいろな事情がございまして、地域での開催が難しいということから町の職員が中心で開催するというような状況となっております。しかし敬老の皆さんは敬老会の開催でお集まりをいただくということは大変楽しみにしていただいている状況でございます。今議員からは徐々に出席者も減少しているということでのお話がございました。令和５年におきましては、北檜山区では２３％、大成区では１０％、瀬棚区は２１％ということで合計３５４人の高齢者に敬老会を楽しんでいただきました。現在町の事業におきまして、一つの事業でこれだけの高齢者に参加をいただ

くという事業はございません。したがいまして、この事業としては大変いい事業というふうに町としては捉えております。こうして町としてこれまでご苦労された敬老の皆さんでありますから、しっかりとこれからも感謝の気持ちをお伝えするべきものというふうに考えておりますので、ひとつご理解をいただければというふうに思っているところでございます。

○議長（平澤　等君）　桝田議員。

○２番（桝田道廣君）　再々質問をさせていただきます。私は先ほども言いましたけれども、敬老会は存続したほうがいいというふうに思っております。町長は今、止めて代わりに商品券を出したらどうかというふうなお話をしましたけれども、そうではなくて私は基本的に敬老会は続けていただきたい。その上で記念品を今まで出していたわけですから、その分を皆さんに喜んでもらえるであろう今考えられる１番いい物を、それは多分商品券ではないかというふうに思います。確かに町長の言うように、もともとは地域地域で行っていたものであったと思いますし、ほかの町でもほとんどのところが各地域でされています。しかしうちの町は今町長言うように、いろいろな事情から町としてやっているわけですから、それはそれとしてすばらしいことだろうと思ってます。また費用として、それは幾らかかるかということは見ていないということであるならば、なおさら敬老会は存続し、その上で記念品として喜んでもらえるものを選択する。これが町として最善のことではないかと思います。町長今首を横に振ってますけれども、やっぱり同じ敬老会をするんであれば、やはり町民に喜んでいただけるものを選択し、記念品として出すということが大切ではないかと思いますのでもう一度お願いいたします。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　敬老の皆様方にどうやって感謝の気持ちを表すかということだろうというふうに思います。現状こういう先ほどもお話しましたように、大勢の敬老の皆さんに楽しんでいただいているところでございます。敬老会の本来の目的は、お集まりをいただいて、そしてそこで楽しんでいただくということで感謝の気持ちを表すということが敬老会の趣旨でございますので、そういったことでは、むしろ商品券というよりも敬老会の中身の充実をということが本来のことではないかというふうに思っております。町としましても、そのような部分において、これからできることは、この充実について様々検討を加えてできる部分で取り組んでまいりたいというふうに思っているところでございます。ご理解いただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　次に桝田道廣議員の２問目の発言を許します。

○２番（桝田道廣君）　それでは２番目の質問をさせていただきます。今年３月末を持っていよいよ各診療所への患者輸送バスが廃止されることになります。国保病院への通院は無料で送迎が継続されることになりますが、各診療所に通院されている方々の不安と戸惑いの気持ちが強いと感じております。町長は以前の一般質問の中で、交通空白地帯との公平性の上からデマンドバスでの通院は無料にできないとの回答がありました。しかし高齢者また交通手段を持たない町民が今後も安心して診療を受けることができるよう配慮すべきと思い、診療所受診の方には無料バス利用券の配布を改めてお願いしたいと思います。利用券を使うことにより、利用者の経済的負担も減り、通院へのハードルも下がり健康維持につながることにより医療費の抑制にもなると思い

ますので、導入を検討するべきとは思いますが、町長の考えを伺います。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　それでは２点目のご質問にお答えをいたします。
　現在町の公共交通網に関しては、せたな町地域公共交通活性化協議会において、交通空白地域におけるデマンドバス運行の検討、既存路線の利便性向上等について検討されており、これまでデマンドバス運行区間では、スクールバスや地域診療所への患者バスなどの統合を図ってまいりました。これまで先行してデマンドバスを運行しております北檜山区太櫓新成方面、瀬棚区海岸方面の方には、患者バスを廃止して通院の際にも片道２００円を負担していただきながらデマンドバスをご利用いただいているところであります。町としては、このような先行事例と同様に、交通空白地域におけるデマンドバス運行を優先して進め、無料化などにつきましては、そうした状況を達成したあとに可能かどうか検討したいとする考え方に変更ございませんので、ご理解をいただきたいと思います。
○議長（平澤　等君）　桝田議員。
○２番（桝田道廣君）　再質問をさせていただきます。議長にお願いいたします。再質問のプリントを失念して持ってき忘れまして、スマホのほうに入っておりますので、スマホを見ながら質問させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。
○議長（平澤　等君）　よろしいです。
○２番（桝田道廣君）　先日、大成で行われた患者バス廃止の説明会には、私の予想を上回る参加者があり関心の高さが伺われました。私はこのデマンドバスでの通院無料化問題は、町民の理解をいただけるものなのか不安な気持ちでおりました。しかし質問の中に、高齢者の経済的負担の問題から無料化を望む意見があり、また同じ質問が他地域でも上がっていることを知り町内全ての地域での無料化の必要を改めて強く感じました。町長は、公共交通空白地帯は患者バスがなければ通院できない。対してデマンドバスを利用している地域は、医療機関に限らず好きな時間に利用できるので無料にはならないと、公共交通空白地帯住民の無料送迎を堅持する答弁をしていますが、デマンドバス利用者も、デマンドバス以外の選択肢がないから利用するのであって、公共交通空白地帯と同じ条件であると思います。また町長は、それぞれの地域の公平性を確保する必要があるので無料にできないとしていますが、一般的にデマンドバスを利用する方と通院で利用する方では目的が違うばかりか、重複運行地域の解消などを目的として町の都合で患者バスを廃止する以上、代替としてのデマンドバスであるはずなのに有料とは通院を目的とする人にとっては全く公平性に欠ける制度だと思います。例えば、瀬棚区大里地区は、須築地区から国保病院に行く場合、大里地区は無料の患者バスで国保病院まで行けるのに対し、須築地区では、診療所までデマンドバスで２００円を支払い乗換えて国保病院まで行きますので、往復４００円の負担です。どちらも通院という同じ目的、同じ理由、同じ条件でありながら全く不公平な制度です。またこの４月から大成区から国保病院までの患者バスでは、太田地区、長磯地区にそれぞれ片道をデマンドバス利用することで２００円の負担になりますが、乗り継ぎ中継地の宮野地区の方は、往復無料で利用できることになります。これも不公平だと思いますし、診療所への通院も控える

人が増えるのではないかと心配しています。さらにスクールバスとの兼ね合いもあります。町長は前回の質問のとき、同じ道路の重複運行を解消し、関連経費の合理化を図ることは重要な施策と話しているとおり、小中学生の登校をデマンドバスに変えての運行は当然のことだと思いますが、学生は無料で利用でき、通院される患者さんはなぜ有料なのでしょうか。スクールバスは、僻地教育振興法などの法律や制度によるものかもしれませんけれども、利用する人からすれば、スクールバス利用も患者バス利用も町が運行している同じデマンドバスであることは同じです。町長は最終的にはデマンドバスに一本化する方向で段階的に進めたいとしていますが、一本化が実現するまでの間、町全体での公共交通空白地域とデマンドバスで通院される方だけは無料乗車券での通院ができるよう改めて検討する必要があると思います。先ほどの答弁の中で、一本化ができたら検討するということでありましたけれども、一本化するまでの間が不公平な状態である以上、現在この時点で通院者に関しては無料での送迎ができるよう改めるべきだと思いますが、改めて考えをお伺いします。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　デマンドバスのこの整備区間の町民の皆さんは不公平であるというような質問でございました。このデマンドバスの整備というのは、交通空白地地域の解消ということと、それから路線バス区間においては料金の負担軽減ということ。それから患者バス区間においては、これは好きな時間帯で受診可能と、様々な利便性を考えて全町をデマンドバスで整備をしていこうというのがデマンドバスの役割といいますか、そういったことになります。これはデマンドバスを導入していくということで、議会のほうのご理解もいただいて今進めているところでございます。私たちとしては、やはり高齢者の足の確保、これは通院ばかりでなくて、買物であるとか、地域での様々な集まりへの足の確保というようなことで進めているところでございまして利便性は格段に上がってきたと。大成は今回で患者バスについては廃止をしてデマンドバスということになります。町内で大成区の皆さんのほうがデマンドバス網の整備が進んでいるということになります。今後北檜山区においても、瀬棚区においても、大成区同様進めてまいりたいというふうに考えております。こうした意味において、公平性は保たれるということでございますので、ご理解をいただきたいというふうに思います。

○議長（平澤　等君）　桝田議員。

○２番（桝田道廣君）　再々質問をさせていただきます。私はデマンドバスでどこに行くのも別に問題をしているわけではありません。空白地帯の人もデマンドバスのあるところの人も通院という同じ目的、同じ理由で動く以上その違いはないはずでしょということを言ってるだけのことなんです。だから無料にするべきじゃないですかということが１点。そして町長はデマンドバス一本化したらそれは考えますと言いますけれども、デマンドバスを一本化したら、それこそ全部有料でも全然問題ないと思うんです。今違うから均衡を図るために病院に通うという同じ目的なんですから、同じ目的とか同じ理由なんですから、そこはやっぱりそういうふうにするべきじゃないかなというふうに思います。そしてまた、今例えば久遠北檜山線のバスが走ってますけれども、これがデマンド化するというのは一昨年の実証実験で、そのあと本格運行というふうに確か

聞いていたように思います。しかしまだ実証試験さえ行われていません。もしもうそういうふうにおっしゃるんでしたらば、1日も早く全町くまなくデマンド化する必要があるものと思います。現在進んでいない以上、それまでの暫定的な部分として、この制度は必要じゃないかなというふうに思うんですけれども、国保病院と診療所までの患者利用者の過去の実績を調べてみました。令和元年、北檜山区では1日平均往路8．3人、復路6．9人、瀬棚区、往路7．7人、復路3．4人、大成区、往路8．6人、復路6．2人、これに対しまして、3年後の令和4年、北檜山区では、往路5．8人、復路3．3人、瀬棚区5．9人、復路3．1人、大成区、往路6．2人、復路1．9人というふうになってます。年々人口が減少していますので、利用者数も少なくなってくるのは当然のことではありますが、令和4年と令和元年の利用者数を比較してみますと、北檜山区では約半減、大成区では3分の1まで減少しています。これに係る経費は、大成分しか今持ち合わせていませんけれども、令和5年で約700万円、対して令和4年も700万円となってます。多分ほかの地域の患者バス運行費用も例年それほど変わらないのではないかと思いますので、これだけ見ても町は関連経費の合理化を図ることは大変重要なことは理解できます。しかし今回の見直しは町民の意思ではなく、デマンドバスと患者バスの重複運行の解消を目的とし、町の財政的なものを含む以上、患者バス廃止をするのであれば、先ほども言いましたが利用者に対し当然の手当てが必要だと思います。患者バスの1日の利用者数は、令和4年度町内合計で18人ほどです。このうちデマンドバスを利用している人が3区合わせても半分として約10人です。往復無料乗車券を支給しても1日4，000円になります。往復が難しいというのであれば、せめて片道分でも利用者にとっては安心して病院に通うことができるようになるのではないでしょうか。町長はデマンドバスが区によっては路線によって扱いが違うことは一つの町としてこれはならない。3区同じ扱いで実施しております。ただ一気に変えるということは無理がありますから、段階的に最終的にデマンドバスに一本化する方向で段階的に進めてまいりたいと述べています。私の言葉足らずであったと思いますが、私は先ほども言いましたが通院される町民全ての方に負担の軽減をお願いしているわけです。大成区だけの話をしているわけではありません。町長は以前、町政はかゆいところに手が届くように進めていかなければならないというふうに常々思っておりますと話され、また今年の執行方針でも、高齢者の自立の促進、安心して生活できる環境づくりに努めてまいりますと述べているとおり、安心して生活できるデマンドバス一本化という環境が整うその日まで、全ての地区のデマンドバスで通院される方に往復無料で無理ならば、せめて片道だけでも無料乗車券での通院ができるよう配慮すべきと考えますが改めて町長の所見をお伺いいたします。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　デマンドバスの短所、長所というのは様々あることは承知をしております。デマンドバスの運行区間にお住まいの方からは、玄関先まで向かいに行って、玄関先まで送り届けるといったサービスは大変喜ばれているところでございます。デマンドバスの整備は、町民の利便性の向上ということでこれはしっかり機能をしてきているなと認識をしております。料金の話ですが、現在のところ路線バスしか走ってない部分につきましては、路線バスの料金で通

院、買物、その他をやっていただいているという状況もございます。決して大成だけが不利益をこうむっているということではございません。こうしてこの高齢者の足の確保というのは、それぞれの地域で生活していく上で重要な施策というふうに私たちも受け止めておりますことから、これまでも答弁しておりますとおり、まずはデマンドバスの全町運行を実現をすると。そうしたあとで今議員のおっしゃっている問題が可能かどうかということを改めて検討をすべきものというふうに考えておりまして、まずは今のこの通りは早くデマンドバスが全町を運行できるようにスピード感を持って新年度以降も取り組んでまいりたいというふうに考えているところでございます。

○７番（真柄克紀君）　議事進行。

○議長（平澤　等君）　真柄議員。

○７番（真柄克紀君）　議長の今の扱いも含めて、今、質問した議員の質問内容を聞いてますと、今回から始まるこの制度によって大変な不公平感が出るんじゃないかと。ここからスタートしてる話なんです。まずそこに町長がその質問に対してきちんとどういう認識を持ってこれからこの事業を展開するかという質疑がなされなければ、これ一般質問の形態なさないじゃないですか。私は議長も最初の１回目の質問にきちんと本当にこの質問者に対して町長はこの制度に何ら住民に対する不公平感も何もないですよということをしっかりと証明して、そこから質問するなら構いませんけども、今聞いてるのは、そういうことが現実問題として不公平だと思われるので、これについてきちんと考えを示してくださいと言ってわけですから、そこのところはきちんと示さなかったら質問者に対して私は不誠実だと思います。

　以上です。

○議長（平澤　等君）　議長として真柄議員に申し上げます。一般質問は、それぞれの議員と理事者と一問一答方式で３問の再々質問まで交わす中で行われていることと理解しております。よって、その質問が皆さんで協議するというふうなことでなくて、あくまでも議員と理事者との問答であるという考えから、その分については、また足りない分については次のまた議会、もしくはその違う機会で話して、一般質問は一般質問として考えてございます。そういうわけで、今の一般質問して、それぞれ通告順に発言を許してますので、ほかの発言について取上げていくと一般質問が進んでいきませんので、その辺についてはご考慮願いたいと思います。

　まだありますか。

　先に真柄委員。

○７番（真柄克紀君）　先ほど言ったように全く質問に対してなんら答弁してないからそこからスタートしないとダメじゃないですかという意味で私進言してるだけです。中身についてあとは当事者同士、だけど質問の内容に対してきちんとした答弁が来なかったら進まないんじゃないですかということで議事進行申し上げただけですから。

○議長（平澤　等君）　桝田議員何かありましたか。

○２番（桝田道廣君）　私が質問しているのは、デマンドバスの利便性をお伺いしているわけではないわけで、デマンドバスと患者バスの利用によって不公平感がある、この部分を町長はどう

いうふうに考え、どういうふうに是正していくのか。今私はその具体策として無料化をすべきではないかという話をしているのでありまして、利便性をお伺いしてるわけではありません。

○議長（平澤　等君）　ただいまの真柄議員の発言それから桝田議員の答弁漏れという指摘について事務局と協議した結果、答弁漏れがあるというふうなことなので、ただ私としては、先ほどの状況を達成したのちにまたさらに検討するというふうな町長の答弁でよろしいかなと思ったんですが、やはりその分の答弁漏れということでその分をしっかり答えていただきたいということがございましたので、再度町長に答弁していただきます。

町長。

○町長（高橋貞光君）　まず当初、瀬棚の海岸線からデマンドバスを運行スタートということになりました。今のこの不公平であるかないかという部分につきましては、これは当初からそういうことであれば全町一気にというそういう議論もあったかと思いますが、デマンドバス化の場合は、やはり民間事業者にお願いをするということで人材の確保、あるいは車両の確保、様々な部分がございまして一気にはいきませんということになりました。したがって順次、デマンドバス化を進めていくということになったところでございます。したがいまして路線バスを廃止して２００円に料金が下がった地域が多いということになります。そういったことで、まだ路線バスの運行地域もございますので、そういったことでは、できるだけ早く公平性を進める上からデマンドバス化を進めていきたいというふうに思っておりますが、しかしそれは一気には進まないということは、ご理解いただいているものというふうに思います。そうしたことで地域において、しっかりとそういった説明をさせていただきながら、この路線バスあるいは患者バスとの競合をしないデマンドバスということの一本化を進めているところでございます。これは今回始まったことではございません。当初からそういう話で進めているところでございますので、ご理解をいただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　以上で桝田議員の一般質問を終わります。

○１１番（菅原義幸君）　議事進行。

○議長（平澤　等君）　菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　先ほども真柄議員から答弁漏れだという指摘がありまして、今その答弁漏れを答弁したわけです。依然として答弁してないんじゃないですか。

○議長（平澤　等君）　私としては答弁したように聞こえましたけど違いましたか。町長、不公平感についての答弁をしたように聞いたんですけども、どこが何だろう、ちょっとわからないな。私の理解と、あと議員の皆さんの受け止め方はちょっと違うと思いますが、町長再度かみ砕いて今の話をしていただきたいと思います。不公平感に関することについて。

（不規則発言あり）

○議長（平澤　等君）　何ですか。不規則発言やめてください。

○１番（石原広務君）　議事進行。

○議長（平澤　等君）　石原議員。

○１番（石原広務君）　町長も理解できてないから、今桝田議員にもう一度質問してくださいっ

ていう確認してたんです。これが不規則発言ですか。その前に議長として議事運営きちんとしてください。
○議長（平澤　等君）　暫時休憩します。

休憩　午前１０時４８分
再開　午前１１時０５分

○議長（平澤　等君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　先ほど答弁漏れということがあって調整した結果を報告いたします。
　町長。
○町長（高橋貞光君）　桝田議員の質問にでございますが、議員からは片道でも何とか負担の軽減をできないのかという話でございました。町としてはこれまでこういう形で議会の理解もいただきながら進めてきたことで、全町をデマンドバス化した時点で検討という答弁をしていたところでございますが、これが答弁していないということでございました。したがいまして、これについては、この場でこれをどうこうするということは今の立場で申し上げられませんが、この点については検討をさせていただくということでご理解いただきたいと思います。
○議長（平澤　等君）　以上で桝田道廣議員の質問を終わります。
　先ほど暫時休憩いたしましたが、ただいまより１１時１５分まで休憩いたします。

休憩　午前１１時０７分
再開　午前１１時１５分

○議長（平澤　等君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　一般質問を続けます。
　５番、横山一康議員。
○５番（横山一康君）　それでは質問させていただきます。町民の防災意識向上の取り組みについて町長、教育長にお伺いいたします。今年は元日から能登半島地震が発生し、大きな被害が出ております。発災から２カ月以上経ちましたが、いまだに９，０００人以上の方が自治体が設ける避難所や２次避難の避難所での避難生活を強いられております。このたび被災された能登半島は海岸線や高齢者の多さ、我が町せたな町と類似した部分も多く、報道を見ていてとても他人事とは思えませんでした。現在、地元自治体に加え、全国の自治体やボランティアの方々が次々と支援に入り懸命な活動が続けられておられます。１日も早い復旧、そして復興が望まれていると思います。我が町せたな町も、海、山、川、多様な自然環境に恵まれ、私たちはその恩恵を存分に受けて生活しております。自然が豊かということは、同時にしっかりと災害の対策をしなければなりません。町は地域防災計画に基づき、災害発生時に迅速に対応できるよう職員の役割分担、関係機関との連携や災害備蓄品の強化、充実を図っておりますが、行政が行う公助と同時に自助、

共助の充実が大変重要だと考えております。町長の執行方針、教育長の教育執行方針でも町民の防災意識の高揚、自主防災組織への支援、また児童生徒への防災意識の向上といったものがしっかりと謳われております。私は令和２年の第４回定例会において、自主防災組織の組織率を向上させる取り組みについて質問をさせていただきました。その間からこれまで町民の防災意識は高揚しているのでしょうか。自主防災組織は増加しているのでしょうか。しっかりと検証し防災対策を構築する必要があると思っております。またさらに子供たちへの防災教育、これも非常に重要だと考えております。町内の小中学校では、関係機関と連携し１日防災学校といった取り組みを実施しております。子供の頃から災害に対してしっかりと対処する対処法や安全な行動を学ぶということは、子供たちの生きる力の育成にもなってくるものと思います。いつ起きるかわからない災害、これに対処するには普段からの啓発、そして訓練といった活動は極めて重要です。今後、町民への防災意識向上に向けてどのように取り組んでいくのか以下の３点についてお伺いいたします。

①過去５年の防災意識向上への取り組みとその成果、自主防災組織率の変化を具体的にお伺いしたいと思います。②これからの防災意識向上の取り組みを具体的にお伺いいたします。③これまでの防災教育の評価とこれからの取り組み方針についてお伺いいたします。

○議長（平澤　等君）　横山議員からは、町長及び教育長に答弁を求められております。

初めに町長。

○町長（高橋貞光君）　それでは横山議員の１点目のご質問にお答えいたします。

町では、災害発生時に近所の方々と共に助け合う共助が地域の防災力向上に不可欠である考えから、自主防災組織の結成と活動の活性化を図るため、平成２５年度に策定したせたな町地域活動等推進事業補助金交付要綱に基づき、自主防災組織や町内会等が行う防災活動への補助金の交付と自主防災組織結成に係る協力や組織結成の啓発活動への取組みを進めてきました。また今年度において南西沖地震から３０年が経過したことから、１０年振りに全町民を対象とした一斉避難訓練を７月１２日に開催し防災意識の高揚を図ったところであります。過去５年間の成果につきましては、防災啓発活動への取り組みがコロナ禍とも重なり、町内会での集まりなども制約される中、継続的に実施してきましたが、避難訓練の減少や自主防災組織結成数の大きな増加などには繋がっていない状況であります。自主防災組織の組織率では、令和元年度では６６町内会の内、１２団体が結成済であり組織率で１８．２％となります。令和５年度におきましては、６６町内会の内、３団体増加いたしまして１５団体が結成済で組織率で２２．７％となりました。５カ年で４．５％の伸びになっております。

２点目のご質問にお答えいたします。今後の防災意識向上の取り組みにつきましては、今までの防災活動を強化しながら、先程答弁させていただきましたが、コロナ禍で自主防災組織結成の核となる町内会の活動が制約されたことに起因して、班長の選任に苦慮したり、町内会の行事等の集まりに来ないなどの町内会を中心とした地域コミュニティが以前に比べ弱くなったというお話を聞いております。このことから町内会等が自主的に行うまちづくり及び防災活動に関する事業に対し、町がせたな町地域活動等推進事業補助金を交付しているところです。今後この補助金

の充実を図るとともに、町内会が運用しやすい補助金に見直すことで町内会がより活発に活動出来るよう検討したいと考えております。その結果として町内会が活性化し、地域コミュニティの充実が図られる中、共助の強化に繋がり自主防災組織の結成や地域防災力が向上するものと考えることから、この取り組みを進めてまいりたいと考えているところでございますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　次に教育長。

○教育長（小板橋司君）　３点目のご質問にお答えいたします。

当町では､全小中学校で関係機関と連携､協力し１日防災学校の取り組みを実施しております。このような取り組みを行うことにより、児童生徒は災害に関する正しい知識を持ち、自分で判断し危険から身を守る行動を学ぶことができたと評価しております。防災教育は、さまざまな危険から児童生徒の安全を確保するための教育であり一人ひとりの防災意識向上で、地域内の防災力を高めることも目的であり学校と家庭そして地域が連携しなければなりません。そのようなことから今後一日防災学校では、保護者や地域住民に参加協力をいただきながら、学校と地域の連携した防災訓練に取り組み、児童生徒のみならず教職員等にも防災意識の向上を図ってまいりたいと考えております。

○議長（平澤　等君）　横山議員。

○５番（横山一康君）　それでは再質問をさせていただきます。最初に教育長のほうに今のご答弁への私の思いをお伝えしておきたいと思います。教育長、今児童、生徒たちが正しい知識を身に付けて自ら動ける力を身に付けてきているというような評価をしているというようなことでした。私も昨年７月１２日でしたか、瀬棚小学校が防災訓練、町の総合訓練の一環としてやった１日防災学校で、あれはたしかＳＴＶの放送局だったと思うんですが、あれが特集して流されていました。あの場面を見させていただきました。学校から一気に中学校のところの農村公園まで上がっていく風景を見させていただきました。どの生徒も非常に真剣にやっていて、こういう訓練がもしいざというときには非常に役に立つんだろうなと思いながら見ておりました。ああいう訓練をやっぱりしっかりやっておられるということは教育委員会はもとより、学校の先生方も一生懸命防災については考えていることだと思いますので、ことをしっかりと今後も継続していっていただきたいなと思います。そしてもう１点、教育長おっしゃっていたように、保護者や地域との連携ということも今おっしゃっていただきましたので、これは私やっぱり非常に大事な視点だと思います。東日本大震災のときも子供たちが避難する姿を見て、地域の人たちもこれは大変だということで、子供たちが避難することによって地域がまとまって動いたというような事例も報告されていますので、ぜひこれは学校が率先して地域を巻き込みながらやっていってくださるということをこれからもお願いしたいと思いますので、今ご答弁なさったことを実行に移していっていただきたいなというふうに思います。教育長の答弁への私の思いは以上であります。

それでは再質問させていただきます。まず私必要なのは、日本は災害大国だということをしっかりと認識しなければいけないと思います。先ほど私、質問の冒頭で申しましたとおり、まさか元旦にような場所であのような大きな地震が起こるとは、ほとんどの方が予想してなかったと思

います。地震に加えて令和４年には当町でも水害がありました。また台風、火山はさすがになかなかこっちまで来ないと思うんですが、そういう災害が毎年必ずやってくる。ここを行政も町民もしっかりと認識しなければいけないというふうに思います。そして災害がいざ起こったときには、行政ここにいる方たちが万能ではないよと。当然動かなければいけないんですけど、この大きなせたな町の中で職員が全て張りついて動けるかというと、これはまず不可能なことでありますから、やはり私は地域、個人がしっかりと防災意識を常日頃から向上しなければならないというふうに思っております。そこでまず公助として大事なこと、町がやらなければいけないことです。関係機関とか行政がやらなきゃいけないところなんですが、まず１つ目、これ今年、令和６年２月に発行されましたせたな町の防災ハンドブック、これも濡れても大丈夫な紙でしっかりと担当が作っていただきました。今回私も見させていただきましたが、地震災害もそうなんですが、これ新しく２０ページです。マイタイムラインといって、防災の行動計画このようなものも書き込みできるように書いてあるんです。これやっぱり私たち地震の場合は海岸線に住んでる人たちは非常に危険ですが、やはり水害の場合は北檜山市街地に住んでいる方、特に危険でありますので、このようなマイタイムラインを実際に書いてみる、このようなことを非常に大切なってくると思います。こういうことも、もっともっと行政こういう立派なものを作ったんですからしっかりと町民の皆さんに周知していってほしいと思います。あと公式のＬＩＮＥというのも、これも８月から町が運用されております。この中にもしっかりとこれと連動する防災マップも入っておりますのでこういうところもぜひ町民の皆さんに利用していただきたいということも周知していただきたいと思います。そして今年度予算で提案されておりますが、町として災害備蓄品、ポータブルストーブですとか、業務用のストーブこのようなものもしっかりと町がやらなければいけないことをやっておりますので、ここは町は私はこの職員の体制、財源の中からもなかなか計画的に一生懸命やってるんだなということで評価をしたいと思います。ただしかし、共助、自助というところになりますが、先ほど町長のご答弁の中にありましたが、１番大切な自主防災組織、これいろいろな自主防災組織の統計の取り方があるんですが、今回、町長は町内会ベースで取っていただきました。そうすると２２％ほどということで非常に低い組織率になっておりますので、ここの部分はやはり弱いと言わざるを得ないと思います。これからそこを強化していく、先ほどおっしゃってました地域活動等推進事業補助金をしっかり使いながらやっていくというふうにおっしゃってましたが、そこの補助金の使い方をもう少し弾力的に持ちながら使いやすいような防災組織を組織しやすいような形をぜひとも考えていただきたいなというふうに思います。大変長くなって申し訳ないんですが、先ほど町長の答弁の中で、私できるだけ町民の防災意識の取り組みを具体的にお伺いしたいということでお伺いしたんですが、町内会活動を強化していくとか、それが防災力の強化に繋がるというご答弁だったんですが、それだとやっぱりちょっと具体性に私は欠けると思うんです。いろいろなものをこういう時代ですから調べてみるとたくさん事例があると思うんです。私もこの質問を考えるにあたっていろいろ調べてみました。三重県の尾鷲市というところがあるんですが、あそこも度重なる津波によって被害を受けてるとこなんです。そこは市庁舎の正面に津波は逃げるが勝ちこのような横断幕をかけてるんです。常日頃から市民の

皆さんにわかりやすいような形で防災意識を向上させる取組、こういうのが私、非常に大事なんじゃないかなと思います。あともう一つ、おととい東日本大震災の慰霊の日でありましたが、岩手県の三陸のほうでは津波てんでんこというような言葉があって、皆さんもお聞き覚えがあるとは思うんですが、とにかくこれは人のことも大事だけど、まずは自分が助からなきゃいけない、てんでんばらばらでも高いところ逃げなきゃいけない。言葉と、そしてこれまでの明治や昭和の大津波から逃れてきた人たちの伝承がしっかりと残って伝えられている。こういうものを生かして消防団では１５分ルールっていうのを作ったそうです。東日本大震災のときには、消防団の方が避難、逃げ遅れた人たちを探している間に、消防団の人もろとも津波の被害に遭われたというこのような教訓で１５分以内は捜索活動するが、それ以降はやりませんよというような取り決めを住民と話し合った上で決めたということをお聞きしております。住民の皆様も、これ待ってるだけじゃないんです。消防団の人たちが来てもすぐ出られるように、せめて玄関までは出てくる努力をするですとか、そういう努力をして住民の人たち皆で助かるというような、こういう努力をしているというような事例がたくさんあります。ですから我が町も、やはりそのような具体的な対策というものを、意識向上の対策というものを打っていかなければいけないというふうに思います。皆さんご存じのとおり、せたな町というのは、日本で１番、津波の高さが高いというふうに公表されておりますので、それがたった数分、５分以内にやってくるところに住んでおりますので、ここはやはりほかの地域よりも、もっともっと私は真剣な防災意識の向上というものが大切だと考えております。たくさん述べさせていただきましたが、そのようなことで町長何か具体的な考えというものを、町としてこのように取り組んでいきたい、検討したいというようなものがありましたら、ここでお聞かせ頂ければというふうに思います。

以上です。

○議長（平澤　等君）　横山議員に確認いたします。教育長に対しての再質問はなかったかのように思いましたが、よろしいですか。

○５番（横山一康君）　ありません。

○議長（平澤　等君）　わかりました。

町長答弁お願いします。

○町長（高橋貞光君）　それでは２回目の質問にお答えをいたします。１月１日の能登半島地震が発生をいたしました。災害は、いつ、どこで、どのような形で起こるかわからないというのが災害でございます。この災害対策ということでございましたが、まずこの自助、共助、公助とございますが、まず自助が初動として、自助によって安全な場所へ速やかに避難をすると。これは共助も関係しますが、そして避難したあと共助、公助が機能して様々な対応をするというような状況をでございます。したがいまして避難につきましては、これは先ほども言いましたようにいつどこで起こるかわからない災害を自分事として常に考えておくと、町民の皆さん個々が自分事として考えておくということが大事だというふうに思います。そのためには、先ほども答弁いたしましたが、地域の自主防災組織これがしっかり機能すると。機能させるためには、やはり自助としてのこの自分事としての意識が大事だというふうに感じております。町としては、ご紹介あ

りましたように防災ハンドブックの新しい改訂版を全戸配付いたしましたが、これをしっかり読んでいただいて、これを有効に活用をしていただく、備えをしていただくということが大事だというふうに思っております。自主防災組織の組織化につきましては先ほども言いましたように、せたな町の地域活動等推進事業補助金なども有効に利用していただけるような、そうした見直しもこれからさせていただきたいと思いますので、十分活用しながら地域防災というものに使って備えをしていただければと思います。議員からも様々な事例の紹介がございました。自分の命は自分で守る。津波てんでんこというお話もありましたが、そうした住民には意識を持っていただいてまして、発災の際にはしっかりと行動をしていただくというような考え方を常に持っていただけるように、町としても様々な取り組みを、もちろん避難訓練へですとか、様々なそういった訓練をしながら、この災害対応に備えをしてまいりたいというふうに考えておりますことで、ご理解をいただきたいというふうに思います。

○議長（平澤　等君）　横山議員。

○５番（横山一康君）　それでは再々質問をさせていただきます。私、再質問の際は町長にできるだけ具体的な取り組みをどうお考えかということをお聞きしたんですが、そこはちょっと避難訓練をやるというようなことを具体的な取り組みとして私は聞こえてきたんです。もうひと踏ん張りというか、もうひと踏ん張り欲しかったなと思います。ただ町長が今お考えになってるというのはそういうところだと思いますので、そこは承っておきます。防災ハンドブックしっかり読んでいただく、組織化のために補助金を使いやすくする見直しをしていく、このようなことも非常に大事だとは思うんですが、まず私、啓発活動というのをしっかり読んでもらうためにも、ただ読んでください、今日ここで読んでくださいと言ったってこれ見てる方は限られてますから、どのように読んでもらうかというような、そういうところまでをしっかりと町は考えていかないとなかなかハンドブックが生かせませんし、いざというときに力にならないと思います。先ほど私、教育長への思いの中で子供たちの訓練のお話をさせていただきました。子供たちというのは本当に素直に毎年しっかりやっているんです。ああいう姿を我々大人も見習わないといけないこのように思います。これも先ほど再質問のときに私はお話しさせていただきましたが、町の公助としての取り組みとしては万全とは言わないまでも、私はできる限りのことを町はやっていただいてるというふうに評価してるんです。ただやっぱり弱いのはそのソフトの部分がどうしても弱いなと思いますので、ここをやはり今後のまちづくり防災体制の確立というところで、ソフトの部分をしっかりとやっていっていただきたいというのが私の願いであります。これで町長がわかったと言ってくれれば､今日の質問はもう本当に満足できるものだと思うんです｡それでもう今、世の中の流れっていうのは､自分の命は自分で守る､住民主体の防災体制に変わってきてるよと、ハードの面を幾ら準備して公助でやったとしても、それを超える災害というのは必ず起こって来る。ですから自分の身は自分で守る、この啓発活動が大事だよというふうな流れに変わってきているというふうに聞いております｡ですから行政の対応も､もちろん公助のところも大事ですが、住民がどのようにしたら組織を作りやすくできるか。どのような訓練をすれば住民が参加できるか。このようなところを少し頭を柔らかくして考えていただいて、先ほど去年の訓練は１０年ぶ

りの訓練だったというふうなことでしたが、これをもう少し頻繁にやるですとか、災害備蓄品を町がある程度の補助を出して買うですとか、そういうようないろいろなものをおり混ぜて住民の皆さんにせたな町で何としてでも災害があったときに生きていくんだというようなことを啓発していく活動、ここをしっかりと今後やっていただきたいというふうに私は強く願うんでありますが、今後、町長のお気持ちどのようにお考えになるかお聞きして私の質問を終えたいと思います。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　３回目の質問にお答えをいたします。災害に対する備えというのは大変大事なことであるというふうに思っております。先ほど来答弁させていただいておりますが、やはり何といっても住民一人一人が災害、防災これらが自分事というふうに受け止めてしっかり備えをするということが何より大事なことであります。そのために行政が何をできるかということになりますと、先ほど教育長も答弁差し上げたように、子供たちの防災教育でありますとか、町としては、こうした防災ハンドブックですとか、地域には地域防災組織への結成というようなことが様々あると思います。やはりこの子供の防災教育というのは、学校ばかりではなくて家庭の中でもしっかりとそうした話し合いがなされて、いざというときにしっかり行動できるようにという準備もまた必要になってまいります。地域におきましても、やはり共助という機能をいかに発揮することができるかということを考えながら準備を進めていくということが大事になります。公助としては、やはりしっかりと備蓄をする。そして避難時の備えをするとこういうことも大事でありますが、３．１１や能登半島地震を見ますと、やはりこの町の財政力によって復興に差が出るという状況になっておりますので、町としてもしっかりそういった財政面の備えもしっかりしていかなければならないというふうに考えております。そういうことと合わせて、町が地域や町民の皆さんにどうそういった備えを進めていけるかということが大事だというふうに思っておりますので、先ほど言ったような補助金の運用のほかに、様々な場面で地域での防災力、対策、が進むように私たちとしても様々町民に対するアプローチをしていかなければならないというふうに思っております。これからそういった部分について十分検討をさせていただきながら、この能登半島地震もこれをきっかけとさせていただいてよく学習をして職員も派遣して実際この能登での対応もしておりますので、そうした様々な意見や実態を確認して今何を急がなければならないのかということを改めて勉強させていただきながら、しっかりと対応させてまいりたいと考えておりますことで、ご理解をいただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　以上で横山一康議員の一般質問を終わります。

　次に１０番、大湯圓郷議員

○１０番（大湯圓郷君）　私からは１問だけでございます。せたな町の空き店舗についてお伺いいたしたいと思います。せたな町では空き店舗が目立つようになってきています。その空き店舗の多い中でシャッター通りを明るくするためにシャッターに絵を書いたりしておりますが、町では、この空き店舗を利用して移住してもらえると良いと思いますが、何か対策を考えていますか。またどのように全国にアピールしているか、そういうものがあれば教えていただきたいと思います。

以上です。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　それでは大湯議員の質問にお答えいたします。
空き店舗は、後継者不足や大型店舗、ネット通販の利用が増えるなど様々な要因で増加しており、多くの町でその対策に苦慮しているところであります。当町におきましても産業担い手育成事業奨励金や産業等活性化補助金によりまして新規起業者や新規事業を支援しているところであります。また新年度予算に盛り込んでおります次世代型店舗づくり事業補助金により店舗環境の整備などに支援を行う予定としております。商店街の賑わいにつきましては、町の活性化に繋がるものと考えておりますので、今後とも商工会と連携を図りながら創業者支援対策をしっかり進めてまいりたいと考えていることでご理解をいただきたいと思います。
○議長（平澤　等君）　大湯議員。
○１０番（大湯圓郷君）　町長は、この町の商工会等の動きをカバーしてくれる。また町では独自の補助もやっていますということでございます。それはよろしいんですけれども、この町の内容、この町はこういう状態ですという話を全国に発信していただけるような方法って町側ではなさっているのかなと思っています。そこでインターネット、あるいはそういうものでアピールしていただければ、この町は海あり、山あり、川あり自然に恵まれたとってもすてきな町なんですよ。それを合わせ技で商店に、空き店舗に入ってきてもらうと子供の育ちも楽しいし、それから子育てには本当にいい町なんです。そういう点をアピールして町側で全国に発信していただきたいなと思っているんですけれども、町側のそういう動きをぜひしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　お答えをいたします。現在この外への発信というのはどうなってるのかという質問であったというふうに思いますが、まず町の行政情報としてのホームページ、町もホームページ、あるいはＬＩＮＥ、さらには観光協会等の案内、商工会などについてもそういった取り組みをしているところでございます。直接こうした空き店舗の利用ということにはまだ現在のところそれほど多くはございませんが、しかしそれ以外にも町内での企業等が徐々に増えてきてございます。新年度におきましても、幾つかの新規の事業所が立ち上がるということを聞いております。こうしたことで町の活性化を取戻したいというふうに思っているところであります。町の相談窓口としては、まちづくり推進課にこれは常設しております。内容につきましては様々な国道の機関の支援をする機関の紹介、支援相談や創業支援等の事業紹介、専門家の派遣による経営のアドバイス、創業準備期間や創業後も含めた継続の支援、人材育成、販路拡大に関する知識の習得への支援、それから商工会と町の情報共有としては創業者支援カルテによるものも行っているところであります。相談機関の紹介などにつきましては中小企業総合支援センターですとか、北海道よろず支援拠点など様々な６次産業のサポートセンターも含めまして様々な対応をしているところでございます。また補助金につきましては、先ほど申し上げたし補助金以外に中小企業経営安定資金融資利子補給補助金ですとか、産業等活性化事業補助金なども用意してそうし

た対応を進めているところでございます。さらに成果が上がるように、しっかり対応してまいりたいと考えていることでご理解をいただきたいと思います。
○議長（平澤　等君）　大湯議員。
○１０番（大湯圓郷君）　町長答弁はいりませんけれども、隙間なくどんどん町外にこの町の空き店舗を利用できるようにアピールしてくれるような行動をしていただきたいと思います。
　終わります。
○議長（平澤　等君）　以上で大湯圓郷議員の一般質問を終わります。
　お昼になりましたので午後１時まで休憩いたします。

休憩　午前１１時５８分
再開　午後　１時００分

○議長（平澤　等君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　午前中に引き続き一般質問を行います。
　３番、藤谷容子議員。
○３番（藤谷容子君）　北部桧山衛生センター組合議会で資源ごみの無料化が設定されたと報告がありました。今年１０月１日から資源ごみは、透明または半透明の袋に分別して収集日に出すことになり、今までの薄い赤、青、オレンジ、白の資源ごみ袋は１０月１日以降、燃えるごみの袋として使用することになります。
　私は先月、衛生センターに見学に行き、缶類が燃えないごみと一緒に粉砕されたあとで鉄とアルミに分けられて処理されるのを見てきました。缶類を燃えないごみの袋に入れても同じだという考えに変わりはありませんが、分別の習慣をつけ、無料で回収されるならそれでもいいと思います。有料ごみ袋は、燃えるごみの緑色と燃えないごみの黄色だけになるので、少しでもごみを減らそうという気持ちになる人が増えると思います。そこで、ごみの減量化と分別を進めるには、分別のやり方や分別したものがどのようにリサイクルされるのかを周知していくことが大切だと考えますが、衛生センター組合を構成するせたな町長としてどのようにお考えかお伺いいたします。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　それではお答えいたします。
　北部桧山衛生センター組合において、更なる資源回収率の向上を図るため本年１０月から資源ごみを無料とすることになりました。衛生センター組合において、今後、資源ごみ分別に係る住民説明会の開催や啓発用パンフレットの作成などを通じまして、議員のおっしゃいましたどのようにリサイクルされるのかという部分についても合わせて説明をしてまいりたいと考えております。町としても、町民の資源ごみ分別に対する意識の向上が必要であることから引き続き衛生センター組合と連携を図り、ごみの減量化とリサイクルの推進に向け取り組んでまいりますことでご理解をいただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　藤田議員。
○３番（藤谷容子君）　再質問です。今答弁していただいたように、住民説明会やパンフレットの作成とても大事だと思います。またパンフレットだけでなく、見てわかる動画とか映像というものもあればいいと思います。分別しなければと負担に思うのではなくて、分ければ資源になる、その分お金の節約もできるということで気持ちよく分別を進めていけたらと思います。できない人は無理をせず、できるところからやっていくように進めてください。また資源を出しやすくするために、役場やふれあいプラザなど人が集まる場所に、誰が入れてもよいボックスを置いていただいて、そこにこんなふうにリサイクルされてます、この物を入れてくださいっていうのをきちんと書いてあるようなのがあると出し忘れたとか、家にたくさん溜めなくて途中で１つ２つのものも出していくというようなことができていいのではないかと考えます。ぜひそのことも検討していただきたいと思いますがいかがでしょうか。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　分別につきましては、このように町民の負担の軽減ということで、こうした分別がスムーズにされるようにという期待もしているところでございます。また議員おっしゃいました誰でも利用できるボックスをということでありますが、これは以前からいろいろと問題になっている部分でありまして、どうしてもこうしたボックスを用意すると、いつでもといいますか、町外の皆さんがごみを投げていったり、いろいろこの問題が指摘されているという状況がございます。こうした部分をどう回避していくかということも合わせて考えなければならないなということでございまして、なかなかいい考えが浮かばないというのが衛生センターとしての実態でございます。こうしたことにも少しどういう形でできるかどうかと再度、検討を加えたいというふうに思っております。いずれにしましても、こうした対応をとることによって今まで以上に衛生センターにおきまして、これを機会にリサイクル率の向上ということに繋がって地域の環境衛生が一段と高まればというふうに思っているところでございます。新年度以降体制整備を進めることにしておりますので、そういうことでご理解いただきたいと思います。
○議長（平澤　等君）　次に藤谷議員の２問目の質問を許します。
○３番（藤谷容子君）　高齢者の補聴器助成について、昨年６月の定例会一般質問で私が取り上げたことで、ぜひ実現させて欲しいという声が届いています。誰もが補聴器を買えるようにしてほしい。そんな声が各地で広がり独自の助成を行う自治体が、この１年で２倍近くに増えています。補聴器購入費助成制度を作ることは、補聴器を購入する際の経済的負担を軽減することになります。また高額なので購入を考えなかった人が購入することに繋がります。加齢性難聴でコミュニケーションが減少し、脳の機能低下につながる前に小さい声が聞こえない軽度や普通の声が声が聞こえにくい中等度の段階で補聴器を使用するのがよいと言われています。町長の町政執行方針にありました高齢者の自立の促進にも補聴器購入助成事業は必要だと考えます。
　町長の見解を伺います。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　藤谷議員の２問目のご質問にお答えいたします。

加齢性難聴につきましては、包括支援センターで継続して実態調査を進めてきたところであります。調査の方法といたしまして、７８歳以上の独居高齢者および高齢者のみの世帯を対象に包括支援センターの高齢者等支援員や生活支援コーディネーターによる自宅訪問の際に、聞こえについて聞き取るなど実際に会話をさせていただきながら調査を進めてきております。令和５年４月から本年２月までに４６９人の方から聞き取りをさせていただき、そのうち約２５％の１１９人の方が聞こえが悪く問題があると認識されております。さらにそのうち約３割の３９名の方が既に補聴器をお持ちになっておりました。また聞こえや補聴器についてお伺いした中でのご意見といたしましては、補聴器を持っているが、高価なものなのでしまってある。あるいは使い慣れなくて使っていないといった補聴器はあるが不要だという意見や補聴器を使うか考えたが高額なので迷っている。補聴器をしていても聞こえないため電話をするのが苦手、補聴器のメンテナンスに行けない、汚れて聞こえづらくなり使用しないなど、費用や使い勝手、メンテナンスに不安を抱く意見もございました。なお訪問介護事業所にお勤めされていた方のお話によりますと、耳掃除ができず耳垢栓塞が難聴の原因である場合もあるようでございます。そのような調査の経過を踏まえ、まずはこれまでどおり耳鼻科専門医の受診を勧奨しながら、支援の必要性などについて更に検討してまいりますということでご理解をいただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　藤田議員。

○３番（藤谷容子君）　今、調査の報告をしていただきましたが、まず最初に実態調査７８歳以上というのが非常に残念なことだなと思います。私は、これは補聴器については本来６０ぐらいから必要な人が出てきているのではないかと思います。ほかの自治体で導入しているところ６５歳以上というところが多いんですけれども、まだ人との関わりが少なくなっていないいろいろなところに出かけている人たちの中で聞こえがちょっと不安だなという方たち、その方たちも対象にして補聴器助成導入することによって、補聴器をちょっと使ってみようと、それがすごく大事なことだと思うんです。だからもうあまり人と関わりがなくなって、慣れなくて困っているメンテナンスに行けないという状態になる前に、もっと前に補聴器を使って人との関わりを社会的な繋がりを継続していくということが何より大事だと思います。孤立を防ぐことになります補聴器を使うことによって。あとしまっている方とか、慣れなくて使っていないとか、メンテナンスに行けないとか、そういう方たちへのアフターサービスというか、補聴器購入助成をしたからそれでいいというのではなくて、やっぱり使い慣れることが大切なので、そのための援助もしていくということも含めて、この補聴器助成制度を検討していただきたいと考えます。ご意見よろしくお願いします。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　お答えをいたします。道内にも少ない市町村数でありますが、この制度を導入しているところがございます。それらを見ますと、例えば北見市のような１１万３，０００人の人口の市でも、令和３年では７件、令和２年度は２件というような利用が非常に少ないという状況になっております。せたな町としては先ほど申し上げました７８歳以上の独居高齢者ということで調査をさせていただきましたが、議員からは６０歳あるいは６５歳、もっと年齢を下

げての調査が必要でないかというご指摘もございました。したがいましてこうした先行事例での利用率の状況、さらには６０歳あるいは６５歳以上の高齢者についても、調査を進めながら検討を進めてまいりたいというふうに考えていることでご理解いただきたいと思います。
○議長（平澤　等君）　藤田議員。
○３番（藤谷容子君）　引き続き年齢を下げて調査をして検討していただくということは、ぜひ行っていただきたいと思います。ただ制度を作って７件とか２件とか、そういう状態であったとしても、やはり制度があることが大変大事なことだと思います。それを私１番最初に言いましたように、制度があるから購入を考えようかという人もいるわけです。購入を考えようかということで耳鼻科に行って、その結果として購入するかどうか、助成があってもまだ高いというのでやめる方も、その助成額によってはあると思うんです。そういうことも含めて、たとえ最初はスタートの時点では件数が少なかったとしても、この制度を作る意義はあると考えますので、ぜひその辺もご検討いただきたいと思います。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　制度を作る際に私たちが考えますのは、その制度を有効にたくさんの皆さんに使っていただけるということが前提で政策判断をするところでございます。つまりそういった投資効果、制度の効果、あるいはこの緊急性でですとか様々な角度から検討するということになります。したがいまして、そういったことでしっかり検討させていただきたいというふうに思います。
○議長（平澤　等君）　以上で藤谷議員の２問目の質問を終わります。
　続いて藤谷議員の３問目の質問を許します。
○３番（藤谷容子君）　運転免許証を返納し、いつまでこの町で暮らせるか不安に思っている方がいます。利用者の需要に応じて路線を柔軟に対応できるドアツードアのデマンドバスの町なか運行を求めます。例えば、大成や富里から乗り若松で降りる、若松から乗ってふれあいプラザで降りることも１台のバスでできるといいと思いますし、また北檜山の町なかの自宅や生活支援ハウスから乗って病院や買い物に行くということなどもできればいいと考えます。町政執行方針ではデマンドバス実証運行事業などにより利用者のニーズや課題を探り、効率的かつ利便性を高める公共交通の形成に取り組むということですが、町なかも運行するデマンドバスについての町長の見解をお伺いします。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　藤谷議員のご質問にお答えをいたします。
　町内の公共交通体系につきましては、せたな町地域公共交通計画を基に昨年１２月に開催された、せたな町地域公共交通活性化協議会におきまして同計画を推進するにあたり、今年度以降の施策の推進方法について協議をした結果、交通空白地域におけるデマンドバス運行の検討を優先して進めるべきとの意見が多くありましたので、町としましても町内を運行する交通のサービスレベルの統一、交通空白地域の解消を優先的に取り組んでいきたいと考えております。町なかのデマンドバスにつきましては、そうした状況を解消したあとに検討したいと考えているところで

ございますのでご理解いただきたいと思います。
○議長（平澤　等君）　藤田議員。
○３番（藤谷容子君）　先ほどの桝田議員の質問でデマンドバスのことが出ておりましたが、現在、非常に不公平な状況になっているということが明らかになっていると思います。誰もが安全で安心して移動できるそういう町にしていただきたい。しかしなかなか難しい問題もあり、すぐには実行できないのだろうというふうなことは考えます。今金町のデマンドバスのように町なかどこでも行けるというのが理想ですけれども、今、無料で病院に通っている方の町民の新たな負担を望むものではありません。しかし不平等な状況もなくしていくべきです。いろいろ難しいと思いますけれども、先ほどありましたような通院については通院バスチケットのようなものも検討していただけたらなと私も考えます。ぜひ検討していただき、高齢者の方が免許証を返納しても大丈夫、この町では自分たちの足はちゃんと保障してくれる、安心して暮らしていけると思えるような施策をよろしくお願いいたします。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　お答えいたします。議員おっしゃられるように、町なかについてもデマンドバスの対応ということは最終的な目標となっているところでございます。私たちとしてもなかなか一気に解消ができないというジレンマもございますが、しかし事業者の準備にも相応の時間を要し、一気にできるものではないということにつきましてもご理解をいただきたいというふうに思います。いずれにしましても、そうした理想的な方向に向けて利便性、あるいは気軽に利用していただけるようなデマンドバスの整備というものをできるだけ早い時期に実現をしていきたいということでございますので、ご理解いただきたいというふうに思います。また新年度のデマンドバスの運行の検討状況でございますが、新年度におきましては、北檜山区の若松、富里、二俣、小川、雲内、栄、共和地区と瀬棚区の東大里、西大里地区等についてデマンドバスの実証運行を実施する予定としております。若松方面につきましては、デマンドバスが本格運行した際には北檜山市街地までの利用が可能となりますので、議員の質問にありましたとおり富里から若松や若松から北檜山などを自宅から希望する場所までの移動が可能となるはずでございます。できるだけ本格運行に向けて整備を急ぎたいというふうに考えておりますことでご理解いただきたいと思います。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　町長、藤谷議員からバスチケットの購入について検討してほしいという再質問の中であったんですけど、その分についてお願いします。
○町長(高橋貞光君)　それらにつきましても午前中の同僚議員の質問にお答えしましたとおり、いろいろ検討させていただきたいというふうに思います。
○議長（平澤　等君）　次に藤谷議員の４問目の質問を許します。
○３番（藤谷容子君）　国民健康保険税は、同じ年収の会社員が支払う健康保険料と比べて２倍も高く、他の健康保険にはない子どもも含めて１人１人にかかる人頭税のような均等割があります。未就学児は軽減措置で５割とされておりますが、子育て世帯の負担軽減のため対象範囲及び

軽減割合の拡充を行い子どもの均等割の減免を求めるものであります。赤平市、陸別町、芦別市は１８歳以下を免除しています。せたな町でも、ぜひ減免を行っていただきたいと考えますが、町長の見解をお伺いします。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　質問にお答えいたします。

国民健康保険制度では、全ての世帯員が等しく保険給付を受ける権利があるため、均等割保険税として世帯の人数に応じた応分の保険税の負担をいただくこととされております。その中で特定の対象者に対し均等割保険料を一律に減免することについて、国においては画一的な基準を設けて減免を行うことは、明確に法令違反とは言えないものの適切ではないとされております。これを踏まえて、北海道では令和１２年度からの全道統一した保険税率を進めている中で、令和８年度末までに市町村による独自の減免を解消し北海道標準例への統一を目指すこととされています。以上のことから、町としても子どもがいる世帯を対象とした保険税均等割の独自減免は考えておりませんのでご理解をいただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　藤田議員。

○３番（藤谷容子君）　子供の均等割の問題は、課税能力がない人からも納入させるような形になっていること、少子化対策、子育て支援などと矛盾していることにあります。本来は子供の均等割は全てなくすべきだと考えます。せめて就学前を免除するとか、１８歳以下を５割にするとか、そうした町独自の施策を求めます。町長の答弁では、町独自の施策は国の制度として適切ではないということでしたが、現在、国民健康保険は、地域によって柔軟な対応ができるよう保険料率については、市町村ごとに設定することを基本というのがあります。自治体の裁量で保険料を引き下げることが今はできます。札幌市は基金を使用して保険料引下げを行っています。先ほど答弁にありました北海道が令和１２年度完全統一をしていくということで、これ全国的に統一するということで、各自治体のそういった柔軟な対応が難しいような状態が作られようとしています。しかし北海道の令和１２年度完全統一というのは、４７都道府県の中で６番目に早い目標です。これは北海道の各地方自治体が努力をしたり声を上げたりする中で変えていけるものだと考えます。完全統一自体が私は反対するものであります。しかし国民健康保険がなぜこんなに高いのかということで言えば、この保険料の引下げを行うには、根本的には全国知事会が厚労省に要求している１兆円の公費の投入が必要です。１兆円投入すれば６割になり、ほかの協会けんぽと同じ状態になります。それがない中で各自治体が独自にやっていくことには限界があるというふうには考えます。しかし国や道の言いなりではなく、自治体の裁量でぎりぎりの努力を行う自治体が独自の減免を行うということが､北海道の令和１２年完全統一も遅らせることができるし、その後も自治体の裁量でこの軽減など保険料を決めていくことができるということに繋がっていくと考えます。そこであえてこの時期にせたな町でも減免を行っていただきたいと考えます。いかがでしょうか。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　今、子供の均等割を減免してはいかがかというお話がしがございました。

実は令和４年度からこれまで各都道府県一本化ということがそれぞれの都道府県で進められておりまして、北海道もその方向に進めていっているところでございます。国でも令和４年４月から子供に係る保険税の均等割額の軽減措置、これが実施されて負担の軽減が図られているほか、本年１月から出産時における保険税負担の軽減措置これも実施されまして、子育て世帯の負担軽減が図られているところでございます。国民健康保険の場合は他の健康保険に比べて高いということでございますが、実は他の保険につきましては事業主負担ということで、これが加入者の負担軽減が図られていると。国保の場合は個人事業主が多いということで、この事業主負担という部分については、これとはちょっと違った状況になっているということでもございます。現在、北海道を幾つかのこの区分に分けて保険料の設定をしておりますが、せたな町の状況を申し上げますと、せたな町は非常に医療費が高い部類に入っております。そうしたことから考えますと今のせたな町の皆さんがこの払っている保険税というのは、かなり実態からして今までの町単独の保険料から比べますと軽減されてきているということになります。これが全道統一一本化になりますとさらに状況が変わってくるということもございます。私たちとしては、できるだけ早く北海道一本化、１２年ということになっておりますけれども、そういったことで進めていくのがせたな町としての町民のためになるというふうに認識をしているところでございます。もう少しのことでございますので、どうかひとつご理解をいただきたいというふうに思います。

○議長（平澤　等君）　藤田議員。

○３番（藤谷容子君）　国保が高いのはほかは事業者が払ってるということなので、国保については国の１兆円規模の公費の投入が必要だということです。それは全国知事会が厚労省に要求してますので、その辺は町としても、しっかり考えて各地方からも声を上げていくことが大事ではないかと考えます。国保の場合は個人事業主が多いということですが、年金者とか農業者とか、いろいろ大変な状態の人もたくさんいるわけで、減額を考えていくということは、町としてぜひ検討していただきたいと思っています。国、道の言いなりではないせたな町が町民の暮らしを考えての施策を考えていただきたいなと考えています。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　実は１兆円の話が出ました。知事会で今要望を上げているという状況でございます。北海道国保連合会といたしましても、いろいろこの財政基盤強化に対する国の支援を求めております。ようやく３，０００億の財政基盤強化の負担軽減といいますか、そういった部分での国の予算が今入っております。詳しい数字は押さえておりませんが、相当減額になっていると負担軽減に繋がっているという状況にございます。こうしたことがこの３，０００億円がよりこの増えていくようにという、この連合会、私たち町村会としても要望しておりますし、これも今後ずっと続けるようにということをお願いしているところでございます。いずれにしましても、町民の負担する国保税、これの軽減というものがしっかりできるような町政の責任者としての運動をしっかり行ってまいりたいというふうに考えておりますことでご理解いただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　次に藤谷議員の５問目の質問をいたします。

○３番（藤谷容子君）　同性パートナーも配偶者と認めるパートナーシップ制度の導入を求めます。パートナーシップ制度は、今年２月１日時点で３９０を超える自治体で導入されています。性別だけを理由に結婚できないのは個人の尊厳を損なうことになります。不平等を解消し性別にかかわらず、誰もが結婚するかしないかを自由に選択できる社会を求めます。パートナーシップ制度は、国が法律で認める結婚とは全く別ものですが、行政が同性カップルの存在を認めることは同性カップルが共に生きていることに気づくきっかけにもなるし、あらゆる人の人権を大切にしている町であることをアピールすることにもなります。函館市や北斗市、東川町や美瑛町なども導入しています。江差町も導入することが決まりました。ぜひ、せたな町でも導入していただきたいと考えますが、町長の見解をお伺いいたします。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　それでは藤谷議員の５問目のご質問にお答えいたします。
　日本では法律上、同性同士の結婚は認められておりません。そのため同性カップルには、一般的な夫婦と同じようなサービスを利用できない状況にございます。一方、議員から導入要望のあるパートナーシップ制度は､特定の地方自治体がパートナーに対し家族と同等であると認めると、こういう制度ですが、法律上ではパートナーであっても他人と扱われるため法的拘束力はございません。パートナーシップ制度を導入することでサービスを一般的な夫婦と同じように受けられる可能性もありますが、その制度はあくまでも条例や要綱を制定した自治体に限定したものになり、全国共通で利用できるわけでもないことから転居した際、同一のサービスを受けられなくなる可能性など課題も指摘されております。町としては、今後パートナーシップ制度の導入に係るメリット、デメリットを先進の地方自治体を参考にしながら内容を精査した上で導入の是非について考えていきたいというふうに考えていることでご理解いただきたいと思います。
○議長（平澤　等君）　藤田議員。
○３番（藤谷容子君）　再質問を行います。今、答弁の中で先進のところからメリット、デメリットを考えながら検討していきたいということでしたけれども、私はせたな町に先進になっていただきたいなと考えています。自治体として差別や偏見をなくし、少数派であることを理由に本来受けられるはずの権利が受けられないという状況を放置してはいけないと考えます。せたな町の総合計画でも人権尊重を基本計画の項目に挙げています。差別や偏見を許さない多様な性を認める町にパートナーシップ制度の導入は欠かせません。この制度があることは、行政が性的マイノリティーを認めていることになります。勇気や希望を与えることになりとても意義のあることです。調査によってばらつきはあるものの１３人に１人いると言われている性的マイノリティーの方は今までタブー視されてきました。当事者はそのような環境の中で自己否定感を強めていたところ、パートナーシップ制度が始まることで自分の存在が認められたと感じるでしょう。制度を作ってもすぐ制度を利用する同性同士のカップルはいないかもしれません。しかし性的少数者の存在を想定した社会になります。今を生きる当事者だけでなく、これから生まれる当事者や子供らが悩まなくてもいい未来にしていきましょう。そのことで例えば医師免許を持っている人や移住を考えている人が、当事者であったり、当事者でなくてもシングルマザーやシングルファザ

ーであったり、その他、今の社会で生きづらいと感じている人がこの町に来てくれる可能性が広がります。ぜひ検討していただきたいと考えますがいかがでしょうか。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　お答えいたします。この同性パートナーシップ制度の導入につきましては、これは御党の強い政策の一つであるというふうに理解をしております。ただいま議員からはいろいろと制度の導入についてお話がございました。相当熟知されているものというふうに感じて聞いておりました。いろいろな効果があるよとありますよということについても伺ったところでございます。したがいましてぜひ検討していただきたいということでございますので、これは検討させていただきたいと思います。
○議長（平澤　等君）　以上で藤谷議員の一般質問を終わります。
　次に１番石原広務議員。
○１番（石原広務君）　それでは１問目、高齢者対策についてお伺いいたします。せたな町の高齢化は加速し続けています。人口減に伴って少子化と同様に超高齢化は深刻です。もちろん町長として現状把握をしていると思いますが以下の点についての考えを伺います。
　①介護事業所が安定的に持続、継続できるよう基金の創設などの対策も必要と考えますが町長の見解を示してください。
　②介護に関わる人材確保に対し町の支援策を改めてお知らせください。
　３つ目に有資格者をはじめとした職員の増員をするべきと思いますが町長の考えを示してください。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　石原議員の１問目の質問にお答えいたします。
　１点目につきましては、以前より他の議員から同様の質問を受けておりますが基金の創設については考えておりません。
　２点目の人材確保の支援策につきましては、平成２８年度から実施している介護職員初任者研修と実務者研修の受講料を助成する介護人材確保・育成事業助成金、令和３年度からは、せたな町内に定住し新たに町内の介護保険施設等に就職する介護従事者等に対し定住、家賃、引越費用を助成する介護従事者確保・定住対策事業助成金の支援策のほか、昨年１２月に今金町と合同で栗山町が町立北海道介護福祉学校の教育機能を活用した自治体包括連携協定を３町で締結し、新たな人材確保の取り組みを行うこととしております。
　３点目の有資格者の職員増員につきまして、保健、福祉部門にあたっては、有資格者の採用に苦慮している現状がありますが、令和６年度に保健師１名の採用を内定しております。保健師をはじめ介護支援専門員、社会福祉士などの有資格職員につきましては、職員の年齢構成などバランスも視野に入れながら計画的な採用を行っていくこととしておりますのでご理解いただきたいと思います。
○議長（平澤　等君）　石原議員。
○１番（石原広務君）　それでは再質問させていただきます。１番目の基金の創設、これは町長

おっしゃったように菅原議員のほうから幾度となく町長に一般質問の場でも申入れをしています。これ町長、現場からの生の声もあるんです。というのは、このあと３問目に雅荘のことで一般質問用意してるんですが、なぜ不公平なんだろうと。うちみたいに、うちも大変なんだと浜言葉で言わしてもらいますけど、先日も、ゆるくないと。大変だということを実感として伝わるような言葉も出てきたんです。基金ができない理由、それは本当に私としてもわかりません。その理由も改めて町長はっきりと述べていただきたい。

②の町の支援策いろいろ説明ありましたが、その中で永住すること、これが大前提です。介護に従事する方、定住確保も目的の一つとして、それなりの支援策を打ち出してるのは私も認識してます。それ確認させていただきます。以前に予算委員会だったと思います。介護事業所に係る全ての有資格者というのは、看護師等の資格も含めて対象の幅を広げてくださいと。そのときの副町長の答弁は前向きに検討しますだったんです。そのあと担当から連絡が来て一応内部の協議では、看護師から栄養士、要は介護事業所に係る全ての有資格者、それに対象を広げたいということでの連絡があったのですが、そのあと私も確認はしてません。そこをまた改めて確認させてください。

最後３番目、令和６年度、保健師の確保が見込まれるということですが、これ今回一般質問、高齢者対策として通告させていただきました。これ今本当に今さらですけど、町長、本気でこれ取り組まないと、取り組むべきなんですもっと前から。というのは、それが実感として前回の３月議会に向けての常任委員会、その中で担当のほうから地域福祉計画もろもろ説明をいただいたんです。それに関連して町長に考え方を質問に合わせて伺ったんです。そのときに町長ご記憶されてると思いますが、総務厚生常任委員会として介護事業所連絡会議ですか、そことの懇談会をと設定して、各事業所も参加していただいていろいろ意見をいただいたんです。それが基で横山委員長が提案者として国に対して意見書を出したんです。これは介護報酬の改定に係る基本報酬の大幅な引上げと、介護従事者の処遇改善を求める意見書、これは確かに国に対する意見書だったんです。これはせたな町議会としても全会一致で採択されました。このきっかけになったここも踏まえて話戻りますが、常任委員会で考え方、町長に伺ったんです。ご記憶だと思うんですが、町民の数、高齢化進んで人口減で、そこを分母に例える、それで介護事業所の数を分子と例えるといった声があるんです。要は人口が減って、でも介護事業所の存在は、そのままとりあえずは維持されてるんです。だけど先日補正予算の中で特老と地域密着型、その施設の定員に満たってないっていう実情が質疑の中で改めて議員の方々も認識されたと思うんです。定員に満たないということは、事業所として減収になるわけです。縮小も余儀なくされる。これ縮小しなきゃないっていう生の声もあるんです町長。それに対して町長、全体的に人口減少を見た場合、やはり福祉施設については空いてくるという状況が将来予想されます。このあとはしかし一方では、介護人材、福祉人材の確保も厳しくなるというようなことも予想されます。これ繰り返して先には予想されるとか、そういうときになったらとか、この数年そういう言い方を常々されるんです町長。これ町長の答弁を聞いて正直言いますと、何でしょう怒りと呆れと、逆にこんな私でも町長、悲しくなりました。担当が苦慮されて打ち出したこの地域福祉計画、町長には失礼だったかもしれ

ないですけど、そういった基本的な認識を変えないとこういった計画も含め、この町崩れますよと。私常任委員会ですけど言わせていただきました。今回高齢者対策についてということで一般質問ですけど、ちょっと基本的な福祉という観点から数年前には詳細を言ってしまうと、どこの施設ということになってしまうんであれですけど、１０人ばかりの障害者に、町としてそんな予算付けられるかと。あなたはっきりおっしゃったんですよ担当者に。要は福祉という観点からそういう基本的な考えを変えないと人口減、少子化、本当に超高齢化、せたな町としては、産業もそうですけど１丁目１番地に政策として取り組むべき大事な案件だと思います。基金の創設は、同僚議員の質問というふうに先ほど町長の答弁でありましたが、考えていないということです。それはなぜですか。こんだけ苦しんでる現状があるんです。手の出しやすい高齢者を支える事業として展開している。これ高齢者に対するこういった事業所が維持継続できるということは、町の産業発展にも繋がるんです。高齢化を抱える家族家族が安心して預けていられる。家族を預けてくれる､預かってもらえる｡そういった施設があるからこそ安心して産業に従事できるんです。そういった観点からも町長、ぜひ①で申し上げた基金の創設、でなければ基金という言葉を使いたくなければ、何か新たな事業者がきちんとそれに飛びつけるような取り組みをぜひしていただきたい。少し長くなりましたが再質問終わります。

○町長（高橋貞光君）　ちょっと確認していいですか。何を質問されたのか、今のところ聞き取れなかったんですか。

○議長（平澤　等君）　暫時休憩します。

休憩　午後　１時５６分

再開　午後　１時５８分

○議長（平澤　等君）　会議を再開いたします。

石原議員の２回目の答弁を町長にお願いいたします。

町長。

○町長（高橋貞光君）　お答えいたします。基金の創設ですね。この基金の創設につきましては、これはいたしませんという答弁を差し上げました。現状の基金を使うまでもなく、一般財源を入れて十分賄ってやれているということでございますので、そういった答弁を差し上げました。介護施設の人材の制度の拡大ですか｡これにつきましては議員おっしゃるとおりやってございます。いずれにしましても、人材不足、少子高齢化、人口減少が進んで人材不足ということが大変大きな問題になっているところでございます。これはこの介護ばかりでなくて、全ての産業において同じような傾向というふうになっております。どの事業所、他の産業におきましても経営を維持するということは大変なことでございます。そうしたことで現状厳しい状況ということになっているものというふうに思っておりますが、大事なことは経営難だとすると、その原因は何かと、大きな原因は何かということもしっかり見つけながら改善を進めていくということも大事なことでございます。議員言われるように定員割れが相当経営を圧迫しているというふうに感じており

ます。この定員割れの関係ですが、現状調査をしたところ、２８名の定員割れが生じていると。こういうことになっております。今金町におきましてもそういう状況ということで１ユニット削減、それでも７割ほどしか入っていないと、こういう基本的な状況をまず取り除くという努力もしていかなければならないものというふうに思います。この持続可能なこういう施設の在り方というのは、これはやはり町ももちろん考えてまいりますけれども、いわゆる経営をされている皆さん方が中心となって考えていかなければ、なかなかこの困難を乗り越えることはできないというふうに今思っております。大事な産業でございますので、他の産業と同様、町としてはしっかりと支えてまいりたいというふうに思っております。そういったことで、ご承知のように５年度につきましては１，５００万を超える支援策を出したということで、また喜んでいただいているところでもございます。しかし、この経営を全面的に町が支えるということにはなりませんので、ひとつ経営手腕を十分しっかり発揮していただいて対応していくと、そういう努力もお願いしなければならないなと考えておりますことでご理解いただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　石原議員。

○議員（石原広務君）　先ほど今確認しようとしたんですけど、時間の関係でここで一応聞かせていただきます。２８人と言ったのはこれ全体というふうに捉えていいです。わかりました。基金を創設しなくても対応できると、一般財源を投入できる。それも皆さんご承知なんです。承知した上で、それでもそういった基金の創設を本当に望んでるんです。それ最大の原因が町長、雅荘再開に向けて、もうこれ何回も言ってます。再開に向けた雄心会が出してきた計画、５カ年計画、それに対して１億２，５００万、これ出す考え示されましたよね。そういったことでうちも、あちらもそういった声広がってるんです。率直に申し上げます。不公平じゃないかと。なぜそこだけにそんな税金投入できるんだと。一般財源だけで町長おっしゃるように、これが対応できるのであれば不公平だという言葉出ますか。それで町長、これお怒りの声広がります。というのは、事業所としてそれだけ経営が困難なのであれば、どこが原因か検証するべきだと、町長おっしゃいましたよね。検証してるんです。自ら人件費削減で、それなりの身を削る事もしてる、実際してるんです。その上でそういった声があるんです。町が全て対応できるもんではないという趣旨の発言されました。ほかにも産業あると、それは十分認識してます。今高齢者対策について限定して質問させていただいたんです。全てにおいて町長答弁したように広げて答弁されるんだったら、私も広げて質問したら、これとんでもないことになるじゃないですか。議長に何回も議事進行かけられますよこれ。町長繰り返します。せたな町にとって産業振興もこれ本当に大事です。それと合わせて、高齢化、高齢者に対する対応は本当にすぐ取るべきだったんです。このあと考え直して取り組んでください。繰り返します。高齢者対策、町として取り組めるべきところを取り組んで、それが産業振興に繋がる、これ間違いありませんから。あと職員の確保について確かに苦慮されてるという答弁もされました。以前に民間から有資格者が町職員になったことに伴って、その前にヘルパー事業ですか撤退するっていうことに合わせて、町とともに協議してる最中に有資格者、町の職員になったんです。それで民間のそういった事業にも影響出たんです。町長お知らせしますか、ヘルパー事業とかもかなり影響出たんです。ご記憶ありませんか。それでも

皆さん介護にかかる事業所は自らの判断で人件費抑制、そういったこともとっくに手を付けてるんです。そういった状況の中で、町に対する基金も含めたそういった要望は生の声で現実としてありますから。先ほど障害者に対してということを１例申し上げましたが、基本的な考えを直していただきたいということで私先ほど申し上げさせていただきました。１０人ぐらいの障害者にそんな予算付けれるか、介護事業所に関しては、お前たち皆独自努力しなさいというようなことに伝わるような考えではなくて、超高齢化これ進むせたな町、集大成の５期目です。町長として考え方示してください。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　まず職員の確保の件ですが、技術職のお話だったというふうに思いますが、これは先ほどもご説明してたとおり、保健師１名につきましては採用内定ということになっております。そのほかにつきましても不足が生じると予測された中で、しっかりと採用努力をしてまいりたいというふうに考えております。この介護事業の関係ですが、議員は大事にされていないんじゃないかというような趣旨での発言でございました。しかし私としては、これは大事な事業というふうに受け止めておりまして、したがって今回も介護障害施設等物価高騰対策支援金を交付しながら支えてきたところでございます。こうしたことで一方で先ほどお話ししましたように、定員に満たないと、いわゆる定員割れが生じているということで、これではやはり健全な経営というものは維持できるものではないなというふうに思っております。適正な定員を維持すると。もちろんこれは町民のそういった施設の入所ニーズもございますので、それについてしっかり今検討されながら対応していくという努力も一方でしなければならないのではないかというふうに思っているところでございます。

雄心会の関係でございますが、これは議員もご承知のとおり、前法人が事業を休止するということでいろいろと議会の皆さん方ともご相談をさせていただきながら、ご理解をいただいて代わって経営を行っていただいていると。特にこの雅荘につきましては事業を停止しておりましたので、職員も入所者もいないという中で事業を立ち上げていただいたということで、そうした部分での支援ということでございまして、この議員おっしゃっております今の介護施設等への支援とは、これは全く状況が違う支援でございますので一緒にはできないなというふうには思っているところでございます。ご理解いただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　議長として町長にお願いいたします。質問されてないことについては、多く語らないようにしていただきたいというふうにお願いいたします。

これで石原議員の１問目の質問を終わります。

２問目に入る前に２時２５分まで休憩いたします。

休憩　午後　２時１３分

再開　午後　２時２５分

○議長（平澤　等君）　休憩を解き会議を再開いたします。

一般質問を続けます。

石原議員の２問目の質問を許します。

石原議員。

○議員（石原広務君）　それでは雅荘の存続について、雅荘の再開に対し５カ年計画を基に１億２,５００万円が拠出されます。現在は雄心会の努力もあり運営されていますが、町に対しては雅荘の単体での事業運営は困難とする考え方も示されています。再開６年目以降も運営するという内部からの強い声がありますが、６年目以降の展望を町長自ら雄心会と協議をし、その方向性を早い段階で議会に示すべきと考えますが町長の見解を示してください。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　それでは２問目のご質問にお答えいたします。

雅荘の単体での事業運営は困難とする考え方も示されているということでしたが、雅荘はきたひやま荘のサテライト型特別養護老人ホームとして運営されている施設であり、雅荘のみでの運営は許可されておりませんのでご承知おきください。また雄心会では６年目以降も運営を続けるということでありますのでご理解をいただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　石原議員。

○議員（石原広務君）　町長、サテライトだということは私認識してます。雄心会側これまで恵福会が存在はこれもうほぼダメだなっていう状況の中で連名で、町長、雄心会、恵福会で連名で計画書を表に出して１億２，５００万を要望してきたその中の理由私言ってるんです。そこで見解出してたじゃないですか。単体での事業運営は困難だと。雅荘再開に向けてはイムスグループとの協議それも交渉決裂、次に秘策がある、なかなか教えていただけなかった。後に教えていただいたのがそれなりの力がある雄心会､ノウハウお持ちなんです｡やっていただけると思います。そういった状況の中で５カ年計画をもとに、単体での事業運営は困難なので１億２，５００万出してくださいという要望が出たことを言ってるんです。先ほど町長は１問目の質問で、ほかの介護事業所、定員割れが続いてるんだったら各事業所経営努力しなさいっておっしゃったけど、現に雅荘今定員割れしてますよね。そこに対して確かに結果論かもしれませんけど１億２，５００万そちらに出してるんです。ほかの事業所もそれ以上に努力されてるんです。先ほどの質問に少し戻りますが、この１億２，５００万を拠出した町の町長の政策なんです。これに対して不公平だなっていう言葉出てこれ当然じゃないですか。そこの実態をきちんと踏まえてくださいって言ったのが先ほどの質問なんです。今何ですかサテライトだから、雄心会としてはきたひやま荘と同じく経営してて、一つで事業運営してるんだっていう答弁でしたけど、それは十分認識してるんです｡ただ現実問題として､先ほど繰り返しになりますけどノウハウをお持ちの雄心会でさえ、雄心会これ当然の判断なんです。地域密着型小規模特養ホームせたな雅荘、地域密着型の特別養護老人ホームは単体での事業運営は困難だ。いいですか、しゃべってて、さっきみたいに何言ったかわからないなんて言わないでください。いいですか町長。その上で出してきたんです。町も力を入れたじゃないですか再開に向けて､推進室立ち上げたんです｡常任委員会の提案は総務課、財政課、まちづくり推進課でしたっけ、そこに常任委員会の委員からの提言で座長に副町長が入

ったと、そこで力を入れて再開に向けて動いたんです。ただそれ切替えて存続についての推進室に切替えたらいいじゃないすか。いやいやそこまで絶対やれということはないです。ただ先ほど最後のほうでやると。雄心会のほうと協議したのかどうかはっきりはおっしゃいませんが６年目以降もやるんだと。じゃ先ほどの質問、ほかの介護事業所が大変だという状況に対して基金は設ける考えはないと。じゃこの雅荘再開に向けた基本計画５カ年計画を基にした１億２，５００万、債務負担行為までして出した。そういった考えを示した。同じようにほかの介護事業所にも、町として相応の支援するべきじゃないですか。要望出たらみんな答えるんですか。いや答えていただきたいと思いますよ。ほかの介護事業所から同じように、だんだん持続できるのは困難になったんですよねって、町長、雄心会のようにうちの数千万出してくださいって。常任委員会皆さん了解すると思いますよ。町長の考え方を示してくださいって私は繰り返し言ってるんです。片方の再開に向けた推進室を立ち上げて、副町長まで座長について、当時の福祉課担当抜きに雄心会と協議してですよ、一切情報が余りないんだよねと。総務課長が常任委員会で説明に立つと、あそこまで力を入れたじゃないですか。そこはほかの介護事業所に対して公平な扱いをしていただきたいということを強く申し上げます。６年目以降も継続してやると。その条件もはっきりつかんでるんであれば、というのは単体での事業運営は困難なので１億２，５００万出してくださいと。債務行為負担、議会でも言葉として出てましたが、何かそういった、はっきりしたことを示していただければ､うちとしてやってもいいですよっていうふうに私はとってしまったんですが、そこはもう今度３年目ですか再開して、６年目以降はやると聞いてると。ほかの事業所のように定員割れしていても町からそれなりの支援策を示さなくてもやるという判断についているという考えで町長はおられるのか。はっきり答弁いただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　お答えをいたします。まず雄心会に１億２，５００万支援したのであれば、ほかの事業所にもというご質問だったように思いますが、実は大きな違いは、これは雅荘を含む全体の事業を雄心会に継承していただいたとうことでございまして、その中で雅荘はご承知のように当時休止しておりました。したがって職員も誰もいない空き家状態ということでございました。それをゼロから再開してもらうということでそこには様々なもちろん修繕もありましたでしょうし、人材の確保から入所者の確保と様々の課題があったということで、これは確か議会にもこの辺の説明をして１億２，５００万を出して、雅を含む恵福会の事業を継承していただくとこういうことでご理解をいただいたものでございます。当時のこの事業者が全て撤退するということになると、これも議会でも説明申し上げましたが１億７，０００万以上の損失を被るということでありましたので、１億２，５００万出しても何とか再開をしてもらう、事業を継承して事業を進めてもらうということのぎりぎりの判断ということでございました。これは議会にもその旨しっかり説明をして、ご理解をいただいて決定をさせていただいたということでございますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　石原議員。

○議員（石原広務君）　町長また石原しつこいなって言われるかもしれませんけど、先ほどの答

弁聞いてると、当時雅荘抱えた恵福会が再三にわたって相談始めたというのが、あれこれ雅荘の経営って大変なんだなっていう認識を持った最初だったんです。ところがどうですか町長、全然その相談に乗ろうとしなかったわけじゃないですか。私の認識では、当時の議長に当時の恵福会の理事長が相談持ちかけて、そのときの総務厚生常任委員会正副委員長が動いて、数千万なり合わせてですけど、再開に向けた補填を決めたんです。ところが当時恵福会は町側の説明の中にありました人材確保が困難だということで、町長は積極的に取り組んでもらえなかったっていうのが実際の声だったわけじゃないですか。恵福会が休止ということで手続きに入ったら、振興局ですか、道のほうが、いや人材を確保できないんだったらこのあとも見込みないんだったら休止でなくて廃止じゃないですかっていうことを言われて、廃止の手続きをとろうとしたら１億５，０００万の返還、申し訳ないけど町長そういう実情になって慌てたの町長じゃないですか、最初は強気でしたね。恵福会の建物だから１億５，０００万を恵福会で返すべきだ。ところがそういう状況が、やっと理解したのか、今度町長自ら協議を始めたわけです。イムスグループに出向いて協議を始めて、そのときも同じです。やっていただけると思います。やっていただけるはずです。町長も副町長も口揃えておっしゃったんです。ちょっと言葉として前後しましたが、やっていただけるというのが、数回後には、いや多分やっていただけると思います。その状況を逐一きちんと常任委員会に報告してくださいと。当時の委員長がきちんと町に提言して次報告きたのが、いやイムスグループとの協議が決裂しました。そのあと出てきたのが雄心会です。最初は秘策、町長、お金なくても町が定員割れが続く状況でもノウハウお持ちの雄心会が地域密着型小規模特老は、なかなか単体での運営は困難だね。確かにきたひやま荘も含めてサテライトでやってるけど、恵福会の当時の方々も荷物になってしまってるなってあえて言わせていただきますが、そういった状況でも同じようにほかの事業所と合わせた中で支援策を打たなくても、６年目以降も雄心会の企業努力で継続するというふうな判断をしてるというふうに理解してよろしいですか。そこをはっきり答えていただきたい。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　お答えいたします。そのとおりでございます。

○議長（平澤　等君）　次に石原議員の３問目の質問をいたします。

石原議員。

○議員（石原広務君）　雅荘６年目以降は存続するということを町長からはっきりと答弁いただきました。

３問目、資源ごみ分別の取扱い及びハラスメント問題について、北部桧山衛生センター組合における資源ごみ分別の取り扱いについて、２月１４日北部桧山衛生センター組合議会全員協議会において決定されたことが３月１日付で町長名で議会議長宛に提出されました。町政執行方針でも、資源ごみに関しては無料にするとの方針が示されましたが次の点についてお伺いします。また令和４年度決算審査時において、町側からハラスメント問題に関し後日報告をする旨の回答を得ておりますのでその点についてもお伺いします。

１つ目、分別され、専用袋に入れて出されていた缶類の処理が、他の燃えないごみと一緒にな

っていた事実と謝罪を含めた周知をせたな町長としてせたな町民に対し行わないのはなぜでしょうか。

２つ目、資源ごみの無料化を１０月１日から実施することに至った協議内容をお知らせください。

３つ目、ハラスメント問題に係わる職員等への聴き取り調査の詳細をお知らせください。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　それでは質問にお答えをいたします。

１点目のご質問についてでありますが、缶類については平成１２年度にリサイクルセンターに整備される以前から破砕処理施設において機械選別で資源化されており、新たにリサイクルセンターにおいて機械選別する施設を整備せずに、建設コストの削減を図ることから従来どおり破砕処理施設で分別リサイクル処理していたところであります。この缶類の処理について、組合で不燃ごみと一緒に破砕処理されており、分別する必要はないのではないかという意見がございますので、これについては資源ごみの分別を開始した当初からの町民への周知が不十分であったものと思っておりますので、今後衛生センター組合としては、その経緯など町民へ周知してまいりたいと考えております。

２点目の資源ごみの無料化を１０月から実施するに至った協議内容でございますが、３月１日付で議会議長宛に報告いたしましたとおりであります。内容については、２月１４日に開催された令和６年第１回北部桧山衛生センター組合議会全員協議会におきまして、資源ごみの分別について協議がなされ衛生センター組合として更なる資源回収率の向上を図るため、収集資源ごみ、更に分別された資源ごみを直接組合に搬入された場合も無料と決定されたところでございます。なお実施時期については、住民への周知や収集業務委託業者の調整などを考慮いたしまして本年１０月１日からとしたところでございます。

３点目のご質問ですが、決算審査特別委員会において質疑のあった職員等のハラスメントに係わる聴き取りを副町長が次のとおり行いました。令和６年１月２６日に受託業者２社に電話で確認をしましたが、現場からはそのような報告は受けていないとの回答でしたが、会社の了解を得て後日、現場職員に聴き取りを行いました。その結果、パワーハラスメントの事実はないが不適切な言葉使いと感じることがあったとの説明でした。２月１日には、職員７名のうち６名について面談を行った結果、１名からパワーハラスメントを受けた旨の説明がありました。このことから、準用するせたな町職員のハラスメント防止等に関する要綱に基づき対応してまいります。なお残る１名の職員については日程を調整し面談を行うこととしておりますことで、ご理解いただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　石原議員。

○議員（石原広務君）　先ほど私の聞き間違いなのか、町長答弁いただいたように令和６年３月１日付、せたな町長名で議長宛てに、北部桧山衛生センター組合における資源ごみ分別の取扱いについて、令和６年２月１４日開会の令和６年第１回北部桧山衛生センター組合議会全員協議会において資源ごみ分別収集の取扱いについて、次のとおり決定されましたので報告します。町長

これ収集日に分別して排出する。これも無料という考えになってますけど、それでいいんですよね。さっきなんか持ち込んだものだけっていうふうに違います。失礼しました。であれば改めて伺わせていただきます。町長、先ほどご報告いただいたとおり、収集資源ごみの無料化、要はこれ資源ごみ袋等を購入して排出されているのも、それも無料と言っているんですが、これ排出者が袋、これ括弧透明または半透明、これは排出者が用意するんですよね負担して、であればこれ無料というふうにはならないと私としてはそう思うんです。無理じゃないじゃないですか。だって袋、いや、さすがに担当課長、笑顔でああそうだなと。いやいや細かいことですけどね。無料ではないんですよ。これ無料という言葉、あとでぐさっとまた石原うるさいこと言ったなっていう言葉言わせてもらうことになろうかと思うんですが、要は今までの藤谷議員も一般質問中で具体的に袋のこと持ちあげてましたが、専用の袋、要は燃える袋緑、黄色い袋、燃えないごみ、その２種類なると、あと分別ごみに関しては、皆さんが透明な袋、半透明の袋、用意して出してくださいと。いいですか。いやそのとおりですこれ函館方式なんです。ほかのとこでもこれ取り組んでますから。②の直接搬入資源ごみの無料化、これも先ほど答弁もされてましたし、報告書にもそういうふうになってるんです。これ現行では、指定された専用袋、これ資源ごみにかかわらず、燃える、燃えない全て衛生センターで売られている袋に入れて持ち込めば、全て改めて処理量発生してないんです。専用の袋に入れて、それが持ち込まれれば処理料は発生してないんです。これ農村地区の資源ごみの収集実施、これはやるというふうにこれにもなってます。これは横山議員からも、やりたい方がいて来てもらえないからできないんだよねっていうことをチラッと情報として掴んだもんですから私も議会の場で訴えさせていただきました。これはやるということです。

４つ目、住民周知は収集業務委託業者の調整などを考慮し令和６年１０月１日から実施する。先ほどのパワーハラスメントの状況も含め、こういった方向性は前回の常任委員会のあと副町長からご丁寧に実は報告もらったんです。私そのときに言ったのが、副町長も住民説明会をっていうことですけど、そこらで私は必要ないんじゃないですかっていうことは副町長にも言わせていただいたし、今改めて住民説明会、私はこれ必要ないと思います。というのは町長、私はこのごみの分別、これが問題になった切っ掛けが、認識されてると思いますけど、町民がリサイクルセンターができた、要は長いこともう２０年近く、平成１２年ですか。それから町長がおっしゃるこの容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に係る法律、これを町長はリサイクル法とおっしゃってるんですけど、それに伴って分別収集が始まったんです。ところが缶類に関してはリサイクルセンターで処理できない。そういう実態にも直面したんです。で町長私にしてみれば言い訳にしか聞こえないんですけど、衛生センターができてリサイクルセンターができる前はそこで破砕処理してる。だから別に問題ないんだっていうように伝わるような言い方しかしてないんです。リサイクルセンターが立ち上がって、町長がおっしゃる法律の基だと思うんです。じゃその時点で缶類の資源ごみの袋を販売停止すればよかったじゃないですかと言ったら、いや法律があるから現行どおりやらせていただきます。町長、私は一般質問でも１番ダメな答弁ですよ法律かざして、そこで役場職員にも恨まれたと思うんです。公共施設はじめリサイクルに繋がる分別

してなかったじゃないですか。今では、町長ご存じのとおり議員控室にも６つですか。ご丁寧にチョコレートの紙はここ、缶類はここ、今並んでんですよ箱が。でもそれが全てリサイクルに繋がっている。これは相当困難です。町長、私は缶類だけ謝ってくださいって、実態がこうなんですと。そこをすぐにでも周知して欲しかったんです。ところが法律かざして答弁の中に入れてきたんです。これ法律きちんと遵守するんであれば、リサイクルセンターの改修これは必須です。大前提です。でなければこの法律に沿った扱いはできませんから間違いなく。他町の事例で、近隣町のごみ処理のことをチラッとネットで調べたら、例えば極端な話、町長ペットボトルのリサイクルの仕方、ご存じだと思うんです。今手元にある水のペットボトルね。ラベルを剥がして、中身、きれいにして水だからきれいなんでしょうけど、そのキャップ、本来であれば別に扱ってるんです。ところが近隣町ではそのキャップ燃えるごみとして扱ってる自治体もあるんです。法律をかざしてきちんと本当に取り組む気持ちが本当にあるんだったら、リサイクルセンターの改修、これは絶対取り組まなければ則ったような分別ごみの扱いはできませんから、ここは引くことできません。いや私は法律を守らなくてもいいよっていうことはなかったんです。７年も８年も遡ること時間経ってますけど、せっかく皆さん苦労して意識のある方が缶類洗って、干して、家庭では父さん何やってんのって怒る奥さんもいるんです。それでも一生懸命やってるんです。原課長なんて私に教えてくれましたようちも取り組んでんですよって。浜の真っ黒い顔した父さん方が母さん方に怒られているんです。何やってるのさこれちゃんと洗いなさいって。そういった努力も無駄にしてた実態が判明したんで、これ判明したのもセンター組合の局長に役場職員が出向した。それで事実がようやく報告になったんです。それまでは嘘ついて誤魔化して、センター組合というのは本当に治外法権で何なのかなというふうに改めて思ったんです。これ町長、リサイクルセンターの改修、これは町長がこれをかざして進めようとするならばこれは必須です。これは間違いなく取り組まなければならない状況に町長の発言でなってしまいました。この報告で４番目の住民周知や収集業務委託業者の調整などを考慮しとありますが、これ北部桧山衛生センター組合における組合議会全員協議会で決定事項、決定する前に町長、収集業務委託業者と調整をした上で、それを持ち帰ってセンター組合で揉んで、それで今日決定するべきなんです。それはなぜかというと、全員協議会のときも言わせいただきましたが、町長いいですか休憩とりますか。また何て言ったっけって言われたら困るんでいいですか。続けていいですか。収集に係る業者からもう遡ること極端な話衛生センターが立ち上がってリサイクルが始まったその当時からこれは一般廃棄物に係る町長のおっしゃるリサイクル法、あとは産業廃棄物収集のに係る法律、そういったこともアドバイスとして提起して問題になるぞ、ここ改善しなさいというようなことも話ししよう、リサイクルの業者と合わせてセンターの事務方と話ししようとそういう提起も無視してきて、ここに来てセンター組合全員協議会で決定したのでこのとおりやるから、収集の仕方、今まで資源ごみの回収に関しては農村地区は収集しませんと。収集しませんという考えに伴ってリサイクルの収集業者行ってないんです。これいきなり調整もしないで、センター組合議会で決まったからあんたたちやりなさいと、そういうふうになってしまうじゃないですか。町長、その業者との調整は、副組合長の副町長が今、率先してやられてるんです。まず住民説明会それ

やるという決定したんだったらそこは私は否定する何ものもありませんが、まず事実のきちんと報告、過去に決めたからではなくて、現せたな町の町長、現センター組合の議会組合の組合長、その立場で行政は継続という観点から説明してくださいよ、いち早くすればよかったじゃないですか。現行どおり現行どおり、そしたら今度は無料、無料っていう言葉でそこに私申し訳ないですけど、その無料ということだけで逃げてると。そこをやれば今までの事実、何も教えなくても謝らなくても済むんだろうなというふうにもしかして認識してないですか、考えてはいないとは思うんですが、住民説明会する前にそこすぐできたじゃないですか。あとこの報告書の２番に戻るんですけど、直接搬入資源ごみの無料化、これは先ほど言わせていただきましたけど、処理料はかからないだけで、ただ持ち込んだときに、過去にタイヤの件でも実際にあったんですけど、持込み禁止のタイヤ、１台乗用車に限り４本だったら１回でいいですよ。４本の下に２台目のタイヤ、それを忍込ませて４本だけ下ろして、ダメなんですよ持込み禁止になってるんですから、でもなぜか４本だけ１回でいいんだと、４本下ろして計量して戻って敷地内でＵターンして８本実際に下す、そこはなんでクソ付くくらい真面目だったんだなと思うんですけど。いやこれ予測されること、分別された資源ごみ、これは自己負担で透明、半透明の袋に入れて実際に持ち込めば、それは処理料はかからないと。じゃ仮にですよ。いやそういった意図がなくても、別なごみ、資源ごみにならないごみ、これを一緒に持ち込んできて、その資源ごみと資源ごみに該当しないごみのチェックどなたがやるんですか。いやおそらく全員協議会でセンター組合の全員協議会でこれ決定されたんで、あとこれリサイクルの実績、これも後日で結構なので全部データ出てるはずですから、おそらくこの決定する上でもしかしたらこういったもの参考にして決定されたのかなっていう、そのリサイクルに関する実績それ資料として提出を求めます。これ議長、あとで結構ですけど、そこはよろしくお願いします。話脱線しましたが、缶類の処理ああいうふうに問題視されて、法律までかざして、これは繰り返しになるけど絶対これリサイクルセンターの改修、これは町長の考えの下ではそこはいち早く取り組むべきです。本来だったらその回収が済んだあとに、こういった取り組みができるんですよ。というのはこれまたごみカレンダー出させていただきますけど、現行どおり現行どおりとおっしゃいますけど前は。現行自体にいろいろ問題あるんです。だからそういうことをもろもろ含めて、先にまずは収集に係る業者、これとの調整が大前提です。それでまだ判明しない問題点もこれ相談とか指摘とかされるはずです。その上でやるべきだったと私は思います。まずは町長、住民説明会の前に今までの現状、今の実態、今でもピンクの袋、やっぱり燃えないごみに混ざっているの見ると早くこれ周知したほうがいいなというふうに思います。それとセンター組合の業務に関してなんですが、パワハラの報告は先ほどありました。副町長からも報告をいただいてます。１点だけだということですが、ほかの聞き取りをされた職員も私はあれですよって、あの件はパワハラだと思いますよって実際に苦しんだ職員これ生の声で聞いてますから、それと合わせて本来だったら埋立て地に持っていくそういう指導をしていないはずが、もうこの１週間の間ですよ。なんだあれ、あの束何っていうの見かけたんです。いや本来だったらこれ埋立地に今までも業者が搬入しても持っててもらったんだけど、なぜか事務方２人来て破砕処理しろと、事務方に言われたら言うこと聞くしかないんです。それもお

そらく電話内で相談するとパワハラだとは思ってませんと。そういう実態があるんです。あとは袋なりの販売もできなくなる。収入も減る、委託業者に対する契約があと１年あるっていうふうに私聞いてましたけど､そういった外部の委託業者に対して一部事務組合を構成されているから、例えばコロナの関係でいろいろな支援策、町の事業に係る運行業者とかにもそれなりの支援策打たれたんです。介護、医療もそうです。でもテレビ等でやっていた手で収集してる業者、クローズアップされて、でもせたな町は一切取り組んでもらえてなかったんです。私、担当者には訴えたんですがなかなか進みませんでした｡例えば､燃油の高騰が事業に影響が出てきてどうなんだ、何とかっていうことも含めて相談させたとしても、センター組合側は契約したんだから、予算取るのに時間かかるんだ。これしか構成町からお金もらってないんだ。そういうもろもろ含めて、私はこれ結論から言うと資源ごみの袋を使わないんであれば、すぐできるはずなんです。ただし町民には自らそれは負担ですけど買い求めてくださいと。今までのごみは燃えるごみとして、扱うと思ってんですけど、これ収集業者と調整してませんよね。決定したからこんときあるんだって、いやそうなんすよ町長、まずは収集業者と本当すぐにでも調整してください。それで何よりも町民に対し今までの事実、謝罪する気はないでしょうから事実を周知して、分別、資源ごみの袋は使わなくてもいいですよと。今までどおり大きい袋で１１０円までの負担は要りませんというような内容で周知してすぐ取り組めるじゃないですか。少し長くなりましたが再質問を終わります。

○議長（平澤　等君）　町長、再質問の答弁お願いします。

○町長（高橋貞光君）　お答えをいたします。袋は買っていただくということで無料ではないでしょうというお話がございましたが､札幌市もこういう状況で無料というふうになっております。これは衛生センターとしては処理が無料ということでご理解いただきたいと思います。

住民説明会の関係ですが、これはいろいろなことがご指摘がございました。やらなくてもいいというご意見でございましたが、これはそういったことの説明もございますので、ぜひ実施してまいりたいというふうに思います。

リサイクルセンター平成１２年のことでございました。当時私はおりませんでしたので、その詳細な内容はわかりません。したがいましてリサイクル法等の部分につきましては、これは衛生センターで協議し、衛生センター議会で判断するということでございますので、これは一つご理解いただきたいというふうに思います。今回、全町資源ごみの無料化ということで取り組むことにいたしました。収集業者とも２回この話をして、こういった１０月１日からということを了承いただいているということでございます。いろいろご指摘ございました。細部にわたって調整するということはこれからも出てくるというふうに思っております。一つ衛生センター議会でこうしたことを整理させていただきたいというふうに思っております。通告外もございましたのでこれにつきましては､答弁を差し控えたいというふうに思います｡ご理解いただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　石原議員。

○議員（石原広務君）　町長、私また当時いませんでしたって、それ止めましょう。行政は継続っていうのは大前提で認識してるはずです。当時北檜山町の議員じゃなかったんですか。そこは

わかりません。そこに逃げたらダメです。当時決めたからおら知らねっていうふうに取られます。私も取ってますけど。繰り返しになるけど缶類のごみ処理に関して、ここまで問題大きくなって、住民説明会、その前に収集業者といち早く調整これが大前提です。センター組合議会に持ち帰って、そこで決定する、決定したものをあんた達これで決まったからやってくださいっていうんではないです。長年にわたって関わってきて、センター組合の事業の問題点もそれなりにアドバイス指摘してきて、話合いしましょう、話したほうがいいぞ。それを持ちかけてもう無視してきたんです。センター組合の一部事務組合の体質、タイヤのことも秘密にして、そういった実態がある中で今回のことが役場職員が執行することによって、何回も言います、当然のように事実が報告になってここまで今続いているんです。センター組合って何ですか。そこ逃げれるんですか町長、私は言いませんでしたって。まずは収集業者との調整それが大前提、あとはどうしてもリサイクル法があるからこういうふうに進めるんだとおっしゃるのであれば、リサイクルセンターの改修、法律どおり履行できる設備、これはすぐにでも計画に取りかかるべきです。あと袋に関して言わせていただきます。これは私のあくまでも推測です。調整だ、住民周知だって、それで今年の１０月１日とおっしゃいますけど、センターに抱えてる大量の資源ごみの袋、これ黙って周知しなければ、今の実態を把握できてない町民は今までの意識を持って、また商店に、量販店にコンビニ買い求めに行くんです。その数が少しでも捌ければいいという安易な考えをもし持ってるのであれば、それは間違いですし欺く行為の継続です。そこもきちんと周知、住民にもそうです。個人商店、量販店、コンビニ、需要に応えるために今でも在庫しているそういった販売業者にも実態を周知してください。町長、謝罪もするべきです。そこ訴えて質問を終わります。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　収集業者とは事前に２回協議をしてこのお互い１０月１日に向けて準備しましょうということでございます。細部につきましてはまた協議を進めるということになろうかと思います。それからリサイクルセンターの改修等につきましては、その必要性があるかどうか、これにつきましても衛生センター議会と協議をすると。いずれにしましてもこれは衛生センター関係の部分でございますので、衛生センターでしっかり協議をして取り扱いを決めていくということになろうかというふうに思います。１０月まではこれまで同様のごみの扱いということで、そういうことで取り扱いを進めていくと。そして住民説明会につきましても、しっかり理解いただくように進めていかなければならないなというふうに考えておりますのでご理解いただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　町長、謝罪を求められております。

○町長（高橋貞光君）　謝罪につきましては、そういうことにはならないかというふうに思っております。ただこれまでの説明不足の点については、説明してお詫びを申し上げるということになろうかと思います。

○議長（平澤　等君）　以上で石原議員の３問目の質問に終わります。

ここで３時３０分まで休憩いたします。

休憩　午後　３時２１分
再開　午後　３時３０分

○議長（平澤　等君）　休憩を解き会議を再開いたします。
一般質問を続けます。１番、石原広務議員の４問目の質問を許します。
石原議員。
○議員（石原広務君）　それでは町の災害対策について町長の考え方を伺いたいと思います。
令和６年１月１日に発生した能登半島地震は悲惨な状況になり、早期の復興は困難だと思われます。南西沖地震により多大な被害を受けたせたな町にとっても他人事ではありません。改めて災害対策に関連して町長の考え方を伺います。
①能登半島地震が発生し、せたな町には津波注意報が発令されましたが、役場本庁、両支所がどのように対応したのかをお知らせください。
②せた町からも職員が派遣されていますが、派遣された職員の体験談などをまとめ町民の災害方策に生かすべきと思いますが如何ですか。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　それでは１点目のご質問にお答えいたします。
はじめに本庁の対応について答弁申し上げます。１月１日１６時１２分に北海道日本海沿岸部に津波注意報が発表され、総務課長、防災係長より第１非常配備開始に伴い、町長、副町長及び教育長と電話で対応を協議したところです。その後、防災係長については、本庁にて２日、総務課長に引継ぎを行う８時３０分までマスコミ対応及び情報収集に努めております。その間１７時、１９時２０分及び２日の８時２５分に防災無線の３区一斉放送にて津波注意報に係る注意喚起を実施しております。また１７時３０分、せたな町公式ラインで津波注意報に係る注意喚起を実施しております。２日１０時００分、津波注意報の解除に伴い第１非常配備を解除しております。その後、１３時００分まで、マスコミ対応及び各課からの被害状況報告を受けたのち、被害が無いことを確認し理事者に報告後、体制を解除いたしました。
次に各支所の対応ですが、１日、津波注意報が発表後より支所で情報収集にあたっております。その後、被害がないことから大成支所、１８時００分、瀬棚支所、１８時５０分から自宅待機に体制変更をしております。翌日、２日１０時、津波注意報の解除に伴い第１非常配備を解除しております。
２点目のご質問にお答えいたします。
石川県珠洲市への職員派遣については、厳冬期の災害時対策を学ぶ上で職員及び町に取りましても大変参考となるものでございます。３月におきましても、７日～１２日まで２名の職員を派遣しておりますので、派遣された職員の復命書などを整理した上で、特に厳冬期の災害時に必要となる備蓄品や機材等の備えと避難所運営などの対策に生かしてまいりたいと考えております。また派遣された職員のうち１名が講師となり３月８日に北檜山中学校の全校生徒、教職員に対し今回の派遣に係る体験を講話したところであります。ご理解いただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　石原議員。
○議員（石原広務君）　災害が発生して本町を含めた両支所の対応、今報告いただきました。私もその詳細掴んでなかったんです。確かに元旦ですから、中には想像ですけどアルコールも入ってる状況があったと思うんです。でも私が後に知り得て確認までは至ってませんが、本庁に勤務する、ある課の課長はすぐ住まいのある瀬棚支所に出向いたり、大成に住まいする管理職員は支所に出向いて自主的に海岸見回ったり、その情報の中で本庁今報告あったように防災係長、確かに電話で連絡取りながらやってたのかっていうふうに思うんですが、自主的にこれ誤った情報だとあとでまた直接訂正していただきたいんですけど、自主的な判断で所管する担当課、職員に対して何ていうんですか、グループラインというんですか、それでいち早い情報、とりあえずはこれ心構えとして自主的に伝達したようだという話も聞いたことがあるんです。私としては何を言わんとしたいというか、横山議員も午前中この災害に関連する一般質問がありました。今②に質問として出させていただいたせたな町からの職員が派遣され、復命書をまとめてそれなりに周知するっていう方向で検討いただくということで、北檜山中学校ですか、体験談も含めて講師に出向いたという話も聞いたんですが、東北大震災のときも救急救命士ですか、体験談を確か大成中学校、これ父兄にもその講師として招かれて報告し実態をお知らせしたと。これ私は派遣された職員の話全て聞けませんでした。想像はいろいろできました。テレビで見る限りの大変な状況も画面だけでは見れました。町長、今手元にこれ水ありますよね、私も議席に水あるんです。飲み水がない生活ってこれ想像できないんですよ正直言うと。寝る場もない、それで寝る場所もきちんと確保されてない。今日偶然にもラジオでしたか、今回のこの災害に向けて、結局は珠洲市、能登半島のこの半島に属する職員になろうかと思うんですが、ノウハウを持つ職員の不足、これが露呈したのがかなり問題されたんです。あと避難所の、私、派遣されるときに総務課長から説明いただいた保健師の派遣、これに伴った女性職員の対応なのでっていうことで、総務課長からある程度そのときの情報から説明いただきました。今朝ラジオ聞く限りだと着替える場所、やはり区別するべき、その対応がきちんとできてないっていう現状も、これ露呈したという旨の報道がされたんです。ですからせたな町としても町長、横山議員の質問に答弁した、いつ起きるかわからない、それが災害だと。ですからこの町の災害対策についてというふうな通告ですが、細かいことですけど高齢者の自助、それがもうできない状況が本当に確実として上がっているせたな町の現状、あとはこれはもう以前から他の議員からも出てます避難路の確保、こういった対応も職員の体験談、復命書をまとめる段階で各課横断的にこれは備えるべきだよという意見をきちんと集約した上で、いつどこで起こるかわからない災害に対して気構え、あとは準備、それに伴うようなことを町として率先してお知らせし、町もきちんとした対応ができるよう装備も含めた準備をぜひまた改めて見直して、足りないものはすぐ補うということを町長として考えていただきたいというふうに思いますがいかがですか。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　横山議員の質問とかぶるところがあろうかと思いますが、まずは自分の命は自分で守るということを徹底していただきたい。いずれにしましてもこうした災害の場合、

初動の速さが命を救うかどうかという分岐点になります。したがって初動というのは、自助がほとんどの部分と、もちろん共助も一部ございますでしょうが、そういったことで災害時どこに逃げるか、避難をするか、少しでも高い場所ということで日頃からそういった自分事として考えていただきたいというふうに思うわけでございます。いずれにしましても今回の災害を背景にして、いろいろと私たちとしても準備をする必要があるなというふうに感じております。しっかり対応してまいりたいということでご理解をいただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　石原議員。

○議員（石原広務君）　再質問端的に申し上げます。見直していただけるという趣旨の発言もありました。繰り返しその自助が前提だと町長おっしゃいましたが、自助、自分で逃げることも困難になってきているのが今のせたな町の超高齢化の現状なんです。そういったところにも少しでも、せたな町として取り組む姿勢を見せていただきたい。共助の部分で今回の能登半島地震に遭遇された方から生の声でニュースに流れたんですが、自分の目いっぱいだったと家族も犠牲にしてしまったというような生の声も聞こえてきてるんです。細かいことですけど、繰り返しになりますけど、いざとなったときに使える避難道の確保、避難路の維持管理、これは北海道も合わせて町も取り組まなきゃならないところもあろうかと思うんですが、そこも地域実情に合った要望も踏まえぜひ取り組んでいただきたいと思います。

　終わります。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　そういった部分を十分考慮しながら取り組んでまいりたいというふうに思います。実は昨日のお昼、能登半島、珠洲市の泉谷市長から直接電話がございました。これまで職員の派遣を受けております。このことに対するお礼、それから様々、直接珠洲市には送っておりませんが、町の義援金等の部分についてもお礼を言われたところでございます。いずれにしましても市長からは、これからまだまだ長い復興の道が待っていると。今ようやく役場周辺の水道が復旧したということで、まだ春以降も全体の復旧は見通せないという状況のようでございます。したがいまして、これからも多くの皆さんのお世話になりながら、しっかりと復興を進めていきたいというお礼がございました。お伝えをさせていただきたいというふうに思います。

　以上でございます。

○議長（平澤　等君）　町長、避難路の確保対策についてご質問ありました。

○町長（高橋貞光君）　ですからそういった部分を全て含めまして今後検討するということになろうかと思います。答弁差し上げたとおりでございます。

○議長（平澤　等君）　以上で石原広務議員の一般質問を終わります。

　続いて１１番、菅原義幸議員。

○１１番（菅原義幸君）　町長にお尋ねします。町営住宅居住時の条件を連帯保証人から緊急連絡人に変更することについて、①公営住宅法で定められている入居資格に連帯保証人の確保が条件付けられているのか説明を求めます。

　②国は２０１８年と２０年の２回、公営住宅の入居条件として、連帯保証人の確保を前提とす

べきでないと自治体に通知しています。町長はこの通知をどのように受け止めていますか。

③北海道ではすでに５４もの市町村が連帯保証人を廃止し、三重、愛知、岐阜、静岡、茨城をはじめ、全国的に廃止する自治体が増加の一途をたどっています。法律に定めのない条件を国の通知を無視してまで入居者に求めるのは何故ですか。

④ＤＶ被害者や震災被害者などの緊急転入者、高齢者、障害者、孤立しがちな町民にとって連帯保証人の確保は困難です。住宅料滞納整理のためだと強弁し、無配慮な温かみに欠ける主張を繰り返す町長に厳しく抗議し、新年度から連帯保証人を緊急連絡人に変更することを求めます。

以上です。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　菅原議員の１問目のご質問にお答えいたします。

１点目のご質問ですが、町営住宅への入居に際しての連帯保証人の要否については、事業主体であります町の判断に委ねられております。町営住宅入居時には、家賃滞納の抑制や緊急時の連絡先としての役割が大きいことから連帯保証人の確保を必要としております。

２点目のご質問についてですが、連帯保証人の確保が住宅困窮者の町営住宅への入居に支障が生じるこのとのないよう入居者の実情等を総合的に勘案して適切に対応をしなければならないと受け止めております。

３点目のご質問でございますが、公営住宅入居に際して連帯保証人を求めない事業主体は令和５年４月１日現在、全国で３０．５％、道内では３０％となっており、議員のご指摘のとおり保証人制度を廃止する事業主体は増加しております。当町では、民法改正や国からの通知を受けまして連帯保証人を２名から１名に変更し、極度額の設定をするなど要件緩和を図ってきたところでございます。連帯保証人の確保を必要としている理由でありますが、保証人の存在が家賃滞納の抑止力になっているからでございます。

４点目、議員のおっしゃる特に居住の安定を図る必要がある方については、現行の条例等によりまして保証人の免除が可能であります。保証人の確保ができず入居ができないといった事態にはなっておりません。なお住宅使用料の滞納も減少傾向にはありますがまだまでございます。今後は家賃の収納状況の推移を見ながら、連帯保証人の廃止につきまして改めて検討をしていきたいと考えているところでございます。

○議長（平澤　等君）　菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　それでは再質問を行います。①の答弁なんですが、法律に条件付けられているかどうかということを聞いたんです。ストレートに答えてくださいよ。法律本体に連帯保証人をつけるかどうかは、町村の自主性に任せるというような規定になってますか。私は、公営住宅法そのものに入居資格者の入居するときの条件として連帯保証人の確保が必要だという法律本体になっているかと、そういう規定になっているかという質問してるんです。そこをきちんともう一度答えてください。これは再質問というよりも答弁の確認の問題であります。答弁になっていません。

②でありますが、町長は国の通知をどう理解してるかということが、やっぱり答弁で出てない

んです。国が２回にわたって通知したその趣旨が何だと思いますか。全く意味もないのに２０１８年と２０年の２回、通知したわけではないんです。これ調べてみますと、全国的に公営住宅に入居する人の連帯保証人の確保というのが大きな矛盾になってきて、国としてどうなんだという態度を示さざるを得なくなったわけです。町長ご承知のように、公営住宅というのは、我が町の場合は町営住宅でありますが、比較的低所得者であって、自分の身を自ら持つだけの経済的な力がない方、これを救済するために法律を定めて入居する建物を提供するということなんです。そのときに連帯保証人をつけなければいけないんだと、許可しないんだという規定は法律になるんです。にもうかかわらず各自治体では、さっき町長おっしゃったように自治体の裁量権の中で条件決めてるわけです。それがまずいんだと、それは公営住宅法の目的にも反するよと。特に低所得者、社会的にいろいろハンデを持ってる方に対して連帯保証人をつけるということは苛酷だという前提で通知を出してるわけです。そこのところを町長どう受け止めてるんですか。何も答えてないじゃないですか。私は質問通告してるんですよ。その通告に誠実にしっかり答えてください。これも質問だというような性格の問題じゃありません。

それから３つ目は、滞納整理のためだということなんでしょうね、先ほどの答弁ですと。これは邪道なんですよ。滞納整理のために連帯保証人を入居の条件とすると、止めたらどうですかっていうことを提案してるんです。入居した人から滞納なくきちんと回収するのは、それはその仕事なんですよ行政の。それを連帯保証人をつけて抑止策にすると。非常に強弁的な発想なんです。ダメだったら連帯保証人から取るぞと。これは脅かしの論理なんです。じゃ税金の回収なんかをどうするんですか。税金を納めるのに日本国中全部の人に税滞納してた場合に連帯保証人を立てさせて、そちらから回収するというような法の立てつけになってますか。厳しい税であっても連帯保証人という制度は導入していないんです。それを公営住宅の家賃の回収対策に連帯保証人をつけて、そのことをもって滞納回収を図るというのは権力者の間違った発想です。これは厳しく批判しておきます。これ改めるべきだというのが国の指導なんですから、町長は、よくない国の指導であっても一生懸命守ろうとしますけれども、このように弱者の立場に立った適切な国の通知については、いろいろ理由をつけてやらないと、これ逆さま行政なんです。やるべきことはやらないで、やっちゃダメなことをやると。その逆さま行政を改めてください。

それから４つ目なんですが、町長はよく帯保証人確保できない場合は、なんて言いましたか、免除するっていうんですか、対応するからいいんだっていうんなら最初からそうしたらいいじゃないですか。何でわざわざ社会的な弱者に連帯保証人をつけろという提起するんですか。つけなきゃ入居させないぞという絶対的な要件にはなりませんでしょ。これは町長答弁の中で自ら認めたことなんです。法律に要件のない規定を自治体の裁量権の中でやって、結果、保証人を用意できないから申し込まないという方もいないわけではないんです。対応抑止どころか、入居の抑止策になってしまってる。ここに町長は事実をしっかり見るべきであります。私、町長、聞こえませんか。私これ４回目なんです。改選した６月から９月、１２月、３月と４回目なんです。なぜ続けるかわかりますか。これは絶対廃止させなきゃならんという不退転の決意を持ってるんです私は。それは再々質問の中で展開したいと思いますので再答弁しっかりもらいたいと思います。

○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　お答えいたします。なかなかご理解いただけないということだろうというふうに思いますが、お答えをさせていただきます。最初のこの条件が付けられているかということでございますが、これは条件にはなってございません。しかしこれは事業主体であります町の判断ということでご理解をいただきたいと思います。それからこの滞納の抑止力という答弁を差し上げました。この保証人の存在が一定の滞納の抑止力になるということはこれは紛れもない事実でございます。しかし残念ながら４年度で見ますと、４年度単年度で２２３万６，０００円滞納が増えているという実態でございます。これは真面目にお支払いいただいている人から見ると負担の公平性に問題があるということから、やはり滞納は絶対に出してはならないというふうに思っているところでございます。最終的にこれは町民の税で穴埋めをしなければならないという危険性もはらむからでございます。この税には保証人がないということでございましたが、しかし税の徴収においては、最終的に差押えという制度もございますし、水道料については、給水停止ということもございます。したがいまして、そうした観点から町営住宅の滞納の問題についても、決してほっておけない課題ということで、これらがどんどん滞納が減ってくる状況という部分で、しっかりとその辺の対応を改めてしなければならない問題というふうなことでご理解いただきたいと思います。
○議長（平澤　等君）　菅原議員。
○１１番（菅原義幸君）　それでは再々質問を行います。大きく分けて２点、再々質問しておきます。まず町長は、社会的弱者に対する行政としての配慮、温かさ、公営住宅法がなぜ設置され公営住宅が運営されているかということについて、原点に立った理解と運営をしていただきたいと思うんです。そういう方向に沿って全体の運営をすべきだということを申し上げておきたいと思うんです。１２月議会の答弁書を私、今回いろいろ検討したんですが、根本的に町長が認識誤ってるなという部分が一つありますから指摘させていただきたいと思います。それは菅原議員も保障していたということを伺いましたと。大変この点についてご苦労されているということも十分理解するところでございます。全く余計な答弁してるんですよ。あたかも私が困ってるから、ご苦労してるから、それがいやだから保証人廃止すれと言ってるかのように取れるような答弁してるんです。町長失敬ですよこういう答弁は。私は自分が困っているから、苦労してるから解消してくれと。そういう了見の狭い提起をしてるんじゃないんです。十分わかってるのに、あえてそういう答弁をするところに町長のダメさ加減があるんです。私は先ほど厳しく抗議させていただくという表現をいたしましたが、そういう町長の答弁全体を指してるんです。けしからんじゃないですか。困ってるのは入居者なんです。社会的弱者なんです。そういう人たちを作ってはいけないよという角度から取上げてるんです。それでもう一つ、ついでに言っておきますけども、何か菅原連帯保証人いっぱいやったから、ねえ公選法絡みで窮地に立ってんじゃないかみたいな話をしてる方がいるそうですが、全くお門違いです。これは念のために申し上げておきますが、私は合併前３３年間議員やってましたよ。そりゃあ３３年も議員やってましたら連帯保証人頼まれるケースたくさんあります。断り切れませんそれは。しかし合併してからもう１９年経ってる

んです。調べましたら死亡、転居、現在、保証した方はおりません。それから合併してから１人おります。その方は令和２年３月１５日に、これは被災地に両親が迎えに来て帰郷しました。３日前に私はご本人のところに行って、両親もいたのであげてもらって、食事しながらいろいろお話ししましたよ。これ町長、大変な苦労しながらせたなで過ごした方です。その方が私に頼んだとき、これ前にも申し上げたかと思いますが、雇ってくれている会社の社長は連帯保証人になってくれたんだけども、もう１人どうしても見つからないと。困って、困って最後私のとこに来たんですから、断れますか。これは非人間的で極めて弱者に対する扱い方、粗末な物だなと思いましたよ。私断ったらどうするんですか。申し込まなかったと思いますよおそらく。そういう具体例を踏まえて私は言ってるんです。それからもう一つ、これは合併前の私の若いときの経験を申し上げておきます。後志のある地域に、せたな町出身者の女性の方がおって、家庭内暴力ですね。そのために子供を連れて実家せたなに帰ってこなくちゃいけない事情があるんだけれども、何とかそこに行って、いろいろ相談乗ってほしいと言われて行ったことがあるんです。そうすると中身を聞きますと、もう即逃げ出さなきゃいけないような状況なんで、それはこちらも腹を決めてですよ。着の身着のままでせたな町に来た方もおります。そのときに直ちに学校の校長、小学校の校長でありますけれども、事情を話して受入れてやってほしいと。緊急避難的に来たので諸手続きこうこうこうでぜひ受入れてやってほしいと、空白作らないでほしいというようなことも含めて徹底的にお世話しましたよ。一時身を寄せておりましたが、結局住まいが１番問題になるんです。あとは申し上げませんが、そうしたケースもあると。つまりいろいろな事情を抱えた底辺とは申し上げません。社会的なハンデを抱えた方、特に高齢者あるいは身体に障害を持っている方が公営住宅を申しこもうとすれば、これは極めて連帯保証人を求めるのは困難な状況に置かれてる方が少なくはないと。だからこういう人道上の問題として私は取上げてるんです。公選法上の問題じゃないんですよ町長。私は町長が本当に町民の立場に立って、弱者救済という自治体の首長本来の政策を忘れていないんだとすれば、これは将来検討させてもらって廃止も考えますなんていう答弁じゃなくて、もう１年間やりとりしてるんですから。これ１年前にずっと全国的に増えてきてるんです。ぜひそういう流れの中で、そういう方向に沿って弱者の立場に立った決断をすべきだということを申し上げているんです。これが大きな１点目です。

大きな２点目、抑止力になってますか町長、町長が抑止力だって言うから私もデータ出しますよ。この行政側から提出された資料です。町長の先ほど言った数字と小さな点では違っているかと思いますが、３区合計で出された資料の限りを見ますと不能欠損実績年度としては、平成２５年度、２６年度で全部で６件、２１８万８０６円というデータが出ております。それから繰越滞納の合計なんですが３区合計で３７件、１，２１４万２，９６３円とこういうデータをもらってます。現在の数字とは少し違ってるかと思いますが、連帯保証人を置いてるならこんな数字になりますか。事実が物語っているじゃないですか。私は連帯保証人を滞納の抑止力にするという考え方そのものが問われてると思うんです。この考え方を１年間私一般質問やったわけですから、今日限りにきっぱりと改めていただきたいということを申し上げておきたいと思うんです。滞納の問題は、行政の主体的な努力で言わば大家さんの自己責任において解決すべき問題であって、

連帯保証人に振るような問題じゃないんです。そこのところを申し上げておきたいと思います。満足､納得のできる答弁がなければ６月議会でまたやりますから､そのことを通告しておきます。

以上で終わります。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　お答えをいたします。菅原議員の苦労話もお聞かせいただきました。弱者の立場を考えていないということでございますが、住宅困窮者、いわゆる弱者と言いますか、こうした方々のために町営住宅を用意して入居していただいていると。弱者に対応して本当に安価で非常に安い家賃で提供をしているということから、目的は達成できているというふうに思っております。そして議員おっしゃいましたどうしても保証人のない、保証人が見つからない場合についても、現行条例の中で免除が可能ということでございますので、これも議員のご指摘にはあたらないというふうに思っております。保証人の抑止力という部分では壊れているという表現をいたしましたが、大家さんの責任でしょうということでございましたが、これは大家の責任として町民の皆さんの負担の公平性をきちんと担保するということを、これが大家としての責任ではないかというふうに考えておりますことでご理解いただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　続いて、菅原議員の２問目の質問を許します。

菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　先ほどの答弁は論理の破綻ですよね。噛み合ってません。６月議会で再度やらせていただきます。

それでは２問目です。医師確保と今後の大成、瀬棚診療所の見通しについて、①４人の医師のうち相次いで２名の医師から退職願いが出されました。今後の医師確保の見通しを伺います。

②昨年３月議会と１２月議会における医師確保に関する答弁を今日でも妥当と判断しているのか伺います。

③残り２名の中に契約が令和７年度末までの医師が１人います。来年９月の町長任期満了前、少なくとも新年度中に医師確保の目途をつける必要があると思いますがいかがですか。

④大成区、瀬棚区の住民はフル診療を求めています。両診療所の今後の見通しを伺います。

以上です。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　２問目のご質問にお答えいたします。

１点目の医師確保の見通しにつきましては、さきの行政報告のとおり大島院長が今月末、佐藤医師が令和７年３月末で退職される予定となっております。このことから後任の院長と医長の２人の先生の採用に向けて北海道大学病院医局や関係医療機関等に働きかけるとともに、北海道が実施している地域枠制度に係る医師派遣の申込みや全国自治体病院協議会、医師求人求職支援センター及び北海道地域医療振興財団などの医師募集サイトへの求人登録、民間の医師紹介会社からの情報提供、あるいは道内、東京、関西、九州の主要新聞に医師及び医療スタッフの募集広告を掲載するなどして医師の確保に努めているところでございます。現在、院長として、せたな町への入職をご検討いただいている先生がおります。先日、国保病院並びに大成、瀬棚両診療所を

視察していただいたところであります。お越しいただいた先生には、当町の地域医療を守るためお力添えをいただけるよう切にお願いを申し上げたところであります。いまは先生からの返事を待っている状況であります。

本年４月からの医師の働き方改革も考えますと、医師５名体制が望ましいことから医師確保については、今後も対策を緩めることなく積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

２点目につきましても、医師の働き方改革や先ほども申し上げましたとおり２名の常勤医師が退職する状況にありますことから、危機感を持って早期の医師招聘に取り組んでまいります。

また３つ目の新年度中に医師確保の目途をつける必要があるのではないかとのご質問についてでございますが、令和６年度の執行方針でも申し上げましたとおり、地域に必要な医療を継続して提供するためには、医師をはじめとする医療従事者の確保は最重要課題であることから、私の任期前に目途が付けられるよう医師確保に向けて取り組んでまいります。

４点目でございますが、大成、瀬棚両診療所の見通しにつきましては、今後の患者数の推移や常勤医師と出張医師の確保、看護師らの医療スタッフの確保にも努め、先生方とも相談しながら持続可能な地域医療提供体制を確保してまいりたいと考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　それでは再質問を行います。１点目、まず医師確保の問題ですが、私も期待しております。希望者が来てるということで、これは情報入ってます。３月５日ですよね町長。町長も現在の院長も大変真剣に病院のほうに出向いておられたという姿を見た町民から早速報告を受けてました。聞くところによりますと期待を持てるという内容のようなので、私は大いに期待してますから、これは期待外れでダメだったと、肩透かしだったということのないように、これ１００点満点の答えを私は期待しております。これが私の本心です。これを申し上げておきます。

それから２つ目なんですが、危機感を持ってやりたい。こういう答弁なさいましたね。私は失礼な言い方になるかもしれませんが、町長本当に危機感持ってるのかどうか、さっきの答弁からは伺えません。そこが問題なんですよ、のんきなんですもの全然。１２月議会でも申し上げましたが、もう１回言わしてもらいます。昨年３月の予算委員会のときに町長どういう答弁しましたか私には。私は、全体を俯瞰した中で、今せたな町の医師確保大変な状況になってるなという危機感を持ったから医師確保の問題について取上げたんですよ。そのときの町長の答弁をもう１回申し上げておきます。これは去年の３月１６日の予算審査の会議録でありますが、町村の医療機関の体制としては、我が町は他町に比べましても引けをとらない、むしろ相当充実した体制を今維持しているということを委員もご理解いただけるというふうに思います。私は全然理解なんかしてませんよ。根本的に情勢把握、認識が町長違うわけです。だってそうでしょう、町長そういう答弁した直後の去年の６月の春先から院長の退職問題出てきてるんです。令和５年度の今日は３月１３日です。いまだに後任の確保をできていないという現状です。後任いまだに確保できてないんですよ町長。それからもう一つ、私が先々を見通して医師確保すべきだということに対す

る町長答弁です。これも去年の３月の１６日の答弁ですが、いつから採用するということでなければ募集できないということだと、ここまで言い切ったんです。それでこの状態です。それからもう一つ、ついでですから町長にもう一つ申し上げますから。昨年の１２月、私はこういうことを言ってるんです。令和６年度いっぱいで辞められる方がいると。私は菅原ですよ、認識しておるけれどもどうなんですかって聞いてるんです。この答弁に対して町長は、ここでお話しできるようなはっきりとした確認をしている状況ではございませんと。この答弁は１２月２８日の答弁です。それから２カ月経たないうちにどういうことになりましたか。１番若い先生が辞表出してきたんです。行政側に身を置いていない私のほうが心配しているのに、町長のほうはそんなこと確認できない。はっきりお話しできるような確認している状況ではないんだと。何というものぐさかと、びっくりしますよ私。これ私、意地悪で言ってるんじゃないんですよ。あきれ果てて言ってるんです。それからもう一つ、町から提出願った資料には、これはほかの議員の皆さんには配付されておりませんが、１２月議会で公式に請求した資料です。その資料によりますと、令和７年度末で５年間の契約期間が切れる医師がもう１人いるんです。これ本当は議員の皆さんにもこの資料コピーしてお渡ししたいぐらいなんですが、これは行政側からの文書です。令和８年３月までの５年間、当町で医療職の業務に従事しなければならないこととなっている。そういう方がいると。こういうふうに言ってますが、逆に言うと令和７年度末で辞める可能性を含んだ契約になってるわけです。そうすると現状４人の中でまともに残るとなれば、極論を言うと１名のこともありうるんです。そうしますと、そういう状況であるにもかかわらず町村の医療機関の体制としては、我が町は他町に比べましても云々と、こういう発言にはなりませんでしょう町長。だから私は最初の質問で申し上げておりますように、昨年の３月議会と１２月議会における医師確保に関する町長答弁を今日も妥当だと判断しているんですかというふうに聞いてるんです。妥当じゃなかったわけです、認識が甘かったんです。これは率直にそうだったというふうに言っていただければ、これはこれ以上のことは言いません。まあ疑問の余地のないきっぱりした答弁たまにはしてくださいよ町長。いらない弁解ませんから。これはそれ以上責めませんよ。それで最初の質問では残り２名の中に契約が令和７年度末までの医師が１人いると、これ町長お認めになりますよね。だから下手すると１名体制になってしまう可能性もゼロではないということなんです。このまま新規に募集できなければですよ。これもお認めになりますよね。町長の任期は来年の１０月ということですが、町長選挙が９月にありますけれども。私は来年度に入っちゃダメだと思ってます。今年度中にきっちり見通しをつけていただきたいと思います。これは言葉としてちょうだいするということではなくて、ここでの政策的、政治的約束事としてしっかり議会と町民の皆さんに誓約をお願いしたいというふうに思っております。再度、町長の答弁を求める次第であります。

それで４点目の問題なんですが、先ほどの答弁ですと大成、瀬棚区の診療所体制確保したいとおっしゃいました。確保したいって、できませんと言うよりはしますって言うほうがいいわけですが、町長、現状どうなってると思いますか。まず大成区は、全１日の診療は現行で火、水、金だけなんです。月曜、木曜はやっておりません。何を言いたいかって言いますと、小六先生がお

られたときはフル診療だったんです。当然地元におりましたから。しかも住民の目線で見ると緊急のときには夜間もお願いできたわけです。土日家に帰るまでは見てもらいたいわけです。そこに安心安全という安心という一つの大きな担保がありました。今そうじゃないんです。この３日間の診療の中で先生は帰ってしまうんですから、その日の晩は医師不在になるわけです。火、水、金以外の日は全くいなくなるわけです。小六先生は何かのときには夜間であっても点滴をしたり、いろいろな対応してくれたそういう安心、安全感があるけれども、これはスッポリ抜け落ちちゃってるんです。私に先行する議員の質問の中でもございましたが、特別養護老人ホームの定数が確保されない。この事情の中には、そうした医師体制の弱点不安も絡んでのことだと私は見ています。施設入所者にすると医療不安があるわけです。影響は決して小さいものじゃありません。瀬棚区のほうです。現行は月曜日が午前、水曜日、午前午後です。木曜は午前とこうなってます。しめていけば２日です。午前中だけが２回、フル診療が１回、だから合計２回というふうになりますね。大成よりもっと大変なんです。それで私が心配してますのは町長、門前薬局があるわけです瀬棚の診療所には。道路を挟んで向かい側に薬局がありますでしょ。この薬局は、いいですか町長もう一遍言いますが、元の瀬棚町長が、合併時の町長ですが、医療政策展開の中で伝手を持ってきていただいた薬局なんです。それは診療所の門前薬局ということで政策的に来ていただいた方。この経営どうなってるかわかってますか。たった２日間の診療の中で来る処方箋の数っていうのはものすごい限定されてるわけです。かつてフル診療やっていて、医師も複数おって今金の果てから来てたそういう時代と決定的に違うわけです。町長この門前薬局が商売にならなくて撤退するということになったらどうなると思いますか。瀬棚診療所で発行する処方箋、北檜山に来なきゃならなくなるじゃないですか。そうなったらいくら町長が頑張ります、体制きちんとしますって言ってみたって、これは大変なことになります。処方箋もらった方は北檜山に行かなきゃ薬入手できなくなるんですから。まさに水際まで来てますね。排水の人ってやつです。という認識をきちんと町長してください。町長は一貫して閉めることはない、閉鎖することはないと言ってますから、私も町民にはそのとおりに言ってます。だけど町民はこう言ってるんです。先生の数だんだんだんだん少なくなっていけば、結局、国保病院もきちんと守らなきゃならないから、最後は両診療所、特に瀬棚診療所は国保病院に近い位置にあるから真っ先でしょうと。菅原さんあんた甘すぎるんだよ、人っこ良すぎるんだよって、こういう話です。ですから私は大成区、それから瀬棚区の診療所を充実させるという場合、フル診療ということをきっちり課題として据えて、町長先ほど５人とおっしゃいましたけども、本当に５名の体制が続かなかったらフル診療というのは復活できないと思います。そうしますと現状維持するだけでも３人確保しなきゃならん。それで合計４人です。５人目指すならばあと４人という話になってくるわけです。この６年度、７年度のサイトの中でね。これは相当の決意決心と血のにじむような努力が必要だと思います。特に医師の働き方改革の中で大学病院自体が囲い込むというような問題になってきてますから大変だと思います。そこのところを特に申し上げておきたいと思います。これは医療体制新病院建設調査特別委員会が２２日ですか。医療体制新病院調査特別委員会あると思いますから、そこでもっと深く突っ込んで他の課題も含めた触れ方をしたいと思います。

以上で再々質問を終わります。
○議長（平澤　等君）　再質問の答弁お願いします。
町長。
○町長（高橋貞光君）　お答えいたします。菅原議員の情報が早いのには驚きました。感心して聞いておりました。医師確保の部分でのお話がございました。残念ながら今の段階で期待してくださいと言えないのが残念に思っておりますが、しっかりと来ていただけるようにと、私も期待しているところでございます。緊張感が足りないと何度も言われました。正直言いまして、これ私の性格、悪い性格というふうに思っております。医師と申しますのは、定年まで勤めていただけるということはなかなかできないでおります。したがいまして、この医師確保につきましては、医療に支障の出ないようにしっかり対応してまいりたいと考えております。両診療所につきましては、現在、本院からの派遣ということで対応させていただいているところでございます。人口減少による患者数にも対応しなければならない、病院収支の改善もしなければならないということでございまして、病院の繰入れが４億を超えたという状況になっております。したがいまして、こういった部分をしっかりと病院経営の改善にも取り組んでまいりたいと考えております。いずれにしましても地域の医療を守るためには医師の確保というのが鍵になります。しっかりこれからも対応してまいりたいということでご理解をいただきたいと思います。
○議長（平澤　等君）　菅原議員、再々質問ありますけどもよろしいですか。
菅原議員。
○１１番（菅原義幸君）　先ほど間違って再々質問というふうに言ってしまいましたから終わったものとして入りません。医療体制・新病院建設特別委員会がありますから、そちらのほうで今日の不足の部分もたっぷりやらせてもらいますから。
時間の関係もありますので３番目の問題に移ります。墓地問題の調査について２点お尋ねします。①合葬墓の設置要求が出ています。今金町など先進地の実態調査を行うことを提案します。
②集落から数キロはなれた場所に共同墓地がある地域で、高齢化や熊出没の関係などから集落近くの移転を求める声が出ています。基礎的な調査に着手することを求めます。
以上であります。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　それではご質問にお答えをいたします。
合葬墓については、近年、核家族、単身者の増加に伴いまして、お墓を持ってない方や居住地と墓地が遠隔地のため墓地の管理ができない方の増加などにより、各自治体におきまして公設の合葬墓が設置されるケースが増えております。町としては、これら町民のニーズなどを総合的に判断し、すでに合葬墓を設置している近隣町村への状況などの実態調査を行いまして今後検討してまいりたいと考えております。
２点目のご質問でありますが、せたな町の共同墓地につきましては、せたな町共同墓地及び霊園条例に基づき大成区に７箇所、北檜山区に１３箇所、瀬棚区に４箇所の合計２４箇所を設置しております。墓地の管理につきましては大成区都の第１、第２共同墓地、北檜山区の狩場霊園、

瀬棚区の西方霊園を除いては、町内会や墓建立者が管理を行っているところでございます。共同墓地の移転は、建立者全員の改葬が必要なことや代替地の問題など難しい面もございますが、まずはそのような町内会がございましたらお話を伺い調査してまいりたいと考えておりますことでご理解いただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　答弁をちょうだいしました。答弁しやすいように質問組立てたんですよ実は。そういう要求が出ているのは事実ですから行政としてはそこを踏まえて、私は調査という提起しますので、それは町長も十分おわかりいただけると思いますので、具体的に調査に着手することを改めて再質問の中で確認を求めておきたいと思います。私、手元には今金町の資料はあるんです合葬墓のです。やっぱり町民から持ち込まれた要望を伺ってる限りでは必要かなというふうに思います。いよいよせたな町も時代に入ってきたのかなという感じがしますので、少なくとも合葬墓地については、先ほど町長おっしゃいましたように前に進める方向での調査をぜひ手を付けていただきたいと思います。

墓地の移転については、町長答弁したとおりだと思いますから、これは再質問いたしません。

以上であります。終わります。

○議長（平澤　等君）　議長から菅原議員にお伺いいたします。もう１問時間内にできそうでしょうか。無理ですか。わかりました。大変失礼になりました。

◎延会宣告

○議長（平澤　等君）　お諮りいたします。

本日の会議はこれで閉じ、残余の一般質問の審議は明日１４日午前１０時から再開いたしたいと思います。

これにご異議ございませんか。

（「異議なし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。よって本日の会議はこれで閉じ、明日１４日午前１０時から再開いたします。

本日はこれにて延会いたします。

大変ご苦労様でした。

延会　午後４時１１分

地方自治法第１２３条第２項の規定により署名する。

令和６年４月２６日

議　　長　　平　澤　　等

署名議員　　福　嶋　　豊

署名議員　　横　山　一　康

令和６年第１回せたな町議会定例会　第３号

令和６年３月１４日（木曜日）

○議事日程（第３号）

１　一般質問

○出席議員（１２名）

１番	石原広務君	２番	桝田道廣君
３番	藤谷容子君	４番	福嶋　豊君
５番	横山一康君	６番	本多　浩君
７番	真柄克紀君	８番	熊野主税君
９番	吉田　実君	１０番	大湯圓郷君
１１番	菅原義幸君	１２番	平澤　等君

○欠席議員（０名）

１．地方自治法第１２１条の規定により、説明のため出席を求めた者は次のとおりである。

町長	高橋貞光	君	
教育委員会教育長	小板橋　司	君	
農業委員会会長	原田喜博	君	
選挙管理委員会委員長	大坪観誠	君	
代表監査委員	残間　正	君	

１．町長、教育委員会教育長、農業委員会会長、選挙管理委員会委員長、代表監査委員の委任を受け出席する説明員は次のとおりである。

（１）町長の委任を受けて出席する説明員

副町長	佐々木正則	君	
総務課長	原　進	君	
まちづくり推進課長	阪井世紀	君	
財政課長	佐藤英美	君	
税務課長	濱登幸恵	君	
町民児童課長	髙橋　純	君	
認定こども園長	伊藤悦子	君	
保健福祉課長	増田和彦	君	
農林水産課長	吉田有哉	君	
建設水道課長	平田大輔	君	

会計管理者	杉村	彰　君
国保病院事務局長	西村	晋悟　君
総務課長補佐	中山	康春　君
まちづくり推進課長補佐	奥村	大樹　君
財政課長補佐	小林	和仁　君
税務課長補佐	長内	解人　君
町民児童課長補佐	黒澤	美知子　君
認定こども園副園長	本田	和矢　君
保健福祉課長補佐	浜高	正明　君
保健福祉課長補佐	水野	万寿夫　君
地域包括支援センター所長	長内	京　君
農林水産課長補佐	藤井	卓也　君
農林水産課長補佐	井村	裕行　君
水産種苗育成センター副所長	栄田	武志　君
建設水道課長補佐	鈴木	涼平　君
国保病院事務局次長	手塚	清人　君
総務課主幹	尾野	裕也　君
まちづくり推進課主幹	斉藤	哲章　君
財政課主幹	稲船	洋志　君
税務課主幹	小林	朱央　君
町民児童課主幹	三浦	三津枝　君
町民児童課主幹	山川	彩子　君
保健福祉課主幹	古守	亜珠　君
保健福祉課主幹	垣本	利子　君
地域包括支援センター主幹	今川	勇吾　君
農務課主幹	斉藤	真　君
水産林務課主幹	油谷	好彦　君
建設水道課主幹	川上	佳隆　君
建設水道課主幹	吉田	一也　君
建設水道課主幹	高橋	真一　君
建設水道課主幹	大野	秀幸　君
出納室主幹	竹内	亜希子　君
国保病院事務局主幹	近藤	智博　君
防災係長	岡島	譲二　君
情報管理係長	又村	智　君
広報統計係長	西田	幸恵　君

商工労働観光係長	山崎　英人	君
環境衛生係長	原田　宰	君
社会福祉係長	河野　葉子	君
障がい福祉係長	平田　慎太郎	君
保健推進係長	安藤　麗香	君
包括支援係長	大久保　麻未	君
地域支援係長	田畑　貴子	君
農政係長	栗城　惇史	君
業務係長	北山　典孝	君
業務係長	池田　裕之	君
庶務係長	大庭　啓	君

《瀬棚支所》

支所長	河原　泰平	君
養護老人ホーム三杉荘所長	西田　良子	君
次長	栗谷　一樹	君
瀬棚保育所長	水野　真里子	君
福祉係長	稲船　奈穂子	君

《大成支所》

支所長	中川　譲	君
大成保育園長	浜高　あけみ	君
事務係長	村井　貴大	君

（２）教育委員会教育長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	古畑　英規	君
次長	山本　亨	君
次長	尾野　真也	君
主幹	藤谷　希	君

（３）農業委員会会長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	丹羽　優	君
係長	佐々木　正人	君

（４）選挙管理委員会委員長の委任を受けて出席する説明員

書記長	原　進	君
書記次長	中山　康春	君

（５）代表監査委員の委任を受けて出席する説明員

事　務　局　長　上　野　朋　広　君
次　　長　松　原　孝　樹　君

１．本会議の事務に従事する職員は次のとおりである。

事　務　局　長　上　野　朋　広　君
次　　長　松　原　孝　樹　君
主　　事　大　辻　省　吾　君

再開　午前１０時００分

◎開議宣告

○議長（平澤　等君）　皆さんおはようございます。

ただいまの出席議員１２名で定足数に達しておりますので定例会を再開いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付したとおりであります。

◎日程第１　一般質問

○議長（平澤　等君）　日程第１、昨日に引き続き一般質問を行います。

改めて質問者、答弁者に申し上げます。会議規則第５３条に規定されておりますように、質問及び答弁は簡明、簡潔にお願いいたします。

それでは菅原議員の４問目の一般質問から行います。

菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　仮称、介護事業持続化基金の新設について町長にお尋ねいたします。

①令和４年度の決算審査において町長は、国と介護事業の現場のすきまの是正について対応する必要があればするという答弁をしています。また介護事業持続化基金の制定をすべきだという私の提案に対して､新年度予算を編成するにあたって熟慮しながらの編成になると答弁しました。具体的にどのようになりましたか。

②入所施設の経営難に加えて、訪問介護事業も基本報酬引き下げの流れとなり経営が厳しくなっています。昨年は全国で訪問介護事業者の倒産が６０件に達しています。町として現場の聞き取りを行って必要な支援を行うことを求めます。

③名称には拘りませんが、介護事業持続化基金の設置と継続的な運用を求めます。

以上であります。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　菅原議員のご質問にお答えをいたします。

１点目につきましては、対応する必要があればするという答弁にあてはめるとすれば、本年１月に実施した介護･障がい施設等物価高騰対策支援金での支援を実施しているところであります。また基金の制定につきましては、熟慮した結果、昨日の石原議員への答弁と同様、基金の創設は行わず、これまで同様、現状の予算の枠組みのなかで必要な部分には一般会計からの繰入金をもって対応することでご理解願います。

２点目です。議員おっしゃるとおり基本報酬の引き下げはありましたものの、加算の見直しにより現在３種類の加算を一本化し加算率が引きあがることと、新たな加算が創設されることになっております。現在の情報では令和６年度末までが経過措置期間で、令和７年度以降に完全施行の予定となっていることから推移を見守っていきたいと考えております。

３点目につきましては、１点目で答弁していることでご理解をいただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　答弁漏れがありますから再質問に入る前に答弁漏れの補充をしてください。②で町として現場の聞き取りを行って必要な支援を行うことを求めます。こうお尋ねしました。それで町長、町として現場の聞き取りを行ったのかどうか。この点のお答えがございませんでした補充してください。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　町として現場の聞き取りを行って必要な支援を行うということを求められました。したがって今後聞き取りを行ってまいりたいと考えております。
○議長（平澤　等君）　菅原議員。
○１１番（菅原義幸君）　何かわかったような、わかんないような答弁なんですが、要するに私のほうは、いいですわかりました。再質問でやりますか。
○議長（平澤　等君）　菅原議員。
○１１番（菅原義幸君）　それでは再質問を行います。①の答弁に対して、よく理解できないんですよ私は。国と介護事業の現場の隙間の是正について、対応する必要があればするという答弁でした。それで対応する必要があるのかどうかということについては、既に町長は隙間を埋めるんだというふうにおっしゃっておりますから、これは対応する必要があるということを認めた前提の答弁になっていると思うんです。先ほどの答弁でそれが十分、対応仕切ったというふうに言えるかどうか考え方を伺っておきたいと思います。それから介護事業持続化基金を制定すべきだということに対して、新年度予算を編成するにあたって熟慮しながらの編成になるというふうに答弁しました。その結論は基金を設けないよと、一般財源で対応するということであります。これ熟慮しながら編成するということの答弁に町長なりますか。非常に乱暴な対応だと私は思います。それで②とリンクいたしますが、新年度の基本報酬の引上げ、これは全国的にものすごい大きな問題になってるんです。その点の認識を再質問の中でお尋ねしておきたいと思うんです。先ほど申し上げましたように、昨年は全国で訪問介護事業者の倒産が６０件ということになりました。小さいように見えるでしょうが決して小さい数字ではありません。それからもう一つ挙げておきますが、訪問介護事業所の経営実態でありますが、これは厚生労働省の集計でわかったことでありますけれども、北海道新聞の報道記事からご紹介を申し上げたいと思うんです。収入にあたる介護報酬の基本料を２０２４年度４月から減額することになったわけです。その理由は、結構利益率いいじゃないかという国の判断で報酬減額をやることになっておりますが、利益を上げている事業所の分布が問題なんです。確かに全国平均では７．８％だという公表の数字になっておりますけれども、それはばらつきがあるんです事業所の規模によって。一定の数字以上の企業がありまして、平均すれば７．８％の平均利益率であったということでありますけれども、問題は赤字になってる事業所がどれくらいあるかということなんです。これは３６．７％であります。アバウトで言うと４割の介護事業所が赤字なんですよというのが厚生労働省の集計の結果で明らかになったということなんです。なかなか厳しい状況だと思いますよ私は。この４割の事業所が経営持続できないとなれば、事業所閉鎖をすれば介護難民が出てくるという危険性と常に隣り合わせになってるわけです。なぜそういう問題が出てくるかといいますと、大手の場合は、これは

訪問介護サービスの場合なんですけども、集合住宅、人口密集地にいますと効率的に訪問介護ヘルプサービスできるんです。つまり移動時間がありませんから次々とやっていけると。ところが過疎地のほうに来て点在する対象者が多いとなると、移動にものすごい時間がかかるわけです。これはかつて移動時間も計算に入れていた時期がありますけれども、今は移動の時間を完全にシャットアウトして、実際に介護サービスに手をつけた正味の時間しか計算していないんです。そうしますと地方にいる介護事業者、それから私どもの町の中で言いますと、中心地にいる対象者を手がける介護サービス事業よりも、遠いところにあって一人一人のところに移動する時間の長い事業者、ものすごい大きな差が出てくるわけです。効率の問題です。そういうこともありまして結局、都会にある大手の事業所は結構いい数字を出しているんですけれども、そうでない地域の事業所は赤字なんです。こうなりますと国が根本的には対応しなきゃならない問題なんですよ、私は何度も言ってますがね。ところが国は、国の出す分を減らして、実際に介護報酬については大きな流れで見ると、どんどんどんどん削っていっていると。それからサービスを受ける側の負担は増やしていっていると、こういう流れですよね。だから介護サービス事業が始まって２４年、当初のスタート時から見れば違う姿になってきていて、国は大きな詐欺をやったようなもんだと、当初の姿ないじゃないかという批判が出てるんです。そういうことに対して地方の現場において一つ一つ対応する必要があるよということが私の問題提起の中核なんです。そこを町長まずよく認識しておいてください。それで先ほど現場の聞き取りを行って必要な支援を行うことを求めますという答弁に対しては、確たる回答がなかったわけです。私は今後やりますっていう答弁を求めてるんじゃないんです。これまでどうだったかということを聞いてるんです。でもこれからやりますということになれば、やってなかったっていうことと背中合わせの答弁なんですか。これは町長、私担当課を責めるつもりは何もないんです。やっぱり町長がどういう判断をして、この介護サービス事業についてどういう対応をしてきたのかということが問われるからです。町長いいですか、相談終わりましたか。副町長との相談終わりましたか。それでは質問続けます。それでせたな町内の介護サービス事業者と意見交換、情報交換をしながら経営実態がどうなのかということについて、行政自身がよく掌握していただきたいということが２番目の質問の中核なんです。介護サービス事業には施設介護サービスもありますし、申し上げたような訪問介護サービスもある。その他のメニューもいろいろありますけれども、それぞれのメニューによってそれぞれなりの困難さ、大変さっていうのがあるわけですから、その状況に応じた正確な現状把握をまずきちんとやっていただきたいと思います。町長、その上に立って本当にこれは仮称でありますけれども、介護サービス事業持続化基金を必要でないというふうに考えておられるのかどうか。ここをきっちり答えていただきたいと思うんです。一般財源で対応するとか、そういう方針を出してあるとか、全く腑に落ちない答弁を平然とやるその感覚を私はいかがなものかと申し上げざるを得ないんです。石原議員の昨日の質疑に対する答弁とも関連させて再質問しておきたいと思いますが、実は昨日の北海道新聞の１面にせたな町の記事が出ているんですよね。町長ご覧になりましたか。紹介しておきますが、檜山管内せたな町の特別養護老人ホームせたな雅荘は人手不足で１９年に休止に追い込まれた。町は２２年度からの５年間で計１億２，５００万円の支援を決

定、外国人技能講習生らを採用して２２年１１月に運営再開にこぎ着けたとこういう記事なんです。これは結局、地方自治体がその現場の手不足に適切な支援、援助をすることが極めて大事な政策になっているということを示した記事だと私は受け止めてるんです。その一方で中頓別の長寿園です。これはもう業者がやれなくなったということなので、町が直接、町営でやることになったという記事も併せて載ってます。全国的な状況としては、あるいは道内の状況としてはそういう流れになってきてるということなんです。私は、雅荘の問題がほかの問題と違うという趣旨の答弁されておりましたがそうではないと思います。これは石原議員に対する答弁なんですけれども、私はこれは是正する必要があると思います。雅荘が閉鎖に追い込まれていった同じ事情を他の施設も抱えているんです。定数割れになってますでしょ。定数割れになるということは直ちに収入不足に陥って経営難に直面していくんです。そういう状況は雅荘であれ、きたひやま荘であれ、長寿園であれ本質的には同じなんです。いろいろ経過を述べて雅荘は違うと、ほかのところは同じにならないんだとこういう答弁されてますが、これは町長、明らかに違いますからそこは答弁訂正なさって、自治体の支援がなければ成り立っていかないそういう施設がたくさん出てきてる。そこにどう対応するかということが今日の町村の避けられない仕事の一つになっているということをしっかり肝に銘じていただきたいと思うんです。それで私は一般財源で対応するというようなことではなくて、そこにしっかり焦点を据えてその対応にこれだけの備えがあるんだということをきっちり財源的に確保すべきだと思うんです。そのことを申し上げますのは、それに伴う介護サービス事業者の協議体を作るべきだということと私はセットで提起してるんです。過去の私の質問調べてください。それで介護サービス事業者の協議会を作りながら、全町的な官民一体の協議の場これが必要だと思うんです。直ちにそれに対応する財源の確保をしておくと、もってせたな町の将来の介護サービス事業の持続化を図るということが大変大事だと思うんです。そういうことに対して対応した中身を申し述べないで、サービスやる検討した結果やらないことになりました。何とかかんとかの事業で対応してますということになりますと、質問、答弁が全く噛み合っていないんです。ですからそこに噛み合う再答弁を改めて求めておきたいと思います。

以上です。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　２回目の質問にお答えをさせていただきます。その前に町がどのような支援を行っているかということでございますが、議員もご承知のとおり昨日の質問でも答弁させていただいたところでございますが、物価高騰等による支援金ということで１，５５０万円を支援をしております。こうして町としては基金を作らなくても一定の支援は可能と。ただ事業者の赤字補てんということはこれはできないものでございますので、そういったことはまた別の問題になるというふうに思っております。

それから次、支援をすべきでないかということでございますが、今回、国の報酬改定で加算率等の改定もございました。実質的には報酬が上がるということになるんだと思います。したがいましてこの部分の状況を見極めるということにしているところでございます。それから事業者との話を聞くべきだということでございますが、これらについては、町としても連絡会議の開催で

ありますとか、そういったこと等によりましてこの事業者の実態把握といいますか、この意見を聞かせていただいているところでございます。それからいろいろな課題がもちろんあるんだというふうに思っておりますが、今言いましたような報酬の改定、厳しい経営になっている要因いろいろあると思います。定員割れも大きな要素かと思います。それでこの原因を洗い出しながらそれを解決する方向ということで事業者と協力しながらそうしたことを進めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（平澤　等君）　菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　町長せっかく再答弁していただいたんですけども心に響くものがないんです。何を答えようとしたのかなと思います。赤字とは別の問題だと、物価高騰支援１，５００万やったんだからそれで結構だという話ですか。別に物価高騰１，５００万対策やったからそれで国と現場の隙間、埋まってしまったという話にはならないと思います。言ってる次元、対策してる次元が違います。構造的で長期的な政策について私は言ってるんです。目先その時の単発の政策を言ってるんじゃないんです。噛み合ってないですよ質問が。それから報酬が上がる報酬が上がると言ってますが、中身をよくよく調べていただきたいということを言ってるんです。今、人手不足、物価高で経営難これは共通の全国的現象なんです。せたな町は違うんですか。悠々順風満帆で経営されていっているんですか。そこを町長はどう認識されているんですかね。さっぱりそこの部分が聞こえてこないんです。具体例出しておきますが、これは固有名詞上げざるを得ないんですが、長生園の施設長、令和５年で交代してるんです。それは町長ご存じですか。ご存じですか。よくよく理由を聞きますと、前施設長は人件費対策を少しでも前向きに進めるために、どうも辞退なさったようであります。それで次の方を施設長になさったわけですが、自分の人件費はずっと下がったんです。そこまでやって血のにじむような経営努力をしているということなんです。町長本当に知ってるんですか今の話。だから私が言ってるのは、行政がもっと痒い所に手が届くような政策を打たなきゃダメだということを一貫して言ってるんです。何も答えてないじゃないですか。今回私が新たに提起しているのは施設介護だけではないですよと。施設介護も極めて危機的な状況になってるけれども、施設介護だけじゃなくて訪問介護サービス事業も大きな報酬引下げになってるから、ここも深刻な問題だということを提起してるんです。いろいろな作業問題があって点数が下がっていってるんです。その点数積算しますと結構大きな金額になりますからもろにかぶるんですよ、細かいことは申し上げませんが。だから全国の介護事業者関係の団体から止めろと、撤回しろという声がわんさか起きてるんです。そういう現状を踏まえたときに国策そのものを改めるということがまず第１です。これ私はそこを抜きにして申し上げてるわけじゃないんです。しかし国策を改めさせることと同時に地方の現場でそれをやわらげるクッションとなる政策も打つべきだという提起をしてるんです。ですからそのためには基金をきっちり設けて、その基金を官民一体となって効率的、効果的に運用する仕組み、システムを作るべきだという提起なんです。この問題提起して町長私何年なると思いますか。一貫して背中向けてますでしょ。もうそろそろ現状を認めて政策変更なさったらどうですか。１２月のときなんかは、

あの基金あり、この基金あり、その基金があるからそれで対応できるんだと。そのメニューの中に備荒資金まで入れて、後で取消しますなんていうそういう答弁やってるんです。徹底的に逃げると、徹底的に回避するという了見丸見えじゃないですか。これは何としても実現しなければ我が町の当面する介護サービス事業の前向きの持続的な展開というのは極めて困難だというふうに思ってるんです。私はそう認識してるから、だから一貫して提案してるんです。もう一度答弁を求めたいと思います。納得いかなければ予算審査で再度やらざるを得ませんので、あんまりそういうことにならないように明快なご答弁を求めたいと思います。

以上です。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　２２年度３０％あまりの事業者が赤字という状況ということは認識しておりまして、大変厳しいなというふうな感じをしております。本来これらの介護報酬等が主な収入源となっておりますので、これらの部分につきましては国が責任を持ってやるべきものというふうに思っているところであります。さらにそればかりではなくて個々の赤字の要因となる部分、これは経営の改善という部分これについてもしっかり進めていかなければならないものと、それぞれの企業において一つ一つ洗い出して原因を詰めていくと、その解消を図るということが必要だと思います。町としても、介護事業者ばかりの責任ではないというふうに思っておりますので、様々な事業を通じて支援をしていきたいというふうに考えております。ただ議員のおっしゃる基金がなければそういったことができないというふうには思っておりません。現状の予算の中でしっかり対応してまいりたいというふうに考えているところでご理解いただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　５問目の質問に移る前に一言だけ申し上げておきます。これ予算審査特別委員会で継続やりますから、町長。それから私の質問歪めないでくださいよ。基金がなければできないという表現いたしましたが、そういう提起をしてるんじゃないんです。基金を作ることによって、より弾力的、現実的に将来も含めた持続化が図られるであろうということを言ってるんであって、基金なかったらダメよという質問ですか。そういう単純明快な人の質問のすり替え、作り替えは止めてください。そのことも含めて予算審査で議長やりますから。

次に違法な専決処分とクラスター事業についてお尋ねをしたいと思います。

①自身が経営する法人に、違法な専決処分によって１億５，０００万円の補助金を支出したクラスター事業に関する議会への報告がこれまで一度もありませんでした。しかもクラスター協議会総会にせたな町は全く出席していません。このような状態で行政責任を果たしていると言えますか。

②１２月議会で提出された関係資料は肝心の部分が黒塗りで事実上非公開とされました。書式から判断して個人情報に該当しないことは明白であり、町民の知る権利と議会の調査権を妨害する行為です。やましいことがないのであれば情報の秘匿を改めるべきではありませんか。

③本事業のこれまでの成果と今後の課題について、クラスター協議会構成員のせたな町として明確な判断をお示しください。

以上です。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　菅原議員のご質問にお答えをいたします。
１点目でありますが、令和５年第４回定例会の一般質問でもお答えしたとおり、畜産クラスター事業につきましても国の他の事業と同様、議会への報告義務がないことから議会への報告は行っておりません。また総会につきましては、予算の動きもなく新たな事業計画等もないことから役員のみでの総会開催を了承しておりました。今後このようなことがないよう担当課へ指導をしたところであります。
２点目ですが、国、道においても一生産者のクラスターの場合、目標値や実績値などすべて個人を特定できる情報であるため非開示としております。そのことを受け町が持っている行政情報として個人情報が特定されないよう提出をさせていただいたものでございます。
３点目ですが、令和４年１１月に会計検査院の実地検査が実施されました。協議会が検査を受けておりますが、本事業に対し指摘事項等はないとのことで協議会より報告を受けております。会計検査院の意見も含めまして、町としては補助事業上、成果目標を達成していることから課題はないと判断しているところでございます。
○議長（平澤　等君）　菅原議員。
○１１番（菅原義幸君）　再質問をいたします。最初の質問で違法な専決処分だというふうに私は申し上げました。それに対する反論がございませんでした。だからといって認めたというふうに私は思っておりませんので、最初に違法性の問題について触れておきたいと思うんです。この違法な専決処分に対して議会側は承認をしませんでした。そのときの町長の答弁、これは平成２９年４月２８日の北海道新聞でありますけれども、そこに町長は次のように談話を載せております。地方自治法の専決処分の要件の議会において議決すべき事件を議決しないときに該当するので地方自治法に違反していないとこういう答弁してるんです。つまり議会が議決すべき事件を議決しなかったんだから専決処分やったっていいんだという答弁をしてるんです。これ北海道新聞に載ってるんです。私はこの点で誤魔化したから違法だと言ってるんです。反論を出しておきます。専決処分をやったときには、直後の最も近い議会の事後承認を得なければいけないわけですが、この事後承認は得ていないんです。それは議員協議会において審議する事案にあたらないとして上程をいたしませんでした。上程しないから事後の承認もないわけです。そのときの協議をした経過の中で議会側の見解として示されているのは次のような内容であります。これは平成２９年４月２４日に全員協議会を開催したときに当時の議長が示した見解でありました。これをご紹介しておきたいと思うんです。専決処分の要件、専決処分とは、町長が議決すべき事件について議決を得ずに処分することですが、地方自治法第１７９条で次の４項目のいずれかの場合にできるとされています。①普通地方公共団体の議会が成立しないとき、②第１１３条ただし書の場合において、なお会議を開くことができないとき、③議会の議決すべき事件について、特に緊急を要するため議会を少数招集する時間的余裕がないことが明らかであると認めるとき、④議会において議決すべき事件を議決しないとき。それで町長は④の議会において議決すべき事件を議決

しなかったから専決処分やったんだとこういう理由立てにしているわけです。今回のケースは①から③までに該当しないだけでなく、議案を提出していないため議決すべき事件が存在しないので④にも該当しません。議会招集や議案提出の時間的な余裕がある場合、とりわけ議会開催中に議案を出さないで専決処分することを地方自治法では認めておらず、このたびの専決処分は議会の議決権を否定するものと言わざるを得ません。畜産クラスター関連の補正予算の扱いは３月３０日の議長、委員長と町長副町長の４者協議において、前日の産業教育常任委員会で継続調査とされたので３１日の臨時会に議案を出さないことが確認されました。それにもかかわらず臨時会本会議でいきなり専決処分を行うというのは、議会と行政の信頼関係を踏みにじるものであります。１番最後に、町長が取締役に就任している法人に１億５，０００万円の国の補助金が交付される本事業について､議会に報告があったのは事業採択後の３月１日でした｡畜産農家であれば、誰しもが国の補助金を望んでいます。したがって本事業の採択経過や畜産クラスター事業の詳細な内容、希望する畜産農家の参加機会の確保等について、産業教育常任委員会で引き続き調査を継続する必要があると考えます。こういうまとめによって、議会としては意志の集約が図られたわけです。申し上げておきたいのはね町長、議会がクラスター事業に反対したんだと、とんでもない議会だって宣伝やりましたでしょ。若い事業者が一生懸命考えて新規の事業を取り組もうとしているのに、何たることだと、議員は何を考えてるんだという批難を作り上げましたでしょ。議案出さないのになんで反対できるんですか。私どもは産業教育常任委員会で再調査すべきだと思いましたけれども、いろいろ議論して全員構成で調査特別委員会を作って、２９年度１年間にわたって調査したんです。本来は産業教育常任委員長であった真柄議員が委員長やるべきだったのに辞退なさったんで、議長である私が委員長を務めさせていただきました。１年間いろいろな角度で調査して、その結果クラスター事業はいいけれども、専決処分は違法だという結論を出したんです。議会が出した結論の全てに町長は違法に対決したんです。１億５，０００万の違法な専決処分やったら、その他全く何の報告もなかったではありませんか。私はそのことを言ってるんです。それでね町長、ほかの補助金と同じで１回補助してしまったら、あとは議会に報告する義務ないよと、議会は関係ないんだよという答弁の組立てを一貫してやってるんです。これは違います。今日はっきり指摘しておきますが、実は議会の調査特別委員会に出された問題の畜産クラスター計画の計画書というのがあるんです。これは町長が自ら取締役やっている高橋畜産が主体となってやっている事業ですから町長としても目を通されてると思うんですが、あえて読み上げさせていただきます。このクラスター畜産計画は平成２９年２月２３日に作成されたというふうにされておりますけれども、構成員と役割ということがずっと述べられてるんです。細かいこと抜きにしますが、構成員はＪＡ新函館（若松基幹支店)、それから（有）高橋畜産、せたな地区水稲部会、若松そ菜連絡協議会、ホクレン農業協同組合連合会、檜山農業改良普及センター、そして最後にせたな町とこうなってるんです。そのせたな町が受け持っている役割どういうことになってるかといいますと、研修生の受入れを情報提供により支援をすると。こういう役割だっていうんですよ協議会に対してですよ。それから各種イベント（産業まつり、商業祭）で地域ブランドとしてのＰＲ活動、一般消費者への理解促進に係る取り組みを実施する。３つ目、種豚導入

費用の助成、町単独事業と、こういう役割を持ってるんだということを規定してクラスター協議会の構成員になってるんです。この役割を果たしましょうよ町長。金出して終わりだなんて言わないで、私はこの事業を進めるということについて必要であるならば、種豚導入の導入費用の助成が提起されてきても構わないと思います。そこに理があり、そのことがせたな町の畜産業を前進させることになるという根拠があるんであれば提案なさって議会の議決すべきだと思います。そういう議論何もしてないじゃありませんか。町長が言うには、いやもう道に文書出したあと議会関係ないんだと。議会に出すべき文章一切ないんだという言い方でしょう。これ計画書そのものに反するんじゃありませんか。こういう計画が前提になって協議会が作られて、今日まで協議会は重ねてきてるわけです。１回も出ないっていうのはどういうことなんですか。それから数字を個人情報だって言ってますが個人情報なんですか。ちょっと違うと思います私は。個人情報というのは、住所、生年月日、男女別と４要件に限られてますでしょ。あるいは病歴だとか犯罪歴、それから特に本人が個人として知られたくないと思うような要項、極めて限定的なんです。このクラスター事業の計画書の、あるいはクラスター協議会の関係資料のどこに個人情報あるんですか。問題だと思いますのは、町長こういうことなんです。ずっと一連の運びが町も入って事業が固められて、すっかり出来上がってしまっているのになおかつ議会には一切報告がなかったということなんです。町がずっと単独で走ったんです。それでもう一つ資料を紹介しておきたいと思うんですが、行政内部でも実は担当課の当時の主幹しか情報を所有していなかったんです。これは当時の情報が、公金取扱い上で職員を辞めたときに、１月３１日になって初めて引継ぎをやってるわけです。これは後で紹介する機会があると思いますから今日は留保しておきます。つまり当時の主幹が退職するときに課長や畜産の主幹のほうに、こういうことがあってこういう作業が必要だという引継書があるんです。その引継ぎによって初めて当時の課長が知ったと。これ１月３１日です。その後いろいろ設立手順や経過があって、クラスター協議会が設立総会があったのは実は２９年２月１６日です。これで規約も全部出来上がったんですが、なおかつ議会には知らせがなかったんです。最終的に知らせがあったのはいつかっていうと、３月１日です。議会が始まる前の日です。徹底的に議会がつまはじきに置かれていたということなんです。１億５，０００万の新規事業です。この予算を議会が始まる前日まで伏せていたということなんです。前にも申し上げたかと思いますが、この機会ですからもう一遍申し上げておきます。そのことを初めて当時の担当課長から報告を受けたとき時の委員長、これは真柄議員でありますけれども、血相変えて正副議長室に来たんですよ顔色変えて。議長、私やってました。副議長は熊野議員でありましたが、こんなでかい問題あるのに知ってるのかと議長、副議長は、知っているなら何で俺に言わなかったんだと。血相かえて踏み込んできたんですよ。私ども知るわけないじゃないですか。所管の委員長が知らないのに何で議長が知るんですか。一切聞いてないんです。何の報告がないんです。町長とも私議長でしたから多くの接点ありましたよ。一切その話一言半句しなかったじゃないですか。結局、担当課長が町長これじゃまずいでしょうという判断だったと推測いたしますが、議会に初めて出したけれど、それは議会調査なんかできっこありませんよ。たった紙切れ１枚出してきて何で了承せいっていうんだと。継続調査になったというのが経過なんです。３月

定例会始まってからも常任委員会で調査が進まなかったんです。進まないはずですよ３月定例議会予算委員会やってるんですから。しかも当時は認定こども園の設置云々の問題があって、所管の委員会ではものすごい時間かかった調査をやってて、その調査が終わったのが私の記憶に間違いがなければ３月２８日ですか。ようやく結論が出たけれどもクラスター問題に対する調査は継続調査になってしまったという連絡を受けたのが２８日の午後８時頃ですよ所管の委員長から議長と、継続調査になっちゃいましたと。継続調査になったんなら幾ら相談受けても詮無い話でありましてね。だから町長ともよく話し合って、副町長ともよく話し合って、これは議案提出に至らないのでやむを得ませんねという確認をしたんです。そしたら納得して議案書出さなかったんでしょ。こういう経過なんですよ。ですから議会が議決すべき事件を議決しなかったというのは、徹頭徹尾虚偽ですからこれは改めて指摘しておきたいと思います。つまり議案が出てもいないのに議決すべき議案を拒否するということはできないということなんです。これは改めて申し上げておきたいと思います。そこで少し長くなりましたけれども、これは協議会にきちんと出席をして、せたな町が果たすべき役割をきちんと果たすようにすべきだと思うんです。ですから毎年総会に出てこういう経過でしたと、事業こうでしたということをオープンに報告をして、必要な場合には、予算付けようじゃないかという提案をして当然だし、そういう役割を持っているということなんです。ほかの施設補助金と同じように一旦補助金出したらあとは関係ないんだと、この答弁は町長訂正してください。これ間違いですから。私は黒塗りにした部分については全部出してほしいと思います、個人情報に該当しないわけですから。度台ですよ２９年の調査特別委員会には計画全部数字が入って報告になってるんです実数。これは個人情報でも何でもないオープンにされた問題なんですから、一々私数字読み上げませんが飼育豚の出荷頭数、毎年度にわたって数字実数全部入れてるんです。そういう資料を議会にあなたが出してるんです。町長が出したんです。それからクラスター事業の展開をすることによって収益性がどう変わっていくか、あるいは肉豚の飼料代がどのように軽減されていくか、細かい数字全部実数出して黒塗りなんか一つもありません。全部まっさらに出しているんです。ところがこのたび出てきたものは肝心かなめの部分全部真っ黒でしょ。これで公開した資料だと言えますか町長。そういうことなんです。ついでですからもう一つ指摘しておきます。総会の会議録、目を通しました。４つほど問題点感じますから読み上げておきます。１つは、役員の任期が５年になっておりますけれども規約では、役員改選が行われた事実がないんです。平成２８年度総会の第１年度とカウントするという規約になってますけれども、令和２年度も３年度も４年度も任期５年の役員が改選されてないんです、議題に全く載ってないんです。これは規約の第９条に違反することになると思いますが町長いかがですか。それから北檜山農協と合併しましたよね。合併した後、これはせたな農業センターが中心になるんですか組織としてはね。規約も当然変わらなきゃいけないと思います。合併以前の規約そのままです。そうすると何が問題になるかって言いますと、クラスター事業の事務所がどこに置かれるかということが直ちに問題になってきます。若松基幹支店が事務局を持つというふうになってますけれども、これは当然せたな営業センターに変わっていかなきゃいけないのかなと思いますが町長いかがですか。それから歴代の事務局は、若松基幹支店のみならず様々な団体

が混然一体として年度ごとに入れ替わってるんです。これもクラスター協議会の在り方としていかがなものかなという深い疑問を持たざるを得ません。もう一つついでに申し上げておきますが、会計の問題です。議案第２号これは毎回の総会で議案第２号というふうになっておりますが、収支予算案についてという部分で一般会計収入の部、これは繰越金の５，０００円です。その他が一切なくて毎年５，０００円なんですよ繰越金がずっと繰り延べられていって。支出の部どうなってるかといいますと、１円も出てないんですよ毎年、提出された全ての資料において全て一切支出がないんです。だから毎年５，０００円の剰余金が出ていて毎年翌年度に繰越しされている。その５，０００円が使われないで次の年に繰り延べになっていくと。素朴な質問ですが総会の議案書だとか、事務的な経費かからないんですかねこの協議会は。私どものような凡人には到底理解できない決算内容なんです。役員構成の一旦を担っているせたな町の町長としてどう思います。少し長くなりましたけれども以上を再質問といたします。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　お答えをいたします。まずこの専決処分の関係ですが、これは随分ご議論をいただきました。なかなか理解していただけなかったという記憶を振り返りながらお話を聞いていたところでございます。いずれにしましても、これは私たちの町の主張としては、この地方自治法に沿って対応しているという考えに変わりはございません。それから農協が事務局になっている協議会の関係の不備な部分のご指摘がございました。これにつきましてはこの担当課を通じて改善をするようにという指示をしたいというふうに思っております。それから個人情報の件でございますが、これは先ほども申し上げましたように、国も非開示としていることと併せて町の情報公開条例の中の第１０条第１項、個人の思想、宗教、身体的特徴、健康状態、家族構成学歴、職歴、住所、所属団体、財産、所得に関する情報であって個人の特定がされ得るもの、通常、他人に知られたくないものと認められるものということになっております。これに照らして対応してきたと。これは北海道の条例におきましても第１０条の第１項、同じ内容となっているところでございますので、ご理解をいただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　町長のただいまの答弁は一つも納得できるところがありません。これは再々質問であっても同じ答弁なさるでしょうから、令和６年度の畜産振興の問題として予算委員会で改めてじっくりやりたいと思います。

以上で質問を終わります。

○議長（平澤　等君）　これより１１時２０分まで休憩いたします。

休憩　午前１１時１０分

再開　午前１１時２０分

○議長（平澤　等君）　休憩を解き会議を再開いたします。

一般質問を続けます。

菅原議員の６問目の質問を許します。
○１１番（菅原義幸君）　それでは６番目の質問を行います。食料、農業、農村基本法改定案と関連法案に対する町長の所見と当町の農業政策について伺います。
①２月２７日に国会に提案された食糧、農業、農村基本法改定案について町長の所見を求めます。
②同時に提案された食糧供給困難自体対処法、これ字を訂正してください。自体は事ですね。の対応です。訂正願います。事態対処法案についてどのように考えますか。
③当町の農業政策にとって必要な国の農業政策とは何か町長の考え方を伺います。
以上であります。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　それでは１点目のご質問にお答えをいたします。
１９９９年制定以来２５年振りの見直しを行う食糧･農業･農村基本法は、今後の国の農業政策の方向性を位置付ける重要法案と理解しております。
次に２点目ですが、気候変動に伴う主要産地の生産の不安定化、物流の途絶など様々な要因により国内における食料の供給量が大幅に不足するリスクが増大していることにより、食料供給困難事態対策法案が提出されました。今後、事態が悪化し困難宣言が発動されないよう食料自給率の向上など国の政策に期待するところでございます。
次に３点目ですが､町が目指す第２期せたな町農業振興ビジョンで掲げている持続可能な農業、農村が構築できるような政策を期待するところでございます。
以上でございます。
○議長（平澤　等君）　菅原議員。
○１１番（菅原義幸君）　それでは再質問を行います。まず１点目、町長の所見でありますが、そういう答弁ってありますか。重要だと思うんであれば、重要だと思う内容を展開したらいいじゃないですか。一体何と何と何が重要なのか、そこのところを触れないで、初めての法改正で大変重要だと思うと。私はそういう答弁に町長の全く無提言な姿を感じて仕方がないんです。真面目にやりませんかもっと政策議論は。それで私がなぜこの質問を出したのかといいますと、まさに町長が言うように重要な問題を含んでいるから出してるんです。その重要問題なんだと思います。町長答えないから私のほうから出しておきますが、食料自給率向上の問題なんです。この問題が今回の法改定では他の目標と全く同率になってしまって、主要政策だということからすっぽり抜け落ちて後退させられてるってことなんです。これはこの問題の１番重要な肝腎要の問題だと私は見ています。そこにきちんと触れてくださいよ町長。今カロリーベースでご承知のように受給率３８％、７％と言いますが、３８％でありそこまで落ち込んでおります。それでそこまで落ち込んだ食糧の需給率の回復向上、これを国政の課題から投げ捨てたということが１番大きな問題なんです。改定案は、現行基本法で唯一目標として掲げ、向上を図るとしてきた食料自給率を他の幾つかの指標の一つに格下げしました。国民一人一人が良質な食料を安定的に入手できる重要性を食料安全保障の確保として強調していますが、需給率の向上という肝心要の目標を捨て

てしまっては、そのこと自体も私は不可能だと思うんです。何でこんな改定するのかということであります。食や農の危機の根本にあるのはないかといいますと、一つは歯止めのなき輸入自由化路線なんです。どんどんどんどん市場開放して外国の余剰農産物が入ってくる。これで日本の農業生産が非常に大きな打撃を受けてるんです。この問題が一つあります。それから市場任せの農政です。特に価格保障、所得補償の削減、廃止ずっと歴史的にやってきました。この問題があるんです。ここを国がどう解決し前進していくかという課題に全く答えないままに、今度の基本法の改定が進められているということなんです。そのほか細かいこと言うといろいろありますから枝葉に入らないで中心問題だけに議論を留めます。この点について町長の見解をしっかり述べていただきたいと思います。いいと思ってるのか、悪いと思ってるのか、そこを答えていただきたいということなんです。それから食料、農業、農村基本法改定案だけじゃなくて、他の関連法案も今回セットで提案されてるんです。先ほど申し上げましたのは、食料供給困難事態対処法案なんですが、これどういうことかといいますとビックリするような内容なんです。輸入途絶などの不測の事態が発生したときに、米、麦の増産や作付転換で花農家にイモを作らせることなどを罰則つきで強制できる。こういう内容なんです。自主的で、生産者の自発性を尊重すべき農業生産が根本から否定されてしまう。ですから言わせる関係者に言わせますと、まるで戦時中の食糧法のようなものだと。上からの強制的な命でこれを生産しろと。これを生産するなと、こういう時代がやってくるんじゃないかというところにこの問題の非常に危険な本質があるんです。町長そういう認識なさってますか。だからある団体などは戦時食糧法だとこういうふうに言ってるんです。異常な事態じゃないですか。しかも国は戦争する国家づくりを今一心不乱に目指してるんです。戦争する国造りの農政版だと言って言えなくないわけですね。こういう本質的な問題を思っているということについての認識はございますか。そこのところ再質問で答えておいていただきたいと思います。再々質問も予定しておりますので誠意のあるご答弁を求めます。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　このたびの国が提案された食料、農業、農村基本法改定案でございますが、この自給率の向上に反するというようなご意見でありました。これは私の政策ではなくて国の政策でございますから、思いというのは私は細部まで感じ取れない部分があるというふうに思いますが、いずれにしましても先ほど来答弁いたしておりますように、これからの農業農村の振興発展を目指した法案というふうに受け止めているところでございます。私たち国民の代表である国会議員の皆さんが国会で十分、議論をしていただいて、この有効な法案となるように期待をしているということでご理解をいただきたいと思います。また次の食料供給困難事態対策法案についてでございますが、何らかの要因によりまして大幅な食糧不足に用いたときの対応ということでございますが、今このような事態が絶対起こらない保証はないというふうにも考えております。そうしたときに事前にこうした準備をしておくということは国民の命を守る上で守る責任、国の責任において当然この準備をする必要があるんだろうというふうに思います。こうしたことが農業農村の発展を害しないような、やはりそういったこの規制も当然必要になるものというふうに思っておりまして、こうした法律が適正に運用されるということを願っているところでござ

います。
○議長（平澤　等君）　菅原議員。
○１１番（菅原義幸君）　最後の質問になりますが、町長の今の答弁ですと、せたな町の農業を守れませんよ残念ながら。農業出身の町長とも思えないような答弁です。何ががっかりしたかというと、今の答弁ほどがっかりする答弁ないです。国の言いなり、自主性、全く姿が見えません。農業者の今後の方向それで守れますか。先ほども言いましたが、食料自給率その他の食料安全保障の確保に関する事項の目標というものがあるんですよこの基本法には。数ある指標のうちの一つに食料自給率の目標を下げたんです。同率にしてしまったんです。最も中核になるべき、柱になるべき政策を消しゴムで消すように消してしまったんです。今最も中心的な問題は、食料自給率の向上じゃないんですか。そこにきっちり焦点を合わせた政策を打つように法律として担保すべきなんです。そのことをやらないで、何かあったときに法律で強制的に作付転換させるんだと、セットになっているんです。ですから例えばウクライナ戦略の問題起きましたよね。もう国内大変じゃないですか。飼料、肥料の高騰、これだけ米だって輸入開放してしまうと、米生産者に大変大きな負担かかっていってるんです。今まで作れ増やせと言ってきたのが、今度は減反政策だと、ずっとやってきてますでしょ。１番肝腎要の政策というのは、受給率向上の問題だと私は思ってます。瑞穂の国、日本で食料自給率カロリーベースで３７、３８だと、外国から食料が入ってこなければ日本国民生きていけないんです。そういう危機感町長持ってないんですか。今、政府の岸田内閣が出した基本法改定案のそこに何も答えてないわけです。それの国会での議論を望むと、いい方向に行ってくれと。法律そのものがこういう方向であるにもかかわらず、そういうよく答弁できると思います。私は町長に強く批判を申し上げておきたいと思います。戦時食糧法これだって危険なもんなんです。そうならないようにすることが行政の仕事だと思います。それであまり長くないように結論だけ申し上げておきますが、１番大事なことは食料自給率を向上させるということ。それから所得補償、価格保障をしっかりやるということ。外国のデータはちょっと手元にありませんが、諸外国の補償率っていうのはもう日本に比べものになりませんから。結局、国の政策の基本は農業に対しては保護育成政策ここが基本なんです。この国の保護育成政策があってはじめて安定的に国内の食料の自給が確保されるということですから、この肝腎要の保護育成政策捨てちゃって価格補償をやらない、所得補償やらないということになれば育っていくはずがないんですという問題。それからやはり家族農業、ここをしっかり守って、機械化だ、大型化だと言ってもこれ限界ありますから家族農業を基本にした伝統的な農業というのが、日本の食料をずっと支えてきた基本にあるわけですから、そこを保護し育成していくということが大事だろうと思うんです。そういう国政を私は望んでおりますけれども、町長がそこに心をいたすかどうか、最後に聞いておきまして再々質問を終わります。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　お答えをいたします。今回の改正案には４本柱というものがございました。１つは、食料安全保障の確保、２つ目は、環境と調和のとれた食料システムの構築、確立、３つ目は、農業の持続的な発展、４つ目は、農村の振興ということでございます。こうしたこの

目標に向かってしっかり個別の政策を打ってほしいなというふうに思っているところでございます。私としては、これとは別に、町は町の農業振興の発展を目指した政策を打ち出してまいりたいと、進めてまいりたいと、今般スマート農業への転換が進んでいくという状況がございます。したがいまして今回の予算におきましても、これらの対応をした支援策を盛り込んだところでございます。

以上、申し上げましてご理解いただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　続いて菅原議員の７問目の一般質問を受け付けます。

菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　町長ね、国の農業の基本政策が悪い方向に進んでいくのに、そこときっちり政策を対比させないで､我が町どこでやるといっても本当に我が町の農業よくなりますか。これも予算審査で深めなければならないかなというふうに思います。

それで７問目の質問に移ります。町長の横領容認発言の是正措置などについて伺いたいと思います。

①令和４年度の決算審査における代表監査委員、保健福祉課長補佐、会計管理者への質疑によって元職員の横領行為が明確になりました。しかし町長は証拠もなしに家で管理していた、不正に使っていないとした上で、本人が認めなければ横領にならないとする極論を展開しました。横領行為を容認する町長の発言は有害であり取り消しを求めます。

②真相解明は、まだ途上であり、事件解明に必要な行政情報である前課長と本人の始末書、課長補佐の顛末書を提出してください。

③第３者委員会を設置し再調査することを改めて要求します。

④少なくとも懲戒処分審査委員会のメンバーを専門性、公平性、行政との距離を保つ民間人と入れ替えて再調査すべきです。入れ替えの時期を明らかにしてください。

以上であります。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　それでは１点目のご質問にお答えします。

今回の公金処理に係る不適正な行為に係わり、議会の皆様には、議会全員協議会、町職員の懲戒処分に関する調査特別委員会及び令和４年度決算審査特別委員会におきまして、長時間に渡り審議時間を取らせた事に対しましてお詫びするところでございます。

はじめに繰返しになりますが、横領行為の定義について説明いたします。横領とは、自己が占有している他人の財物を不法領得の意思をもって、消費、着服、隠匿等の処分をすることであります。不法領得の意思とは、不法に他人の財物を自己の所有物として経済的用法に従って利用、処分する意思のことであり、いわゆる持ち逃げや使い込みなどが該当します。議員が指摘する家で管理していた、不正に使っていないなどの発言については、議論の中で前主幹が、自己が占有している他人の財物を不法領得の意思をもって、消費、着服はしていないということを答弁する際に発言したものであり、本人が認めなければ横領にならないとの発言については、横領行為を証明する決定的証拠がない中、本人が認めなければ横領にならないという解釈を答弁したところ

でございます。これらのことから、断じて横領行為を容認した発言では無いことから取り消しはいたしません。

２点目のご質問にお答えします。前課長の始末書等については、これまで議会全員協議会で答弁してきたとおり個人情報であり、その取扱いについては、せたな町情報公開条例第１０条により、開示できる公文書は開示するものではありますが、この場合については、せたな町情報公開条例第１０条第１項第１号及び第７号により非開示となります。

３点目です。この案件は完結しておりますので、第３者委員会の設置は必要が無いと判断しております。

４点目です。せたな町懲戒処分審査委員会の委員については、公平性をより保つことからも民間人の有識者を選任する考えでありますが、この件に係る再調査はいたしません。またその人選については、せたな町懲戒処分審査委員会規定を変更し、新年度に向け公平性、専門性などから検討してまいります。ご理解いただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　それでは再質問をいたします。町長、先ほどの答弁の法律上の根拠になるものを示してください。提出してください。町長が勝手に頭の中でつくり上げた理屈を聞こうと思っていません。どの法律のどこにこういう規定があるのか。刑法上ではこういう規定になってないんです。しっかり示してください。それで先ほどの答弁で言えば、本人が否定すれば横領行為がないことになっちゃうんです。不法領得の意思があるかないかということが問題じゃないんです。意志があろうがなかろうが委任を受けた目的に反する行為をしたときには横領になるっていう明快な判例が出てるんです。町長の先ほどの答弁だったら、俺には不当領得の意志ないよって言えば、どんな横領行為でも否定できることになるじゃありませんか。そこのところをきちんと、ここにこういう根拠があるんだという法的な根拠を示していただきたいと思います。そうでなければ、この答弁は全面的に受け入れるわけにはまいりません。それから家で管理していた、不正に使っていない。これ本人おっしゃってるだけでしょ。町長の目で確かめたんではないでしょ。これは町長が私の質疑の中で認めざるを得なかったことなんです。私は家に管理している実態を見たことありません。不正に使っていないという証拠が特段ないわけです。本人の言い分を信じただけと。ところが本人は何度も言いますけれども、家で管理していたというんであれば、９月８日の時点で発覚し、担当課長補佐に問われたときに正直に答えて、家にあるから持ってくればよかっただけじゃないですか。それをしなかったから、この発言は虚偽だと判断せざるを得ないということを申し上げてるんです。そういう議論を代表監査委員、保健福祉課長補佐、会計管理者と私がやりましたが、質疑の中でそういうことだということを異口同音に認めたんです。認めないのは町長だけなんです。黒なのに白だとじょっぱっているだけなんです。これ私は町長としての適格性を欠くと思います。だからこういう方が町長やっていたんでは、我が町から横領行為は一掃できませんよと。これは多くの方が議会中継見ているんです。なんという感想を漏らしてますか。そのことを町長ご承知ですか。重ねて申し上げますが、先ほど答弁したことを正当づける根拠になる法律上の文献を示していただきたいと思います。それから情報公開の問題

ですが、これは個人情報じゃないですよ、行政情報でしょう。行政情報を個人情報だと言って出さないことが高橋町長の問題点なんです。しかもこの情報を出すことによって真相解明できるわけですから、その肝腎要の行政文書を伏せてしまって証拠に基づく議会の調査できますか、それを妨害する以外の何ものでもないでしょう。それで先ほど何か早口で言っておりましたが、改めて個人情報上で個人情報と該当するという根拠について、もう一遍ゆっくり再々答弁で結構でありますから町条例上の該当条項を答えていただきたいと思います。これは私はもう一遍提出を求めておきます。こんなにも拒んでいたら結局町民の知る権利の侵害になるんです。議会の調査権の妨害になるんです。都合悪いことは隠すと、これが高橋町長の特徴なんです。これほど都合の悪いことを隠しきる人だと思いませんでしたよ私は。もっとオープンにして実態はこうなんだとやって疑問や疑惑に答えたらいいじゃありませんか。それが風通しのいい政治だということなんです。もう一遍提出を求めます。

それから第三者委員会の設置もやる必要ないと言っております。これは求めておきます。町長が正しい、これは横領でないっていうなら第三者委員会を設置して、自らの主張の正さを証明したらいいじゃないですか。違いますか町長。これだけ町内外から、あの町長答弁じゃ話にならんよと批判が出てるんですよ現実に。それに対して正しいかどうかということの審査を求めるんであれば第三者委員会をきちんと設置して、いや町長のおっしゃるとおりだという結論出して決着つけたらいいじゃないですか。その何に恐れているんですか。ただやらないという自己完結型の拒否答弁です。もう一遍答えてください。それから審査委員会の入替え、これは１２月議会で認めたんです。町長これ懲罰処分審査委員会のメンバー入替えを認めたということは、町長どういう意味を持っているかご自身理解されてますか。これは大きな問題なんです。私は何を申し上げたいかっていうと、結局町長は、現在の構成メンバーによるところの懲戒処分審査委員会は、公平性がないということを認めざるを得なかったということなんです。そういう本質を持ってるんです。専門性にも欠けていたということを認めざるを得なかったということを言ってるんです。それから町長との距離をしっかり担保する人間でなければならないけれども、そこが担保されていなかったということを認めたことになるんです。私、先の審査委員会でも申し上げましたが、仲間うちを横領だって言えるほど腹決まらなかったものなというのがメンバーのある方の率直な生の声なんです。それは私よくわかります。属っぽい表現になりますけれども、同じ釜の飯を食ってきた昨日までの仲間を、おまえ横領だろうという審査を何でできますかっていう気持ちわかります。しかしそういう個人的な感情を乗り越えて、客観的な行動に対する処罰をしなければいけないのが審査委員会の委員としての役割なんです。役目なんです。仕事なんです。そこに辛さがありなかなかそうできないんだとなれば、これはメンバーを入れ替える以外ないなということで提起した問題なんです。だからこれまでのメンバーで出した結論については、専門性、公平性、行政との距離、これが担保されない中での結論ですから再審査を求めますって言ってるんです。それは拒否しておいてメンバーだけ入替えますからというのは極めて不誠実な態度だと言わざるを得ません。そこをしっかり答えていただきたいと思います。

それで議長、再々質問しませんからちょうどいい時間ですからね。

以上です。
○議長（平澤　等君）　町長、簡潔に答弁願います。
○町長（高橋貞光君）　それでは答弁を申し上げます。この案件を調査した町職員の懲戒処分に関する調査特別委員会におきましても、横領行為ではなく不適正な公金処理と報告されております。また令和４年度決算審査特別委員会の報告を受け、令和４年度一般会計決算が議会に認定されております。以上のことから議員とは意見は違うということではありますが、町と議会の判断は一致しているということでございます。先ほど答弁いたしましたが改めて取り消す答弁はないと考えております。それから第三者委員会の設置の質問ございました。なかなか答弁がご理解いただけないというのは誠に残念に思っておりますが、しかし先ほどの答弁のとおり第三者委員会の設置はいたしません。必要ないと思っております。それから審査委員会についてもご意見がございました。内輪でなかなか厳しい判断ができないのではないかというようなご意見でございましたが、私は決してそのようなことはない。しっかりと審査をして判断をしていただいているというふうに思っておりますが、それもご理解いただけないということは残念であります。今回、民間を加えるという答弁を差し上げたところではございますが、これについては、もっと皆さん方にご理解いただけるようにいうことでございまして、公平性をこれからもしっかりと保ってまいりたいというふうに考えているところでございます。
○議長（平澤　等君）　菅原議員。
○１１番（菅原義幸君）　答弁漏れありますよ。
○議長（平澤　等君）　町長、１回目の法律の解釈の根拠をお示していただきたいっていうふうなことの質問が先ほど確認されました。それで、その法律の法的根拠を示していただきたいと思います。
町長。
○町長（高橋貞光君）　お答えをいたします。領得罪、横領の関係ですが、領得罪の成立を肯定、いわゆる認めると。肯定するためには、主観的要件として不法領得の意思が必要であると判例上解されているということでございます。
○議長（平澤　等君）　町長しつこいですけれども、法律の条文とかなん条とかってあるんですか。判例わかったんですが、それは法的な根拠といえば法の何条何項とかとていうふうなことのほうが理解しやすいと思います。
町長。
○町長（高橋貞光君）　先ほど判例を申し上げました。今回の行為が横領罪と仮に仮定するとすれば、業務上横領罪、刑法２５３条、業務上、他人の物を占有している者が横領した場合に成立すると。横領罪が成立した場合、１０年以下の懲役ということでございます。
○議長（平澤　等君）　菅原議員。
○１１番（菅原義幸君）　答弁になってないでしょう。業務上横領罪の根拠を言いましたが、横領でないという法律上の根拠を示せって言ってんですよ私は。真面目にやってくださいよ。再々質問しないとまで譲歩してるんですから。それから議長もう一つ、個人情報だから情報公開拒否

すると言ったときの町条例上の条項の具体的な数字をおっしゃっていただきたいと。これも答えてないんです。何を聞いてるんですか人の再質問の。いいかげんにしてくださいよ。こっちは議事進行協力するために再々質問しないって言ってるんですからあえて。議長に求めておきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　承りました。理事者の方いかがでしょうか。午後のほうがいいですか。わかりました。答弁につきましては午後からにいたしたいという理事者から要請がございましたので、ただいまより１時１０分まで昼食休憩といたします。

休憩　午後　０時０８分

再開　午後　１時００分

○議長（平澤　等君）　休憩を解き会議を再開いたします。

一般質問を続けます。

午前中に引き続き、菅原義幸議員の再質問に対する答弁漏れに係る答弁を理事者からお願いいたします。

町長。

○町長（高橋貞光君）　それでは答弁をさせていただきます。１回目で答弁した横領については、横領を明確に定めている法律はございません。これについては領得罪の一つであり、ほかには窃盗、詐欺、恐喝などがあります。領得罪の成立を肯定するためには、主観的要因として不法領得の意思が必要であります。このことについては裁判所の判例上解されております。仮にこの行為が警察等司法の場で横領罪とされましたら、刑法２５３条の業務上他人の物を占有しているものが横領した場合に成立する業務上横領剤となり１０年以下の懲役となるものです。

次にせたな町情報公開条例１０条により開示できる文書は開示するものであります。情報公開条例の１０条ですが、実施機関は、公文書の開示の請求があったときは、開示請求に係る公文書に次の各号に掲げる情報のいずれかが記録されている場合を除き、当該公文書に係る公文書の開示をしなければならないとあります。１号です。個人の思想、宗教、身体的特徴、健康状態、家族構成、学歴、職歴、住所、所属団体、財産、所得に関する情報であって、特定の個人が識別され得るもののうち、通常他人に知られたくないと認められるもの、それから第７号には、公開しないことを条件に任意に個人から提供された情報であって、当該個人の承諾を得ないで公開することにより、当該個人との信頼関係を著しく損なうと認められる情報ということで、議員の言われた始末書の関係につきましては､始末書を行政情報だという話でしたが､このことについては、始末書の提出は求めができるものでありますが、対象者が提出を拒んだ場合に強要することはできません。なぜなら始末書は、事実関係を認めた上で反省し謝罪するという本人の心情や意思を表明するものであります。憲法第１９条によって個人の内心の自由が保障されているため、本人が意思証明を拒んだ場合に、強制すると内心の自由の侵害にあたると解釈されています。よって始末書につきましては、本人の了解なしに開示することはできませんということでご理解いただ

きたいと思います。
○議長（平澤　等君）　菅原議員にお尋ねいたします。再々質問はしないということでございましたけども、あれば許します。
　菅原議員。
○１１番（菅原義幸君）　いや私は再々質問する意思はなかったですよ。だけど議長、この答弁ならせざるを得ないでしょうよ。町長、私は法律上の根拠を示してくれって言ってるんです。刑法に横領罪の規定というのは実はないんです。それから横領罪と着服の違いもないんです。そのことを承知で私は一貫して過去問題にしてきてるんです。それが何か不法領得の意思がなければ横領でないかのような説明をずっと町長続けてきてましたでしょう。これは虚偽答弁ですから、議会に対して長年虚偽の答弁をしてきたわけです。私はよろしくないと思います。それで申し上げておきますが、不法領得の意思がないことを誰が証明できるんですか。そんなこと法律に書いてません。それこそ不法領得の意思というのは内心の問題でしょ。不法領得の意思があって横領したとしても私はありませんと言えば、それを否定する客観的な手段、方法というのは実はないんです。町長ありますか。だから横領というのは結局客観的な事実行為をどう認定するかという問題にかかってくるんです。町長おっしゃるように不法領得してないと。本人言っただけでは横領罪免れないんですよ。そういう法律上の根拠を示せないですよ結局。だから町長の答弁は違法な、法の正義に反する答弁をずっと一貫してしてきたわけですよ。家で管理していたって、私は見てませんって言うんでしょ。何の正当性も裏付けもないでしょう。土台公金を出納室に納めないで自宅に持っていくことが不法領得でしょう。不法なんですよそのことが。やっちゃならんことを５回にわたってやってるんです。それから不正に使っていないんだって、どうやって証明するんですか。使っていようが、使っていまいが関係ないことですよ横領には。大体法律に不正に使っていなければ横領罪じゃないなんていう規定なんかないんですから。だから町長のおっしゃってることは全部法的根拠がないってことなんです。もう１回言います。家で管理していたと本人が言っていると、不正に使っていないと本人が言っていると、本人が認めなければ横領にならないと、これが法の精神だと、全部違うじゃありませんか。そういう法に基づかない極めて根拠の曖昧な高橋町長にしか通じない主張をもって、議会答弁にするということは断じて私は許しませんから。これおそらく同じ答弁するだろうと思いますけども納得しませんよ。それから情報公開は、これは町長、横領行為に係る問題を個人が不利になるから公開しないでくれと言ったから公開しませんと、こんな話はありますか。それで町政に対する信頼を回復できますか。横領行為をやったからこそ本人が公開するのをはばかるわけでしょう。やってないなら堂々と示して、私は不正やってませんと。オープンに議会の皆さんわかってくださいと、町民の皆さん理解してくださいと言えばいいじゃないですか。不都合があって、バレちゃったら困るから秘密にするんだと、それを町長が是認してるということが問題なんです。それで議長、答弁、結局同じ答弁しかしないと思いますから、私は令和６年度の町行政の根幹に関わる問題ですから予算付けしているしていないにかかわらず、懲戒処分審査メンバーの設置の問題を中心とした予算審査での議論をしたいと思っています。だから答弁は求めませんが、そのことだけ申し上げておきたいと思いま

す。
　以上であります。
○議長（平澤　等君）　以上で菅原議員の７問目の一般質問を終わります。
　次に菅原議員の８問目の一般質問をお願いいたします。
○１１番（菅原義幸君）　それでは次に８番目の質問を町長に行います。
　旧あわび山荘宿舎棟の長寿命化事業についてお尋ねいたします。①国民宿舎条例は廃止されましたが、旧あわび山荘宿舎棟は、温浴施設の指定管理者である地元民間事業者の血の滲むような経営努力によって、宿泊と憩い、寄り合いの場として町内外の愛好者に引き続き好評のうちに利用されています。町長は、民間事業者の努力についてどう評価していますか。
　②温泉ホテルきたひやま長寿命化改修事業費として３億２，１６５万１，０００円の新年度予算が計上されました。旧あわび山荘宿舎棟の長寿命化事業にも手を付けるべきではありませんか。
　以上です。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　お答えいたします。
　１つ目の地元民間事業者の努力についてという話でございますが、この事業者につきましては、温泉浴場の指定管理を受け大成区唯一の公衆浴場を運営しております。併せて旧あわび山荘宿舎棟を使って宿泊部門を営業したいとのことから、町としては旧あわび山荘宿舎棟を無償で貸し付けし協力している状況であります。議員おっしゃる事業者の経営努力により愛好者に好評で継続して利用されているということでありますので、町としては民間の活力による事業者の更なる経営努力に期待をしながら現状の施設での無償貸し付けについて協力していきたいと考えております。
　２つ目の旧あわび山荘宿舎棟の長寿命化事業も手を付けるべきではないかというご質問でありますが、まず温泉ホテルきたひやまについては、今後も町が管理する重要な施設であり、長寿命化事業を行うことで施設の管理運営に支障が無いようにするものであります。一方、旧あわび山荘宿舎棟については、令和元年１０月末で用途廃止し普通財産としておりますが、温泉浴場を指定管理している事業者が、宿泊部門を営業したいとのことから現状の施設状態で修繕等は法人の責任において行うこととしておりますので長寿命化事業ということについては行う考えはございません。
○議長（平澤　等君）　菅原議員。
○１１番（菅原義幸君）　それでは再質問を行います。町長の先ほどの民間事業者の取組についてどう評価しているかということについて、評価することは何もないんですよね。建物の現状の状態で協力したいと、こういう答弁です。何で評価しないんですか。頑張ってる努力の血のにじむような内容に対してどう評価するかということを聞いてるんです私は。議員の一般質問の権利権限を侵害するような対応をとらないでください。町長の今の現状で協力したいという言葉をそのまま解釈すれば、そのままでそれ以上のことはやらないよということでしょ。どんどん古くなって寿命が尽きてしまったら、あとは閉まっても関係ないよということでしょう。非常に投げや

りで、捨て鉢で行政責任ないんじゃないですか。普通財産であろうが何であろうが、そこに実際に町民が憩い、宿泊施設として高度に利活用してるんです。地域経済に貢献してるんです。多くの愛好者がいて、山荘でなければダメだと言ってリピーターがいるんです。我が町全体の財産じゃないんですか。そういうことに対する評価がどうなんだということを聞いてるんです。民間事業者貸してくれって言うからタダで貸してやったと、あとは知らないよと。古くなりっぱなしでどうなったって関係ないんだと。これは普通財産でしかないからだと。そういう態度ありますか。私は高橋町政の１番ダメだと思うのはそういうことなんです。ある特定のところには必要以上に力を入れて予算計上するけれども、違うところには全く差別をして顧みないと。これは高橋町長の政策に共通したやり方なんです。極端な不公平政策です。私は考えてもらいたいと思うんです。それが当たり前だと、俺の権限だということは私は思い上がりだと思います。行政権力というのは非常に大きなもので、それは自治法という法律に裏付けられた法的権力です。それは地域住民皆さんのために公平公正に行使すべきであって、したいがままに、思うがままに、わがままに乱用していいということでは決してありません。私は１番大事な町長の根本になるべき判断に誤りがあると思います。そこは謙虚に反省なさっていただきたいと思います。それで温泉ホテルきたひやまのこれまでの長寿命化計画にどれくらい投資してきているか。これ担当課を通じて資料を頂戴いたしました。その資料によりますと平成２４年度の建物調査診断から始まって、令和４年度の赤外線ガスサウナ修繕、真空式パティヒーター部品取り替え修繕まで含めますと、１億９，４２９万８００円、アバウトですが２億円近い修繕等に対する予算投入がされているわけであります。この中には平成２５年度に行った温泉棟など改修工事１億５，０００万も入っております。それで町長これだけじゃないんですよ。町から出してる予算これだけじゃないんです。このほかに修繕以外というのがありまして、井戸掘削でありますとか、それに絡むいろいろな関連予算、長寿命化計画策定業務などの予算も含めますと、これが７，４３４万２，０００円あります。トータルして２億６，８００万です。正確に言いますと２億６，８６３万２，８００円これが投入されているんです。このほかに町長、新町になってから用地買収もあるでしょう。億単位ですよこれも。数字は申し上げませんが億単位の予算土地買収に投入してるんです。私は、これは反対してきてませんよ。ただの１度も反対したことはないんです。この２億６，８００万プラス土地代、そして今回３億２，０００万です。トータルどれくらいの金額になりますか。あわび山荘の問題について言いますと、国民宿舎条例廃止をしたときに私は反対をしました。廃止する根拠が何もないからです。大義名分がないことをやったんです。例によって町長は議会の同意をいただきましたというんでしょ。そういう答弁することも想定済みですから、しかしだからといって宿舎条例廃止した誤りは正当化されることはございません。追認した議会にも責任があります。私は賛成はしませんでした。結果どうなったかっていいますと、普通財産にしてあとは１銭もかけないよと、使えるうちは勝手に使ったらいいじゃないかと、町は関係ないよと。こういうことがあからさまに見えている政策じゃないですか。これが７，０００町民の町長の公平公正な行政と言えますか。しっかり反省をしていただきたいと私は思います。話は古くなりますが、旧大成町の町議で今は亡くなりましたが、佐々木陸郎さん町長ご承知でしょ。あなたが小学校時代に教員

として在職されていた方であります。この方は、昭和４７年７月に貝取澗小中学校の教員を辞任して、日本共産党公認で立候補されて長く議会活動をなさった方であります。実は私、佐々木さんが議会に当選する３カ月前に瀬棚町で議員になってるんです。いろいろ交流ありました、立派な方であります。その方が合併時に議席を持っておりませんでしたが、菅原さん、新町の議員になったら大成区では３つのことを絶対守ってほしいという、今となっては遺言のようなものをいただきました。これは前にも私申し上げたことがあると思うんですが、佐々木陸郎先生はこう言ったんです。３つあると。１つは、大成病院だったんですが、要するに病院機能、診療所をしっかり守ってほしいと、これが第１です。２つ目は、太田神社、これは全国に誇るべき観光資源でもあるからこれもしっかり守ってほしいと。もう一つあるんだって言うんです。それが国民宿舎あわび山荘なんです。大成の目玉というのはこの３つなんだと、どんなことがあっても守ってくれと。これつい昨日のように私は耳に残ってます。町長はそういうことを佐々木陸郎さんから聞いてませんか。私は多分、言ったのではないかと思いますがね。ただ言ったかどうかは確認しておりません。なぜそういうことを言いますかというと、最初の町長選挙は平成１７年でありましたが、当選した直後に佐々木陸郎さん町長のとこに行ったと言ってまして、お会いになったのは記憶してませんか。何を言ったのかまでは言いませんでした。相当、新町長に期待をなさっていたと思いますよ。私はそうした経過も踏まえて、やはり大成の方々が大事にしている政策については、しっかり守る責任が新町長、初代目の町長である高橋町長にあるだろうと思うんです。もちろん私は、大成の簡易水道の改修工事、大変大きな予算投入したことについての決断、これは評価されるべきだと思っております。しかしそれはやらなきゃならない当然、最小限のインフラでありますから、どなたが町長であっても当然やるんですよ、やらざるを得ないんです。何が大事かって言いますと、大成町民の皆さんの誇りである佐々木陸郎先生おっしゃった３つの問題、これを私はしっかり守ることが自分の責任でもあるなというふうに思っております。だから申し上げるんですが、あわび山荘をせっかく民間事業者が血のにじむような努力をして営営として守り育てていっているのに、建物が古くなるまま、だんだん傷んでいくままに見過ごしておいていいんですか。そういう約束でいいって言ったんだからわしゃ知らんという態度でいいんですか。町長の真意を私は伺っておきたいと思います。これは再々質問やりますのでとりあえず再答弁をちょうだいしたいと思います。

○議長（平澤　等君）　町長、再答弁お願いいたします。

○町長（高橋貞光君）　それでは答弁を申し上げます。どこの民間事業者も精いっぱい努力されて経営を維持されているというふうに思っているところでございます。あわび山荘の長寿命化の話ですが、議員とは意見が私とは違うということであります。この温泉ホテルきたひやま、それと国民宿舎これは同じレベルでは議論をすること自体に無理があると。これは全く別物ということでご理解いただきたいと思います。というのは、国民宿舎あわび山荘につきましては、これは既に町として今後、宿泊施設としての利用はしないということから国民宿舎条例の条例を議会の同意を得て廃止をいたしました。これは用途廃止ということになります。したがいまして民間の経営ということでございますので、これは民間の力でということになろうかと思います。そもそ

もこの施設を貸すにあたって、まだ使えるということで、使えるうちはどうぞ使ってくださいということでご利用いただいているということでございます。そういうことで全くきたひやま温泉ホテルと一緒にはならないとご理解いただきたいと思います。
○議長（平澤　等君）　菅原議員。
○１１番（菅原義幸君）　今の答弁なんですか。きたひやま温泉ホテルと一緒か一緒でないか聞いたんじゃないんです。
○議長（平澤　等君）　菅原議員、答弁漏れという判断だと思うんですが。
○１１番（菅原義幸君）　一緒になるかならないか聞いたんじゃないです。
○議長（平澤　等君）　理事者側答弁ありますか。
○町長（高橋貞光君）　長寿命化しないという答弁しましよね。
○議長（平澤　等君）　私のほうもちょっと今理解をしていなかったので、菅原議員カウントしませんが、もう一度質問していただけますか。大変ご迷惑かけてます。
○１１番（菅原義幸君）　再質問を再度やります。私は、あわび山荘の長寿命化計画を何でやらないんだって聞いてるんです。それはいろいろ理由を述べて、これは大成区にとって大事な施設であり、民間の事業者が一生懸命血のにじむような経営努力をしているんだから、旧あわび山荘宿舎棟の長寿命化事業をやったらいいのではないかと。この本質的な部分についての町長の答弁を求めてるんです。それで先ほどの答弁なんですか。温泉ホテルと一緒になりませんと。それが最後の答弁の結論なんです。私は公平公正な行政をやろうとすれば、大成町民の思いに応えて、たとえ一般財産になったとしても、現実に宿泊施設と憩い、寄りあいの場として、そこに利用されて喜ばれているという実態があるんだから、町の政策として長寿命化されるように、町長の判断どうなんだということが質問の中核部分なんです。噛み合うに答えていただきたいと思うんです。もっとわかりやすく質問しますが、建物に予算投入しない理由は何かあるんですか。そこをしっかり答えてください。これ再々質問やりますから。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　私の答弁は伝わらなかったようでありますが、大事な施設ということでのお話でございました。町としましても、この大事な施設を存続するかどうかということでご相談をしながら、最終的に目的を終えたということで、国民宿舎条例の廃止をして普通財産といたしました。したがいまして、これはもう町としては宿泊施設ではないということでございます。したがいまして、もう用途を終えた財産ということでありますので、この長寿命化をするということについては考えていないということでご理解いただきたいと思います。
○議長（平澤　等君）　菅原議員。
○１１番（菅原義幸君）　許されざる答弁です。言ってみれば血も涙もない。何の情も持たない極めて冷たい答弁です。町長は使命を終えた宿泊施設ではないとこういうおっしゃってますが、現実どういう展開になってます。現実はどうなってますか。実にお客さんが来てホテル経営、営営としてしてやってるじゃありませんか。だから私は聞いたんですよ冒頭に。民間事業者の血のにじむような経営努力これをどう評価していますかっていうんです。何の評価もしてないじゃな

いですか。高度に利活用して血のにじむような努力してるんです。そこを町長が認めることができないんですか。用途廃止してしまった何の関係もないただの空っぽの建物だと、町にとっては何も関係ないんだという突き放した評価をしておいていいんですかっていうことなんです。だから私冒頭に民間業者の努力をどう評価してるかということを聞いてるんです。そういう組立て方をしてるんですよ私は。何も評価しないんですか、どうなんですか町長。関係ないよと町政と、勝手にやればいいやと、お前らタダで使わせてやってんだから好き勝手にすればいいじゃないかと、そういう態度で許されると思っているんですか。ならば私は申し上げますが、この国民宿舎条例を廃止するときに想定を超えた存続署名上がったんです。町長知ってますよね。私の後援会員も５００人以上集めましたよ。大成区全戸、これは石原議員だったと思いますが、ほぼ全戸から署名を集めたんです。例外はあったかもしれませんがね。ほぼ全戸ですよね署名は。各戸歩いているんでしょ。粗方だって言って構わないんですよね。そういう状況です。そのほかに町長、宿泊客からも存続署名を無視できない数集めたんです。当時の公社のメンバーが、これほど慕われ、存続を願う声を町長は頭から無視したんですよバッツリ。よくこういう苛酷な非人情的な行動できるなと思いました。住民説明会２回やりましたが２回とも私出ました。今と同じことを基本的に町長に申し上げました。一顧だにしませんでしたでしょう。粗方の町民、夜中の２時まで、最後は人数少なくなりましたけれども、存続を求めて町長に皆さんお願いしたんです。特にあの直前にあった町長選挙では、あわび山荘を改築するかのような、そういう公約を出して当選しましたでしょ。改築に向けての課題を整理するんだと。みんなは改築してくれるんだなと思って、あなたに票を入れたわけです。その結果、止めるんだっていう答弁しましたよね。私は政策公約の裏切りだと思います。騙されたという声まであったんですから。だから国民宿舎あわび山荘の条例の廃止には大義名分がないと私は今でも思っています。そういう点では、町長と私の考え方は永久に交わることはないかと思います。しかし今そのことを争ってんじゃないんです。それは既に結論出てしまいましたから問題はそこではないんです。現実に町の一般の施設ではあるけれども、現実に宿泊施設として利用し泊まっているという実態があるじゃないかと。そのことが大成区のみならず、せたな町全体に大きな貢献をしてるじゃないかと。それから温泉には宿泊施設として一体のものと見ながら多くの人方が利用してるんですよ他の区でも。他の区の人方は、温泉は温泉だけだと、宿泊棟は宿泊棟だけだという見方を決してしていません。一体のものとして慈しみ、親しみ利用してるんです。そういう実情を正確に評価したときに、長寿命化計画やったっていいじゃないですか。何でやらないんですかって聞いてるんです。そこに投入をしたら町行政上、重大な否定的な現象が起きるんですか。それで私は最低限、宿泊施設として使っているという民間事業者の現実の努力をお認めになるべきだと思います。現実に利用されている方がいるという事実をお認めになるべきだと思います。再々質問ですから結論を絞りますけれども、温泉ホテルだけに予算投入すればいいということではありませんよこれは。バランスある行政展開をしてくださいよ。私は、ホテルの長寿命化計画につきましては反対はいたしません。しかし昨年の議会で、指定管理者制度を廃止してここに公金を投入することは、もうそろそろ考えるべきではないかと議場から発言した方がいるんです。これはこれで一理ある発言だなと思いますが、し

かし私は今そういう立場をとっておりません。少なくとも両施設については運営されている現状を踏まえて、もう片一方のほうにも普通財産ではあっても長寿命化計画を図ったらいいじゃないかということを提起したいんです。長寿命化計画に財源的な問題があるんであれば、これを提起しておきたいと思います。窓の外に付けるエアコンです。これはホテル側でもいろいろ計画した経過があるようでありますから相談に乗ってあげてください。このまちづくり推進課が担当になるんですか、あわび山荘は、どこが担当になるんですか。キュービクルの施設なんかも必要でありますから、単純に窓に取り付けることだけでエアコンを取り付けることだけで済むようではありませんから一定の予算はかかると思うんですが、今エアコンのない宿泊施設というのは、もう考えられないわけです。何せ地球沸騰化時代ですから。その日によっては、沖縄よりも北海道の温度が高いという真夏日があるわけですから、そういうことを考えたときに長寿命化事業の一環として、少なくともエアコン設置ということについては、町は聞く耳を持つべきだというふうに思います。再々質問、最後にその点をお尋ねして終わりたいと思います。

以上です。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　お答えいたします。これはいろいろな議論の経過がございました。町としても、議会としても苦渋の選択であったというふうに思っております。議員からは非人道的という言葉もございましたが、しかしこれはそういった老朽化も伴いまして、今後、町としては２つ施設を維持するということは無理ということからこういう判断をして、議会にもしっかりと説明をして判断をしていただいたという経過でございます。そうした施設でありますので、やっているから町費を入れなさいということでは説明ができないというふうに思いますし、これはあくまでも民間事業者が自らの意思でやっている施設と、一般のほかの宿泊事業者と同じ立場でございます。そういったことで公平性にも問題が出てくるということになりますので、議員の気持ちはわかると、気持ちは理解させていただくものでありますが、しかし長寿命化に手を付けるということにはなかなかならないということで、これは一旦廃止した施設でございますし、議会の決定もございますので、これはそのようにさせていただくということになろうかと思います。

○議長（平澤　等君）　町長、今の話の中で菅原議員からは、その話を聞くべきでないか、もしくは宿泊に関してはエアコンの設置等についてはどうかということもありましたけども、そのことは今の答弁に含まれるということですか。

菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　エアコン設置についてはどういう考え方なんですか。

○議長（平澤　等君）　町長、答弁できますか。

○町長（高橋貞光君）　今回次世代の店舗づくり事業ということの事業を出しますが、これは町の施設ができるかどうかということについては、これは今の時点で判断できないということでございます。これは時間をいただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　そういうことを求めて質問したんじゃないですよ私は。いわゆるチャ

レンジ事業は、令和６年度版これに乗っかる事業かどうかっていう話でないですよ。長寿命化の一環として現実に宿泊業をやってるわけだから、エアコンの無い施設というのは考えることができないから、これを特別に対応してみてはどうかと。そこを担当課に業者との協議調整をさせてみたらどうかということを聞いてるんです。かみ合った答弁を求めたいと思います。

○議長（平澤　等君）　ただいまの菅原議員の発言については、再々質問における答弁漏れの指摘と判断いたします。町側からこの件に対しての回答願います。

町長。

○町長（高橋貞光君）　これは先ほど来答弁を差し上げておりますが、この用途を廃止した施設ということでありますので、それは町としてはできかねると。ただ今利用していただいている事業者が自らやりたいというのであればそれはそういうことが可能ではないかというふうに思います。いずれにしましても民間事業者との関連も出てきてまいりますので、そういったことでご理解いただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　以上で菅原議員の８問目の質問を終わります。

ここで２時１０分まで休憩いたします。

休憩　午後　２時０２分
再開　午後　２時１０分

○議長（平澤　等君）　休憩を解き会議を再開いたします。

一般質問を続けます。

菅原議員の９問目から始めます。

菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　それでは９問目の質問を町長に行います。町民要望に対する町長の対応について伺います。

①農協事務所改装やホテル長寿命化改修事業には億単位の予算をつけながら、ハイヤーチケット支援、補聴器購入助成、エアコン設置助成、買い物支援、リフォーム事業延長など少額で実現できる町民の切実な要求に町長は背を向けています。その理由を伺います。

②私が議会などで要求してきた新チャレンジ事業令和元年度、鮭定置網災害復旧助成事業令和２年度、小学校修学旅行貸し切りバス支援事業令和２年度など最大５年越しの町民要求は、新年度予算でようやく実現の運びとなりました。財源があったにも拘わらず長期間予算化しなかったのは何故ですか。

③前定例会の一般質問で約束したハイヤーチケットと補聴器助成の試算結果をお示しください。

④デマンドバスの構想が明らかになりました。全町的な通院費の無料化政策をどのように継続、拡大するのか伺います。

⑤令和７年度に、事業費概算１億６，０００万円の北桧山学童保育所整備工事を行う前提で、設計業務費９９２万２，０００円を計上した新年度の予算書を一度は印刷発注しましたが、議長

と産業教育常任員委員長、総務厚生常任委員長の指摘で２月２０日全額削除しました。本件は継続調査中の案件であり､結果的に削除したとはいえ議会軽視の事実は厳然として残されています。町長の釈明を求めます。

以上です。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　９問目の質問にお答えをいたします。

各種施策､事業の展開にあたっては､目的や目標に対する成果を十分検討したうえで､必要性､有効性、緊急性を見定めながら政策判断をしているところでございます。

２点目です。各関係機関や団体からの要望により、私が政策判断をして令和６年度で対応すべきものについて予算措置をしているところでございます。

３点目ですが、まずハイヤーチケットですが、チケット１枚はハイヤー基本料金の７００円、年間１２枚交付を基本といたしまして、対象年齢を６５歳以上の方とする場合は約１，４００万円、７０歳以上とする場合は約１，１５０万円、７５歳以上のとする場合は約８３０万円となります。なお対象年齢人口は令和５年１２月末現在人口を用いております。これが１年分の積算となります。

次に補聴器購入助成についてですが、対象人口中の聞こえに課題のある方の割合を２５％程度とし、そのうち仮に２から３％程度の方が申請すると考えますと、申請者数は概ね１０から３０人程度と見込まれます。助成する規模を３万円とした場合は９０万円、５万円とした場合は１５０万円、６万円とした場合は１８０万円程度と見込まれます。こちらも対象年齢人口は、令和５年１２月末現在人口を用いており１年分の積算となります。

４点目です。通院費の無料化につきましては、先ほどの桝田議員からのご質問の答弁と同じ内容になりますが、交通空白地域におけるデマンドバス運行を優先して進め、無料化などにつきましては、そうした状況を達成したあと可能かどうか検討したいという答弁を申し上げました。しかしこれにつきましても再度検討をすると、検討してみたいというふうに答弁をさせていただいたところです。

５点目の質問ですが、北檜山学童保育所整備計画について、常任委員会で十分な説明時間がとれなかったことにつきまして大変申し訳なく思っているところでございます。あとは十分に常任委員会での調査をしていただきながら、整備に向け取り進めてまいりたいと考えておりますのでご理解をお願いしたいと思います。

以上でございます。

○議長（平澤　等君）　菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　町長の先ほどの１点目、２点目の答弁を聞きましたら予算を付けない場合であっても、予算を付ける場合であっても一貫性がないということです。何か聞いてれば気が向いたり予算付けるし、気が向かなきゃ返事しないんだというふうに言っているようにしか聞こえてこないんです私の耳には。予算化したことについては私評価いたします。②のほうでありますが、しないよりはしたほうがいいわけです。ただ町長、なんで提起してるのに最大５年も背

中を向けたのかという疑問は残ります。町長たいしたさっき中身を言ってませんでしたが、予算編成に支障が出るから付けないんだということを一貫して言ってきたんです。私はそれに対して、そんなことないじゃないかと、毎年、億単位の剰余金出してるじゃないかと、財調に積立ててるんだよと、この程度の予算で町財政が編成できなくなるっていうことは嘘だという立場でずっと対処してきたんですが、結局、今年３つの新事業予算付け、議決されればの話ですけれども、実現の見通しが立ったじゃないですか。これは歓迎しますが、何で渋ったのかという疑問が残っております。疑問が残っているということだけを申し上げておきます。それで問題は①のほうなんですが、これどうするつもりなんですか。まだ緊急性を勘案して、しばらくじっと考え込むんですか。私、緊急性ということであれば、緊急性はハイヤーチケットにしても、補聴器購入助成にしても、エアコン設置にしても、買物支援にしても、リフォームの事業延長にしても緊急性という点ではあると思います。それぞれがそれぞれなりの必要性を持って提起要求してるわけですから、緊急性、必要性について十分なご理解を求めたいと思うんです。このことだけ再質問で再度お伺いしたいと思います。それでそのうちのハイヤーチケットと補聴器です。これは前定例会で約束しましたように、試算結果を一つ調査してくれということに対しては試算結果を伺いました。それで町長、試算の結果明らかになったら次に進めるべきことがありますでしょ。駒を次に進めてもらいたいわけです。はっきり申し上げますが試算された数値の中で、せたな町の予算構成で組み入れることの可能な範囲の中での予算づけを求めたいと思います。この金額見ましたら、すぐできるのあるんじゃないですか。補聴器なんかだってすぐできそうですよねこの程度の予算であれば。

それからハイヤーチケットも、これは年齢いろいろ区切り方ありますから、最初から欲く深いこと申し上げませんが、例えば７５歳というふうな組み方でもいいです。７０歳のほうがもっといいんですけれども、決断していただけませんか。これは人数トータルして計算したものでしょうから利用しない方もいると思うんですよ恐らく。私は要らないよと、私は使えませんよと。そういうことを見込めばこの予算なら手を付けてみても、せたな町の財政構成に重大な支障が出るというようなことではないと思うんです。あとは町長の決断次第だということでありますから、ぜひご決断を要請したいと思います。それからデマンドバスです。これは町長、私絶対この問題下がりませんよ。町長の答弁にごまかしがあるんですよ根本的に。全町的なデマンドバスをやろうがやるまいが、私の提起には何も関係ないんです。これは昨日の経過がありますから桝田議員の一般質問と全く同様だということを申し上げておきたいと思うんです。要は町長、交通の不便さをどう解決するかという問題ではないんです。通院費の無料化の問題については、医療政策、福祉政策の一環として言っているんです。それこそ町長が言うように、この問題とデマンドバスの問題は全く同列にならないんです。病院に通うときに交通弱者が安心して無料で通院できるようにするという医療政策、福祉施策なんです。ここにどう応えるかという問題を提起してるんです。加えて特定の区だけではなくて、３つの区全体に共通する一貫した町政上の政策としておやりになってはいかがかという提起をしてるんです。それで通院する交通手段はいろいろあると思うんです。別に通院バスだけでなくていいんです。ハイヤーでもいいんですよ、営業用のバスで

もいいんですよ、デマンドバスでもいいんですよ、患者バスを出さなきゃいけないんであれば患者バスでもいいんです。要は町の政策として通院するときには、大成診療所ありますよね。国保病院あります。ロイヤルさんも入ることになるのかな。それから瀬棚診療所あります。それぞれ最寄りの区の患者さん方は医療機関利用することになるわけです。その通院を交通弱者の立場に立って救済をする政策を全町的にどう貫くかということを提起してるんですから、デマンドバスが全町的に行き渡った段階とか、そのあとでできるかできないか検討するとか、これは全く的外れの提案者の趣旨とは違った答弁だということを申し上げておきたいと思うんです。この点しっかり答弁お願いしたいと思います。

それから学童保育、これについては一言申し上げておかざるを得ません。設計費の計上は思い留まりましたから、それは大局に立った適切な決断をなさったなと思いますから、これは歓迎したいと思います。ただそこから先が問題なんです。入手した資料によりますと、これは来年度１億６，１００万円の予算で北檜山小学校に設置した形で作り上げるということで図面までできあがってるんです。これは総務厚生常任委員会の資料であります。町長、随分手回しいいんじゃないですか、びっくりしましたよ。財源内訳につきましても、国庫負担１，０４３万円、道費負担、同額の１，０４３万２，０００円です。国庫負担と同額であります。町負担は１億４，１１３万６，０００円です。これは道、国の交付金としては、子ども・子育て支援施設整備交付金を活用すると。ものすごい具体的じゃないですか。総務厚生常任委員会の委員長以下のメンバーの皆さんも知らなかったそうです。知ってなかったそうです。当然、所管の常任委員会の審議というのは継続審査ということになったと、２月１９日に継続審査になったというふうに聞いております。当初は小学校に併設するんであれば、産業教育常任委員会との合同審査が必要でないかということで継続調査になったというふうに聞きましたが、合同調査っていうのは自治法上ないんです連合審査はありますが。それで余計なことになりますが、議長、副議長、両常任委員長協議の上、合同の常任委員会を招集するという流れがありましたが、私は４者協議には遠慮しました。なぜならば合同の審査、調査というのは自治法にないイレギュラーな方法だからです。もしやるとすれば議会運営委員会にしっかり諮って、了承の上で招集する運びが必要だと考えましたので丁寧に４者協議はお断りをいたしました。それでその流れの中で、議長、両委員長が協議し、これは当初予算に載ってるのは問題が起きるんじゃないかという議論をなさったようでありまして、副町長においで願ったということでありますね。副町長に提起したしかる後に町長にもお出しを願って、これは当初予算から削除したほうがいいと言う流れが出てきて、財政課長にその旨伝えて、急遽、印刷屋との連絡をとったと、こういう流れだと思うんです。それで町長、過去の議会の経過っていうものがあるんです。これ町長ご承知ですか。私、当時議長やっていたからよく記憶しているんですが、２つ申し上げておきたいと思うんです。１つは平成２７年１１月１９日、第１７回産業教育常任委員会の教育委員会からの報告なんです。これ町長記憶してますか。町長も同席してたと思います。記憶ないでしょきっと忘れてるからこういうことになったと思うんですがね。それで大変、失礼かとは存じますが朗読させていただきます。当日、教育委員会事務局主幹の黒澤主幹ですが、こういう報告してるんです。認定こども園を造る、造らないという議論をし

ていたその延長線上のことなんですが、こう言ってます。これは当日の会議録１６ページでありますが、青少年センターについては、現在、学童保育所、合宿施設として利用しており、学童保育については、ここなんです。学童保育所については、認定こども園完成後に幼稚園を学童保育所として利用することが可能になります。こういう発言をしてるんです。だから可能性の問題について言及してるという事実があるんです。それ以上のことは言ってませんよ。しかしこういう事実がありますから、多分、認定こども園完成して幼稚園が空家になったときに、いずれ学童保育所として行政側から提案があるんだろうという判断しておりましたよ。それまでも変わりませんよ私は。ただ諸事情があって提案されないのかなというふうに考えておりました。まずこれが一つです。それからもう一つです。これは私の議長時代の話ではありませんが、一般質問でこういうやりとりがあるんです。令和３年度１２月定例議会、第４回定例会、これは橋本議員であります。橋本議員はこういう質問なさってるんです。現在、青少年センターでは、学童保育所として平日午後の時間に使用されています。訪問した際には、指導員の先生から話を聞き大変勉強になりました。学童のお子さんたちも活発に動きまわっていました。その中で、これから厳冬期を迎え暖房の充実を考えるべきだと感じました。それとトイレのほうは使用をためらう学童が中にいると聞きました。指導員の先生に聞いたところ、トイレの場所が全体的に暗い感じがするのではないかということでした。学童保育所が他の場所での開設が難しい以上、青少年センターを改善したほうがいいと思いますと。これに対して高橋町長はこういうことなんです。今後においては建て替えを検討してまいりたいと考えております。ここまでなんです。だから青少年センターとセットの形で何かの考え方を押し出してくるのかなという含みを残した印象が残るわけです。ところが今回総務厚生常任委員会でた資料見ますと小学校併設です。多分これ共用部分も出てくると思います。トイレなんかは共用なんでしょうけどもね。そうすると産業教育常任委員会の絡み出てくるわけです。私は産業教育常任委員会のメンバーですが全く知りませんでした。おそらく教育委員会側とは事前の協議をなさっての話だと思うんですけど、教育長からは報告のほうもないんです。これはどういうことですか。私は教育長を責めるつもりはありませんが、行政の運びとして腑に落ちません。もう一つついでに申し上げますが、それじゃ幼稚園のほうの現状はどうなってるいうことなんです。幼稚園の図面も私入所しましたよ。現状どうかということで情報求めましたら、何か物置になってるって言うんですか。町長、答えられますか。一般質問だから町長にお答え願う以外ないんですが、何に使ってるか、全くの空き家なのか、物置なのか、私は物が入ってるって聞きましたがね。これぜひお答え願いたいと思うんです。ならば黒澤主幹が当時ご返答なさってたように、もう認定こども園できて何年も経ってるわけですから幼稚園の建物跡、学童保育に利用するという課題について行政側が教育委員会とタイアップしながら検討なさったのかどうか、これを私伺いたいと思うんです。そのあとで再々質問を行いたいと思います。

以上です。

○議長（平澤　等君）　町長、再質問の答弁願います。

○町長（高橋貞光君）　それでは再質問の答弁を申し上げます。まず１点目のこの町民が望んでいる様々な支援策といいますか､そういった質問でございました｡私当初予算の編成においては、

これは限られた財源の見通しの中で、身の丈に合った予算規模でというのが合併時からの考え方でございます。そうした中で必要性、有効性、緊急性あるいは投資効果、様々な角度から検討を加え、さらに財源をにらみながら政策決定をしているところであります。先に大型事業がある場合にはそれらの財源の準備もすると。当然そういうことになります。ですから小さい予算だからいいということにはなりません。小さい事業も大きな事業も同じように精査をして、急いで取り組まなければならない事業等々しっかり見極めながら予算付けをしているという状況でございますので、この辺はご理解をいただきたいというふうに思います。

それから通院問題でありますが、これは議員おっしゃるように福祉政策でございます。福祉政策につきましても、新町以来、随分いろいろな事業を行ってまいりました。現在既に高齢者等に対する福祉事業の数は３０を超えてきております。そういったことで高齢者にとって必要なものから順次、この財政の許される範囲で予算付をしているという状況でございますので、ご理解をいただきたいというふうに思います。

それから５番目の学童保育所の整備に関してでありますが、これは常任委員会で継続調査となったとおりでございます。これにつきましては、少し時間をかけながらしっかり説明すべきというふうに判断をさせていただきました。提案前の案件でございましたので今後十分説明をしてご理解をいただいて提案したいというふうに考えたところでございます。まだ提案前でありましたので手続き上に問題ないというふうに考えたところでございます。そういったことで、今後もしっかり議会に説明をしながら町政を前に進めてまいりたいと考えているところでございます。

○議長（平澤　等君）　町長、菅原議員に言われる前に先に議長のほうから指摘いたします。まず３点ございます。ハイヤーチケット、補聴器、エアコンについて緊急性があると思うがこれについて、緊急性についてまだ答えてませんのでお願いいたします。それからハイヤーチケットの試算されたんですが、その試算された額ですが、それについて予算化について年齢を変えることによって金額の設定を変更できる、これも可能じゃないかというふうな質問がございました。その辺についてまずは回答願います。それとあと最後ですけども、旧幼稚園の現況についてどのようにされているかというふうなことの質問がございました。それについても答えてませんので答えてください。再質問の答弁としてお願いいたします。

○町長（高橋貞光君）　ハイヤーチケットなど様々な事業がございますが、それを総合して身の丈に合った予算規模の中で急がれる部分からしっかり対応するというふうに申し上げたところでございます。それから幼稚園につきましては、今災害備蓄品の保管庫として利用しているという状況でございます。

○議長（平澤　等君）　ハイヤーチケットについてはないんですか。ハイヤーチケットの導入については。

○町長（高橋貞光君）　だから優先順位や緊急性等も考慮しながら。

○議長（平澤　等君）　菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　答弁漏れの関係ですがいいですか。

○議長（平澤　等君）　まだありますか。

菅原議員。
○１１番（菅原義幸君）　私はハイヤーチケットと補聴器助成の試算結果を聞かせていただいたんで、その条件を区切りながら可能な予算付けをしたらいかがですかっていう質問なんです。答弁されてません。
○議長（平澤　等君）　町長お願いします。
○町長（高橋貞光君）　繰り返しになりますが、点につきましても、町としては様々な事業と照らして優先順位をつけながらと、この急ぐものから緊急を要するものからという判断をしております。これにつきましても、今の時点ではできかねるということで予算付けから外しているところでございます。
○議長（平澤　等君）　菅原議員。
○１１番（菅原義幸君）　それでは再々質問を行います。理解しがたい答弁です。本当に理解しがたい答弁ですよ。何ら根拠もなく、ただただ予算をつけないということをまたぞろ繰り返してるにすぎないという印象を持ちました。それで町長申し上げておきますが、緊急性あるんですよ、皆さん切実に求めてるんですから。その緊急性、必要性、切実性を町長が理解できていないだけなんです。具体的な声を聞くと深刻ですよ。聞く耳持ってあげてくださいよ。あなたの仕事は、せたな町民の福祉、暮らしに応えることなんです。加えていうと最小限の費用で最大限の効果を上げるという地方自治法に定められた財政運用をすることなんです。いいですか、農協事務所１億４，０００万円です。長寿命化計画３億２，０００万円です。ぽんぽん出てきてるじゃないですか。農協事務所だっていきなり出てきたんです産業教育常任委員会に。３年も４年も検討して財源を一生懸命集めて、それでやったってもんじゃないです。私が新チャレンジ制度に使えって言ってる産業振興基金、ボーンとそこから１億４，０００万持っていたじゃないですか。一般財源にしたらどうだって言ったときにも、全く聞く耳を持ちませんでした。ホテルの長寿命化計画だって３億２，０００万でしょ。それでいながらハイヤーチケットや補聴器購入、エアコン助成、買物支援、リフォーム延長なんでできないんですか。なんで財政バランス崩れるんですか。説明になってないじゃないですか。私は農協事務所の改装には賛成しましたよ。財源問題だけは申し上げました。産業振興基金使うなと、これ申し上げました。しかし政策予算については賛成しました。ホテルの長寿命化改修事業費についても反対はしません。これは新年度予算には反対する予定ですから予算全体としては賛成になりませんけれども、このこと自体には別に反対はしませんよ。ならば何で切実で少額の予算でできる福祉政策については町長渋るんですか。そこが非常に不明確だということを申し上げてるんです。むきになって背中を向けること何もないですから、やればそれだけ評価されるわけですよ。町民も喜ぶわけですよ。ハイヤーチケット、補聴器助成、これは積算した限りでは支給年齢の基準を一定程度に持っていけばすぐできると思います。今年の当初予算に乗せたって構わない内容じゃないですか、年齢やその他を考えれば。それをやらないっていうから私はおかしいって言ってるんです。もう一つ言いますけども、町のアバウト１００億の一般会計ですね１００億までいってませんが。それから６０数億円の各種基金です。これは申し上げておきますが、高橋貞光氏個人のポケットマネーとは違うんです。個人で自由に好き

勝手に使っていい財源じゃないんですよ。７，０００町民皆さんの共通した大事な財源なんです。皆さん全体を俯瞰して、視野に入れて、そこから公平公正に使っていったらいいじゃないですか。今のあなたの予算の使い方を見ると、高橋貞光氏個人が好き勝手にやってるかのような印象を受けます。少額の工事でできる切実な要求、皆さん求めている福祉の政策なんかについても、どんどん置き去りにするんですよ。自分の成果として誇りうるようなアピールの材料になるような目に付く箱物、これ一生懸命やってますでしょ。だからある役場ＯＢ言ってましたけども、結局、高橋町長も箱物町政だなとこういう表現してるんです。だって町長の選挙公約見たら建物ずらり並んでるんです。これが俺の政策だと、見てくれという話です。来年改選期でありますが、立つのか、退くのかまだ表明なさっておりませんけれども、病院建設には着手したいと、これは令和７年度の事業なんです。学童保育もそうですよ、温泉ホテル今年やるんだと、去年は農協事務所に１億４，０００万だ。建物の高額な予算目白押しじゃないですか。その一方では、切実な少額でできる要求は苛酷なまでに切捨てていくと。これ全く逆立ちした財政運用なんです。７，０００町民の共通の財源として公平公正に必要性、緊急性に応じて使っていくという思想や発想がないじゃありませんか。だからまさに逆立ちした行政だと言わざるを得ないと思います。それから学童保育の問題なんですが、食料備蓄にしてるから幼稚園利用しないんですか、高度な利活用しないんですか。それほかのとこに備蓄できないんですか、考えてみてください。私は隙間あると思いますよそういう目的であれば。幼稚園の図面も入手しましたが、これは十分学童保育として検討する余地あります。念のために申し上げておきますが、担当課に照会を求めましたところ、北檜山学童保育所、年度別入所見込みの資料があるんです。これは令和６年度の見込みは、児童数、北檜山小学校で１５４人となってます。学童保育入所見込数は５７です。これは入所者数としては５７、令和６年度見込みが１番高いですね。令和５年度は４８人でありますから約９人が増えてると。ところがこの令和６年度の数値がピークなんですよ資料を見ますと。児童数だけで言いますと令和７年度１４８人、８年度は１３９人、９年度は１２７人、令和１０年度に至りましては１２１人、実に令和６年度比で７８．６％まで落ちてるんです。この先はおそらくもっと下がっていくと思います。では学童保育所入所見込数はどうなのかと申しますと、先ほど言いましたように令和６年度５７人です。その後、７年度５５人、８年度５１人、９年度４７人、１０年度４５人、これもう令和６年度５７人に比べますと、令和１０年度４５人というのは７８．９％、比例配分していったんでしょうかね。減っていくんです。７年度をオープンとして見れば１０年度にもう１０人減ってるという数字になるんです。私、費用対効果ということも十分考えてみる必要があると思います。そうしますと現在の幼稚園、これを利活用するという黒澤主幹がおっしゃった構想ですよね。極めて現実性と説得力を持ってくるわけです。所管の委員会でも十分検討されると思うのでそれ以上は申し上げませんけど、やはり町予算は皆さんのものなんですから、町長個人の好き勝手に独断的にやっていい予算運営ではないわけですから、全体を俯瞰した公平公正な妥当性のある運用の仕方をすべきだと思うんです。町民要望に対する町長の対応については非常に問題を残していると。このままではダメだから今私が指摘申し上げたような方向で、大胆に是正されますように特に希望しておきたいと思うんです。なおこれも予算審査の中で個別要

求については個々詰めてみたいと思ってます。
　以上であります。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　３回目の質問にお答えをいたします。まず議員からは最後予算が余るということを見越して予算をどんどん付けたらいいのではという趣旨の質問でございました。今の財政状況、確かに合併時の財政状況からしますと、随分よくはなってきております。これ数字を申し上げますと現在の起債残高は９５億７，７００万ということで、当初は２１２億ご存じのようにございました。随分、減らすことができました。基金のほうは６８億です。当初は１９億ということですから、これは増えたということでございます。これが財政が豊かというふうに申し上げますと、決してそうではございません。例えば４００万円の所得の家庭といたしますと、これに合わせますと、この貯金が１８０万、借金が２６０万ということになります。これが裕福かどうかというのは個々の判断で違いがあるかというふうに思っておりますが､こうした中で今回、予算総額、一般会計、特別会計と全て含めまして１４６億という大きな予算になっております。こういった状況を見ますと、決して大きな声で豊かになったというふうには言えるような中身ではないということをまず申し上げておきたいと思います。さらに新年度以降の町財政における見通しでございますが、現在の国際情勢の影響による物価の上昇、それからラピダス、新幹線工事などによる建設工事単価の上昇、加えて能登半島地震復興に伴う資材等の上昇と、歳入面におきましても、この地震復興予算の影響による交付税の減額、こういったことから危機感を持って油断なく行財政運営をしていかなければならないというふうに肝に銘じているところでございます。そうした中におきましても、やはり何といってもデマンドバスのような住民の足の確保、高齢者の足の確保で急がなければならない部分、これらはスピード感を持って進めていかなければなりませんし、農協等のお話も出ましたが、こうして緊急性を要するこの産業振興に資する事業、これにつきましても思い切って予算付けをしながら産業従事者の支援をしていくというメリハリのついた予算付けをさせていただいているところでございます。これからの時代は先を読むことは非常に難しい状況にはなりますが、ですから慎重に進めてまいりたいと。これがやはり私も合併時、大変な財政難での厳しい状況を経験しておりますので、このあと担当する職員、あるいは次世代を担う若い町民の皆さんにしっかりとしたものを残して引き継いでいかなければならないと肝に銘じているところでございます。そうした状況の中での政策予算の決定ということで、今は私たちが考えれる範囲で相当無理をして、今回も９３億という大変大きな予算を提案しておりますが、こういったことでぜひ、ご理解をいただければというふうに思うところでございます。
○議長（平澤　等君）　町長、そこに居てください。菅原議員からは再三にわたって補聴器、ハイヤーチケットに渡ることに対する緊急性がある予算少額について、この部分についての実現性を再三求められております。それが一つ。
　もう一つは、先ほど話が最後にありました学童保育に関して、旧幼稚園に今備蓄品があるけれども、用途変更を考えたらどうかという２つの質問がまだ答弁されてもございませんので、その分について答弁願います。

○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　今の予算付けにつきましては、そういったことで優先度を勘案しながら政策判断をさせていただいているということでご理解をいただければというふうに思います。それから学童保育の関係、これは抜けておりましたが、これはもちろん旧幼稚園というお話もございましたが、私たちもそういったことを検討させていただきました。これから学童保育所の調査が今後ありますからその中でじっくりと説明を申し上げなければならない部分ということで考えておりましたが、議員のご質問ございましたので、この学校に併設をするということにつきましては利便性ですとか、いろいろな面でもちろん子供たちの交通安全等も含めまして、いろいろな意味で効率がいいというふうに判断しているところでございます。人材面でももちろん関係をしていきますが、そういったことなどを考え将来のことも考えながらこういった構想を持っていると。詳しくは常任委員会のほうでまた説明をさせていただきたいというふうに思います。
○議長（平澤　等君）　約１時間経過いたしましたので、３時２０分まで休憩いたします。

休憩　午後　３時０７分
再開　午後　３時２０分

○議長（平澤　等君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　一般質問を続けます。菅原義幸議員の１０問目の一般質問を許します。
　菅原議員。
○１１番（菅原義幸君）　１０問目に入る前に一言申し上げておきます。町長答弁納得いきませんよ全く。黙って承りましたって言ってくれれば、それでいいのに拘るでしょう。私も拘ることになるわけです。これ予算審査で個別に一つ一つ詰めますから、これは申し上げておきます。
　それでは最後１０問目に移ります。４３兆円の軍事費関連の国の動向と改憲の動きに関する町長の見解について伺いたいと思います。
　①安保３文書と軍拡財源確保法による４３兆円の軍事費、敵基地攻撃能力保有、殺傷武器完成品の輸出、核兵器禁止条約未批准など戦争国家づくりを目指す最近の岸田内閣の動向を町長はどう思いますか。
　②新年度の防衛予算は過去最大の８兆円です。新たな国民負担増と福祉や暮らしの後退が予想されますが、町長の所見を求めます。
　③岸田首相は任期中の改憲を言明しており、自民党の今年の運動方針にも同一内容の文章が明記されています。その中心は９条改憲にあることは明らかですが、町長の見解と対応策を求めます。
○議長（平澤　等君）　町長。
○町長（高橋貞光君）　お答えいたします。
　現在、日本がおかれている状況では、隣国でミサイル発射を繰返す北朝鮮や中国などの軍事的な脅威など以前とは比較にならない厳しい状況と考えますが、国防などの問題は国会で充分審議

されるものと考えておりますので、近年の岸田内閣の動向について評価できるだけの見識を持ち合わせておりません。ご質問に対しての答弁を控えさせていただきます。

２点目ですが、防衛費の増大により、町民生活に直結した医療や年金及び福祉や暮らしへの影響等につきましては、後退するかしないか等の判断をするだけの見識を有しておりません。これも答弁を控えさせていただきます。

３点目でございます。現在のロシアとウクライナ、あるいはイスラエルとパレスチナの戦争を目の当たりに平和ということがいかに大切であるかを痛感しております。憲法の改正等については、政府、国会等で充分審議されるものと考えておりますことから、そのことに対してどうすべきかなどの見解や見識を持ち合わせておりませんので対応策含めご質問に対しての答弁は控えさせていただきます。

以上でございます。

○議長（平澤　等君）　菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　それでは再質問を行います。町長、要するに私が３項目にわたって質問した中身は、全て答弁いたしかねると、答弁する見解を持ち合わせていないとこういうことなんです。よくわかりました。私は賛成なら賛成でも構わないんです。反対なら反対でも構わないんです。答弁不能っていうのは、私は１人の国民としてどうなのかなと思ってます。ましてや７，０００町民の命と暮らしを扱う町長の言葉としては大変残念な言葉だと思います。これも今回初めてお尋ねしたことではないんですよご承知のように。町長そうでしょう９月に質問したときには、まだ勉強してないから答えられないと、半年経つんです。ずっと勉強しなかったんですか。菅原が大事なことを聞いても、お答え申し上げる見解を持ち合わせていないとそれでずっと逃げ切るんですか。あまりにも当事者責任に欠けると思います。それが町長の態度であるとすれば、それはそれで受け止める以外にないわけですが、もう少し町長、噛み合った議論しませんか。それで再質問として申し上げておきますが、もう少し突っ込んで情勢議論提起しますので、ぜひご判断を求めたいと思います。町長、今、岸田内閣が突き進んでいる軍拡路線というのは、すごいところまで来てるんです。まさに戦前の復活かと有識者が声を限りに叫んでいるそういう危険な状況にあるということをあなたまだ認識できないんですか。僅か５年間で４３兆円です。これまともに投入しますと軍事大国になると言われてます。購入する武器も長距離砲です。大陸に届く大型のミサイル軒並みです。これは憲法９条を持っている我が国として許されるのかということが問われているんです。自民党、あるいは岸田内閣が何で９条改憲に手を付けるかっていうと、戦争する国造りを進めるためには憲法９条が障害になってるからなんです。憲法９条があれば４３兆円の軍事予算なんか到底計上できる仕掛けのものじゃないですから、そういう財源があるんであれば、国民の命、くらし、教育を守ればいいわけです。それをそうしないでアメリカと一緒になって戦争する国造りを目指す。当面日本の戦略というのは、台湾情勢を挟んで対中国戦略なんです。だから全部中国向けのミサイルを用意してるんでしょ。莫大な予算かけて配備してるんです。一つだけわかりやすい例を上げときますが、これは町長もご承知の有名人です。元外務次官の藪中三十二氏これ有名な方です。現実主義の避戦論の中でこう言ってます。今後、今のまま

展開していくとおそらく数兆円規模の増税にならざるを得ないのではないかと。ご指摘してるんです。それはそうでしょう。今こんな軍事予算計上したら福祉、暮らしを削るだけでは足りなくて、結局、税金をかき集めなきゃならない、増税ですよ簡単に言いますと。これは文字どおり戦戦時増税ということにならざるを得ません。こういうこと元外務次官の藪中さんがおっしゃってる公然と。合わせてこういうことも言ってるんです。大軍拡の目玉である敵基地攻撃能力保有にも疑問を投げかけます。力に対しては力だといった考え方に基づき議論を突き詰めていけば、中国と同等程度の軍事力を持たなくてはいけないということになり、中国が核保有国である以上、日本の核を持たないと抑止力が有効に機能しないという結論になるのではないか。これ藪中さんが言ってるんです。既成の政党の方の意見じゃないんです。私これ恐ろしいことだと思います。力には力をというこういう路線は際限ないんです。相手が１０の力を持ったらこっちも１０、１１なきゃダメですよね。こっちが１１になれば１２の力を相手も持つと、これはとんでもない軍拡路線をつき進むことになるんです。そしてご承知のように中国は核保有国ですから、最後日本も核を持たなきゃ戦争国家づくりの目的は完成できませんでしょう。日本はなんせ敵基地攻撃能力を持つって言ってるんですから、敵基地には駆け引きがあるとすれば、駆け引き返ってくるんです。それに対抗するためにはこちらも核兵器を持たざるを得ないでしょう。そうしますと町長が１２月議会でしたか答弁しましたけども、非核平和宣言の町せたな町、何かスローガンか何か外に出すんですかね。町長がお答えになった対応策と真っ向から対決することになるんです。そういう可能性がありますよという指摘なんです。その証拠には、日本は核兵器禁止条約に批准も調印もしていないんです。唯一の核兵器の被爆国です。その日本は率先して核兵器禁止条約に批准、調印していかなきゃいけない立場なのに背中向けてますでしょ。核兵器保有国と持っていない国との中継ぎをやるんだなんてのんきのこと言って、ことごとく反対してるわけです。結局は日米同盟のもとで、核兵器保有国であるアメリカに気兼ねをしてまっとうな対応されとれないというのが、今日の日本の政府がとっている核兵器に対する基本方針なんです。こういうことを元外務政務次官時間の方が公然とおっしゃってる時代なんですから、我が町の町長、非核平和宣言をしている町長が、全く見解どの一つも言えないっていうのは、これ町長どうなんですか。これネットで皆さん見てますから、町民の皆さんも納得できるような見識のある答弁を求めたいと思うんですよ私は。もう一つ申し上げますが、９条改憲についても何ともはや申し上げられませんって、これ町長ちょっと酷すぎませんか。９条改憲というのは、今良識ある国民の共通の態度表明なってます。全国には元の方を含めた首長さんの９条の会というのがあるんです。要するに首長さんですから市長や町長、村長やった方です。元職の方もいますし、現職の方もいますが、そういう地方自治体の首長を経験なさったか、経験してる方が９条を守らなきゃいかんと言って会を作ってるんです。私は見識のある勇気のある態度だと思います。それは右や左だ、保守だ革新だ、何党だ、かに党だという前に良識ある国民の極めて当然の判断だと思います。憲法に基づく判断をするならば核兵器容認という結論は絶対出てきません。唯一の被爆国である日本が率先して核兵器禁止条約の批准、調印に突き進んでいくのはむしろ当然のことなんですが、それに徹底的に日本の政府は抵抗してるわけです。後ろ向きであるわけです。その下で戦争する国造りをア

メリカの同盟と言ってますが、事実上アメリカの属国になってるんです日本は。いいなりになってるんです。そういう状況を認識できないでいるとすれば、私はしっかり目を覚まして現実冷静に判断してくださいよということを呼びかけておきたいと思うんです。町長、私が申し上げたことについて、この次また６月議会でもやりますから少なくとも６月議会までには、きちんと見解をまとめておいていただけませんか。６月議会ということになりますと丸１年経つことになります。いつまでも見解申し上げられないということを言っていないで、ぜひ憲法９条に基づく当然の帰結と言える答弁を要請しておきたいと思います。町長の答弁次第によっては再々質問を行いたいと思いますので、あらかじめ申し上げておきます。

以上であります。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　お答えをいたします。ご承知の上での議員の質問かと思われますが、この質問は、私の責任の範囲外の質問であります。いろいろな考え方の人がいると思いますが、ここは個人的な考えを申し上げる場ではございません。したがいまして一般質問をいただいたところでございますが、なかなか答弁をすることができないということでございます。国会でしっかり議論していただいて、結論を出していただけるものというふうに感じているところでございますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　菅原議員。

○１１番（菅原義幸君）　大変情けない答弁です。言うなれば、敗北の答弁だと言わざるを得ません。憲法９条が明確に提起している我が国の下で地方政治をやっている方の答弁だというふうには到底思えません。これは６月議会でも９月議会でも１２月議会でも徹底的にやりますから、これはあらかじめ通告申し上げておきます。それで今回でちょうど１周り４回目の質問になりましたから、本当は申し上げたくないことを一言申し上げて再々質問を終わりたいと思いますが、あなた私が知っている限りでは、せたな９条の会の会員ですよね。個人情報だから答えたくないというんであれば答えなくて結構です。しかし私は個人情報だと思っていないんです。私も９条の会の会員です。街頭でも９条を守るという街頭行動もやってます。これは特定の党派や政党の考え方ということではなくて、１市民として当然、憲法擁護の立場に立つならば、９条だけは変えるわけにいかないというのは当然であるし､その会員だという町長の情報を得ておりますから、大変立派なすぐれた方だなという内心の尊敬は持ってますよ。しかしその方の答弁だとは思えないので、これは私、間違った情報を聞いていたのかと今改めて思いました。答弁なされたくなければ、個人の心情だということであるならば、お答えにならなくて結構でありますけれども、少なくとも首長として最小限表明できることであるとすれば、９条改憲に対する見解だけはきちんと表明なさっていただきたいというふうに思います。

以上、再々質問を申し上げまして、終わります。

○議長（平澤　等君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　９条の会の話は個人的なことであります。ここは個人的な考えを申し上げる場ではないというふうに思っているところでございます。憲法判断につきましては、私の知

識の中ではなかなかできるものではございません。しっかりとした、そういう場所で判断をされるべきものというふうに思います。しかし、これだけは申し上げておきます。誰よりも私自身、平和を願っている１人であるということだけは申し上げておきたいと思います。

以上でございます。

○議長（平澤　等君）　以上で一般質問を終わります。

◎散会宣告

○議長（平澤　等君）　以上をもちまして、本日の議事は終了いたしましたので会議を閉じます。

予算審査特別委員会が終了するまで休会といたします。

本日はこれにて散会といたします。

ご苦労様でした。

散会　午後３時４３分

地方自治法第１２３条第２項の規定により署名する。

令和６年４月２６日

議　　長　　平　澤　　等

署名議員　　福　嶋　　豊

署名議員　　横　山　一　康

令和６年第１回せたな町議会定例会　第４号

令和６年３月１９日（火曜日）

○議事日程（第４号）

１　会期の延長について

○出席議員（１２名）

１番	石原広務君	２番	桝田道廣君
３番	藤谷容子君	４番	福嶋　豊君
５番	横山一康君	６番	本多　浩君
７番	真柄克紀君	８番	熊野主税君
９番	吉田　実君	１０番	大湯圓郷君
１１番	菅原義幸君	１２番	平澤　等君

○欠席議員（０名）

１．地方自治法第１２１条の規定により、説明のため出席を求めた者は次のとおりである。

町長	高橋	貞	光	君
教育委員会教育長	小板橋		司	君
農業委員会会長	原田	喜	博	君
選挙管理委員会委員長	大坪	観	誠	君
代表監査委員	残間		正	君

１．町長、教育委員会教育長、農業委員会会長、選挙管理委員会委員長、代表監査委員の委任を受け出席する説明員は次のとおりである。

（１）町長の委任を受けて出席する説明員

副町長	佐々木	正	則	君
総務課長	原		進	君
まちづくり推進課長	阪井	世	紀	君
財政課長	佐藤	英	美	君
税務課長	濱	登幸	恵	君
町民児童課長	髙橋		純	君
認定こども園長	伊藤	悦	子	君
保健福祉課長	増田	和	彦	君
農林水産課長	吉田	有	哉	君
建設水道課長	平田	大	輔	君

会計管理者	杉村	彰　君
国保病院事務局長	西村	晋悟　君
総務課長補佐	中山	康春　君
まちづくり推進課長補佐	奥村	大樹　君
財政課長補佐	小林	和仁　君
税務課長補佐	長内	解人　君
町民児童課長補佐	黒澤	美知子　君
認定こども園副園長	本田	和矢　君
保健福祉課長補佐	浜高	正明　君
保健福祉課長補佐	水野	万寿夫　君
地域包括支援センター所長	長内	京　君
農林水産課長補佐	藤井	卓也　君
農林水産課長補佐	井村	裕行　君
水産種苗育成センター副所長	栄田	武志　君
建設水道課長補佐	鈴木	涼平　君
国保病院事務局次長	手塚	清人　君
総務課主幹	尾野	裕也　君
まちづくり推進課主幹	斉藤	哲章　君
財政課主幹	稲船	洋志　君
税務課主幹	小林	朱央　君
町民児童課主幹	三浦	三津枝　君
町民児童課主幹	山川	彩子　君
保健福祉課主幹	古守	亜珠　君
保健福祉課主幹	垣本	利子　君
地域包括支援センター主幹	今川	勇吾　君
農務課主幹	斉藤	真　君
水産林務課主幹	油谷	好彦　君
建設水道課主幹	川上	佳隆　君
建設水道課主幹	吉田	一也　君
建設水道課主幹	高橋	真一　君
建設水道課主幹	大野	秀幸　君
出納室主幹	竹内	亜希子　君
国保病院事務局主幹	近藤	智博　君
防災係長	岡島	譲二　君
情報管理係長	又村	智　君
広報統計係長	西田	幸恵　君

商工労働観光係長	山崎　英人	君
環境衛生係長	原田　宰	君
社会福祉係長	河野　葉子	君
障がい福祉係長	平田　慎太郎	君
保健推進係長	安藤　麗香	君
包括支援係長	大久保　麻未	君
地域支援係長	田畑　貴子	君
農政係長	栗城　惇史	君
業務係長	北山　典孝	君
業務係長	池田　裕之	君
庶務係長	大庭　啓	君

《瀬棚支所》

支所長	河原　泰平	君
養護老人ホーム三杉荘所長	西田　良子	君
次長	栗谷　一樹	君
瀬棚保育所長	水野　真里子	君
福祉係長	稲船　奈穂子	君

《大成支所》

支所長	中川　譲	君
大成保育園長	浜高　あけみ	君
事務係長	村井　貴大	君

（２）教育委員会教育長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	古畑　英規	君
次長	山本　亨	君
次長	尾野　真也	君
主幹	藤谷　希	君

（３）農業委員会会長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	丹羽　優	君
係長	佐々木　正人	君

（４）選挙管理委員会委員長の委任を受けて出席する説明員

書記長	原　進	君
書記次長	中山　康春	君

（５）代表監査委員の委任を受けて出席する説明員

事　務　局　長　上　野　朋　広　君
次　　長　松　原　孝　樹　君

１．本会議の事務に従事する職員は次のとおりである。

事　務　局　長　上　野　朋　広　君
次　　長　松　原　孝　樹　君
主　　事　大　辻　省　吾　君

再開　午後１時００分

◎開議宣告

○議長（平澤　等君）　みなさんこんにちは。

ただいまの出席議員１２名で定足数に達していますので定例会を再開いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付したとおりでございます。

◎日程第１　会期の延長

○議長（平澤　等君）　日程第１、会期の延長についてを議題といたします。

お諮りします。

本定例会の会期は本日までと議決されていますが、議事進行の都合により３月２１日までの２日間延長したいと思います。

これにご異議ございませんか。

（「異議なし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

したがって会期は３月２１日までの２日間延長することに決定いたしました。

◎散会宣告

○議長（平澤　等君）　以上で本日の議事は終了しましたので会議を閉じます。

予算審査特別委員会が終了するまで休会といたします。

本日はこれにて散会いたします。

ご苦労様でした。

散会　午後１時０１分

地方自治法第１２３条第２項の規定により署名する。

令和６年４月２６日

議　　長　　平　澤　　等

署名議員　　福　嶋　　豊

署名議員　　横　山　一　康

令和６年第１回せたな町議会定例会　第５号

令和６年３月２１日（木曜日）

○議事日程（第５号）

１　諸般の報告

２　会期の延長について

○出席議員（１２名）

１番	石原広務君	２番	桝田道廣君
３番	藤谷容子君	４番	福嶋　豊君
５番	横山一康君	６番	本多　浩君
７番	真柄克紀君	８番	熊野主税君
９番	吉田　実君	１０番	大湯圓郷君
１１番	菅原義幸君	１２番	平澤　等君

○欠席議員（０名）

１．地方自治法第１２１条の規定により、説明のため出席を求めた者は次のとおりである。

町長	高橋貞光	君	
教育委員会教育長	小板橋　司	君	
農業委員会会長	原田喜博	君	
選挙管理委員会委員長	大坪観誠	君	
代表監査委員	残間　正	君	

１．町長、教育委員会教育長、農業委員会会長、選挙管理委員会委員長、代表監査委員の委任を受け出席する説明員は次のとおりである。

（１）町長の委任を受けて出席する説明員

副町長	佐々木正則	君	
総務課長	原　進	君	
まちづくり推進課長	阪井世紀	君	
財政課長	佐藤英美	君	
税務課長	濱登幸恵	君	
町民児童課長	髙橋　純	君	
認定こども園長	伊藤悦子	君	
保健福祉課長	増田和彦	君	
農林水産課長	吉田有哉	君	

建設水道課長	平田　大輔	君
会計管理者	杉村　彰	君
国保病院事務局長	西村　晋悟	君
総務課長補佐	中山　康春	君
まちづくり推進課長補佐	奥村　大樹	君
財政課長補佐	小林　和仁	君
税務課長補佐	長内　解人	君
町民児童課長補佐	黒澤　美知子	君
認定こども園副園長	本田　和矢	君
保健福祉課長補佐	浜高　正明	君
保健福祉課長補佐	水野　万寿夫	君
地域包括支援センター所長	長内　京	君
農林水産課長補佐	藤井　卓也	君
農林水産課長補佐	井村　裕行	君
水産種苗育成センター副所長	栄田　武志	君
建設水道課長補佐	鈴木　涼平	君
国保病院事務局次長	手塚　清人	君
総務課主幹	尾野　裕也	君
まちづくり推進課主幹	斉藤　哲章	君
財政課主幹	稲船　洋志	君
税務課主幹	小林　朱央	君
町民児童課主幹	三浦　三津枝	君
町民児童課主幹	山川　彩子	君
保健福祉課主幹	古守　亜珠	君
保健福祉課主幹	垣本　利子	君
地域包括支援センター主幹	今川　勇吾	君
農務課主幹	斉藤　真	君
水産林務課主幹	油谷　好彦	君
建設水道課主幹	川上　佳隆	君
建設水道課主幹	吉田　一也	君
建設水道課主幹	高橋　真一	君
建設水道課主幹	大野　秀幸	君
出納室主幹	竹内　亜希子	君
国保病院事務局主幹	近藤　智博	君
防災係長	岡島　譲二	君
情報管理係長	又村　智	君

広報統計係長	西田　幸恵	君
商工労働観光係長	山崎　英人	君
環境衛生係長	原田　宰	君
社会福祉係長	河野　葉子	君
障がい福祉係長	平田　慎太郎	君
保健推進係長	安藤　麗香	君
包括支援係長	大久保　麻未	君
地域支援係長	田畑　貴子	君
農政係長	栗城　惇史	君
業務係長	北山　典孝	君
業務係長	池田　裕之	君
庶務係長	大庭　啓	君

《瀬棚支所》

支所長	河原　泰平	君
養護老人ホーム三杉荘所長	西田　良子	君
次長	栗谷　一樹	君
瀬棚保育所長	水野　真里子	君
福祉係長	稲船　奈穂子	君

《大成支所》

支所長	中川　譲	君
大成保育園長	浜高　あけみ	君
事務係長	村井　貴大	君

（２）教育委員会教育長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	古畑　英規	君
次長	山本　亨	君
次長	尾野　真也	君
主幹	藤谷　希	君

（３）農業委員会会長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	丹羽　優	君
係長	佐々木　正人	君

（４）選挙管理委員会委員長の委任を受けて出席する説明員

書記長	原　進	君
書記次長	中山　康春	君

（５）代表監査委員の委任を受けて出席する説明員

事　務　局　長　上　野　朋　広　君
次　　長　松　原　孝　樹　君

１．本会議の事務に従事する職員は次のとおりである。

事　務　局　長　上　野　朋　広　君
次　　長　松　原　孝　樹　君
主　　事　大　辻　省　吾　君

再開　午後３時５０分

◎開議宣告

○議長（平澤　等君）　みなさん大変ご苦労様です。

ただいまの出席議員１２名で定足数に達しておりますので定例会を再開いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付したとおりでございます。

◎日程第１　諸般の報告

○議長（平澤　等君）　日程第１、諸般の報告をいたします。

議会運営委員会から議会運営委員会の協議決定事項につきまして報告がございます。

福嶋議会運営委員会委員長。

○４番（福嶋　豊君）　先ほど開催した議会運営委員会の協議結果について報告いたします。

協議内容については、会期延長について協議いたしました。現在、予算審査特別委員会で新年度予算について鋭意審議中でありますが､本日で審議終了とならないことが見込まれることから、議事の進行の都合により今定例会の会期を３月２２日までの１日間延長することを決したところであります。

以上で議会運営委員会の報告といたします。

○議長（平澤　等君）　諸般の報告を終わります。

◎日程第２　会期の延長

○議長（平澤　等君）　日程第２、会期の延長についてを議題といたします。

お諮りします。

本定例会の会期は本日までと議決されていますが、先ほどの議会運営委員会委員長報告のとおり、議事進行の都合により３月２２日までの１日間延長したいと思います。

これにご異議ございませんか。

（「異議なし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

したがって会期は３月２２日までの１日間延長することに決定いたしました。

◎散会宣告

○議長（平澤　等君）　以上で本日の議事は終了しましたので会議を閉じます。

予算審査特別委員会が終了するまで休会といたします。

本日はこれにて散会といたします。

大変ご苦労様でした。

散会　午後３時５２分

地方自治法第１２３条第２項の規定により署名する。

令和６年４月２６日

議　　長　　平　澤　　等

署名議員　　福　嶋　　豊

署名議員　　横　山　一　康

令和６年第１回せたな町議会定例会　第６号

令和５年３月２２日（金曜日）

○議事日程（第６号）

１　諸般の報告
２　政策審査特別委員会の設置について〔正副委員長互選〕
３　予算審査特別委員会報告
４　議案第２３号　せたな町フルタイム会計年度任用職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例について
５　議案第２４号　せたな町パートタイム会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について
６　議案第２５号　せたな町基金条例の一部を改正する条例について
７　議案第２６号　せたな町介護保険条例の一部を改正する条例について
８　議案第３３号　指定管理者の指定について（せたな町障がい者グループホームのぞみ）
９　議案第３４号　指定管理者の指定について（せたな町米乾燥貯蔵施設）
１０　議案第３５号　指定管理者の指定について（せたな町玄米ばら集出荷施設）
１１　議案第３６号　指定管理者の指定について（せたな町営牧場）
１２　議案第　１号　令和６年度せたな町一般会計予算
１３　議案第　２号　令和６年度せたな町国民健康保険事業特別会計予算
１４　議案第　３号　令和６年度せたな町後期高齢者医療特別会計予算
１５　議案第　４号　令和６年度せたな町介護保険事業特別会計予算
１６　議案第　５号　令和６年度せたな町介護サービス事業特別会計予算
１７　議案第　６号　令和６年度せたな町風力発電事業特別会計予算
１８　議案第　７号　令和６年度せたな町簡易水道事業会計予算
１９　議案第　８号　令和６年度せたな町下水道事業会計予算
２０　議案第　９号　令和６年度せたな町病院事業会計予算
２１　議案第３８号　水産物保管冷蔵施設の無償貸付について
２２　意見書案１号　東京電力福島第一原発の汚染水（ＡＬＰＳ処理水）の海洋放出中止と、漁業風評被害救済策の抜本的強化を求める意見書
２３　意見書案２号　イスラエルによるガザ攻撃中止・即時停戦と人道支援に向けた外交努力を日本政府に求める意見書
２４　発議第　１号　三常任委員会及び議会運営委員会の閉会中における所管事務継続調査の申し出について

○出席議員（１０名）

１番　石　原　広　務　君　　２番　桝　田　道　廣　君

３番	藤谷容子君	４番	福嶋　豊君
５番	横山一康君	６番	本多　浩君
７番	真柄克紀君	１０番	大湯圓郷君
１１番	菅原義幸君	１２番	平澤　等君

○欠席議員（２名）

８番	熊野主税君	９番	吉田　実君

１．地方自治法第１２１条の規定により、説明のため出席を求めた者は次のとおりである。

町長	高橋	貞	光	君
教育委員会教育長	小板橋		司	君
農業委員会会長	原田	喜	博	君
選挙管理委員会委員長	大坪	観	誠	君
代表監査委員	残間		正	君

１．町長、教育委員会教育長、農業委員会会長、選挙管理委員会委員長、代表監査委員の委任を受け出席する説明員は次のとおりである。

（１）町長の委任を受けて出席する説明員

副町長	佐々木	正	則	君
総務課長	原		進	君
まちづくり推進課長	阪井	世	紀	君
財政課長	佐藤	英	美	君
税務課長	濱	登	幸恵	君
町民児童課長	髙橋		純	君
認定こども園長	伊藤	悦	子	君
保健福祉課長	増田	和	彦	君
農林水産課長	吉田	有	哉	君
建設水道課長	平田	大	輔	君
会計管理者	杉村		彰	君
国保病院事務局長	西村	晋	悟	君
総務課長補佐	中山	康	春	君
まちづくり推進課長補佐	奥村	大	樹	君
財政課長補佐	小林	和	仁	君
税務課長補佐	長内	解	人	君
町民児童課長補佐	黒澤	美知子		君
認定こども園副園長	本田	和	矢	君

保健福祉課長補佐	浜高	正明 君
保健福祉課長補佐	水野	万寿夫 君
地域包括支援センター所長	長内	京 君
農林水産課長補佐	藤井	卓也 君
農林水産課長補佐	井村	裕行 君
水産種苗育成センター副所長	栄田	武志 君
建設水道課長補佐	鈴木	涼平 君
国保病院事務局次長	手塚	清人 君
総務課主幹	尾野	裕也 君
まちづくり推進課主幹	斉藤	哲章 君
財政課主幹	稲船	洋志 君
税務課主幹	小林	朱央 君
町民児童課主幹	三浦	三津枝 君
町民児童課主幹	山川	彩子 君
保健福祉課主幹	古守	亜珠 君
保健福祉課主幹	垣本	利子 君
地域包括支援センター主幹	今川	勇吾 君
農務課主幹	斉藤	真 君
水産林務課主幹	油谷	好彦 君
建設水道課主幹	川上	佳隆 君
建設水道課主幹	吉田	一也 君
建設水道課主幹	高橋	真一 君
建設水道課主幹	大野	秀幸 君
出納室主幹	竹内	亜希子 君
国保病院事務局主幹	近藤	智博 君
防災係長	岡島	譲二 君
情報管理係長	又村	智 君
広報統計係長	西田	幸恵 君
商工労働観光係長	山崎	英人 君
環境衛生係長	原田	宰 君
社会福祉係長	河野	葉子 君
障がい福祉係長	平田	慎太郎 君
保健推進係長	安藤	麗香 君
包括支援係長	大久保	麻未 君
地域支援係長	田畑	貴子 君
農政係長	栗城	惇史 君

業　務　係　長　北　山　典　孝　君
業　務　係　長　池　田　裕　之　君
庶　務　係　長　大　庭　　啓　君

《瀬棚支所》

支　　所　長　河　原　泰　平　君
養護老人ホーム三杉荘所長　西　田　良　子　君
次　　長　栗　谷　一　樹　君
瀬棚保育所長　水　野　真里子　君
福　祉　係　長　稲　船　奈穂子　君

《大成支所》

支　　所　長　中　川　　譲　君
大成保育園長　浜　高　あけみ　君
事　務　係　長　村　井　貴　大　君

（２）教育委員会教育長の委任を受けて出席する説明員

事　務　局　長　古　畑　英　規　君
次　　長　山　本　　亨　君
次　　長　尾　野　真　也　君
主　　幹　藤　谷　　希　君

（３）農業委員会会長の委任を受けて出席する説明員

事　務　局　長　丹　羽　　優　君
係　　長　佐々木　正　人　君

（４）選挙管理委員会委員長の委任を受けて出席する説明員

書　　記　長　原　　進　君
書　記　次　長　中　山　康　春　君

（５）代表監査委員の委任を受けて出席する説明員

事　務　局　長　上　野　朋　広　君
次　　長　松　原　孝　樹　君

１．本会議の事務に従事する職員は次のとおりである。

事　務　局　長　上　野　朋　広　君
次　　長　松　原　孝　樹　君
主　　事　大　辻　省　吾　君

再開　午後３時３０分

◎開議宣告

○議長（平澤　等君）　皆さん、大変ご苦労さまでございます。

熊野議員、吉田議員より欠席の届け出があります。

ただ今の出席議員は１０名で定足数に達していますので定例会を再開いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付したとおりでございます。

◎日程第１　諸般の報告

○議長（平澤　等君）　日程第１、諸般の報告はお手元に配付したとおりでございます。

◎日程第２　特別委員会の設置

○議長（平澤　等君）　日程第２、政策審査特別委員会の設置についてを議題といたします。

お諮りいたします。

令和６年度の政策に関することについて審査を行うことを目的とするため、委員会条例第５条第１項及び第２項の規定により全議員で構成する政策審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査終了まで継続設置し閉会中も継続審査することにしたいと思います。

これにご異議ございませんか。

真柄議員。

○７番（真柄克紀君）　先ほど議運の報告を受けましたが、大変短期間にわたって内容の十分な検討等も含めた中での報告という感じで設置の必要性は私は感じておりませんので、この件については反対いたします。

○議長（平澤　等君）　ほかに質疑ございませんか。

石原議員。

○１番（石原広務君）　簡単でよろしいので、その内容を簡潔に説明いただきたいと思います。

○議長（平澤　等君）　わかりました。今私のほうから読み上げましたが、令和６年度の政策に関することについて審査を行うことを目的とするということでございます。

よろしいでしょうか。

ただいまの提案に対して異議がございますので、起立によって採決いたします。

お諮りいたします。

本案について設置することに賛成の方は起立願います。

（起立する者あり）

○議長（平澤　等君）　起立多数です。

よって本案については、全議員で構成する政策審査特別員会を設置し、審査終了まで継続設置し閉会中も継続審査することに決しました。

ただちに政策審査特別委員会を設置いたします。

ここで政策審査特別委員会は、別室において正副委員長の互選をお願いいたします。
暫時休憩いたします。

休憩　午後３時３３分
再開　午後３時５９分

○議長（平澤　等君）　休憩を解き会議を再開いたします。
これから諸般の報告をいたします。
政策審査特別委員会において委員長及び副委員長の互選が行われましたので、その結果を報告いたします。
委員長に私、平澤等、副委員長に本多浩議員が互選されました。
これで諸般の報告を終わります。

◎日程第３　予算審査特別委員会報告
○議長（平澤　等君）　日程第３、予算審査特別委員会に付託した議案第１号から第９号までと議案第２３号から議案第２６号及び議案第３３号から第３６号までの予算審査特別委員会における審査につきまして特別委員会委員長の報告を求めます。
本多委員長。
○６番（本多　浩君）　ただいまの件につきまして、本議会定例会中３月４日、当予算審査特別委員会に付託された令和６年度各会計予算議案第１号から議案第９号までと予算関連一般議案議案第２３号から議案第２６号及び議案第３３号から議案第３６号の計１７議案について予算審査特別委員会の審査結果をご報告申し上げます。
当特別委員会は３月１４日から２２日までのうちの６日間委員会を再開し、各会計歳入歳出予算書及び付属書類について説明を受け、質疑を行い慎重かつ精力的に審査した経過において議案１７件すべて原案可決と決定いたしました。
議長に進言します。当特別委員会は議長を除く１１名で構成されており、審議は十分に尽くされておりますので全１７議案とも質疑を省略し、討論、採決に入られることを進言して、せたな町議会予算審査特別委員会の審査報告といたします。
○議長（平澤　等君）　ただいまの予算審査特別委員会委員長報告は１７議案すべて原案可決と決したとするものです。また特別委員会は議長を除く１１名で構成され審査は十分尽くされているので、質疑を省略し、討論、採決に入られたいとの進言がありましたので、委員長進言どおり取り進めます。

◎日程第４　議案第２３号
○議長（平澤　等君）　日程第４、議案第２３号フルタイム会計年度任用職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例についてを議題といたします。

本案に対する委員会報告は原案可決であります。
これより討論を許します。
（「なし」という者あり）
○議長（平澤　等君）　討論を終わります。
これより採決いたします。
お諮りいたします。
本案について委員会報告のとおり決することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」という者あり）
○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
よって、本案は原案のとおり可決いたしました。

◎日程第５　議案第２４号
○議長（平澤　等君）　日程第５、議案第２４号せたな町パートタイム会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例についてを議題といたします。
本案に対する委員会報告は原案可決であります。
これより討論を許します。
（「なし」という者あり）
○議長（平澤　等君）　討論を終わります。
これより採決いたします。
お諮りいたします。
本案について委員会報告のとおり決することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」という者あり）
○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
よって、本案は原案のとおり可決いたしました。

◎日程第６　議案第２５号
○議長（平澤　等君）　日程第６、議案第２５号せたな町基金条例の一部を改正する条例についてを議題といたします。
本案に対する委員会報告は原案可決でございます。
これより討論を許します。
（「なし」という者あり）
○議長（平澤　等君）　討論を終わります。
これより採決いたします。
お諮りいたします。
本案について委員会報告のとおり決することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
　よって、本案は原案のとおり可決いたしました。

◎日程第７　議案第２６号

○議長（平澤　等君）　日程第７、議案第２６号せたな町介護保険条例の一部を改正する条例についてを議題といたします。
　本案に対する委員会報告は原案可決でございます。
　これより討論を許します。
（「なし」という者あり）
○議長（平澤　等君）　討論を終わります。
　これより採決いたします。
　お諮りいたします。
　本案について委員会報告のとおり決することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」という者あり）
○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
　よって、本案は原案のとおり可決いたしました。

◎日程第８　議案第３３号

○議長（平澤　等君）　日程第８、議案第３３号指定管理者の指定についてを議題といたします。
　本案に対する委員会報告は原案可決でございます。
　これより討論を許します。
（「なし」という者あり）
○議長（平澤　等君）　討論を終わります。
　これより採決いたします。
　お諮りいたします。
　本案について委員会報告のとおり決することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」という者あり）
○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
　よって、本案は原案のとおり可決いたしました。

◎日程第９　議案第３４号

○議長（平澤　等君）　日程第９、議案第３４号指定管理者の指定についてを議題といたします。
　本案に対する委員会報告は原案可決でございます。
　これより討論を許します。
（「なし」という者あり）
○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより採決いたします。
お諮りいたします。
本案について委員会報告のとおり決することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」という者あり）
○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
よって、本案は原案のとおり可決いたしました。

◎日程第１０　議案第３５号
○議長（平澤　等君）　日程第４、議案第３５号指定管理者の指定についてを議題といたします。
本案に対する委員会報告は原案可決であります。
これより討論を許します。
（「なし」という者あり）
○議長（平澤　等君）　討論を終わります。
これより採決いたします。
お諮りいたします。
本案について委員会報告のとおり決することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」という者あり）
○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
よって、本案は原案のとおり可決いたしました。

◎日程第１１　議案第３６号
○議長（平澤　等君）　日程第１１、議案第３６号指定管理者の指定についてを議題といたします。
本案に対する委員会報告は原案可決であります。
これより討論を許します。
（「なし」という者あり）
○議長（平澤　等君）　討論を終わります。
これより採決いたします。
お諮りいたします。
本案について委員会報告のとおり決することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」という者あり）
○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
よって、本案は原案のとおり可決いたしました。

◎日程第１２　議案第１号
○議長（平澤　等君）　日程第１２、議案第１号令和６年度せたな町一般会計予算を議題といた

します。
本案に対する委員会報告は原案可決であります。
これより討論を許します。反対討論はありませんか。
石原議員。
○１番（石原広務君）　私は反対の立場で討論いたします。町長あなたは、せたな町の人口減に伴っての超高齢化、少子化、漁業、農業をはじめとする１次産業の衰退している状況、担い手不足などなど、その実情を本当に理解されていますか。全くしていません。介護の現場はどのような状況か全く理解しようとしていません。介護職員不足、事業所の定員割れなどの現状に対し町の支援を求める発言をしたとき、そのような状況になったら、そういったことになったら検討するなど、集大成と位置づけた５期目の町政を執行している立場にあっても、いまだにそういった認識や信じがたい考え方を平気で公言する姿勢は全くあきれ果てます。働く方々のため、事業所の維持継続のため身を削ってでも努力をされていたり、社会的責任があると事業所の理念とし町に多くを求めず、企業としての努力をしている実情をどのように捉えているのですか。すぐにでも公平な措置をとるべきです。１次産業に至っては、振興と言いながら実情理解を全くしていません。将来につながる土台づくりとして投資的予算付けをなぜしないのですか。少子化が進み子供たちは本当に減っています。その子供たちの将来にツケを回してしまいかねない箱物政策は止めるべきです。一部事務組合、北部桧山衛生センター組合に至っては、治外法権的な実態を長年にわたり放置し続けていたのはなぜですか。今すぐ解散、脱退を判断するべきです。集大成と位置付けて、５期目集大成としたその意図を伺いましたが、想像に任せると言われました。あなたの町長としての任期は残り１年半余りです。せたな町の将来につながる医療、介護、救急体制などの福祉政策、漁業農業などをはじめとする産業振興に対しての考え方は全くと言っていいほど欠落しています。将来のせたな町を全く考えていないだけではなく、切実な町民要望にも身の丈として切り捨てる。こういった予算になっている以上、令和６年度せたな町一般会計予算には反対いたします。
○議長（平澤　等君）　次に賛成討論を許します。
桝田議員。
○２番（桝田道廣君）　令和６年度一般会計予算に賛成の立場で討論をさせていただきます。令和６年度一般会計予算は、歳出全款どの事業におきましても、全て町民が安心して生活する上で必要な事業であるばかりでなく、数ある継続事業は、町民の生活と地域経済を安定的に支える事業であり継続させる必要があります。しかし新規事業の中には、関係する機関や団体との横断的な調整が不十分と思われるものがあり、町として町民が求める安心安全、そして町民が要望する事業を提供するためにも慎重かつ緊張感を持って、今後とも事業運営していただきたいと申し上げ賛成の討論といたします。
○議長（平澤　等君）　次に反対討論を許します。
菅原議員。
○１１番（菅原義幸君）　議案第１号令和６年度せたな町一般会計予算に反対いたします。せた

な町は、人口７，０００人を切り合併時の人口が６３％に減少し、町全体が限界集落となる日も遠くない状況で、少子高齢化、基幹産業不振、後継者難という典型的な過疎の町となっています。合併１９年目となる令和６年度は、高橋町長が政策予算を当初予算に盛り込む５期目の最終年度でありますが、９３億３，８６２万９，０００円の当初予算で目を引くものが見当たらず、長期政権特有のマンネリが顕著で、７，０００町民の福祉と暮らし、生業をたくせる予算内容にはなっていません。以下１０点の反対理由により令和６年度せたな町一般会計予算に反対いたします。

第１は、高齢者のハイヤーチケット支援、まちなかバスの実証試験事業の再現、補聴器購入助成、エアコン設置助成、買物支援、無料通院バス、リフォーム支援事業延長など切実な町民要求に依然として背を向けていることであります。

第２に、全ての介護事業所に公平な行政支援を行うための介護事業持続化基金や介護事業経営持続化協議会設置に全く耳を貸そうとせず、高齢化率が５０％に近づきつつある我が町の介護事業に無理解な態度を取っていることです。

第３に、私が長年要求してきた新チャレンジ事業は新規事業のトップに据えられ、農業、漁業、商工業の３分野で新しい名称の事業として予算化されました。しかし関係機関との事前協議が不十分なために極めて使い勝手の悪い制度となっていることであります。

第４は、クラスター補助金専決処分の地方自治法違反を認めず、関連情報の議会提出を依然として拒んでいることであり、公開した文書も黒塗りで行政情報を利用もなく伏せていることは許されないことであります。

第５に、明らかな職員の業務上の横領を認めず、判断材料となる行政文書である始末書と顛末書を議会に提出せず、議会の調査活動を妨害し事件の再検証を拒んでいることであります。

第６に、町道山麓通線改良工事の不正な着工の後始末を弁護士に丸投げしたまま放置し、行政責任を果たしていないことであります。

第７に、社会福祉協議会の補助金不適切使用に対して行政として是正措置をとっておらず、３，０００万円に達する町民の血税が不適切運用されているにもかかわらず、行政のトップとしての責任を果たそうとする姿は見えないことであります。

第８に、元主幹の５回にわたる公金持ち出し行為は業務上横領行為そのものなのに、町長は、家で適切に保管していた。不正使用していない。不法領得の意思がなければ横領でないなどと横領を否定し、再検証すら拒否しています。明らかな再発防止を妨害していることになります。これも許されないことであります。

第９に、排出ごみ不適切処理問題です。昨年の１２月議会で石原議員の指摘により、空き缶類の分別排出を呼びかけながら不燃物ごみと混ぜて最終処理していたこと。町役場のごみの分別が不徹底だったことが明らかになりました。事実の町民への公表と謝罪をいまだに行っていないことは残念の極みであります。

第１０に、年ごとに強くなる議会軽視の傾向です。議会答弁で破産済みの誤った自己の見解に固執し、頑なに非を認めない態度は町長の適格性に欠けていると言わざるを得ません。

以上、１０点を申し上げ反対討論を終わります。

○議長（平澤　等君）　次に賛成討論を許します。

真柄議員。

○７番(真柄克紀君)　令和６年度一般会計予算について賛成の立場で討論させていただきます。

６年度一般会計は、歳入歳出それぞれ９３億３，８６２万９，０００円の金額となっており、名目上は前年比７．７％の増額予算となっております。しかしこれをよく私なりに分析しますと、その内容は北部桧山衛生センター工事､温泉ホテル大型改良工事及び各施設へのエアコン設置等、これらの事業を差引きますと約１１億の減となり、そのほとんどが起債で行われております。それを除いた一般会計は実質約８１億円となります。この額は町民が多方面から寄せられるいろいろなニーズに対応するには、私から見てもかなり窮屈で、なおかつ硬直した柔軟性に欠け、またダイナミックさにかけるなと不安を残すところの内容となっていると思われても仕方ないと思います。人口減はじめ、課題の山積する令和６年度においては、合理的な企画力を発揮し、職員間の中で積極的な情報交換がなされ、町民の価値観に沿った行政運営が行えるよう強く強く望むものであります。委員会質疑の中で幾多の指摘がありました。それを十分に踏まえ、特に基幹産業のさらなる振興、若者定住、子育て政策、公共交通網の体系化及びその利便性等の向上に早急に取り組まれ、町民の要望に対して展開されることを強く要望いたします。また予算策定努力した職員とともに、新年度の安定したスタートを切るためのこの予算は町民の活動の基本を守る最低限必要な予算でございますので、ぜひそのような優しい心がけのもとに新しい１年がスタートできることを心からお願いいたします。また努力を求めまして賛成討論といたします。

○議長（平澤　等君）　次に反対討論を許します。討論ございませんか。

（「なし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより本案について起立により採決いたします。

お諮りいたします。

本案について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（起立する者あり）

○議長（平澤　等君）　起立多数です。

どうぞお座りください。

よって本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第１３　議案第２号

○議長（平澤　等君）　日程第１３、議案第２号令和６年度せたな町国民健康保険事業特別会計予算を議題といたします。

本案に対する委員会報告は原案可決であります。

これより討論を許します。

（「なし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより採決いたします。
お諮りいたします。
本案について委員会報告のとおり決することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」という者あり）
○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
よって、本案は原案のとおり可決いたしました。

◎日程第１４　議案第３号
○議長（平澤　等君）　日程第１４、議案第３号令和６年度せたな町後期高齢者医療特別会計予算を議題といたします。
本案に対する委員会報告は原案可決であります。
これより討論を許します。
（「なし」という者あり）
○議長（平澤　等君）　討論を終わります。
これより採決いたします。
お諮りいたします。
本案について委員会報告のとおり決することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」という者あり）
○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
よって、本案は原案のとおり可決いたしました。

◎日程第１５　議案第４号
○議長（平澤　等君）　日程第１５、議案第４号令和６年度せたな町介護保険事業特別会計予算を議題といたします。
本案に対する委員会報告は原案可決であります。
討論を許します。
（「なし」という者あり）
○議長（平澤　等君）　討論を終わります。
これより採決いたします。
お諮りいたします。
本案について委員会報告のとおり決することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」という者あり）
○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
よって、本案は原案のとおり可決いたしました。

◎日程第１６　議案第５号

○議長（平澤　等君）　日程第１６、議案第５号令和６年度せたな町介護サービス事業特別会計予算を議題といたします。

本案に対する委員会報告は原案可決であります。

これより討論を許します。

（「なし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りいたします。

本案について委員会報告のとおり決することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決いたしました。

◎日程第１７　議案第６号

○議長（平澤　等君）　日程第１７、議案第６号令和６年度せたな町風力発電事業特別会計予算を議題といたします。

本案に対する委員会報告は原案可決であります。

これより討論を許します。

（「なし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りいたします。

本案について委員会報告のとおり決することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決いたしました。

◎日程第１８　議案第７号

○議長（平澤　等君）　日程第１８、議案第７号令和６年度せたな町簡易水道事業会計予算を議題といたします。

本案に対する委員会報告は原案可決であります。

これより討論を許します。

（「なし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りいたします。

本案について委員会報告のとおり決することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決いたしました。

◎日程第１９　議案第８号

○議長（平澤　等君）　日程第１９、議案第８号令和６年度せたな町公共下水道事業会計予算を議題といたします。

本案に対する委員会報告は原案可決です。

これより討論を許します。

（「なし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りいたします。

本案について委員会報告のとおり決することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決いたしました。

◎日程第２０　議案第９号

○議長（平澤　等君）　日程第２０、議案第９号令和６年度せたな町病院事業会計予算を議題といたします。

本案に対する委員会報告は原案可決です。

これより討論を許します。

（「なし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りいたします。

本案について委員会報告のとおり決することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決いたしました。

◎日程第２１　議案第３８号

○議長（平澤　等君）　日程第２１、議案第３８号水産物保管冷蔵施設の無償貸付についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

副町長。

○副町長（佐々木正則君）　議案その４の１ページでございます。議案第３８号水産物保管冷蔵施設の無償貸付けについての提案理由を申し上げます。ひやま漁業協同組合に、現在、無償貸付している水産物保管冷蔵施設について､本年３月３１日をもって契約期間が満了となることから、引き続き無償貸付けするため地方自治法第９６条第１項第６号の規定により議会の議決を求めるものでございます。

内容につきましては担当課長から説明をいたします。

ご審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（平澤　等君）　続いて内容の説明を求めます。

吉田農林水産課長。

○農林水産課長（吉田有哉君）　議案その４、１ページとなります。議案第３８号水産物保管冷蔵施設の無償貸付けについて議案の２ページとなります。水産物保管冷蔵施設を無償貸付けするものでございます。無償貸付けする水産物保管冷蔵施設の所在は、久遠郡せたな町瀬棚区本町１００４番地、構造は、鉄骨造平屋建て、床面積１７７．６０平方メートル、収容能力及び冷凍機械設備は記載のとおりとなっております。

次に無償貸付けする備品でございます。バッテリー式フォークリフト１台で、主な仕様は記載のとおりとなっております。

無償貸付けする期間は令和６年４月１日から令和１６年３月３１日まで、無償貸付けの相手方は爾志郡乙部町字元町５２０番地、ひやま漁業協同組合、代表理事組合長、工藤幸博であります。

以上で説明を終わります。

よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

○議長（平澤　等君）　説明が終わりました。質疑を許します。

（「なし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　質疑を終わります。

討論を許します。

（「なし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りいたします

本案について原案のとおり決することに、ご異議ございませんか。

（「異議なし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。

よって本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第２２　意見書案第１号

○議長（平澤　等君）　日程第２２、意見書案第１号東京電力福島第１原発の汚染水の海洋放出中止と漁業風評被害救済策の抜本的強化を求める意見書を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

菅原義幸議員。

○１１番（菅原義幸君）　東京電力福島第１原発の汚染水ＡＬＰＳ処理水の海洋放出中止と漁業風評被害救済策の抜本的強化を求める意見書について提案いたします。政府は昨年８月、関係者の理解なしに行わないという約束を破って、東京電力福島第１原発の汚染水ＡＬＰＳ処理水の今後３０年間に及ぶとされる海洋放出を開始しました。処理水からトリチウム、３重水素以外にヨウ素、ストンチウム、炭素、セシウムなど放射性物質が検出されており、核汚染物質は局所に封じ込めるという国際原子力機関ＩＡＥＡの原則に明らかに違反する行為です。特に通常運転の処理水とは異なる燃料デブリ由来の汚染水の海洋放出は世界で初めてであるにもかかわらず、十分な説明や外交的配慮を欠いたまま強行したために、中国からホタテ、ナマコ、アワビ、養殖ブリなどの輸入が拒否され在庫増大や価格低迷などの深刻な漁業風評被害が発生しています。

政府は、増え続ける汚染水の陸上保管は限界だとして海洋放出に踏み切りましたが、汚染水の増加を防止し、長期に陸上で安全に保管すれば海洋放出の中止は可能であり、漁業風評被害も防ぐことが出来ます。従って政府に対し次の３点を実行されますよう強く要望します。

１つ、汚染水が、１日９０トンも増加する原因となっている燃料デブリのある建屋地下への地下水や雨水の流入を防止するために、専門家集団が提唱する凍土壁のより広い長さ３．７キロを囲む広域遮水壁を設置すること。

２つ、米国の核施設で実施されている汚染水をモルタル化し半地下コンクリート製タンクへ流し込むモルタル固化や石油備蓄で実績のある大型で堅牢なタンク貯蔵で保存し、半減期１２、３年のトリチウムの減衰を待つ大型タンク貯蔵により陸上保管すること。

３つ、政府が昨年９月に打ち出した総額１，００７億円の水産業を守る政策パッケージによる支援策は遅々として進んでおらず、東電の迅速な賠償と政府による風評被害救済策の抜本的強化をはかること。

以上、地方自治法第９９条の規定により意見書を提出いたします。

以上であります。

（「よし」という者あり）

○議長（平澤　等君）　説明が終わりました。質疑を許します。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　質疑を終わります。

討論を許します。反対討論から許します。

桝田議員。

○２番（桝田道廣君）　私はこの意見書案に反対の立場で討論をさせていただきます。ただいまの意見書にもありましたように、広域遮水壁、またモルタル固化や大型タンク貯蔵これらがあることで地下流水が止められる。これは非常に有効であり、そうなることを望むものでありますけ

れども、先般、国際原子力機関ＩＡＥＡの事務局長が日本に来られました。その結果、処理水の海洋放出について国際的な安全基準がきちんと適用されており、問題なく海洋放出が行われているとの認識を示されました。また中国などは、日本産水産物の輸入禁止措置を続けているが、近隣諸国などの理解の度合いは進んだと考えている。６カ月以上前と同じ状態だとは思っていないと述べ、福島第１原発の視察や地元の漁業関係者らとの意見交換を行った事務局長は、懸念や不安の声が上がっていた昨年と比べ良い方向に変化があったと感じたと強調されております。以上のことから現在の処理方法に問題はないと考え、反対の討論といたします。

○議長（平澤　等君）　次に賛成討論を許します。

石原議員。

○１番（石原広務君）　私はＡＬＰＳ処理水の海洋放出は大反対です。今回の意見書は絶対するべき措置これもきちんと盛り込まれ、我が町に直結する水産業に対する支援策、あるいは風評被害救済策、せたな町の水産業に本当に直結する意見書になっています。これを反対するということになると、大事な１次産業、水産業に対しての認識が欠落しているとしか考えられません。以上の理由からこの意見書には賛成いたします。

○議長（平澤　等君）　次に反対討論します。

真柄議員。

○７番（真柄克紀君）　この意見書自体の内容の中に確かに今施策に打たれること、それから今以上に陸上対策としていろんなことを望まなければならないし、それも今いろいろ研究も含めた過程だと私も推測しております。この１、２の点については、いささかも反対するものではございません。しかしながら、まだこのほかにもいろいろな形でのきちんとした地上の対策が出来上がるまでの間、とりあえず原子力委員会の基準以下であるということだけでなく、物理的な合理性からいっても現段階では残念でありますけれども、きちんとした形で安全性を確保しながら処理水を放出することが最大の今できる政策だと私は思いますので、この処理水の海洋放出中止については反対いたします。

○議長（平澤　等君）　ほかに討論ございますか。

藤谷議員。

○３番（藤谷容子君）　３月１６日に福島市で原発のない福島を県民大集会が行われています。そこで約１，１００人が参加して、国際社会や国民の理解も得られないままＡＬＰＳ処理水の海洋放出が強行されたことに抗議するアピールを採択しています。地元は理解していません。約束違反です。また海洋放出して以後、高濃度汚染水の漏えいが２回もありました。重大問題です。陸上保管を含め安全な方法を確立し早期に海洋放出から撤収するべきだと考え、この意見書案に賛成いたします。

○議長（平澤　等君）　次に反対討論します。よろしいですか。

（「なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　討論を終わります。

これより本案について起立により採決いたします。

お諮りいたします。

本案について原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（起立する者あり）

○議長（平澤　等君）　賛成多数です。

お座りください。

よって、本案は原案のとおり決しましたので可決いたします。関係機関に送付することに決定いたしました。

◎日程第２３　意見書案第２号

○議長（平澤　等君）　日程第２３、意見書案第２号イスラエルによるガザ攻撃中止即時停戦と人道支援に向けた外交努力を日本政府に求める意見書を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

藤谷容子議員。

○３番（藤谷容子君）　テレビから流れるガザの子供たちの悲惨な状況は見るに堪えないものです。それを目にしている日本の子供たちにも影響があると考えます。マスコミの在り方も問題があると思いますが､この事態の解決のためにせたな町の議員として次の意見書を提案いたします。

イスラエルによるガザ攻撃中止、即時停戦と人道支援に向けた外交努力を日本政府に求める意見書、イスラエルによるパレスチナのガザ地区への地上侵攻や空爆に対し、世界各国で即時停戦を求める声が広がっています。ガザ地区の状況は、子ども達の墓場と化し、人々の生き地獄となっている、ガザは死と絶望の場所といわれるほど深刻な危機に直面しています。当局の発表によると、すでにガザ地区では犠牲者が２万７，０００人を超え、その７割が女性や子どもで、さらに数千人が瓦礫の中で行方不明になっている可能性があると報じられています。イスラエル、パレスチナ問題は、これまでの長い歴史、経緯から状況が複雑化し、幾度となく武力衝突が発生しています。しかしいかなる理由があろうとも、一般市民への攻撃や無秩序な大量虐殺などの非人道的行為は正当化できるものではありません。

国連総会は２０２３年１２月１２日ガザ地区に関する緊急特別会合を開き、即時の人道的停戦を求める決議を国連加盟国の約８割にあたる１５３カ国の賛成多数で採択しており日本も賛成しています。同決議は、ガザ地区の状況に深刻な懸念を表明したうえで、人道目的の即時停戦を求めているほか、すべての人質の解放や人道支援の確保等を求めています。

せたな町は自由で平和な社会と世界の恒久平和が達成されることを願い、非核平和の町宣言をしており世界の恒久平和の実現に向けて力を尽くさなければなりません｡よって日本政府に対し、イスラエルによる国際法違反の攻撃を中止するよう求め、双方に即時停戦を働きかける外交努力を発揮するとともに人道支援の実現に向け最大限の努力を尽くすよう強く求めます。

以上地方自治法第９９条の規定に基づき提出いたします。

議員各位の賛同を求めます。

○議長（平澤　等君）　説明が終わりました。質疑を許します。

菅原議員。
○１１番（菅原義幸君）　大変、理のある意見書であります。１点だけ提案者に質問をいたします。日本政府に対する要求項目の中で、大事な点が欠落しているのではないかと率直に思います。それは米国の政策に対し日本政府はやるべきことがあるということの問題であります。米国は、イスラエルへの武器援助と巨額な軍事支援をしております。そしてもう一つは、国連安保理で即時人道停戦の決議を提案したときに、常任理事国として拒否権を行使し機能不全に陥るという原因を作っております。このアメリカに対して日本政府が物を申すということが大事な問題だと思いますが、この点について指摘がないということに特段の理由があるのかどうか、率直にお尋ねしたいと思います。
○議長（平澤　等君）　先例を基準とする申し合わせ事項に基づき質問は自席、答弁については登壇して行うことになってございますので、こちらの席で答弁を願いたいと思います。
藤谷議員。
○３番（藤谷容子君）　大変大事な指摘をしていただきました。私もそのように考えております。しかし今回の意見書については、議員の皆様の賛成をいただいて提出したいと思い、このような内容にしました。また今後のところで考えていきたいと思います。
○議長（平澤　等君）　ほかに質疑ございませんか。
（「なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　質疑を終わります。
討論を許します。
（「なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　討論を終わります。
これより採決いたします。
お諮りいたします。
本案について原案のとおり決することに、ご異議ございませんか。
（「異議なし」と言う者あり）
○議長（平澤　等君）　異議なしと認め、本案は原案のとおり可決し、関係機関に送付することに決定いたしました。

◎日程第２４　発議第１号
○議長（平澤　等君）　日程第２４、発議第１号を議題といたします。
三常任委員会委員長及び議会運営委員会委員長から、お手元に配付したとおり議会閉会中における所管事務継続調査の申し出がございました。
お諮りいたします。
申し出のとおり議会閉会中の継続事務調査の件を承認したいと思います。
ご異議ございませんか。
（「異議なし」と言う者あり）

○議長（平澤　等君）　異議なしと認めます。
本件は申し出のとおり承認することに決しました。

◎閉議宣告

○議長（平澤　等君）　以上で、今定例会に附議されたすべての案件の審議は終了したので会議を閉じます。

◎閉会宣告

○議長(平澤　等君)　これをもちまして令和６年第１回せたな町議会定例会を閉会いたします。
長時間にわたり大変ご苦労さまでした。

閉会　午後４時４７分

地方自治法第１２３条第２項の規定により署名する。

令和６年４月２６日

議　　長　　平　澤　　等

署名議員　　福　嶋　　豊

署名議員　　横　山　一　康